

小山町文化財 保存活用地域計画



令和6年3月

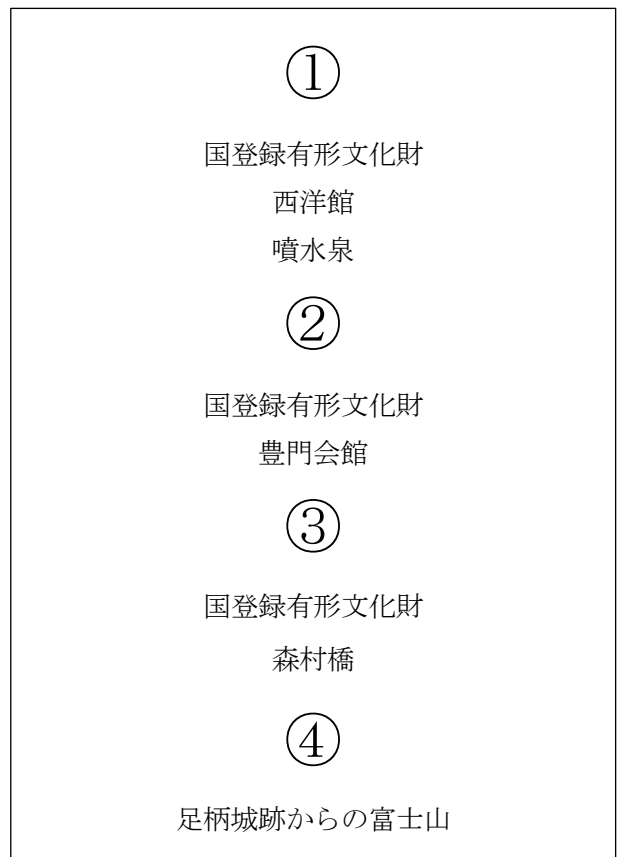
静岡県 駿東郡 小山町



小山町文化財保存活用地域計画

令和6年3月

静岡県 駿東郡 小山町



表紙写真の配置

(写真提供 静岡県立小山高等学校写真部)

目 次

| | | |
|------------|-------------------------|------------|
| 序章 | 計画作成の目的と位置付け | 序-1 |
| 第1節 | 計画作成の背景と目的 | 序-1 |
| 第2節 | 計画作成の経緯と検討体制 | 序-4 |
| 第3節 | 地域計画の位置付け | 序-11 |
| 第4節 | 計画期間と進捗管理 | 序-25 |
| 第5節 | 計画の対象とする「歴史文化資源」の定義 | 序-26 |
| 第1章 | 小山町の概要 | 1-1 |
| 第1節 | 自然的・地理的環境 | 1-1 |
| 第2節 | 社会的環境 | 1-9 |
| 第3節 | 歴史的背景 | 1-17 |
| 第2章 | 小山町の歴史文化資源の概要と特徴 | 2-1 |
| 第1節 | 指定等文化財の概要と特徴 | 2-1 |
| 第2節 | 世界遺産と日本農業遺産 | 2-7 |
| 第3節 | 未指定の歴史文化資源の概要と特徴 | 2-10 |
| 第3章 | 小山町の歴史文化の特徴 | 3-1 |
| 第1節 | 活火山富士山とともに生きるまち | 3-2 |
| 第2節 | 企業進出による小山の産業革命 | 3-8 |
| 第3節 | 歴史と伝説が息づく足柄峠 | 3-11 |
| 第4章 | 歴史文化資源の調査 | 4-1 |
| 第1節 | これまでの調査の概要 | 4-1 |
| 第2節 | 調査の現状と課題 | 4-9 |
| 第3節 | 調査の方針と措置 | 4-12 |
| 第4節 | 調査の体制 | 4-15 |

| | | |
|-------------|-----------------------------|------------|
| 第5章 | 歴史文化資源の保存・活用 | 5-1 |
| 第1節 | 計画の基本理念と目指す方向性 | 5- 1 |
| 第2節 | 保存・活用の基本方針 | 5- 3 |
| 第3節 | 保存・活用の課題 | 5- 4 |
| 第4節 | 保存・活用の実施方針 | 5- 6 |
| 第5節 | 保存・活用の措置 | 5- 9 |
| 第6章 | 歴史文化資源の一体的・総合的な保存と活用 | 6-1 |
| 第1節 | 関連文化財群と保存活用区域の設定 | 6- 1 |
| 第2節 | 関連文化財群 | 6- 3 |
| 第3節 | 文化財保存活用区域 | 6-20 |
| 第7章 | 歴史文化資源の保存・活用の推進体制 | 7-1 |
| 第1節 | 実施主体 | 7- 1 |
| 第2節 | 文化財関係の会議等 | 7- 3 |
| 第3節 | 体制整備の方針・方策 | 7- 4 |
| 第4節 | 広域連携の取組 | 7- 8 |
| 第5節 | 推進体制 | 7- 9 |
| 第8章 | 歴史文化資源の防災・防火・防犯 | 8-1 |
| 第1節 | 防災・防火・防犯に関する現状と課題 | 8- 1 |
| 第2節 | 防災・防火・防犯に関する方針 | 8- 3 |
| 第3節 | 防災・防火・防犯に関する措置 | 8- 4 |
| 第4節 | 防災・防火・防犯の推進体制 | 8- 5 |
| (巻末) | 資料編 | 資-1 |
| | 指定等文化財以外の歴史文化資源のリスト | 資- 1 |
| | 文化財の把握調査に関する刊行物 | 資-48 |

小山町文化財保存活用地域計画

図表目次

| | | | | | |
|--------|-----------------------|------|--------|--------------------------|------|
| 図 1 | 世界文化遺産「富士山」 | 序- 1 | 図 1-18 | 小山町の旧村の位置 | 1- 9 |
| 図 2 | 国指定史跡「富士山」(富士浅間神社) | 序- 2 | 図 1-19 | 小山町の町村合併の経緯 | 1-10 |
| 図 3 | 町指定文化財「甘露寺の宝篋印塔」(甘露寺) | 序- 2 | 図 1-20 | 年齢3区分別人口の推移 | 1-11 |
| 図 4 | 第1回文化財保護審議会 | 序- 5 | 図 1-21 | 将来人口の推計結果 | 1-11 |
| 図 5 | 第3回文化財保護審議会 | 序- 5 | 図 1-22 | 産業別就業人口の推移 | 1-12 |
| 図 6 | 第1回策定会議 | 序- 5 | 図 1-23 | 土地利用現況図 | 1-13 |
| 図 7 | 第3回策定会議 | 序- 5 | 図 1-24 | JR 足柄駅 | 1-14 |
| 図 8 | 団体ヒアリング | 序- 6 | 図 1-25 | 交通機関の現状 | 1-15 |
| 図 9 | 小山町文化財保存活用地域計画の位置付け | 序-11 | 図 1-26 | 電化した御殿場線(昭和43年) | 1-15 |
| 図 10 | 小山町における「歴史文化資源」の定義 | 序-27 | 図 1-27 | 開通した東富士五湖道路(平成元年) | 1-15 |
| 図 1-1 | 小山町の位置と地区区分 | 1- 1 | 図 1-28 | 小山町の観光交流客数の推移 | 1-16 |
| 図 1-2 | 小山町の地形 | 1- 2 | 図 1-29 | 沼子遺跡出土の縄文時代早期の押型文土器 | 1-17 |
| 図 1-3 | 玉手ヶ池(足柄城跡) | 1- 3 | 図 1-30 | 大沼鮎沢御厨付近の地図 | 1-18 |
| 図 1-4 | 宝永噴火のスコリア | 1- 3 | 図 1-31 | 竹之下合戦の石碑(嶽之下宮) | 1-19 |
| 図 1-5 | 小山町の地質 | 1- 3 | 図 1-32 | 関東大震災での落橋(花戸橋) | 1-21 |
| 図 1-6 | 鮎沢川 | 1- 4 | 図 1-33 | 東名高速道路開通 | 1-22 |
| 図 1-7 | 小山町の水系 | 1- 4 | 図 1-34 | 沼子池 | 1-25 |
| 図 1-8 | 平成22年台風9号による被害(野沢川河口) | 1- 5 | 図 1-35 | 音漕通り(昭和8年) | 1-26 |
| 図 1-9 | 平均気温と月降雨量 | 1- 5 | 図 1-36 | 湯山文右衛門筆子塚 | 1-27 |
| 図 1-10 | オンタデ | 1- 6 | 図 1-37 | 富士紡 第一・第二工場全景(昭和2年当時) | 1-28 |
| 図 1-11 | 小山町の地形区分と標高 | 1- 6 | 図 1-38 | 発掘された横山遺跡(現在は県立小山高等学校敷地) | 1-29 |
| 図 1-12 | ニホンジカ | 1- 8 | 図 1-39 | 足柄城跡二の曲輪から検出された障子堀 | 1-29 |
| 図 1-13 | ニホンジカ(須走口五合目) | 1- 8 | 図 1-40 | 宝永噴火口 | 1-31 |
| 図 1-14 | ニホンカモシカ | 1- 8 | 図 1-41 | 吉久保村絵図(宝永5年(1708)) | 1-31 |
| 図 1-15 | ツキノワグマ | 1- 8 | 図 1-42 | 手焙形土器 | 1-32 |
| 図 1-16 | ルリビタキ | 1- 8 | 図 1-43 | 発掘された集落跡からの遺物 | 1-33 |
| 図 1-17 | ゲンジボタル | 1- 8 | 図 1-44 | 用沢神楽保存会の練習風景 | 1-34 |

| | | | |
|-----------------------------|------|-----------------------------|------|
| 図 1-45 和漢英雄伝 金太郎 | 1-35 | 図 2-7 竹之下太鼓 (町指定) | 2- 5 |
| 図 1-46 藤原光親卿の墓 | 1-36 | 図 2-8 乗光寺大森六代之墓 (町指定) | 2- 5 |
| 図 1-47 栗の木沢の題目碑 (町指定文化財) | 1-37 | 図 2-9 柳島八幡神社の二本スギ (県指定) | 2- 6 |
| 図 1-48 池谷市左衛門顕彰碑 (市翁頌徳碑) | 1-38 | 図 2-10 世界遺産の登録証 (富士浅間神社) | 2- 7 |
| 図 1-49 伊奈半左衛門像 (伊奈神社) | 1-39 | 図 2-11 北郷地区のワサビ田 | 2- 9 |
| 図 1-50 食行身禄坐像 (富士浅間神社資料館) | 1-39 | 図 2-12 未指定の歴史文化資源の分布とヒートマップ | 2-11 |
| 図 1-51 湯山文右衛門資料館 | 1-40 | 図 2-13 藤曲用水 | 2-12 |
| 図 1-52 二宮尊徳像 | 1-40 | 図 2-14 迎久須志之神社 (富士山須走口九合目) | 2-12 |
| 図 1-53 唯念名号碑 (町指定文化財) | 1-41 | 図 2-15 丁目石の起点となる石造物 | 2-13 |
| 図 1-54 榊研三頌徳之碑 | 1-41 | 図 2-16 九十六丁目の丁目石 | 2-13 |
| 図 1-55 室伏董平 | 1-41 | 図 2-17 新たに発見された丁目石 (百一丁目) | 2-13 |
| 図 1-56 天野丹城碩徳碑 | 1-42 | 図 2-18 箱館 (1993 年撮影) | 2-15 |
| 図 1-57 濱口吉右衛門 | 1-42 | 図 2-19 水掛菜の収穫 | 2-15 |
| 図 1-58 森村市左衛門 | 1-43 | 図 2-20 昭和期における水掛菜の漬け込み | 2-15 |
| 図 1-59 日比谷平左衛門 | 1-44 | 図 2-21 水掛菜の生葉 | 2-15 |
| 図 1-60 川崎栄助 | 1-44 | 図 2-22 製品となった水掛菜 | 2-16 |
| 図 1-61 湯山寿介 | 1-44 | 図 2-23 沼子遺跡 | 2-16 |
| 図 1-62 和田豊治 | 1-45 | 図 2-24 倒壊した御室浅間神社 | 2-16 |
| 図 1-63 渋沢栄一の書 (豊門会館入口) | 1-46 | 図 2-25 金時山から望む富士山 | 2-17 |
| 図 1-64 フレデリック・スタール | 1-46 | 図 2-26 神縄断層 | 2-17 |
| 図 1-65 徳富蘇峰の書 | 1-47 | 図 2-27 水掛菜の栽培風景 | 2-18 |
| 図 1-66 豊門公園内の和田君遺徳碑 | 1-48 | 図 2-28 尾立城跡 | 2-18 |
| 図 1-67 和田坂 | 1-48 | 図 2-29 埋蔵文化財の分布図 | 2-19 |
| 図 1-68 日本野鳥の会 70 周年記念碑 | 1-49 | 図 2-30 供養塔 | 2-20 |
| 図 2-1 須走口登山道 | 2- 1 | 図 2-31 富士講信者の装束 | 2-21 |
| 図 2-2 富士浅間神社 | 2- 1 | 図 2-32 足柄峠笛まつり | 2-22 |
| 図 2-3 指定等文化財の分布図 | 2- 2 | 図 2-33 町域の旧村 25 か村 | 2-23 |
| 図 2-4 豊門公園西洋館 (旧豊門青年学校) | 2- 4 | 図 2-34 水掛菜の栽培風景 | 2-24 |
| 図 2-5 木造地藏菩薩坐像 (宝鏡寺) (県指定) | 2- 4 | 図 2-35 「北駿式」のワサビ田 | 2-24 |
| 図 2-6 坂下区十王堂十王図 (第一王) (町指定) | 2- 4 | | |

| | | | |
|---------------------------------|------|-------------------------------|------|
| 図 2-36 「ごてんばこしひかり」の栽培風景（小山町阿多野） | 2-25 | 図 6-9 大正 7 年当時の森村橋 | 6-10 |
| 図 3-1 至徳元年の紀年銘を持つ懸仏 | 3- 4 | 図 6-10 復原前の森村橋 | 6-10 |
| 図 3-2 富士講の石碑 | 3- 5 | 図 6-11 復原後の森村橋 | 6-10 |
| 図 3-3 世界遺産記念銘（富士浅間神社） | 3- 7 | 図 6-12 構成要素の分布 | 6-11 |
| 図 3-4 和田豊治像（豊門公園） | 3- 8 | 図 6-13 ライトアップされた森村橋（国登録有形文化財） | 6-18 |
| 図 3-5 富士紡績株式会社 小山工場の外観 | 3- 9 | 図 6-14 森村橋での橋上コンサート | 6-18 |
| 図 3-6 富士紡績株式会社 小山工場の内観 | 3- 9 | 図 6-15 大雄山 宝鏡寺 | 6-20 |
| 図 3-7 豊門会館 | 3-10 | 図 6-16 足柄峠 六地藏 | 6-20 |
| 図 3-8 西洋館と噴水泉 | 3-10 | 図 6-17 和泉山 円通寺 | 6-20 |
| 図 3-9 足柄城跡の復元鳥瞰図（小山町史第 6 巻） | 3-12 | 図 6-18 金時山 | 6-20 |
| 図 3-10 足柄古道 | 3-12 | 図 6-19 保存活用区域の範囲 | 6-21 |
| 図 3-11 新羅三郎義光吹笙の石 | 3-12 | 図 6-20 白簾神社 | 6-25 |
| 図 3-12 雪の積もる足柄城跡から望む富士山 | 3-13 | 図 7-1 庁内の組織体制図 | 7- 2 |
| 図 4-1 小山町史（全 9 巻） | 4- 1 | 図 7-2 登山者を計測するカウンター | 7- 6 |
| 図 4-2 富士山禪定図（安田コレクション） | 4- 2 | 図 7-3 文化財を解説する「四季の旅人」 | 7- 7 |
| 図 4-3 阿多野用水の隧道内 | 4-10 | 図 7-4 富士山世界文化遺産協議会の組織体制 | 7- 8 |
| 図 4-4 西山用水 | 4-10 | 図 7-5 小山町文化財保存活用地域計画の推進体制 | 7- 9 |
| 図 5-1 町民憲章（小山町役場前） | 5- 2 | 図 8-1 アイオン台風で崩れそうな町役場 | 8- 1 |
| 図 5-2 アート作品展示会（豊門公園西洋館） | 5- 7 | 図 8-2 耐火収蔵庫（宝鏡寺） | 8- 3 |
| 図 6-1 歴史文化の特徴と関連文化財群・保存活用区域の対応 | 6- 2 | 図 8-3 文化財防火デーの訓練の様子 | 8- 4 |
| 図 6-2 須走ルート of 登山者数の推移 | 6- 4 | 図 8-4 防災・防犯の推進体制 | 8- 5 |
| 図 6-3 宝永噴火当時の須走村の家並み | 6- 5 | | |
| 図 6-4 伊奈神社に建つ伊奈半左衛門忠順像 | 6- 6 | | |
| 図 6-5 スタール博士の碑 | 6- 6 | | |
| 図 6-6 明治期の馬車鉄道 | 6- 6 | | |
| 図 6-7 構成要素の分布 | 6- 8 | | |
| 図 6-8 工場と社員寮をつなぐ鮎沢橋 | 6-10 | | |

| | | | |
|--|------|--|------|
| 表 1 小山町文化財保存地域計画の SDGs の目標 | 序-24 | 表 6-3 保存活用区域内の歴史文化資源（寺院・ 堂・神社・建造物）..... | 6-22 |
| 表 2 計画期間..... | 序-25 | 表 6-4 保存活用区域内の歴史文化資源（竹之下の 合戦伝承地・金太郎伝説地等）..... | 6-23 |
| 表 3 その他の歴史文化資源の概要..... | 序-27 | 表 6-5 保存活用区域内の歴史文化資源（道祖神・ 庚申塔等の石造物）..... | 6-23 |
| 表 1-1 町の位置・面積..... | 1- 1 | 表 7-1 実施主体と主な役割..... | 7- 1 |
| 表 1-2 平成元年～2年の哺乳類の確認調査結果 | 1- 7 | 表 7-2 現状変更の許可申請が見込まれる主な事業 | 7- 6 |
| 表 1-3 小山町域村々の領主支配の変遷..... | 1-20 | 表 7-3 近隣自治体との協力体制..... | 7- 8 |
| 表 1-4 有史以降の富士山火山活動の一覧..... | 1-23 | | |
| 表 2-1 指定等文化財の集計表..... | 2- 2 | | |
| 表 2-2 指定・登録文化財リスト..... | 2- 3 | | |
| 表 2-3 世界文化遺産..... | 2- 7 | | |
| 表 2-4 未指定の歴史文化資源の集計表..... | 2-10 | | |
| 表 2-5 小山町の主な伝統行事..... | 2-22 | | |
| 表 4-1 歴史文化資源の調査に関する用語..... | 4- 1 | | |
| 表 4-2 小山町教育委員会による刊行物の一覧..... | 4- 2 | | |
| 表 4-3 町立図書館が保有する安田コレクションの 内訳..... | 4- 3 | | |
| 表 4-4 パンフレットや副読本等の刊行物の一覧 | 4- 3 | | |
| 表 4-5 静岡県（文化財課・静岡県埋蔵文化財セン ター）による刊行物の一覧..... | 4- 4 | | |
| 表 4-6 静岡県（静岡県環境部水計画室）による刊 行物の一覧..... | 4- 4 | | |
| 表 4-7 その他の主体による刊行物の一覧..... | 4- 5 | | |
| 表 4-8 小山町における歴史文化資源の把握調査の 状況..... | 4- 9 | | |
| 表 6-1 過去 10 年分の須走ルートの登山者数の推移 | 6- 4 | | |
| 表 6-2 保存活用区域内の歴史文化資源（史跡・遺 跡・伝承地）..... | 6-21 | | |

序章 計画作成の目的と位置付け

第1節 計画作成の背景と目的

小山町^{おやまちょう}（以下、「本町」という。）には、世界文化遺産「富士山^{ふじさん}」にまつわる歴史や信仰、近代産業の発展、金太郎伝説^{きんたろう}など、地域に欠かせない重要な歴史文化資源*が存在します。歴史文化資源とは、文化財保護法に規定される文化財だけでなく、それらに関連する人々の活動や伝承など、様々な要素を含んだものです。これらは、私たちの大切なもの



図1 世界文化遺産「富士山^{ふじさん}」

として、地域のアイデンティティや地域住民の誇り、教育・研究活動や観光を始めとする経済活動など、幅広い取組により、将来に受け継いでいくべきものです。

しかし近年、少子高齢化や核家族化、地域社会における連帯感の希薄化、文化財の担い手不足などにより、地域の重要な歴史文化資源が失われつつあります。特に本町では、人口減少が大きな課題となっています。昭和35年（1960）の約28,900人をピークに人口が減少し、令和4年（2022）8月現在、約17,600人となり、また、平成26年（2014）に日本創成会議が発表した人口の将来推計では、2040年における本町の人口は約13,400人とされ、かつ20歳～39歳までの女性人口が55%減少する「消滅可能性都市」と位置付けられています。

これまで本町の歴史文化資源は行政や所有者の個々の取組で守られてきました。適切に保存・活用し、将来にわたり継承していくためには、行政や文化財所有者による取組だけでなく、地域住民をはじめ、文化財の保存・活用に関わる多様な個人・団体の連携・協力が必要です。さらに、個々の歴史文化資源の保存・活用にとどまらず、地域固有の歴史文化資源を一体的に保存・活用する取組も求められています。

そして本町の歴史文化資源の保存・活用に関しては、第5次小山町総合計画^{おやまちょう}等をはじめ、各分野の計画においても、それらを守り、まちづくりや産業の発展に活用することで地域の活性化を図ることが目指されてきました。しかし、今後は歴史文化資源の保存・活用を総合的かつ計画的に実施していくための方針や、具体的な取組内容についても明確にしていく必要があります。

※用語の定義については、序章 第5節に詳細を整理しています。

こうした中、平成31年（2019）4月1日に文化財保護法が改正施行され、地域における文化財（本書でいう「歴史文化資源」）の総合的な保存・活用の促進や、地方文化財行政の推進力強化を目的として、市町村は「文化財保存活用地域計画」を作成し、文化庁長官の認定を受けることができるようになりました。文化財保存活用地域計画は、地域の歴史文化資源の総合的な保存・活用の基本方針となるマスタープランであり、かつ具体的な措置を定めるアクションプランとなります。

この度、本町の歴史文化資源を、町全体で末永く後世へ継承していくとともに、適切な活用を推進していくことを目的に、「おやまちょう小山町文化財保存活用地域計画」（以下、「本計画」という）を作成することとしました。

現在、本町には世界文化遺産「ふじさん富士山」の構成資産となっている特別名勝ふじさん富士山、ふじせんげんじんじや富士浅間神社を含めた史跡ふじさん富士山などの国指定文化財2件、ほうきやうじ宝鏡寺のじそうぼさつざそう地蔵菩薩坐像などの県指定文化財4件、かんろじ甘露寺のほうきやういんとう宝篋印塔などの町指定文化財18件、ほうもんかいかん豊門会館などの国登録有形文化財8件のほか、石造物や寺社など千件以上に及び未指定の歴史文化資源が存在します。さらに、個人所有の古文書などをカウントすれば数万点を超える未指定の歴史文化資源があります。これらの歴史文化資源に対して、



図2 国指定史跡「ふじさん富士山」（ふじせんげんじんじや富士浅間神社）

これまで文化財保護法による保護措置とともに、看板設置やガイドブックの作成、ホームページなどでの周知、さらに、小中学生の地域学習や成人者を対象とした歴史講座を定期的を開催してきました。しかしながら、来訪者数が伸び悩み、歴史文化資源の理解促進が十分ではないことが実情です。また、未指定の歴史文化資源の洗い出しや調査、研究、周知と様々な課題が露見しています。



図3 町指定文化財「かんろじ甘露寺のほうきやういんとう宝篋印塔」（かんろじ甘露寺）

以上のことを踏まえた上で、本計画を作成し、町内の歴史文化資源に関する実情把握と町内の課題解決を行っていきます。さらには、新たに小山町を知り、訪れ、楽しんでいただくことで多くの「おやまちょう小山町ファン」を増やしていくとともに、町民の皆様にも本町の歴史や歴史文化資源の再発見に取り組み、誇りと愛着を持って後世へつないでいくことを期待しています。

本計画を通じて、歴史文化資源の保存と活用の方向性を明確にし、具体的な施策



を定め、多様な主体の参加により積極的にこれらの取組を推進していきます。

※地名の読み方について

町内にある地名には、様々な読み方があります。「須川」を「すかわ」や「すがわ」と読んだり、「鮎沢川」を「あゆさわがわ」や「あゆざわがわ」と読むこともあります。国、県、町によっても違いがあり、これは看板や標識、説明看板のローマ字表記に違いが見られます。

本計画では、地名について町民が多く使用する読み方を採用して、ふりがなをつけています。



第2節 計画作成の経緯と検討体制

1 計画作成の経緯

本計画の作成にあたり、令和3年度(2021)から^{おやまちょう}小山町文化財保護審議会、^{おやまちょう}小山町文化財保存活用地域計画策定会議、^{おやまちょう}小山町文化財保存活用地域計画策定庁内会議を次のとおり開催し、委員からの意見聴取、計画の具体的内容についての検討と審議を行いました。

加えて、令和3年度(2021)には、町内の主要な文化財の保護団体(3団体)へのヒアリングも実施しました。

(1) ^{おやまちょう}小山町文化財保護審議会

町教育委員会が示した文化財の現状、課題、措置等について意見聴取を行い、本計画の作成に向けての骨子や内容の審議を行いました。

| 日時 | 回数 | 場 所 | 主な議題 |
|----------------|-----|---|--|
| 令和3年 10月15日 | 第1回 | ^{おやまちょう} 小山町総合文化会館 2階集会室 | <ul style="list-style-type: none"> ・^{おやまちょう}小山町文化財保存活用地域計画について ・^{もりむらばし}森村橋の管理に関する条例について ・その他 |
| 令和4年 3月22日 | 第2回 | ^{おやまちょう} 小山町総合文化会館 2階集会室 | <ul style="list-style-type: none"> ・計画の内容説明 ・計画作成に向けての進捗状況 ・^{おやまちょう}小山町文化芸術振興基本計画について |
| 令和4年 8月30日 | 第3回 | 国登録有形文化財 ^{ほうもんかいかん} 「豊門会館」 ^{ようかん} 洋館 | <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保存活用地域計画について ・^{すばしりちく}須走地区埋蔵文化財試掘調査について ・その他 |
| 令和5年 3月14日 | 第4回 | ^{おやまちょう} 小山町総合文化会館 2階会議室 | <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保存活用地域計画の修正について |
| 令和5年 6月23日 | 第5回 | ^{おやまちょう} 小山町総合文化会館 2階集会室 | <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保存活用地域計画の修正箇所の確認について |
| 令和5年 8月31日 | 第6回 | ^{おやまちょう} 小山町総合文化会館 2階視聴覚室 | <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保存活用地域計画のパブリックコメント後の修正箇所の確認について |



図4 第1回文化財保護審議会



図5 第3回文化財保護審議会

(2) 小山町文化財保存活用地域計画策定会議

本計画の作成に向け、県文化財課、県世界遺産センター、町文化財審議会の学識者及び、町区長会、町観光協会、町商工会、町文化連盟の文化財に精通している人材により会議を組織し、内容の精査、方向性の検討について意見聴取を行いました。

| 日時 | 回数 | 場 所 | 主な議題 |
|----------------|-----|------------------------------|---|
| 令和4年 3月8日 | 第1回 | おやまちょう 小山町総合文化会館 2階集会室 | <ul style="list-style-type: none"> ・計画の意義、方針 ・地域計画アドバイザーによる講話 |
| 令和4年 11月29日 | 第2回 | おやまちょう 小山町総合文化会館 2階集会室 | <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保存活用地域計画の内容について |
| 令和5年 2月24日 | 第3回 | おやまちょう 小山町総合文化会館 2階集会室 | <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保存活用地域計画の修正について |
| 令和5年 6月6日 | 第4回 | おやまちょう 小山町総合文化会館 2階集会室 | <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保存活用地域計画の修正箇所の確認について |
| 令和5年 8月10日 | 第5回 | おやまちょう 小山町総合文化会館 2階集会室 | <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保存活用地域計画のパブリックコメント後の修正箇所の確認について |



図6 第1回策定会議



図7 第3回策定会議



(3) おやまちょう 小山町文化財保存活用地域計画策定庁内会議

本計画の作成にあたり、文化財に関係する庁内各課と連携及び情報共有を図るために組織しました。文化財の新たな掘り起こしやその活用、防災など、これまでに無かった視点や事象を盛り込むために協議、検討、提案を行いました。

| 日時 | 回数 | 場 所 | 主な議題 |
|---------------|-----|-----------|------------------|
| 令和4年 2月 | 第1回 | 部局ごと個別に実施 | ・計画の意義、方針、内容について |
| 令和5年 4月～6月 | 第2回 | 部局ごと個別に実施 | ・計画内容の確認、資料確認 |

(4) 団体ヒアリング

本計画の作成にあたり、既に地域で歴史文化資源の保存・活用に関わっている団体の活動内容や現状・課題を把握するため、団体へのヒアリングを実施しました。
(対象とした団体は「序-10」参照)

| 日時 | 回数 | 場 所 | 主な内容 |
|---------------|-----|---|--|
| 令和4年 1月10日 | 第1回 | <small>おやまちょう</small> 小山町総合文化会館 2階談話室 | ・団体の活動内容について ・団体の現状と課題 ・今後の展望 など |



図8 団体ヒアリング

(5) パブリックコメント

- ・実施期間：令和5年6月30日（金） ～ 令和5年7月31日（月）
- ・意見数：2名（26件）
- ・内容：
 - ・須走地区すばしりちくの近現代に米軍に関する記事を記載した方が良い。
 - ・「わかりやすい冊子・パンフレットの作成」について「動画」を加えた方が良い。
 - ・名勝地の説明文に「誓いの丘」を入れた方が良い。
 - ・その他記載に関するもの（固有名詞の加除修正、表記方法、年代の記載等）



(6) ^{おやまちょう}小山町議会への報告

○令和5年町議会

- ・日時：令和5年6月21日（水）
- ・内容：^{おやまちょう}小山町文化財保存活用計画の概要及び
パブリックコメントの実施について（町企画政策課から情報提供）

○令和5年町議会議員懇談会

- ・日時：令和5年9月21日（木）
- ・内容：パブリックコメントの実施結果について



2 各種会議構成員

本計画の作成にあたり実施した、^{おやまちょう}小山町文化財保護審議会、^{おやまちょう}小山町文化財保存活用
地域計画策定会議、^{おやまちょう}小山町文化財保存活用地域計画策定庁内会議の構成委員及び団
体ヒアリングの対象者は次のとおりです。

(1) ^{おやまちょう}小山町文化財保護審議会

(令和3年度)

| 役 職 | 氏 名 | 地 区 | 専 門 |
|------|--------|--------------------|------------------------------|
| 委員長 | 樽林 一美 | ^{せいび} 成美 | 地域史 |
| 副委員長 | 大箕 正之 | ^{めいりん} 明倫 | 絵画・ ^{ふじぼう} 富士紡 |
| 委員 | 湯山 富士子 | ^{めいりん} 明倫 | 寺子屋 |
| 委員 | 鈴木 利昌 | ^{あしがら} 足柄 | 地域史 |
| 委員 | 蘆月 玄成 | ^{あしがら} 足柄 | ^{ほうきやうじ} 宝鏡寺 |
| 委員 | 高梨 俊夫 | ^{きたごう} 北郷 | 地域史 |
| 委員 | 池谷 岩夫 | ^{きたごう} 北郷 | 地域史 |
| 委員 | 米山 芳子 | ^{すほしり} 須走 | ^{おし} 御師住宅 |
| 委員 | 石橋 良弘 | ^{すほしり} 須走 | ^{ふじせんげんじんじや} 富士浅間神社 |

(令和4～5年度)

| 役 職 | 氏 名 | 地 区 | 専 門 |
|------|-------|--------------------|------------------------------|
| 委員長 | 樽林 一美 | ^{せいび} 成美 | 地域史 |
| 副委員長 | 大箕 正之 | ^{めいりん} 明倫 | 絵画・ ^{ふじぼう} 富士紡 |
| 委員 | 池谷 修 | ^{せいび} 成美 | 史跡ガイド |
| 委員 | 鈴木 利昌 | ^{あしがら} 足柄 | 地域史 |
| 委員 | 蘆月 玄成 | ^{あしがら} 足柄 | ^{ほうきやうじ} 宝鏡寺 |
| 委員 | 高梨 俊夫 | ^{きたごう} 北郷 | 地域史 |
| 委員 | 池谷 岩夫 | ^{きたごう} 北郷 | 地域史 |
| 委員 | 米山 芳子 | ^{すほしり} 須走 | ^{おし} 御師住宅 |
| 委員 | 石橋 良弘 | ^{すほしり} 須走 | ^{ふじせんげんじんじや} 富士浅間神社 |

※地区については、1-1ページ参照

(2) ^{おやまちょう}小山町文化財保存活用地域計画策定会議

(令和3年度)

| 所 属 | 役 職 | 氏 名 | 備 考 |
|-------------------------------|-----|-------|---------------------------|
| 教育委員会 | 教育長 | 高橋 正彦 | 座長 |
| 県文化財課 | 課長 | 三保 広真 | |
| 県 ^{ふじさん} 富士山世界遺産センター | 教授 | 大高 康正 | 外部有識者 |
| 町文化財保護審議会 | 委員長 | 樽林 一美 | 外部有識者 |
| 町区長会 | 会長 | 高杉 理美 | ^{みなみふじまがりく} 南藤曲区 |

| 所 属 | 役 職 | 氏 名 | 備 考 |
|-------|-----|-------|-----|
| 町観光協会 | 会長 | 鷹嶋 邦彦 | |
| 町商工会 | 会長 | 小野 寛幸 | |
| 町文化連盟 | 会長 | 渡辺 光子 | |

(令和4年度)

| 所 属 | 役 職 | 氏 名 | 備 考 |
|--------------|-----|--------|-------|
| 教育委員会 | 教育長 | 高橋 正彦 | 座長 |
| 県文化財課 | 課長 | 小坂 美雪 | |
| 県富士山世界遺産センター | 教授 | 大高 康正 | 外部有識者 |
| 町文化財保護審議会 | 委員長 | 樽林 一美 | 外部有識者 |
| 町文化連盟 | 会長 | 常盤 久美子 | |
| 町区長会 | 会長 | 鈴木 重利 | 宿区 |
| 町観光協会 | 副会長 | 鈴木 萬利子 | |
| 町商工会 | 副会長 | 秋田 敬 | |

(令和5年度)

| 所 属 | 役 職 | 氏 名 | 備 考 |
|--------------|-----|--------|----------------|
| 教育委員会 | 教育長 | 高橋 正彦 | 座長 |
| 県文化財課 | 課長 | 小坂 美雪 | |
| 県富士山世界遺産センター | 教授 | 大高 康正 | 外部有識者 |
| 町文化財保護審議会 | 委員長 | 樽林 一美 | 外部有識者 |
| 町文化連盟 | 会長 | 常盤 久美子 | |
| 町区長会 | 会長 | 池谷 弘 | 一色区 |
| 町観光協会 | 会長 | 鈴木 萬利子 | 令和5年5月22日まで副会長 |
| 町商工会 | 副会長 | 秋田 敬 | |

(3) 小山町文化財保存活用地域計画策定庁内会議

(令和3年度)

| 所 属 | 役 職 | 氏 名 | 備 考 |
|-------|-----|-------|-----|
| 教育委員会 | 次長 | 長田 忠典 | 座長 |
| 企画政策課 | 課長 | 勝又 徳之 | |
| 危機管理局 | 局長 | 遠藤 正樹 | |
| 商工観光課 | 課長 | 渡辺 辰雄 | |
| 都市整備課 | 課長 | 込山 次保 | |
| 農林課 | 課長 | 前田 修 | |
| 生涯学習課 | 課長 | 平野 正紀 | 事務局 |

(令和4年度)

| 所 属 | 役 職 | 氏 名 | 備 考 |
|-----------|-----|-------|-----|
| 教育委員会 | 次長 | 平野 正紀 | 座長 |
| 企画政策課 | 課長 | 勝又 徳之 | |
| 危機管理局 | 局長 | 遠藤 正樹 | |
| 商工振興課 | 課長 | 渡辺 辰雄 | |
| 観光スポーツ交流課 | 課長 | 湯山 浩二 | |
| 都市整備課 | 課長 | 込山 次保 | |
| 農林課 | 課長 | 湯山 光司 | |
| 生涯学習課 | 課長 | 勝俣 暢哉 | 事務局 |

(令和5年度)

| 所 属 | 役 職 | 氏 名 | 備 考 |
|-------|-----|-------|--------------------------|
| 教育委員会 | 次長 | 大庭 和広 | 座長（～6/30） |
| 教育委員会 | 次長 | 野木 雄次 | 座長（7/1～） |
| 企画政策課 | 課長 | 勝又 徳之 | |
| 危機管理局 | 局長 | 遠藤 正樹 | |
| 商工振興課 | 課長 | 長田 孝代 | |
| 観光交流課 | 課長 | 湯山 浩二 | 令和5年6月30日まで 観光スポーツ交流課 |
| 都市整備課 | 課長 | 遠山 洋行 | |
| 農林課 | 課長 | 湯山 光司 | |
| 生涯学習課 | 課長 | 勝俣 暢哉 | 事務局 |

(4) 団体ヒアリング

| 所 属 | 役 職 | 氏 名 | 備 考 |
|--|-----|-------|---------|
| <small>たけのしただいこほぞんかい</small> 竹之下太鼓保存会 | 会長 | 稲 稔 | 町指定 |
| <small>ようさわかくらほぞんかい</small> 用沢神楽保存会 | 会長 | 梶 光義 | |
| <small>ふじせんげんじんじや</small> 富士浅間神社 | 宮司 | 石橋 良弘 | 国、県、町指定 |
| <small>ほうきやうじ</small> 宝鏡寺 | 住職 | 蘆月 玄成 | 県指定 |

第3節 地域計画の位置付け

1 上位関連計画

本計画は文化財保護法（第183条の3）に基づく法定計画であり、本町における歴史文化資源の総合的な保存・活用に関する基本方針と具体的な措置を定めたマスタープランかつアクションプランとなるものです。

また、歴史文化資源の保存・活用を推進するにあたって、本計画は第5次^{おやまちょう}小山町総合計画（以下、総合計画という。）をはじめ、上位計画に即したものとします。さらに、本計画はまちづくりや観光、防災など多岐にわたる分野について扱うものであることから、次の図に示すとおり、関連計画との連携・調整のもと、本計画に掲げる取組を推進していきます。

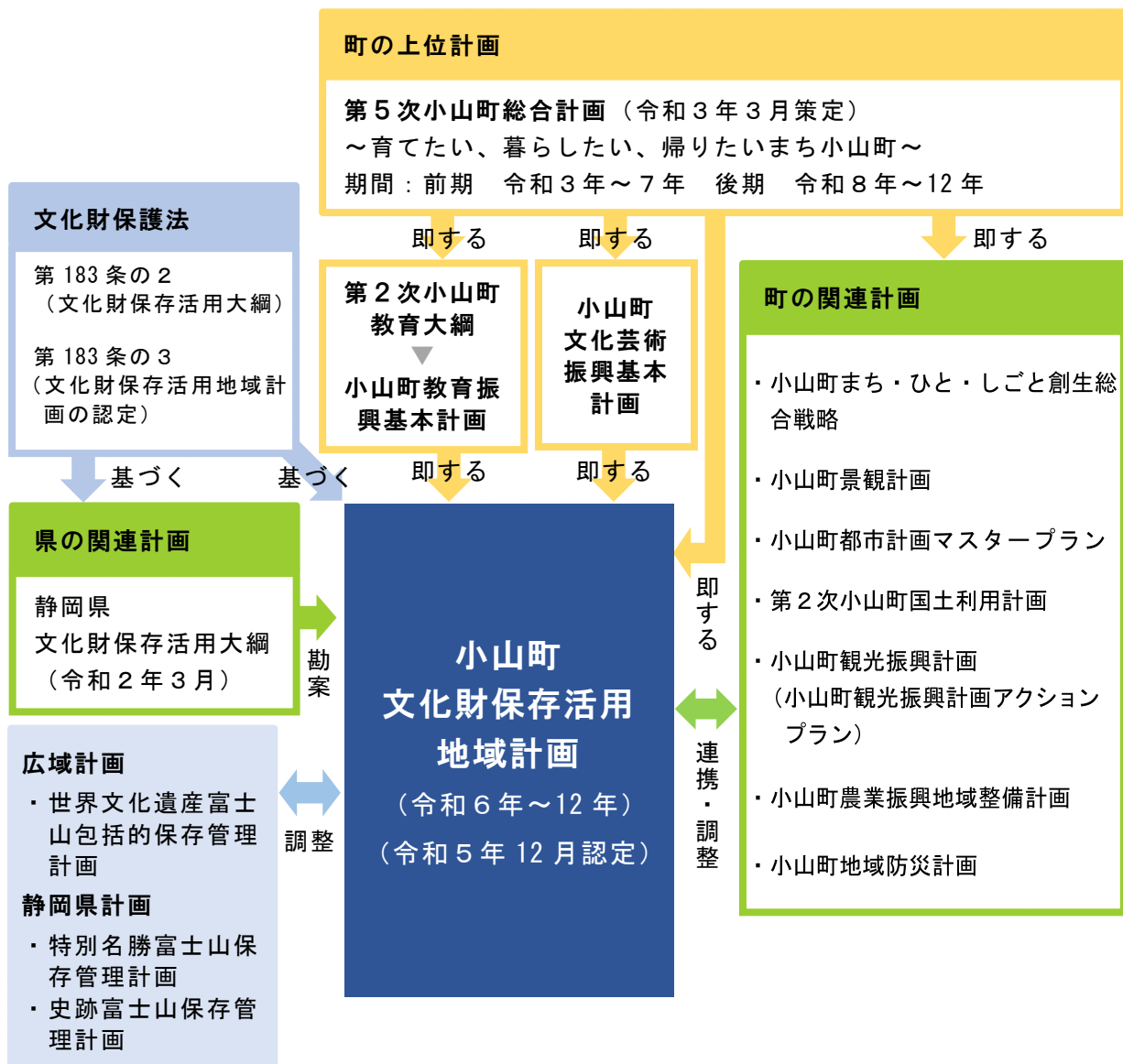


図9 ^{おやまちょう}小山町文化財保存活用地域計画の位置付け



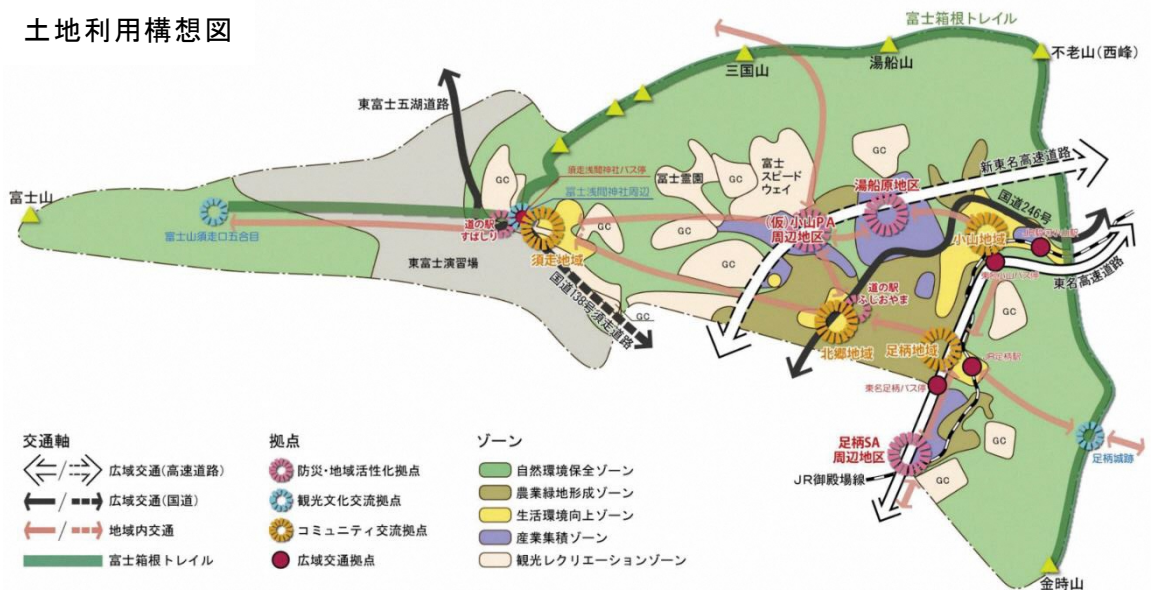
2 上位計画の概要

本計画の上位計画の概要は次のとおりです。

(1) 第5次^{おやまちょう}小山町総合計画 (令和3年(2021)～令和12年(2030))(令和2年度(2020)策定)

| | |
|--------------------|---|
| <p>計画の位置付け</p> | <p>町政を進めるための指針となる最上位計画です。</p> |
| <p>計画の概要</p> | <ul style="list-style-type: none"> 基本構想(計画期間10年間)、基本計画(前期・後期基本計画各5年間)、実施計画(計画期間3年間として毎年度更新)で構成しています。 目指す将来像として「育てたい、暮らしたい、帰りたいまち 小山町」を掲げています。 8つの基本的な考え方のもと、7つの基本目標を掲げて個別の課題を設定し、具体的な施策の展開を図ります。 |
| <p>歴史文化資源に係る取組</p> | <p>○土地利用構想：観光レクリエーションゾーン</p> <ul style="list-style-type: none"> ウィズコロナの状況を踏まえながら、観光交流の活性化を図るとともに、富士山を中心にした本町の地理的優位性を活かし、富士浅間神社、足柄城跡等の歴史・文化財や美術館、温泉・ホテル等の回遊性を整えた観光ゾーンとして整備を進めます。 <p>○施策の方向性(主な取組)：文化芸術活動の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> 無形民俗文化財などの文化財を継承、発展させるため、その活用と周知を図ります。 小山町文化財保存活用地域計画を策定し、新たな文化財の掘り起こしを行うとともに、文化財の保護と継承、活用を推進します。 <p>【町民・事業者の主な協働イメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町民と行政が連携し、「小山町史」等の歴史資料の有効活用、及び豊門会館や森村橋などの文化財の保全と活用を進めます。 地域の子どもたちへ、地域の伝統を伝えます。 |

土地利用構想図



(2) 第2次^{おやまちょう}小山町教育大綱

(令和3年(2021)～令和7年(2025))(令和2年度(2020)策定)

| | |
|-------------|---|
| 計画の位置付け | 町における教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものです。 |
| 計画の概要 | 『「富士山頂のあるまち」「金太郎生誕の地」にふさわしい元気で、明るく、心豊かな人づくり』の基本理念のもと、「郷土に誇りと愛着を持つ教育の推進」、「文化芸術活動の振興」等8つの基本方針を示しています。 |
| 歴史文化資源に係る取組 | ○郷土に誇りと愛着を持つ教育の推進 子供たちが郷土に誇りと愛着を持つことができるよう、 ^{おやまちょう} 小山町の自然環境、歴史、文化等を学ぶ機会を提供します。 ○文化芸術活動の振興 町民が文化芸術に親しみ、地域への誇りや愛着を持てるよう、鑑賞・体験・発表機会の提供と充実を図るとともに、各地域で行う文化芸術活動を支援するほか、町内の貴重な文化財の保全・活用に努めます。 |

(3) ^{おやまちょう}小山町教育振興基本計画

(平成28年(2016)～令和7年(2025))(平成27年度(2015)策定)

| | |
|-------------|---|
| 計画の位置付け | ・町政の最上位計画である ^{おやまちょう} 小山町総合計画と連携・相互補完にある教育に関する分野別計画として教育施策の全体を示す計画です。 |
| 計画の概要 | 「気高い ^{ふじ} 富士 ^{きんたろう} 金太郎のように 思いやる心を持つ たくましい人づくり」の基本理念のもと、「就学前教育の充実」、「生涯学習の推進」等、7つの施策を示しています。 |
| 歴史文化資源に係る取組 | ○生涯学習の推進：歴史と文化の継承・活用 ・埋もれた文化財の掘り起こし ・文化財情報の発信 ・文化財の保護・活用 ・伝統文化の継承支援 ・伝統文化の発表の場づくり ・文化交流の推進（郷土芸能「 ^{たけのしただいこ} 竹之下太鼓」、 ^{おおふじきんときだいこ} 「大富士公時太鼓」の活動支援） |

(4) ^{おやまちょう}小山町文化芸術振興基本計画 (令和3年度(2021)策定)

| | |
|---------|---|
| 計画の位置付け | 文化芸術基本法及び令和3年(2021)3月に制定された ^{おやまちょう} 小山町文化芸術振興条例に基づき、まちづくりにおける文化芸術施策の方向性を明確にし、総合的かつ効果的な推進を図ることを目的としています。 |
| 計画の概要 | 基本方針と基本施策(2つの基本方針を定め、9つの基本施策を展開) 1. 文化芸術を担う人財づくり 1-1 鑑賞機会の提供、充実 1-2 体験機会の提供、充実 1-3 成果発表の機会の提供、充実 1-4 子どもや若者への文化教育の充実 1-5 伝統的な文化の継承、発展 2. 文化芸術を身近に感じるまちづくり 2-1 既存活動団体の体制強化 |

| | |
|-------------|--|
| 計画の概要 | 2-2 公共施設等の有効活用 2-3 歴史文化資源の有効活用 2-4 文化交流の推進 |
| 歴史文化資源に係る取組 | ○町内の文化財を広く的確に把握し、その保存・活用を図ることで、歴史的 文化遺産の価値を共有し、(文化芸術を楽しむ)まちづくりを推進します。 ○代々受け継がれてきた無形民俗文化財や伝統行事、伝統工芸、食文化など、 町固有の文化を継承、発展させるため、その周知を図るとともに、新たな 担い手を育成します。 ○文化や歴史、郷土の偉人について学ぶことで、町や地域に対する誇りや愛 着感を育みます。 ○学んだ知識を伝える歴史ガイドなど、事業を運営から支える文化財ボラン ティアの養成に取り組みます。 |

3 主な関連計画の概要

本計画の主な関連計画の概要は次のとおりです。

(1) 小山町まち・ひと・しごと創生総合戦略

(令和3年(2021)～令和7年(2025))(令和2年度(2020)策定)

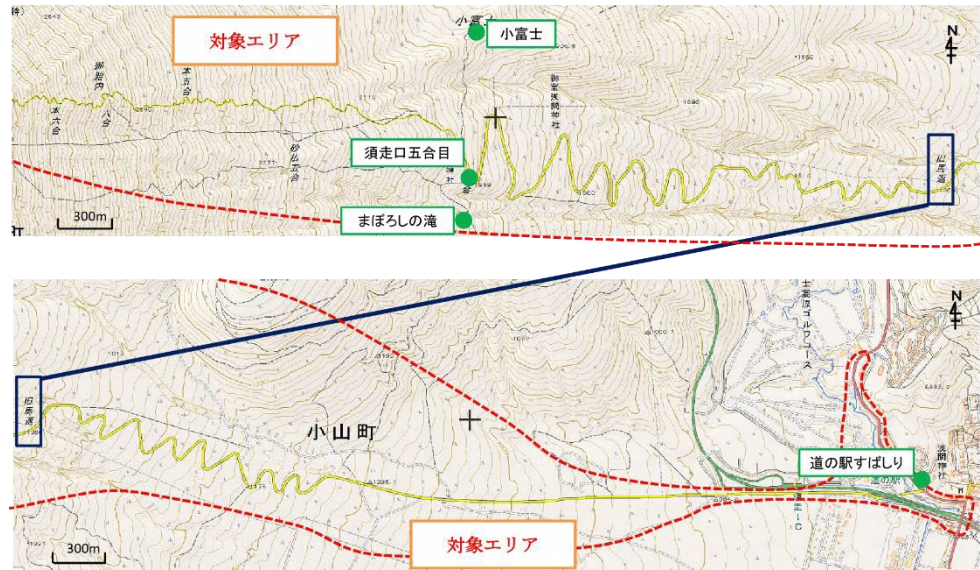
| | |
|-------------|--|
| 計画の位置付け | 人口減少に歯止めをかけ地方創生を推進する施策に重点を置くことを目的とした、総合計画の分野別計画です。 |
| 計画の概要 | ・「小山町人口ビジョン」に掲げる目標(2060年に17,000人程度の人口を維持)を達成するために取り組むべき施策を示しています。 ・取組方針を「三来拠点事業を中心とした未来を切り拓く取組の推進」、「官民一体となった持続的な取組の推進」とし、「産業拠点の整備を中心に多様な雇用機会を創出する」等4つの基本目標を掲げています。 |
| 歴史文化資源に係る取組 | ○観光産業の強化 ・国の登録有形文化財である豊門会館や西洋館、森村橋を修復し、見せること、体感すること、さらにロケ地としての利用を可能にすることで、国内外からの誘客を図ります。 ・フィルムコミッション事業を民間へ移管し、ロケ支援の充実を図るとともに、ロケ地への観光誘客のための情報発信を行います。また、映像文化創出の拠点を整備し、しごとの創生を図るほか、映像関係のイベント等を開催することで、交流人口の拡大や人材育成を図ります。 |

(2) 小山町景観計画 (平成27年度(2015)策定)

| | |
|---------|--|
| 計画の位置付け | 景観法に基づき、景観行政団体である本町が策定する景観形成の総合的な計画です。 |
| 計画の概要 | ・景観形成の目標として「美しい自然とやすらぎ 富士のあるまち・小山町」を掲げています。 ・富士浅間神社区域・国道138号沿道区域・周辺開発区域からなる富士山周辺地区を「景観形成重点地区」として位置付けています。 |

歴史文化
資源に係る
取組

- 【須走地区富士山エリア】観光地エリア景観計画
- ・世界遺産・信仰の山としてふさわしい富士山の景観づくり
 - ・美しい富士山での観光交流の増大



- 【成美地区】観光地エリア景観計画
- ・駿河小山駅を起点に明治産業文化の歴史が薫る景観形成
 - ・豊かな自然と金太郎伝説の史跡を楽しめる景観形成



(3) ^{おやまちょう} 小山町都市計画マスタープラン（改訂計画）
（平成27年（2015）～令和17年（2035））（平成26年度（2014）策定）

| | |
|-------------|---|
| 計画の位置付け | 都市計画法に基づき定めるもので、「市町村の都市計画に関する基本的な方針」であり、住民の意見を反映しながら、本町の都市計画に関する基本的な方針を示すことを目的としています。 |
| 計画の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの現状や^{おやまちょう}小山町総合計画などを踏まえ、おおむね10～20年後の「目指すべき都市の将来像」を明確に定めるとともに、土地利用や都市施設等（道路、公園等）の整備方針により、今後のまちづくりの道筋を示しています。 ・将来都市構造として、^{おやま}小山・^{あしがら}足柄・^{きたごう}北郷・^{すばしり}須走の各地域で、市街化区域の整備・環境向上を図り、魅力的でコンパクトな市街地を形成するとともに、各地域の連携を強化していくとしています。 |
| 歴史文化資源に係る取組 | <ul style="list-style-type: none"> ○都市環境基本計画（景観形成の方向性） <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的資産の保全と活用（資産の位置付けと保全規制、修景整備）を図ります。 ・世界文化遺産の構成資産（^{ふじせんげんじんじや}富士浅間神社）の門前町としての景観形成を推進します。 ○地域別構想 <ul style="list-style-type: none"> ・^{あしがら}足柄地域：駅前広場が整備され、町内各地域からのアクセス性に優れたJR ^{あしがらえき}足柄駅を地域の拠点として活かし、^{あしがらとうげ}足柄峠や^{きんときさん}金時山などの観光資源を活用した誘客を推進します。 ・^{すばしり}須走地域：箱根・富士五湖回遊ルート上に位置することから、観光レクリエーション区域に位置付け、世界文化遺産^{ふじさん}富士山の構成資産である^{ふじせんげんじんじや}富士浅間神社を活かした門前町を形成するなど誘客を図っていきます。神社前の本通り沿道には、回遊・滞留を促進する施設を誘導・整備していきます。 |

(4) ^{おやまちょう} 第2次小山町国土利用計画（平成27年度（2015）策定・決定）

| | |
|-------------|---|
| 計画の位置付け | 国土利用計画法に基づき、 ^{おやまちょう} 小山町町域における国土の利用に関して必要な事項を定める計画であり、本町における土地利用行政の指針となるものです。 |
| 計画の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな自然との調和を基本とした国土利用」、「世界遺産の資源を活かす国土利用」等、8つの基本方針のもと、各土地利用区分別の国土利用の基本方向を設定しています。 ・土地利用区分別の国土利用の基本方向を踏まえ、自然系、農業系、都市系等の地域類型区分に応じた秩序ある国土利用に努めるものとします。 |
| 歴史文化資源に係る取組 | <ul style="list-style-type: none"> ○地域類型別の国土利用の基本方向：観光文化交流拠点 <ul style="list-style-type: none"> ・^{ふじさんすばしりぐち}富士山須走口五合目、^{あしがらじょうあと}足柄城跡は、文化財としての価値を損なわないよう十分留意し、周辺の良い自然環境にも十分に配慮しながら、観光交流機能を有し、環境と共生した施設等の整備を検討した上で進めます。 ○地域別概要：^{あしがら}足柄地域 <ul style="list-style-type: none"> ・宅地は、現行の市街化区域に配置し、歴史的街並みや^{あしがらじょうあと}足柄城跡など多くの歴史・文化遺産を活かしつつ、計画的な都市基盤整備、土地利用等により良好な住環境に恵まれたゆとりある居住地の形成を図ります。 |



| | |
|-------------|--|
| 歴史文化資源に係る取組 | <p>○地域別概要：須走地域<small>すはしり</small></p> <ul style="list-style-type: none"> 富士山須走口五合目は、文化財としての価値を損なわないよう十分留意し、周辺の良い自然環境や景観にも十分に配慮しながら、観光文化交流機能を有する施設等の整備を検討した上で進めます。 |
|-------------|--|

(5) 小山町観光振興計画（小山町観光振興計画アクションプラン）
（令和3年（2021）～令和7年（2025））（平成26年度（2014）策定）

| | |
|-------------|--|
| 計画の位置付け | <ul style="list-style-type: none"> 「小山町観光振興計画」は、観光振興の実現に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、小山町観光振興条例に定める計画です。 「小山町観光振興計画アクションプラン」は、小山町観光振興計画に掲げた基本目標、基本方針及び具体的施策を着実に推進するため、施策毎に具体的な取組や数値目標等を示したものです。 |
| 計画の概要 | <p>“「安心・安全・快適」の追及”“富士を楽しみ金太郎の元気を養う観光のまち おやま”を基本目標に、町民が将来にわたって希望と誇りをもち、また、来訪者とも満足感を共有しあえる町づくりに取り組んでいくため、行政や観光業者だけではなく町民全体が主役となる観光の推進を目指すこととしています。</p> |
| 歴史文化資源に係る取組 | <p>基本方針1 富士山交流観光プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> 施策6 富士山巡拝の道づくりプロジェクトを進めます <p>基本方針2 元気にざわい観光プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> 施策1 金太郎をシンボルとした観光活性を図ります 施策6 観光拠点を活用します（歴史文化遺産の活用） <p>基本方針3 観光インフラ整備プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> 施策6 広域連携を推進します（金太郎にちなんだ交流の活性化） 施策7 小山町ブランドの充実を図ります（歴史文化のアピール） |

(6) 小山町農業振興地域整備計画
（昭和49年（1974）策定）（令和3年（2021）3月見直し）

| | |
|-------------|---|
| 計画の位置付け | <p>町の農業振興の方針と整備区域を定めることで、農用地区域の保全と町の農業進行を図ることを目的として昭和49年に策定された計画です。</p> <p>農業情勢の変化、都市的土地利用の増加等に対応すべく、5年に1度程度で定期変更を行っています。</p> |
| 計画の概要 | <p>「静岡県農業振興地域整備基本方針」や総合計画その他諸計画と整合を図り、情勢の変化に対応した適切な計画とするため、総合的に見直したものです。</p> |
| 歴史文化資源に係る取組 | <ul style="list-style-type: none"> 世界文化遺産に登録された富士山の景観を活かした魅力的な農村づくりとともに、グリーン・ツーリズムを推進し、地域の活性化を図っていきます。 農業生産基盤の整備にあたっては、環境や景観との調和に配慮し、世界文化遺産に登録された富士山のふもとの町にふさわしい空間形成を推進します。 |

(7) ^{おやまちょう}小山町地域防災計画（令和2年度（2020）作成）

| | |
|-------------|---|
| 計画の位置付け | 災害対策基本法に基づき定めるもので、町民の生命、身体及び財産を一般災害から保護するための本町の地域に係る防災対策の大綱です。 |
| 計画の概要 | 共通対策編のほか、地震、風水害、火山災害、大火災、大規模事項の各対策編で構成されており、各対策において災害要望計画、災害応急対策計画、復旧復興計画等を定めています。 |
| 歴史文化資源に係る取組 | <ul style="list-style-type: none"> ○共通対策編：文化財の応急対策 <ul style="list-style-type: none"> ・文化財の管理者又は所有者は、各文化財の状態に応じ災害に対処する措置を講ずるものとし、町は、管理若しくは復旧のためにでき得る範囲の援助をし、文化財の保全に努めるものとする。 ○地震対策編：文化財等の耐震対策 <ul style="list-style-type: none"> ・文化財建築物、文化財所蔵施設の所有者等及び^{しずおかけん}静岡県重要文化財等所有者連絡協議会は、その耐震性の向上並びに地震による人的被害を防止するための安全性の確保に努めるために必要な対策を講ずるものとする。 |

4 県及びその他主体の計画概要

県及びその他の主体による関連計画の概要は次のとおりです。

(1) ^{しずおかけん}静岡県文化財保存活用大綱（令和元年度（2019）策定）

| | |
|--------------------------------|--|
| 計画の位置付け | 文化財保護法に基づき、今後の ^{しずおかけん} 静岡県における文化財の保存と活用の基本的な方向性を明らかにしたものです。 |
| 計画の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ○基本理念『「美しい“ふじのくに”の文化財」を県民総がかりで守り、誰もが、親しみながら、未来へつなぐ』 ○基本方針 <ul style="list-style-type: none"> 「文化財の確実な保存」「文化財を支える多様な人材の育成」「文化財の効果的な活用」 ○市町への支援 <ul style="list-style-type: none"> 地域に根ざした文化財の保存・活用のため、「^{しずおかけん}静岡県文化財保存活用サポートセンター」が中心となって、県内市町村に対し必要な支援を行います。 ○県内各地域の特徴ある文化財 <ul style="list-style-type: none"> ^{しずおかけん}静岡県の各地域には、地域色豊かな文化財が数多く残っています。地域間における連携を促進し、魅力ある文化財の保存・活用に取り組んでいきます。 |
| ^{おやまちょう} 小山町に関わる主な取組等 | <ul style="list-style-type: none"> ○文化財保存・活用における市町連携の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・^{ふじさん}富士山と関連文化財を介した連携 ・日本の象徴となる類まれな文化財を介した世界各国との連携 |

(2) ^{ふじさん}世界文化遺産富士山包括的保存管理計画
（平成23年度（2011）策定・令和3年度（2021）改定）

| | |
|---------|--|
| 計画の位置付け | 世界遺産富士山の顕著な普遍的価値を次世代へと継承するため、その包括的な保存管理の方針及び行動計画について定めたものです。 ^{しずおかけん} 静岡県、山梨県及び関係する国機関、市町村により策定されました。 |
|---------|--|



| | |
|--|---|
| <p>計画の概要</p> | <p>計画では、世界文化遺産富士山の資産及びその周辺環境の現状について把握し、解決すべき課題の整理を行った上で、一体的な保存管理の方向性及び課題を解決するための施策について明示しています。また、資産の保存管理及び周辺環境の保全の施策を実際に進めていくための行動計画を定め、具体的な工程を明示しています。</p> |
| <p>おやまちょう 小山町に 関わる 主な取組等</p> | <p>第2章 顕著な普遍的価値の言明及び構成資産 2. 構成資産 1 富士山域 1-4 須走口登山道 6 富士浅間神社（須走浅間神社）</p> <p>第9章 行動計画の策定・実施（※実施主体に小山町が含まれるものを抜粋） 2. 方法 (1) 資産及び周辺環境に対する影響の予防・軽減・防止 ア. 開発・都市基盤施設の整備による影響への対応 2) 各実施事業の概要 ア) 市町村景観計画（見直し）の支援 エ) 富士山の眺望箇所及び構成資産周辺における修景整備 オ) 富士山周辺地域の道路の無電柱化 イ. 自然環境の変化への対応 イ) 温暖化への対応 ウ) 生物多様性への対応 ウ. 自然災害への対応 ア) 災害対策（全般） イ) 噴火対策 カ) 山火事対策 エ. 来訪者及び観光による影響への対応 ア) 富士山における来訪者管理 イ) 登山者・来訪者に対する安全対策 ウ) 混雑緩和のための対策 エ) ごみ・廃棄物対策 オ) し尿対策 カ) 便益施設の整備 (2) 各構成資産・構成要素及び展望景観の修復・整備 イ. 各実施事業の目的・概要 ア) 構成資産・構成要素の保存管理（全般） ① 建造物の火災・地震対策 イ) 富士山域 ④ 須走口五合目施設 コ) 展望景観の保存対策 ① 間伐等の森林整備による森林景観の維持・改善 (3) 資産の公開・活用 イ. 各実施事業の目的・概要 ア) 富士山総合学術調査の実施 カ) 地域住民等との連携・普及活動</p> |

(3) 特別名勝^{ふじさん}富士山保存管理計画（静岡県教育委員会）
（平成18年度（2006）策定）

| | |
|--|---|
| <p>計画の位置付け</p> | <p>昭和27年（1952）に特別名勝に指定された富士山^{ふじさん}について、その保存管理の方針について定めたものです。</p> |
| <p>計画の概要</p> | <p>富士山^{ふじさん}は、その秀麗な景観が、我が国の象徴として欠くことのできないものであるとして、昭和27年（1952）に特別名勝に指定されました。計画は、指定地のうち、静岡県^{しずおかけん}に属する区域を対象として、富士山^{ふじさん}が持つ本質的価値を明らかにするとともに、これを次世代に継承していくために保存管理の方法を定め、具体的な現状変更等の取扱基準を定めることを目的として策定されたものです。</p> |
| <p>おやまちょう 小山町に 関わる 主な取組等</p> | <p>保存管理の方法</p> <p>地区区分に基づき、保存管理の方針と取扱基準を定める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1種保護地区：山頂部から標高約2,400mに至るまでの区域 ・第2種保護地区：標高約2,400mから標高約1,900mに至るまでの区域 ・第3種保護地区：南西・西斜面に当たり、標高約1,900mから標高約1,600mに至るまでの区域 ・第4種保護地区：標高約1,650mから標高約1,000mまでの富士宮口登山道^{ふじのみやぐちとざんどう}と、標高約1,900mから標高約1,350mまでの須走口登山道の区域 ・第5種保護地区：須走口登山道^{すばしりぐちとざんどう}沿いの第4種保護地区の北側に連続する区域 <p>整備・活用の方針</p> <p>(1) 静岡県^{しずおかけん}、関係市町をはじめ、文化庁・環境省・林野庁とも連携しつつ、本保存管理計画の目的の達成に向けて取組を継続する。その際には、国内外から登山者等が訪れ、日本を代表する山岳に相応しい品格のある山岳となるよう、登山道等の整備を進めることが重要であり、登山者のための施設の設置に当たっては、陵線の保全を図り、視認性の低い色彩を用いるなど遠望される景観としての整備に努める。</p> <p>(2) 自然的構成要素である森林の中には、自然災害又は管理不足等から樹木の折損・倒壊を引き起こし、更新不良となっているものもあり、適切に復旧・整備する。</p> <p>(3) 山頂域（第1種保護地区～第2種保護地区）については、貴重な高山植生又は天然林として保護・育成されなければならない。特に、遠望される景観の中核を成す地域であるため、林野庁及び関係諸機関とも緊密に連携を図り、「世界文化遺産の価値対象となり得る森林」づくりを進めていく。</p> <p>(4) 広報・普及の方法としては、例えばガイダンス施設の設置や、説明板の整備等が考えられるが、その際には特別名勝としての価値を損ねることがないように十分留意する。</p> |



(4) 史跡富士山保存管理計画 (静岡県) (平成23年度 (2011) 策定)

| <p>計画の位置付け</p> | <p>平成23年 (2011) に史跡に指定された富士山について、その保存管理の方針について定めたものです。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|--|--------------------------------------|--|--|---------|---------|--------|--|---------|---|-----|--------|--|--------------------------------------|-----|--------|-------|---|
| <p>計画の概要</p> | <p>平成23年 (2011) 2月7日 (平成24年 (2012) 1月、9月追加指定) に富士山頂及び富士山周辺にある富士山信仰の関連施設及び関連遺跡等が、一括して史跡富士山として国史跡に指定されました。 計画は、史跡富士山の文化財としての本質的価値を明らかにするとともに、その価値を適切に保存し次世代へ継承していくために保存管理の方法を定め、具体的な現状変更等の取扱基準や、将来に向けた整備・活用の基本方針、保存管理と整備・活用を適切に運営するための方策を定めたものです。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>おやまちょう 小山町に 関わる 主な取組等</p> | <p>保存管理の方法 地区区分に基づき、保存管理の方針と取扱基準を定める。(町域が含まれるものを抜粋)</p> <table border="1" data-bbox="411 734 1393 1099"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>第1種保護地区</th> <th>第2種保護地区</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">山頂信仰遺跡</td> <td>八合目以上全域</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>登山道</td> <td>須走口登山道</td> <td>(登山道) 須走口八合目から山頂までの山頂信仰遺跡に含まれる範囲 (神社) 迎久須志之神社</td> <td>(登山道) 須走口五合目から八合目までの範囲 (神社) 古御嶽神社</td> </tr> <tr> <td>神社等</td> <td>富士浅間神社</td> <td>境内地全域</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>整備・活用の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 史跡富士山の本質的価値とその保存への理解を深め、来訪者が安全に見学できるよう、各構成資産の所有者又は管理団体が、ガイダンス施設やトイレ・駐車場等の便益施設を整備する。 (2) 整備計画に基づき、防災・防犯設備の整備等を計画的に進めるとともに、復元整備にあたっては、史料等に基づく学術的検討により意匠・構造・材料等の適否について慎重に判断しながら行う。 (3) 要素を巡る来訪者の便宜を図るため、各資産を関連づける総括的な案内板を作成したり、周辺の公共機関の拠点や主要国道・県道沿いに経路図や案内板を設置したりする。 (4) 既刊の調査報告書を補完する形で、富士山に関する未収集の文献等各種資料の収集、遺構把握のための発掘調査及び建造物の学術調査等を進めながら、さらなる理解・活用を進める。 (5) 解説リーフレットやガイドブックの作成、インターネットウェブサイトの新設や各市町の文化財紹介ページの充実、各種講座や企画展の開催、現地見学会を実施し、学校教育や生涯学習の場における富士山の自然・歴史・文化の学習にも資するよう、内容についての検討を行っていく。 | | | | | 第1種保護地区 | 第2種保護地区 | 山頂信仰遺跡 | | 八合目以上全域 | — | 登山道 | 須走口登山道 | (登山道) 須走口八合目から山頂までの山頂信仰遺跡に含まれる範囲 (神社) 迎久須志之神社 | (登山道) 須走口五合目から八合目までの範囲 (神社) 古御嶽神社 | 神社等 | 富士浅間神社 | 境内地全域 | — |
| | | 第1種保護地区 | 第2種保護地区 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 山頂信仰遺跡 | | 八合目以上全域 | — | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 登山道 | 須走口登山道 | (登山道) 須走口八合目から山頂までの山頂信仰遺跡に含まれる範囲 (神社) 迎久須志之神社 | (登山道) 須走口五合目から八合目までの範囲 (神社) 古御嶽神社 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 神社等 | 富士浅間神社 | 境内地全域 | — | | | | | | | | | | | | | | | | |

(5) その他の計画

ここまでに記載した上位関連計画以外にも、富士箱根伊豆国立公園（富士山地域）公園計画書（令和4年（2022）9月一部変更 環境省）や、富士国有林の地域別の森林計画書（富士森林計画区）（令和3年（2021）4月 関東森林管理局）、富士山火山避難基本計画（令和5年（2023）3月 富士山火山防災対策協議会）等の小山町域を範囲に含む計画があります。

本計画の推進にあたっては、これら関連計画との連携・調整に留意するものとします。

5 持続可能な開発目標（SDGs）との関係

SDGs（Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標）とは、2015年9月の国連サミットで採択された国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、貧困や気候変動など様々な課題を解決し、持続可能な社会を実現することを目指しています。

SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、国も積極的に取り組んでいます。平成28年（2016）12月に策定された「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」では、地方自治体がSDGsを原動力とした地方創生を推進することが期待されています。

「第5次小山町総合計画」においても、本町が実施していく取組とSDGsとのつながりを示しています。

これを踏まえ、本計画においても主に次の6つのゴールの達成を目指します。



表1 ^{おやまちょう} 小山町文化財保存地域計画のSDGsの目標

| SDGsのゴール | 計画の方針（第5章）との関連 |
|---|---|
|  <p>4 質の高い教育をみんなに</p> | <p>ゴール4：質の高い教育をみんなに すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。</p> <p>II 活用の方針 ①ふれる 体験や学習など、歴史文化とふれあう機会を創出し、歴史文化の薫るまちを目指します。</p> |
|  <p>8 働きがいも経済成長も</p> | <p>ゴール8：働きがいも経済成長も 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する。</p> <p>II 活用の方針 ②いかす 富士紬の歴史や農業遺産などの歴史を学び、活用し、健康や生きがいきづくり、産業の発展を目指します。</p> |
|  <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> | <p>ゴール11：住み続けられるまちづくりを 世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。 包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。</p> <p>I 保存の方針 ②つなぐ 富士山の景観や豊かな農村環境、貴重な植物などを大切にし、後世へ継承していきます。</p> <p>II 活用の方針 ②いかす 富士紬の歴史や農業遺産などの歴史を学び、活用し、健康や生きがいきづくり、産業の発展を目指します。</p> |
|  <p>12 つくる責任 つかう責任</p> | <p>ゴール12：つくる責任 つかう責任 持続可能な生産消費形態を確保する。</p> <p>II 活用の方針 ②いかす 富士紬の歴史や農業遺産などの歴史を学び、活用し、健康や生きがいきづくり、産業の発展を目指します。</p> |
|  <p>15 陸の豊かさも守ろう</p> | <p>ゴール15：陸の豊かさも守ろう 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。</p> <p>I 保存の方針 ①究める 文化財保護法や文化財保護条例を遵守し、大切な歴史文化を守っていきます。</p> <p>I 保存の方針 ②つなぐ 富士山の景観や豊かな農村環境、貴重な植物などを大切にし、後世へ継承していきます。</p> |
|  <p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p> | <p>ゴール17：パートナーシップで目標を達成しよう 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。</p> <p>III 体制や支援 ①整える 多様な主体が助け合い、協力するための体制を整備します。</p> |

第4節 計画期間と進捗管理

1 計画期間

本計画の計画期間は、上位計画である町総合計画の目標年次と整合をとり、令和6年度（2024）から令和12年度（2030）の7年間とします。また、計画の当初2年を前期計画期間、その後令和8～12年度（2026～2030）の5年を後期計画期間と位置付けます。なお、令和13年度（2031）以降は次期計画の期間となりますが、長期的な目標のもとに計画を進めるため、想定される事業等を第5章・第6章に「措置」として整理しました。

計画の目標年次である令和12年度（2030）には計画の見直し、次期計画の作成を行い、令和13年度（2031）からは次期計画の運用を予定します。

表2 計画期間

| 計画名 | 年度 | | | | | | | | | | |
|------------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | 令和3 2021 | 令和4 2022 | 令和5 2023 | 令和6 2024 | 令和7 2025 | 令和8 2026 | 令和9 2027 | 令和10 2028 | 令和11 2029 | 令和12 2030 | 令和13 2031 |
| 第5次 おやまちょう 小山町総合計画 | 前期基本計画 | | | | | 後期基本計画 | | | | | 次期計画 |
| おやまちょう 小山町文化財保存 活用地域計画 | | | | 前期 | | 後期 | | | (見直し) | 次期 | |

2 計画の進捗管理と見直し

本計画に定める歴史文化資源の保存・活用に関する措置を確実に効果的に進めるため、計画の推進に係る関係機関との連絡・調整を適宜実施していくとともに、毎年度、「^{おやまちょう}小山町文化財保護審議会」において進捗状況や事業計画の報告・検討を行い、自己評価を実施します。

また、計画期間の満了時には事業評価の上で計画の見直しを行い、その結果を反映した次期計画の作成、文化庁への認定申請を実施します。

さらに、計画は長期にわたることから、社会情勢の変化や上位関連計画との関連性を踏まえ、事業計画について見直しが必要になった場合には計画の見直しを行います。なお、変更の内容が軽微な場合には、当該変更の内容について、^{しずおかけん}静岡県及び文化庁へ情報提供を行います。一方、「計画期間の変更」、「域内に存する文化財の保存に影響を及ぼすおそれのある変更」、「地域計画の実施に支障が生じるおそれのある変更」に該当する場合は、文化財保護法第183条の4及び文部科学省令に基づき、改めて文化庁長官へ変更の認定を申請します。

第5節 計画の対象とする「歴史文化資源」の定義

本町には、特別名勝富士山や国登録有形文化財の森村橋を始め、足柄城跡や竹之下太鼓などの有形・無形の多様な文化財が存在します。また、文化財保護法で規定される文化財以外にも、本町の歴史文化を理解する上で欠かせない伝承も各地に残されています。これらの歴史文化の所産は、地域のアイデンティティや住民の誇りであり、教育や研究のみならず、観光やまちづくり等に活かすことが期待されています。

本計画では、文化財保護法で規定される「文化財」だけではなく、伝承や地名、特産品、地域に伝わる信仰や行事・イベントなどを幅広く対象として捉え、これら有形・無形の所産の保存・活用を図ることとします。

そのため本計画では、文化財保護法が対象とする文化財等に加え、文化財を取り巻く多様な要素を小山町における『歴史文化資源』と定義するとともに、それら歴史文化資源の保存・活用に向けた方針と具体的な取組内容（措置）と、その実現に向けた体制等を定めます。

小山町における『歴史文化資源』

- ・地域が大切に守り、継承してきた歴史文化に関わるすべてのモノやコトに加え、それを取り巻く周辺の環境を幅広く捉えたもの

法が対象とする文化財等の類型

- ・法第2条に定義される「文化財」（有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群）
- ・法第92条に定義される「埋蔵文化財」
- ・法第147条に定義される「文化財の保存技術」

指定等文化財

- ・法に基づく指定等（指定・登録・選定・選択・決定）の対象、あるいは町や県の条例に基づく指定等の対象となっている文化財

未指定の歴史文化資源

- ・法や条例に定める文化財に該当しても、指定等の対象となっていないもの
- ・法や条例において「文化財」として定義されないものの、大切な歴史文化として守るべき地域の歴史的・文化的所産（地域に伝わる伝承や信仰、地域固有の地名、特産品、行事・イベントなど）

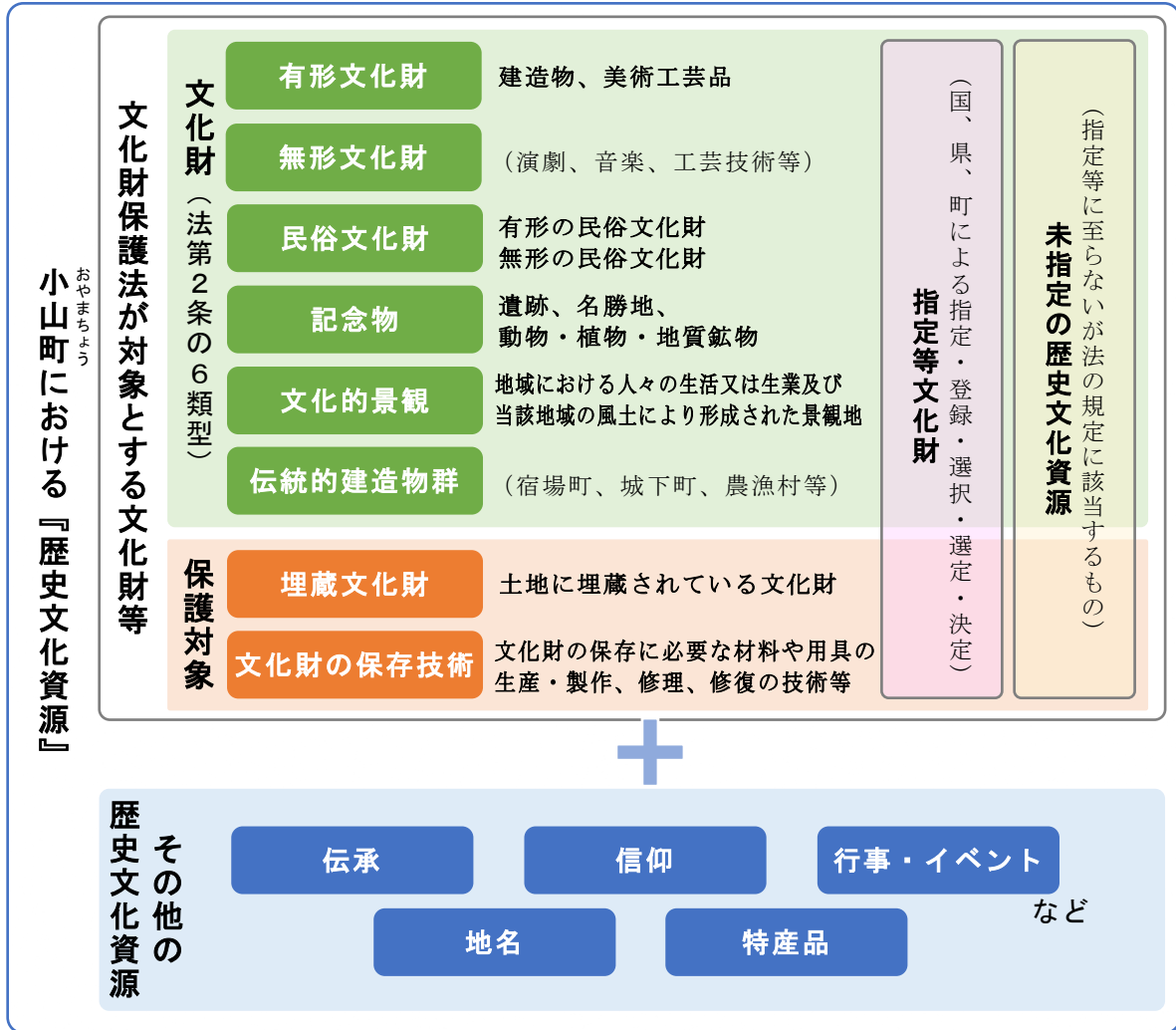


図10 小山町における「歴史文化資源」の定義

なお、本計画において「文化財」に該当しない「その他の歴史文化資源」として扱うものの概要は次の表に示すとおりです。

表3 その他の歴史文化資源の概要

| 区分 | 概要 |
|---------|---|
| 伝承 | 金太郎伝説、合戦の舞台・伝承 |
| 信仰 | 富士講など地域に伝わる信仰（※） |
| 行事・イベント | 寺社の大祭、富士山の開山・閉山式に伴うパレード、足柄峠笛祭り、富士山金太郎春まつり、富士山金太郎夏まつり、歴史文化に関するその他の祭りなど催し |
| 地名 | 町の歴史文化を紐解く上で重要な地名 |
| 特産品 | 水掛菜、ワサビ、水稻など、地域特有の特産品 |

※富士講については、有形文化財と無形文化財が一体となって一つの歴史文化を示していることから、ここに掲載しました。

第1章 小山町の概要

第1節 自然的・地理的環境

1 町の位置と面積

本町は静岡県の北東端に位置し、東を神奈川県、北西を山梨県に接している県境の町です。西端は富士山頂に達しており、東西に長い地勢です。本町の成り立ちは、現在の小山町の前身となる旧小山町（現在の成美地区（旧六合村）及び明倫地区（旧菅沼村））、旧足柄村、旧北郷村、旧須走村に由来し、現在、これらを基本とした5地区（成美地区、明倫地区、足柄地区、北郷地区、須走地区）にて小学校区が設定され、自治会運営がなされています。

文化財の保存・活用にあたっては、学校教育やまちづくりとの連携が重要であることから、本計画ではこれら5地区を基本とした地区区分により計画を推進します。

表1-1 町の位置・面積

| | |
|-----|---|
| 位置 | 東経138度59分、北緯35度21分 |
| 広ぼう | 東西26.04km、南北13.33km |
| 面積 | 135.74km ² （成美地区及び明倫地区合計28.02km ² 、足柄地区20.14km ² 、北郷地区45.34km ² 、須走地区42.24km ² ） |

出典：小山町の統計 令和2年度版

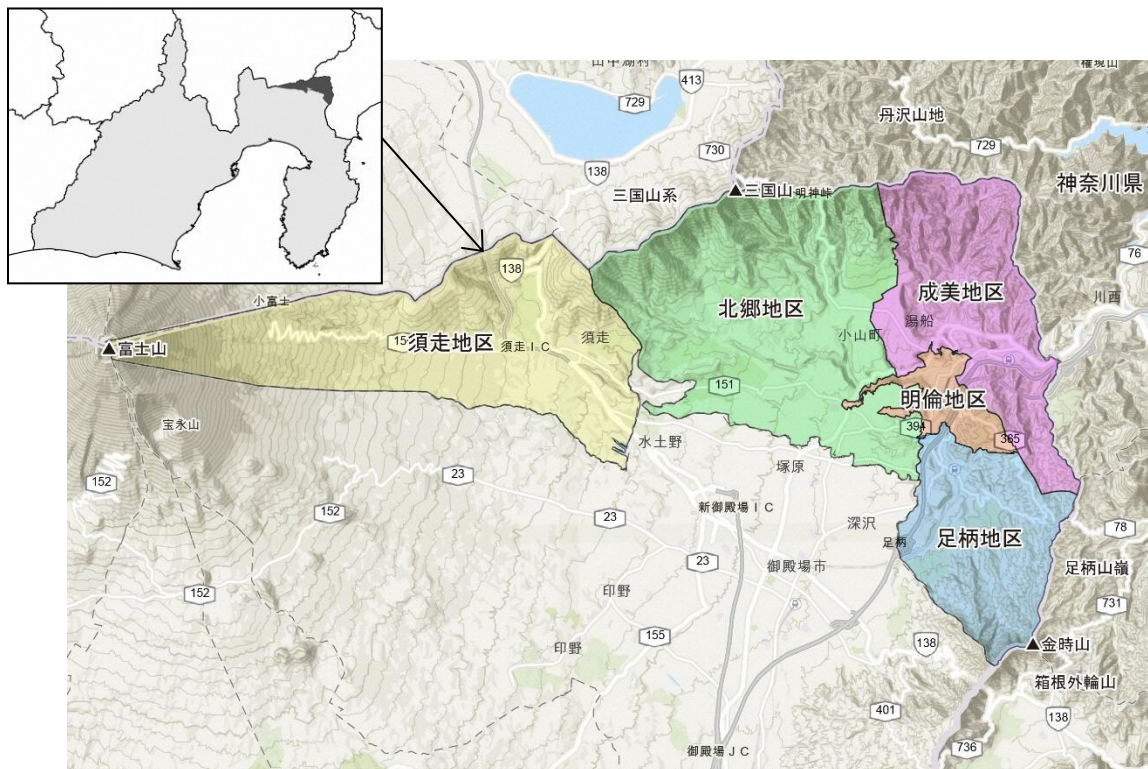


図1-1 小山町の位置と地区区分

2 地形・地質・水系

(1) 地形

町域は最低標高約200mの成美地区から須走地区の富士山の山頂まで至ることから、標高差は3,500mを超えています。

今からおよそ2万4千年前、現在の富士山の前身である古富士火山で大噴火がおきました。山頂からあふれ出た大量の溶岩流は、やがて冷えて固まり、水を通さない大変硬い岩盤になりました。その後、1万5千年から2万年の間に山麓に降った雨は、少しずつ硬い岩を削り、今の須川や鮎沢川など深い谷を刻みました。そこへ新富士火山の噴出物が、何度も厚く積もりました。それから現在までの間、川は何度ともなく大洪水をおこし、川底を削り、川沿いには河岸段丘を形成しています。

金時山から足柄峠にかけての稜線と丹沢山地と三国山までの稜線が神奈川県との県境になっており、三国山から籠坂峠の稜線と籠坂峠から富士山頂までが山梨県との県境となっています。このように本町は、地形的に「相模（神奈川）」と「甲斐（山梨）」の境界に位置しています。なお、三国山地の由来は、「駿河」、「甲斐」、「相模」の三国の境に当たるためです。

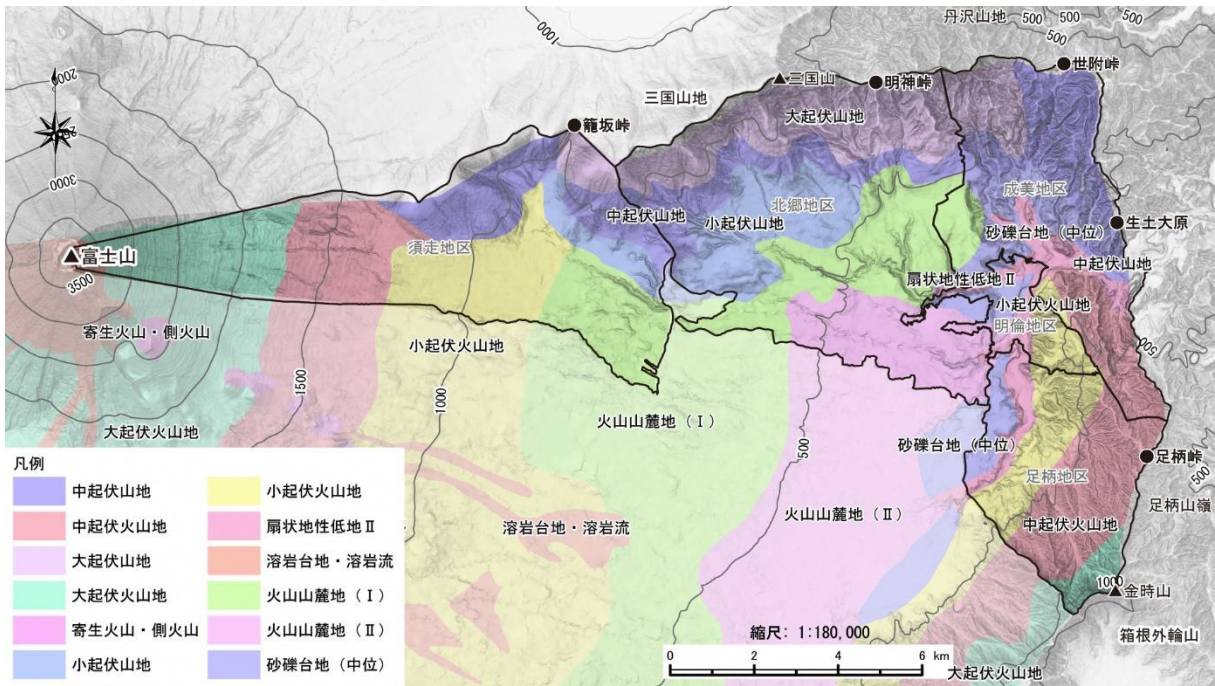


図1-2 小山町の地形 (出典：国土地理院 (20万分の1土地分類基本調査を加工))

(2) 地質

本町の東部は金時山の玄武岩質溶岩が主に斜面を構成し、北部の丹沢山地は御坂層群の玄武岩・安山岩質溶岩等からなっています。また、西部は玄武岩質溶岩の覆う富士山本体で、中腹から裾野は火山碎屑物で厚く覆われています。鮎沢川等川沿いには堆積岩類もみられます。これらは主にスコリアに覆われている箇所が透水層とな

り、溶岩等に覆われた箇所が不透水層となっています。

町内には透水層と不透水層が混在していることから、湧水箇所が数多く存在しています。例えば、足柄城跡の一の曲輪には、雨乞いの池として足柄地区の人々から親しまれている「玉手ケ池」があり、これは不透水層が一の曲輪の上部を椀状に覆っていることで、水が溜まる池となっています。この玉手ケ池は、足柄城の水源としての記録が残っています。


そして、宝永4年(1707)の富士山宝永噴火によるスコリアが町内全域を厚く覆っていることも本町の地質の特徴です。最大の降灰量となった須走地区は、約3m以上の火山灰に覆われました。その他北郷地区は、約1~2m、成美地区、明倫地区、足柄地区も、およそ0.5~1.5mの火山灰に覆われました。これは、西からの風により、宝永山からの火山灰が東に流れたためで、本町域は、宝永噴火最大の被災地となりました。この火山灰は現在も町内各地に残っています。



図1-3 玉手ケ池 (足柄城跡)



図1-4 宝永噴火のスコリア (須走中学校)

 **火山砕屑物 (火砕物)**

噴火により火口から噴出された溶岩流を除く噴出物を総称して火山砕屑物といいます。粒径により、火山岩塊、火山礫、火山灰に分類され、その中で、多孔質で淡色のものを軽石、暗色のものをスコリアといいます。 (出典：用語の説明 | 国土地理院)

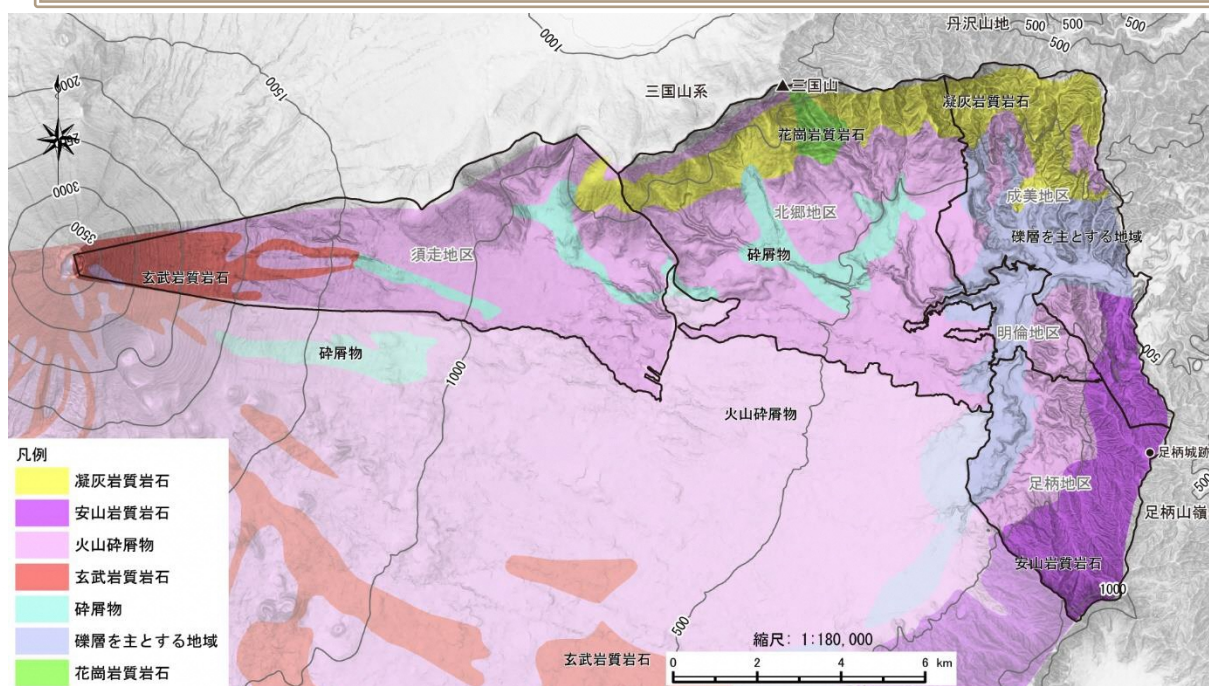


図1-5 小山町の地質 (出典：国土地理院 (20万分の1土地分類基本調査を加工))



(3) 水系

河川は源を富士・箱根山麓に発する鮎沢川が、馬伏川、須川、野沢川、地蔵堂川と合流して東に流れ、酒匂川となって相模湾にそそいでいます。なお、この鮎沢川は、本町に隣接する御殿場市中畑が起点となっています。

鮎沢川は、これまで何度もなく大洪水をおこしながら川底や壁面を削っていき、明倫小学校の裏では、鮎沢川の水が長い年月をかけて削ってできた河岸段丘を確認することができます。

鮎沢川は町内の平野部分を流下していることから、明治22年（1889）には川沿いに東海道線が開通しました。さらに明治29年（1896）には、交通の便が良いことと水が豊富であることから、水力を利用した紡績工場の適地として見出され、富士紡績株式会社（以下、「富士紡」という）が成美地区及び明倫地区で操業を開始しました。



図1-6 鮎沢川

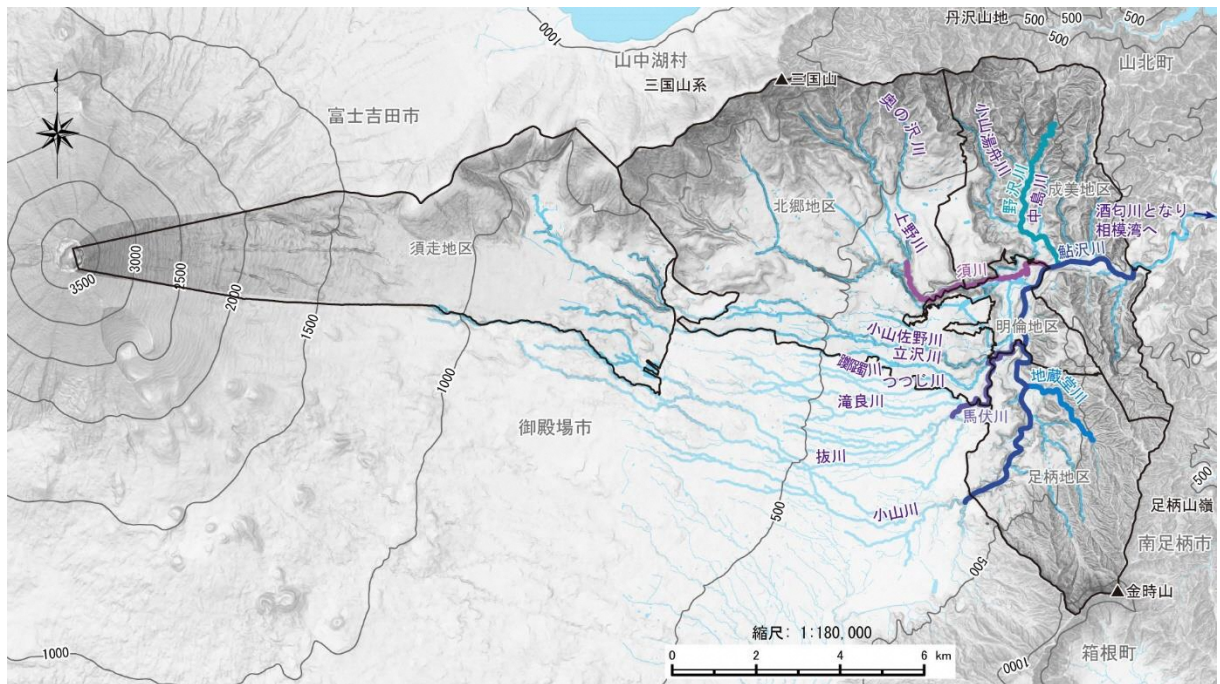


図1-7 小山町の水系（出典：国土地理院（20万分の1土地分類基本調査を加工））

3 気 候

本町は標高が高いため過去10年間の平均気温は、中心市街地である小山消防署周辺で約14℃と、比較的温暖な静岡県内でも低く、8月の月平均気温と1月の月平均気温との年較差は22℃程度となっています。（富士山頂の気温を除く。）

また、過去10年間の小山消防署（菅沼地区）での平均年間降雨量は、富士山による影響もあり、2,550mm程となっています。霧の発生が多い地域でもあることから、年平均日照時間数は1,800時間以下です。山間部では、最深積雪が10cm以上となります。

近年、全国で豪雨による自然災害が多発していますが、本町においても平成22年（2010）の台風9号、令和元年（2019）の台風19号に伴う豪雨により甚大な被害が発生したことから、今後も自然災害への備えを万全にしていく必要があります。



図1-8 平成22年台風9号による被害（野沢川河口）

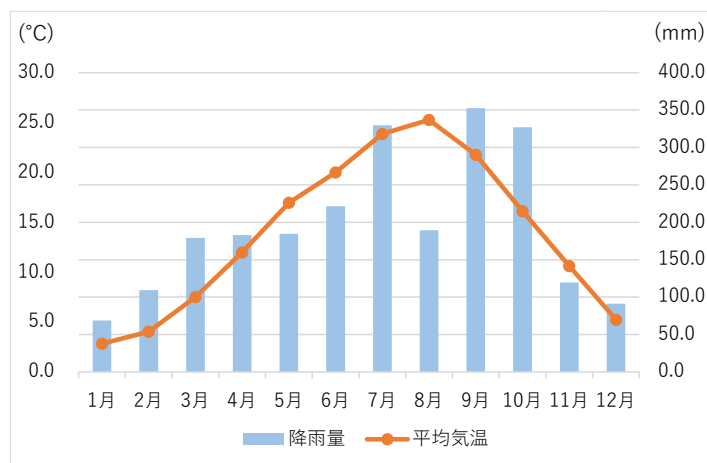


図1-9 平均気温と月降雨量（平成23年～令和2年平均）

出典：小山町の統計（平成23年度版～令和2年度版）

4 生態系

(1) 植物

本町の植生は、富士山、三国山地、箱根・足柄山系（金時山）の大きく3つの区域に分けられます。また、その特徴として、富士山山頂から市街地までに3,500mもの標高差があることから多様な植生がみられること、富士山の噴火に由来する植生破壊により、遷移の途中相の群落が各所にみられることが挙げられます。

富士山の500m以下の丘陵地帯には、カシ、シイなどの林があり、町の花であるフジザクラ（マメザクラ）も分布しています。また、スギやヒノキの植林も広がっています。500mから1,000mまでの山地帯には広大なススキ草原があります。1,500

mから2,500mの亜高山帯には、カラマツやダケカンバ、シラビソ、コメツガなど針葉樹の林が多くあります。根を深く広く張って安定させ、少ない水分を吸収して生きるフジアザミ、オンタデ、メイゲツソウ、ムラサキモメンツルなどは、荒地でも生育できる植物であり、麓から分布域を広げたものが始まりと考えられます。また、富士山の固有種であるフジハタザオも標高2,000~3,000mの森林限界付近で見られます。



図1-10 オンタデ

これら先駆植物が生えると地中に栄養物がたまり、砂も根の力で砕かれ、他の植物も生えやすい条件となります。この結果、日当たりを好むカラマツやダケカンバなどの木が生え出し、先駆植物は追われ更に上に成長します。また、日当たりを好む木もその下から生え出し、高木となるシラビソ、コメツガなどに日当たりを奪われ更に上に成長します。このようにして、富士山の植物は徐々に生息域を広げていきました。

明神峠から三国山にかけての三国山稜は、尾根沿いや南斜面にブナ、ミズナラの森が見られ、日本を代表する自然林です。ブナ林にはカエデ類が多く出現することが特徴で、オオモミジ、オオイタヤメイゲツ、イタヤカエデなどが見られます。近年はブナの自然林が減少しており、大切な自然の財産として残していくことが重要です。

箱根・足柄山系においては、箱根外輪山の最高峰であり、箱根山の寄生火山である金時山に、ブナを主とした落葉広葉樹林がよく発達しています。ブナをはじめ、ヤマボウシ、ミズナラ、ヒメシャラ、オオイタヤメイゲツなどが見られ、林床にはウラボクサが多く生育し、ヒメシャガも見られます。

また、町内全域にスギとヒノキの植林が広がっています。

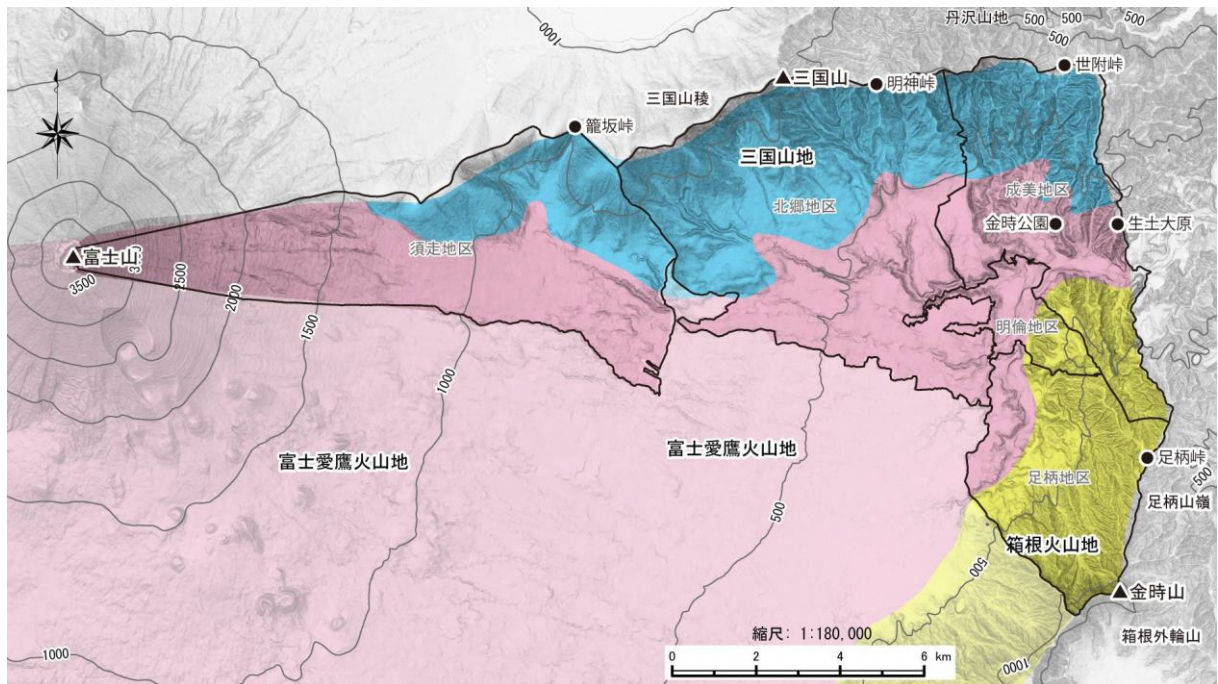


図1-11 小山町の地形区分と標高

(出典：国土地理院 (20万分の1 土地分類基本調査を加工))

(2) 動物

町内には、町を特徴付ける両生類、魚類が無いことから、哺乳類と鳥類、昆虫類について記述します。

平成元年（1989）～平成2年（1990）にかけて実施された^{おやまちょうしへんさん}小山町史編纂事業の調査によると、哺乳類は、イノシシやホンドギツネ、ホンドイタチ、ウサギなどが山梨県及び神奈川県との県境の山間部等で広く確認され、また、^{かごさかとうげ}籠坂峠周辺でニホンジカやニホンカモシカ、ホンドタヌキ、ホンドテンが確認されています。一方、聞き取りではニホンザル、ニホンアナグマ、オコジョが存在するといわれていますが、調査では生息が確認されませんでした。

しかし、^{おやまちょう}小山町猟友会からは、現在も生息しているとの情報が寄せられています。

表1-2 平成元年～2年の哺乳類の確認調査結果

| 調査日 | 地点 | ツキノワグマ ニホン | イノシシ | ニホンジカ | ニホンカモシカ | ニホンザル | ニホンアナグマ | ホンドギツネ | ホンドタヌキ | ホンドイタチ | ホンドテン | ハクビシン | オコジョ | ウサギ | その他鳥獣 |
|-----------------|------------|---------------|------|-------|---------|-------|---------|--------|--------|--------|-------|-------|------|-----|--------------|
| 1989. 11. 11 | 籠坂峠 | | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ヤマドリ、キジ（鮎沢川） |
| 1989. 11. 12 | 明神峠 世附峠 | | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 1990. 1. 17 | 籠坂峠 明神峠 | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| 1990. 1. 18 | 明神峠 世附峠 | | ○ | | | | | ○ | | ○ | | | | ○ | ヤマドリ（世附峠） |
| 1990. 5. 29 | 世附峠 | | ○ | | | | | ○ | | | | | | | |
| 1990. 6. 20 | 金時公園 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1990. 7. 16 | 生土大原 | | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 確認状況 | | x | ○ | ○ | ○ | x | x | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | x | ○ | |

○：生息の痕跡が確認されたもの

x：聞き取り調査では生息するとされるが、現地で確認できなかったもの

鳥類については、^{ふじさん すばしりぐちとさんどう}富士山の須走口登山道において、亜高山の鳥であるミソサザイやルリビタキ、キクイタダキなどの声を聞くことができます。^{ひがしふじさんしゅうじょう}東富士演習場ではノビタキ、コヨシキリなどの草原の鳥がみられます。昭和9年（1934）には、「日本野鳥の会」の探鳥会が^{すばしり}須走で開催され、^{なかにし ごとう}中西悟堂、^{きたはら かくしゅう}北原白秋、^{きんたいち はるひこ}金田一春彦などが訪れています。

昆虫については、ホタルが町内全域で飛び交っています。町内全ての地区で、5月下旬から6月中旬にかけてゲンジボタルが、6月下旬から8月上旬にかけてヘイケボタルが飛翔します。^{めいりんちく}明倫地区では、陸棲のクロマドボタルが確認されています。また、^{ふじさん すばしりぐちとさんどう}富士山須走口登山道の旧道（標高約1,500m）では、陸棲のヒメボタルが飛翔しています。





図1-12 ニホンジカ
(写真提供：県自然保護課)



図1-13 ニホンジカ (須走口五合目)
(写真提供：県自然保護課)



図1-14 ニホンカモシカ



図1-15 ツキノワグマ



図1-16 ルリビタキ
(写真提供：静岡県立森林公園)



図1-17 ゲンジボタル
(写真提供：静岡県立森林公園)

第2節 社会的環境

1 町域の変遷

町村合併によって誕生した新たな町村を基盤に明治22年（1889）4月、町村制が施行されました。成美地区においても、藤曲村ほか5か村が合併して戸数259戸、人口1,624人の「六合村」となりました。明倫地区では、「菅沼村」が戸数135戸、人口802人の独立村として発足しました。足柄地区では、足柄村ほか3か村、新柴村ほか2か村が合併して戸数207戸、人口1,128人の「足柄村」となりました。北郷地区では、用沢村ほか12か村が合併して、戸数536戸、人口3,381人の「北郷村」となりました。須走地区では、「須走村」が戸数99戸（人口不明）の独立村として発足しました。

大正元年（1912）8月1日、六合村、菅沼村が合併して町制が施行され、「小山町」が誕生しました。その後、町村合併促進法施行により、昭和30年（1955）4月1日には足柄村が、昭和31年（1956）8月1日には北郷村が、昭和31年（1956）9月30日には須走村がそれぞれ小山町に合併し、新小山町が誕生、現在の町域に拡大しました。

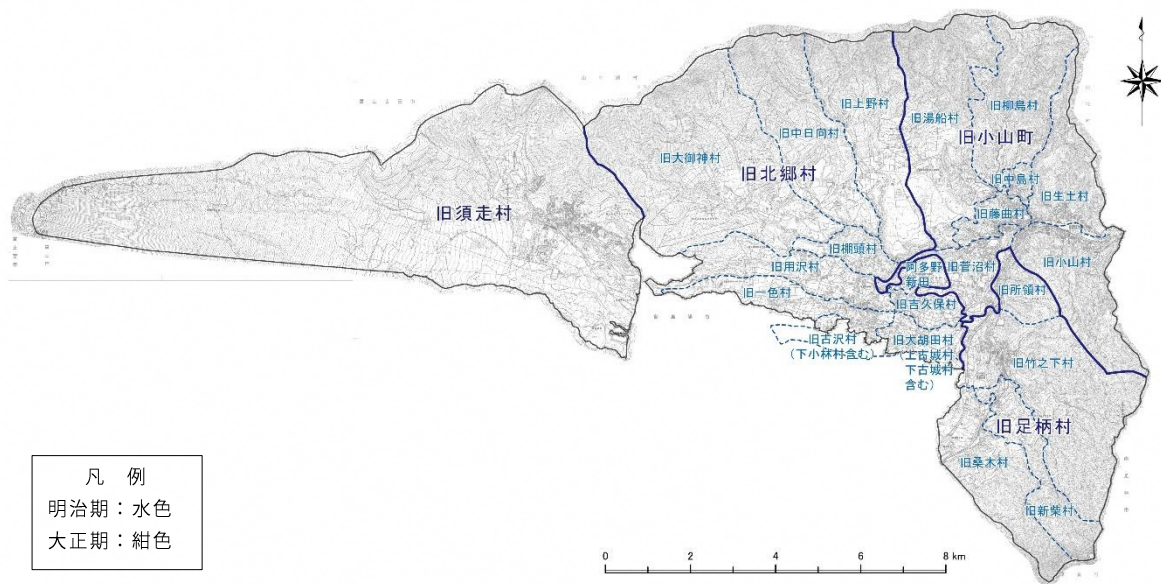


図1-18 小山町の旧村の位置

明治22年(1889)
町村制による合併

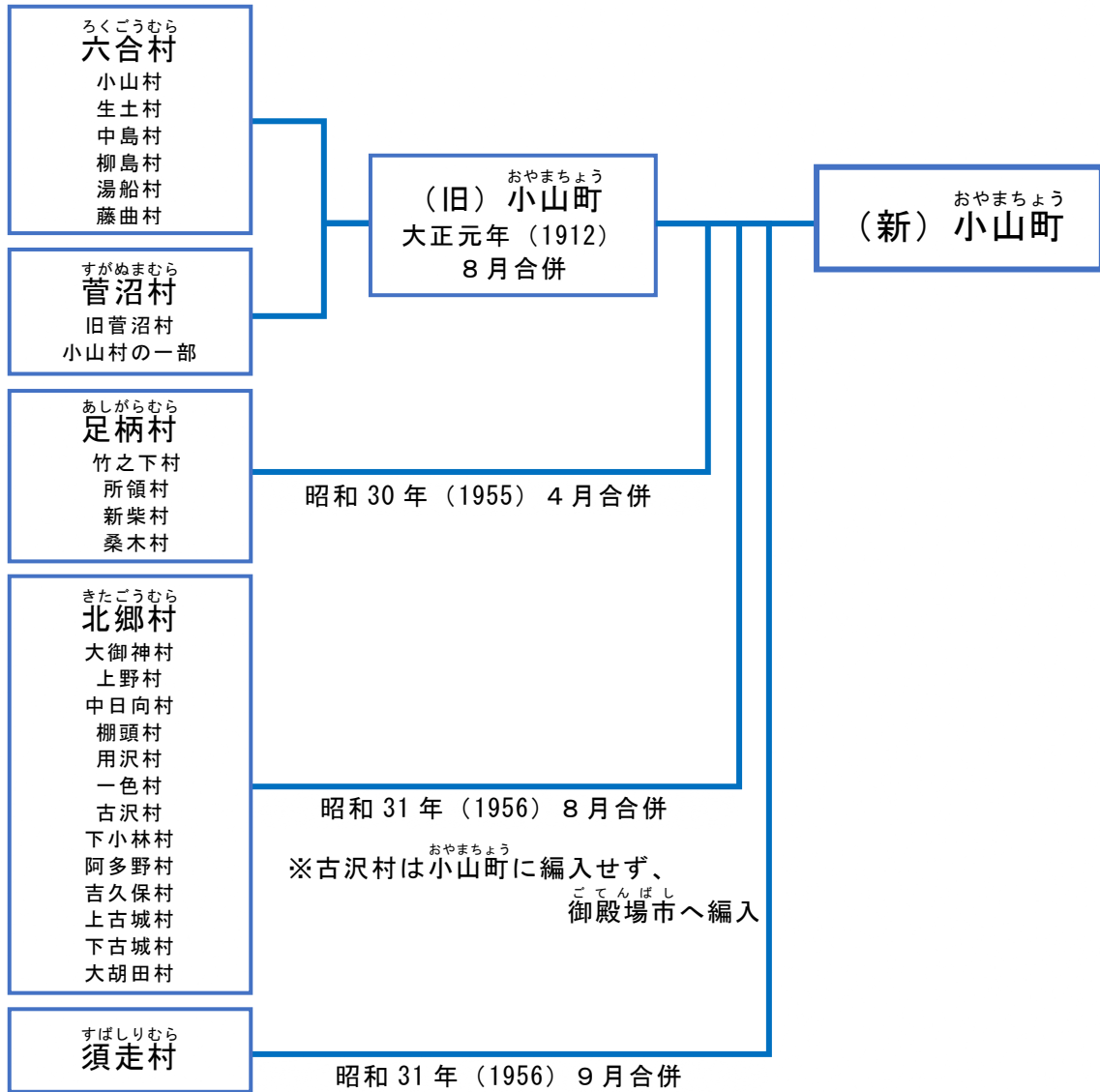


図1-19 ^{おやまちょう} 小山町の町村合併の経緯

2 人口動態

昭和60年(1985)以降の国勢調査によると、本町の総人口は平成2年(1990)をピークに減少傾向にあります。令和4年(2022)8月1日現在の人口は、17,667人(住民基本台帳)となっています。

15歳未満人口(年少人口)は昭和60年(1985)以降、15~64歳人口(生産年齢人口)は平成2年(1990)以降減少しています。一方で、65歳以上人口(高齢者人口)は昭和60年(1985)以降増加を続け、高齢化率は10.3%から26.3%と約2.6倍になりました。

令和3年度(2021)の人口増減では、出生や死亡による自然増減では、91人の出生に対し死亡が256人で、165人の減少となっています。転入転出の社会増減では、転入等が965人、転出等が1,099人であり、134人の減少となっています。これらの減少は、出生率の低下に伴う要因と、^{すばしりちく}須走地区にある^{りくじょうじえいたいふじがっこう}陸上自衛隊富士学校の人事異動に伴うものです。

今後、人口減少は加速度的に進むものと予想され、国立社会保障・人口問題研究所が平成30年(2018)に公表した将来推計人口によると、令和22年(2040)における本町の人口は約13,217人まで減少するとされています。

なお、第5次^{おやまちょう}小山町総合計画では、これまでの人口動向を踏まえ、これからの施策効果を含む社会動態を加味し、将来人口推計を行った結果、同計画後期基本計画の計画期間の最終年である令和12年度(2030)の将来人口を16,500人に設定しています。

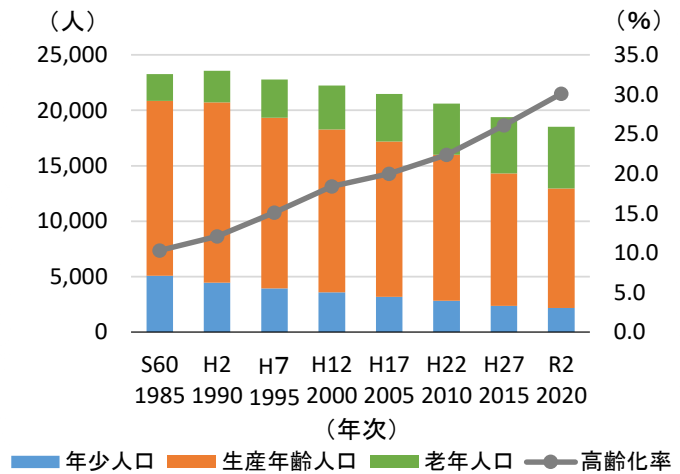


図1-20 年齢3区分別人口の推移 (出典: 国勢調査)

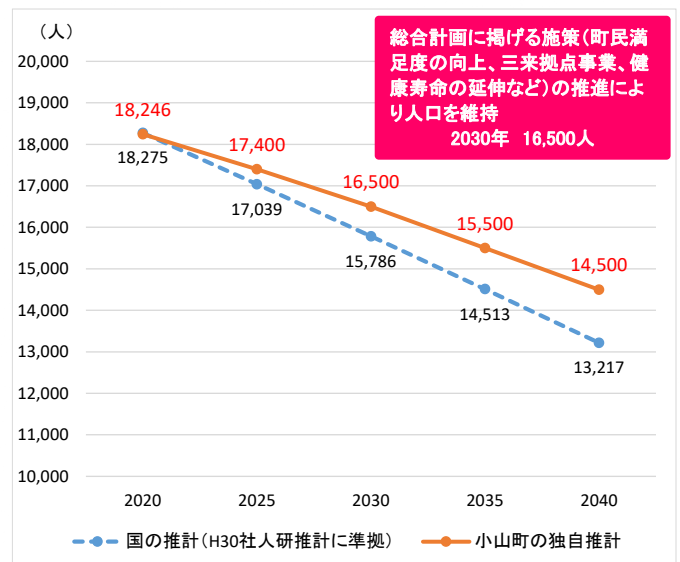


図1-21 将来人口の推計結果 (出典: 総合計画)

3 産 業

(1) 就業構造

本町の実業人口は、平成27年（2015）は10,629人で、平成2年（1990）の13,454人から2,825人減少しています。産業別にみると、第三次産業が最も多く全体の約70%を占めていますが、平成17年（2005）以降減少に転じています。第二次産業は、平成2年（1990）以降減少傾向にあり、ピーク時のおよそ半分となっています。また、第一次産業は、昭和60年（1985）と比較すると、緩やかな減少傾向にあるといえます。

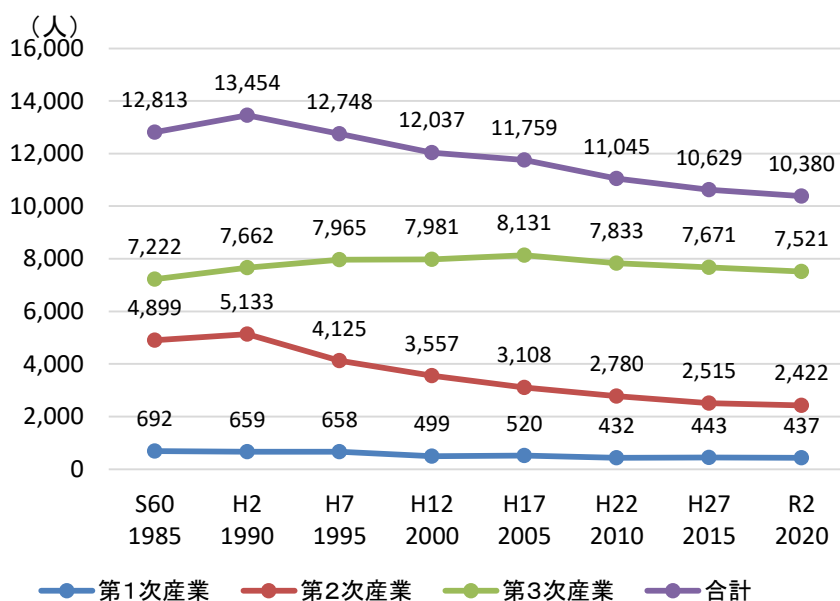


図1-22 産業別就業人口の推移 (出典：国勢調査)

(2) 産業の誘致について

静岡県は、防災・減災と地域成長を両立させた魅力ある地域づくりを実現するため、平成26年度（2014）に「内陸フロンティア推進区域」制度を創設しました。

（平成30年度（2018）に「ふじのくに」のフロンティアを拓く取組」に名称変更）
 県が指定するフロンティア推進区域は、令和3年（2021）2月時点で、静岡県下全35市町で取組み、74区域が指定されています。

本町には、8つの推進区域があり、工業団地や住宅地団地、太陽光や木質バイオマス発電によるエネルギーの創出のほか、観光交流人口拡大のための施設誘致や、さらに、次世代施設園芸の一大拠点となる農地の創出も実施します。産業拠点を整備することで雇用を創出し、居住環境の整備により移住・定住を促し、子育てニーズに応えるなど、様々な世代の町民が元気に安心して暮らせる町を目指しています。



ふじのくにのフロンティア

ふじのくにのフロンティアとは、新東名高速道路等を最大限活用し、内陸部に災害に強く魅力ある先進地域を築くことや、都市部と内陸部の両地域間の連携と相互補完による均衡ある発展を促し、南海トラフ巨大地震等の有事に備えた地域づくりモデル形成を目標とし、防災・減災機能の充実・強化と有事に強い産業基盤の構築、生活環境の確保及び広域ネットワークの構築を図るものです。

4 土地利用

本町の総面積135.74km²のうち、土地利用の内訳(地目別面積)は、水田5.4km²(4.0%)、畑2.34km²(1.7%)、宅地6.79 km²(5.0%)、山林47.87km²(35.3%)、原野15.63km²(11.5%)、雑種地15.82km²(11.7%)、陸上自衛隊富士学校や東富士演習場なども含めた公共用地41.89km²(30.9%)となっています。(出典：小山町の統計(令和2年度版))

山地部は主に山林として利用されており、スギ・ヒノキなどの植林地のほか、須走口登山道には、シラビソやコメツガなどの自生林も広がっています。

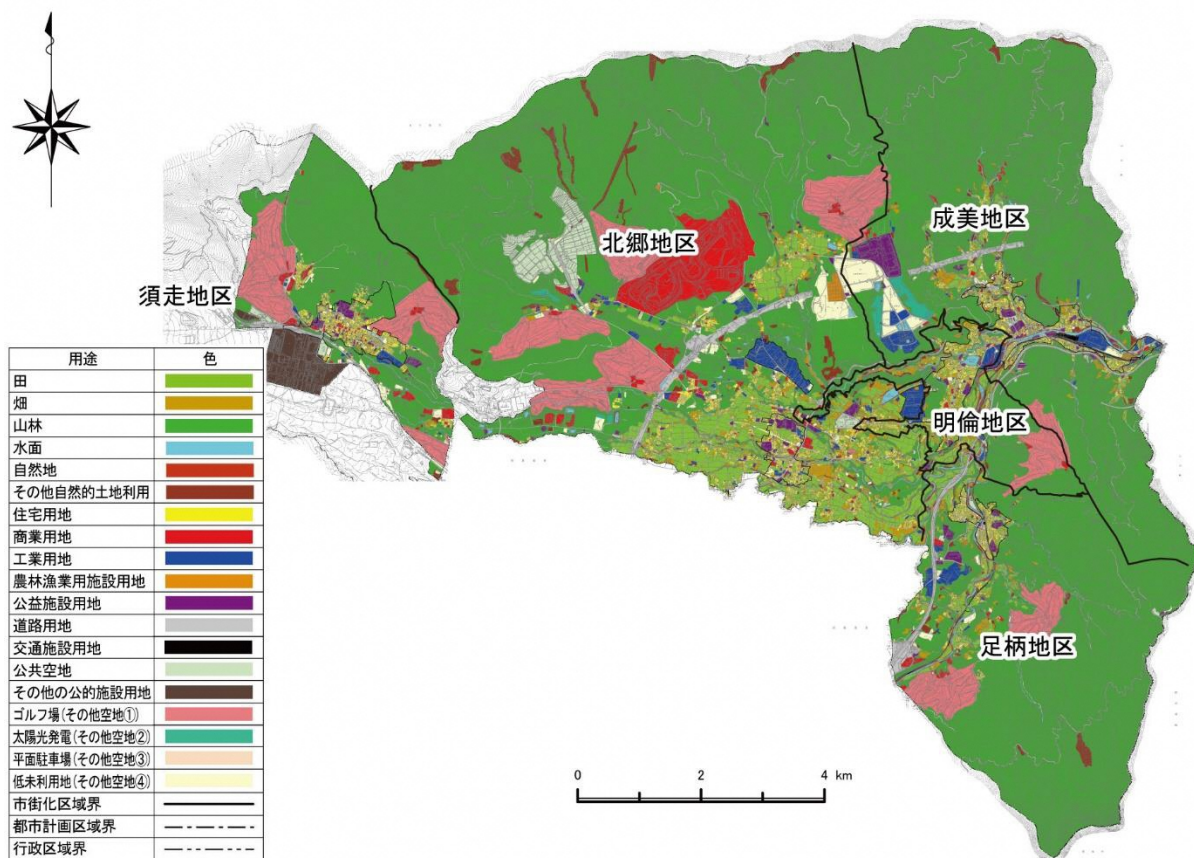


図1-23 土地利用現況図



5 交通機関

本町は、古くは北西部の籠坂（加古坂）峠で甲斐へ向かう道と、南東部の竹之下から足柄峠を越えて相模へ至る古東海道（足柄路）の通る交通の要衝地として栄えました。

現在町内には、2本の国道と9本の県道があります。昭和44年（1969）には東名高速道路が、昭和47年（1972）には裾野バイパス（現国道246号）、平成元年（1989）には東富士五湖道路が開通しました。平成31年（2019）3月には、東名高速道路、足柄サービスエリア（上下線）に接続する足柄スマートインターチェンジが開通しています。国道246号は、成美地区から明倫地区、北郷地区を通り、沼津市に至ります。国道138号は、須走地区を南北に縦断しながら、山梨県山中湖村に至ります。このように南北を延伸する国道と東西に延伸する県道と町道により、車両交通の利便性が良い町域といえます。JR足柄駅が起点となる県道足柄停車場富士公園線は足柄地区から北郷地区、須走地区を通過し、富士山須走口登山道として富士山頂に至ります。

また、令和9年度（2027）には新東名高速道路（秦野IC～御殿場IC間）の開通、（仮称）小山パーキングエリアと（仮称）小山スマートインターチェンジの開設が予定されています。これにより、高速道路及びその周辺道路の渋滞解消や救急医療活動での活用のほか、町内観光地や地域産業の集積する地区などへのアクセス向上による地域の活性化等の効果が期待されています。

本町における公共交通は、鉄道、高速バス、路線バス、コミュニティバスが主たるものとなっています。鉄道は、JR御殿場線が町東部を南北に縦断し「駿河小山駅」「足柄駅」の2駅が町内に存在します。高速バスは、東名高速道路沿いにある「東名小山」「東名足柄」と、「富士学校前」の計3か所のバス停があります。路線バスは、富士急モビリティ（株）によって御殿場市と町内を結ぶ路線を中心に形成されています。広域の移動手段としては、鉄道、高速バス、路線バスが担っており、町内の移動についてはコミュニティバスの定時運行バス、デマンドバスが担っています。



図1-24 JR足柄駅（設計：隈研吾建築都市設計事務所）

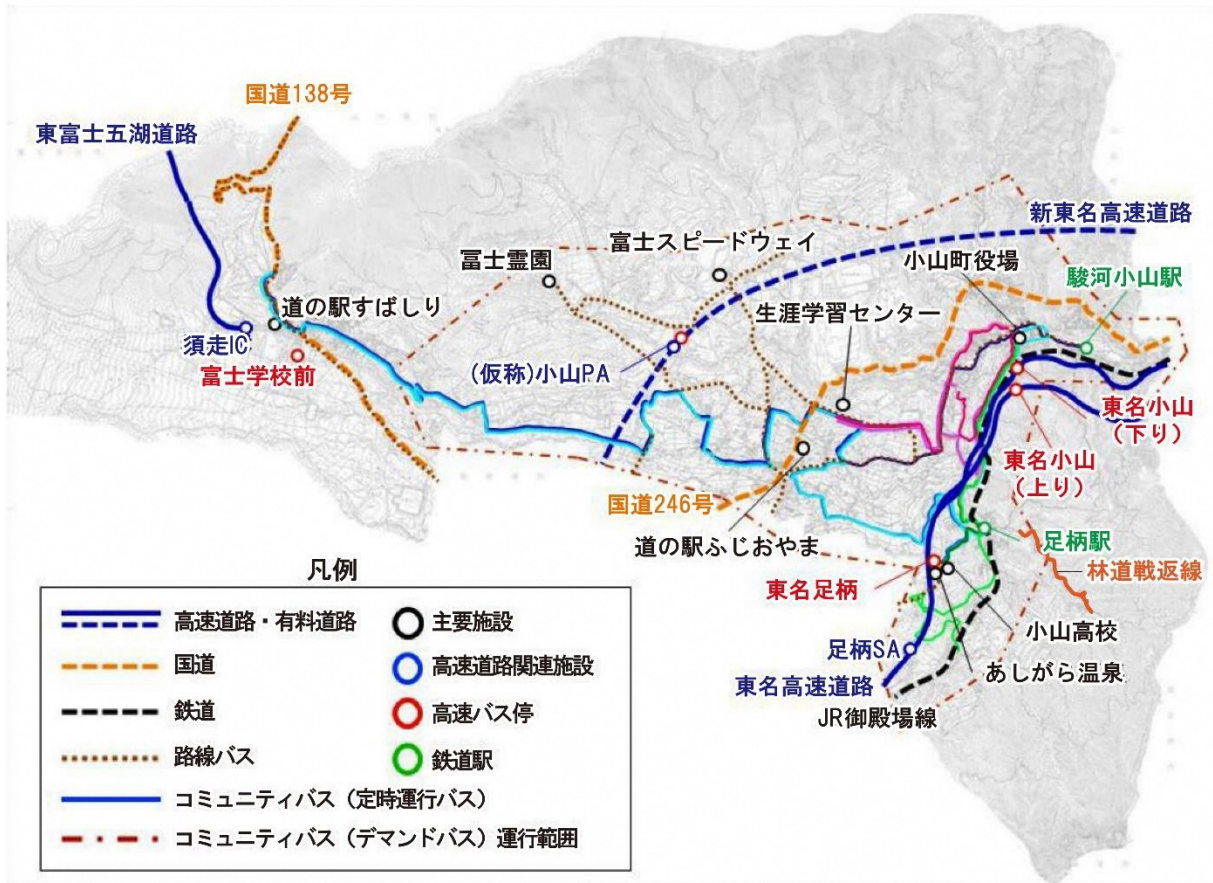


図1-25 交通機関の現状 (出典：^{おやまちょう}小山町地域公共交通計画に加筆)



図1-26 電化した御殿場線 (昭和43年)



図1-27 開通した東富士五湖道路 (平成元年)



6 観 光

本町は、世界文化遺産である富士山及び関連する歴史文化資源をはじめ、豊門会館、足柄城跡といった史跡のほか、金時公園、富士霊園、富士スピードウェイなどの大型観光施設、11のゴルフ場、2つの道の駅、温泉施設など、豊富な観光資源に恵まれています。本町ではこうした豊富な資源を活かし、町全体を映像制作のメッカにすることを目指す「スタジオタウン小山」構想（※）を推進しています。

さらに、東名高速道路足柄サービスエリアのスマートインターチェンジ開設や新東名高速道路の開通、（仮称）小山パーキングエリアと（仮称）小山スマートインターチェンジの開設など、高速交通基盤の整備による賑いの創出が期待されています。

本町における観光交流客数は、「道の駅ふじおやま」と「道の駅すばしり」のオープン、さらには外国人観光客の急激な伸び等の影響を受け、平成23年度（2011）からは400万人を超える水準を維持してきました。しかし、世界的な新型コロナウイルス感染拡大でオリンピック・パラリンピックが延期となり、町内観光行事はほぼ中止又は延期、インバウンドは来日自体が制限されるなど大きな影響を受け、令和2年度（2020）は359万人に減少しました。今後は、ウィズコロナ、アフターコロナ下における有効な観光施策を展開していきます。

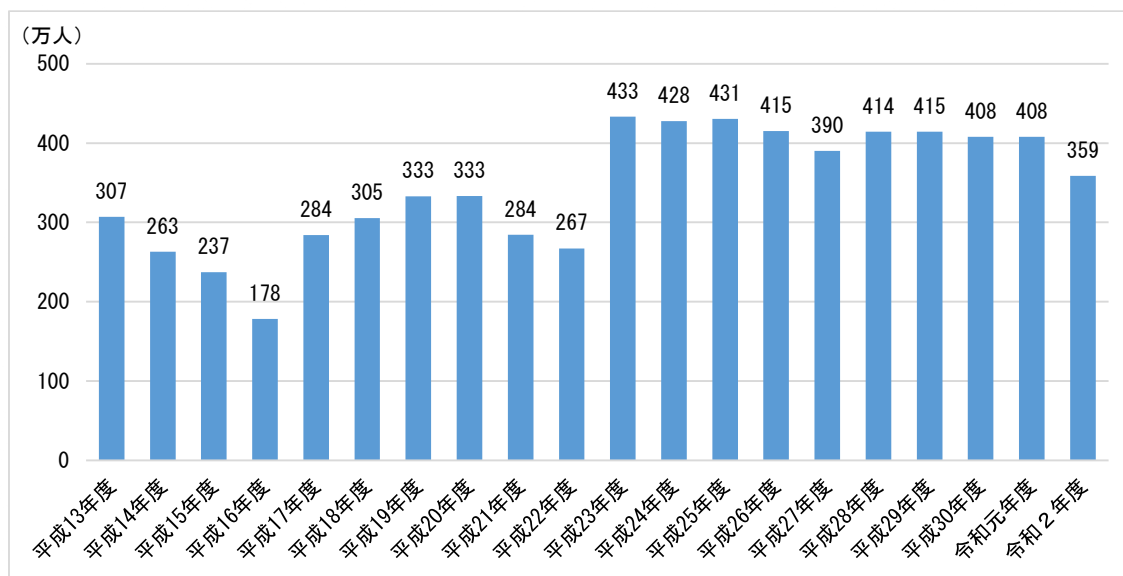


図1-28 小山町の観光交流客数の推移（静岡県観光政策課）

※「スタジオタウン小山」構想

本町では、長年にわたって展開してきたフィルムコミッション事業をさらに発展させ、映像制作のメッカとなることを目指しています。NPO法人小山フィルムコミッションを中心に、映画やドラマのロケーション支援を行い、映像を通じた人的交流を促進することにより、町の観光振興や地域の活性化、文化振興などに寄与することを目的としています。

第3節 歴史的背景

1 通史的概要

(1) 原始～古代

本町域で最も古く人の姿の痕跡が認められる資料は、柳島沼子池畔の丘陵台地に占地する沼子遺跡から出土した約7,000年前（縄文時代早期前半）の土器片です。

獣を狩り、魚を捕り、木の実を拾ったりして生活していた縄文時代（1万年前～2,300年前）の人々が使った土器や石器は、生土や柳島・湯船・竹之下・足柄峠・桑木・一色・吉久保・須走などから出土しています。注目すべきは足柄峠から縄文土器が出土していて、当時から人の往来が確認できることです。

稲作農耕が始まる弥生時代（2,300年前～1,800年前）になると、桑木・竹之下・須走などから土器など当時の生活道具が見つかっています。

今から約1,700～1,400年程前の古墳時代において、町内では、桑木に古墳があったと記す資料や、塚と名付けられた墳丘らしきものはいくつか見られますが、現在まで古墳として確認されているものはありません。ただし、この時代の遺物は、竹之下・桑木・上古城・須走などから出土しています。

7世紀に律令制が成立すると本町域を含む周辺地域は「東海道駿河国駿河郡横走郷」という行政区分となりました。国の下の行政単位として「郡」が置かれ、駿河国は最も東にある駿河郡の他に志太、安倍、富士などの郡によって構成されました。駿河郡は、沼津市、裾野市、御殿場市など現在の市部と本町や長泉町、清水町など現在の駿東郡の町を合わせた範囲とほぼ一致するとされています。

奈良時代（710～784）から平安時代（794～1185）にかけては、官道としての東海道は足柄峠を通過していたことから、峠を往来する人々が急激に増加し、記録や歌などの文学に頻りに町内の地名が登場するようになります。また、この地域には、足柄峠越えの拠点であり、東海道から甲斐への分岐点という機能をもった横走郷が存在し、横走駅や横走関があったと想定されています。

この「足柄」という地名については、現存する歴史書としては最古で、和銅5年（712）に完成した『古事記』に初めて現れます。そこでは、ヤマトタケルの行動として、「足柄の坂本に至った」ことが記されています。また、『常陸国風土記』には、足柄峠が東国との境界であったことが述べられています。

その足柄山の麓に位置する竹之下の上横山遺跡は、奈良時代から平安時代までの



図1-29 沼子遺跡出土の縄文時代早期の押型文土器

遺跡で、^{ふじわらきょう}藤原京や^{へいじょうきょう}平城京、^{むさし}東北地方や^{むさし}武蔵地方、^{ひがしみの}東美濃、^{とおとうみ}遠江、^{さがみ}相模、^{かい}甲斐などの土器が出土し、当時ここが交通の要衝であったことを示しています。

また、^{おやま}県立小山高等学校の敷地内にある^{よこやま}横山遺跡からは、^{こぶん}古墳時代から^{へいあん}平安時代にかけての大規模な集落や、大形の建物跡、大量の土器や金属器、古銭といった当地の豊かさをうかがわせる遺物や遺構が発見されています。

^{ふじ}富士登山については、『^{ひたちのくにふどき}常陸国風土記』に「^な人民登らず」とあり、^{なら}奈良時代には登山が行われていなかったことが伝えられています。^{へいあん}平安時代の初めには、^{えんのおづぬ}役小角のような^{しゅげんじゅ}修験者の活動が始まり、^{ふじさん}富士山が^{しゅげん}修験の霊山となっていたことが分かります。そして^{へいあん}平安時代後期になると^{まつだいしようにん}末代上人のような数百度に及び登山をした人物も現れてきました。

この時代の伝承として、「^{あしがらやま}足柄山の^{きんたろう}金太郎」がいます。「^{さかたのきんとき}坂田公時」、「^{さかたのきんとき}酒田金時」とも呼ばれ、「^{桃太郎}桃太郎」と並ぶ日本昔話の中の代表的な英雄の一人です。町内には、^{せいび}成美地区や^{あしがらちく}足柄地区を中心に数多くの^{きんたろう}金太郎の伝説地があります。^{きんたろう}金太郎伝説は、^{ふじわらのみちなが}藤原道長の隨身である「^{しもつけぬのきんとき}下毛野公時」の逸話が様々に発展した架空の物語です。しかし、町のシンボルとして、そして老若男女から慕われるキャラクターとして現在もその偉業と精神を伝えるべく祭り等が伝承されています。（^{きんたろう}金太郎の伝承については、第2章を参照）

(2) 中世～近世

^{へいあん}平安時代の後半から^{せんごく}戦国時代初期にかけて、町域は^{いせじんぐう}伊勢神宮の^{おおぬまあゆざわみくりや}大沼鮎沢御厨の一部だったとされ、中世から現在まで^{ほくすん}北駿地方を指す地名として「^{みくりや}御厨地方」が通称になっています。^{すそのし}裾野市北西部から^{ごてんばし}御殿場市・^{おやまちょう}小山町域を含むエリアと想定されています。

^{かまくら}鎌倉時代には、^{みなもとのよりとも}源頼朝が^{せい}征夷^{たいしょうぐん}大將軍となった翌年の^{けんきゅう}建久4年（1193）に「^{ふじ}富士の^{まきがり}巻狩」を行い、^{おやまちょう}小山町域もその舞台となりました。この狩りの場で起こった^{そがきょうだい}曾我兄弟の^{あだう}仇討ちを物語にした『^{そが}曾我物語』には、狩りの範囲について「^{あしがら}東は足柄の峰をさかひ、北は^{ふじのすその}富士野裾野をかぎり、西は^ふ富

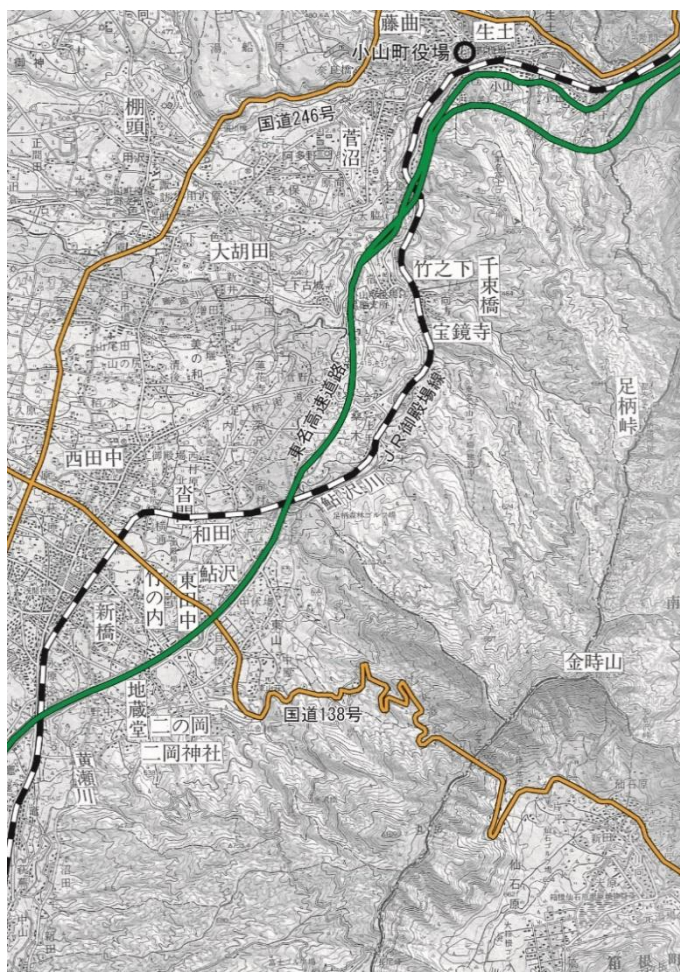


図1-30 ^{おおぬまあゆざわみくりや}大沼鮎沢御厨付近の地図

土川を際として」と書かれており、足柄山から富士川までの富士山の南側全域として
 いることが分かります。町内には現在も「頼朝伝説」として「頼朝の馬乗り石（馬蹄
 石）」や「頼朝の足洗い井戸」などが残っています。また、鎌倉を起点として放射状
 に延びる鎌倉街道があり、富士山の北麓を經由して、甲府盆地と御厨地方（静岡県東
 部）とを結ぶ古代以来の主要道で、鎌倉往還や鎌倉道とも呼ばれました。

承久3年（1221）の承久の乱では、北条義時追討の院宣を書き、全国に発し
 た藤原光親が籠坂峠で処刑されました。この地には墓碑が建てられ、毎年供養祭が
 営まれています。

南北朝期に入ると、足柄峠周辺は日本を二分した戦いとして知られる竹之下の合
 戦の舞台となり、これにまつわる伝承地が数多く存在しています。



竹之下の合戦

建武の新政時代の建武2年（1335）12月11日から、足利尊氏の
 呼びかけに応じた足利軍と、後醍醐天皇の宣旨を受けた新田義貞
 に参集した軍勢との間で行われた合戦で、竹之下周辺が合戦の舞
 台となりました。後醍醐天皇が建武政権に反旗を翻した足利尊氏
 を討つために新田義貞を派遣しましたが、失敗し建武政権崩壊へ
 とつながりました。

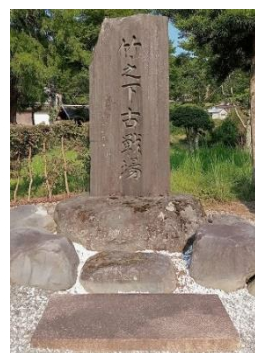


図1-31 竹之下合戦の石碑
 （獄之下宮）

室町時代には、御殿場市域や裾野市の一部などと共に小山町域も、大森氏一族の
 支配するところとなり、生土の乗光寺・小山の正福寺・中島の勝福寺などが大森氏創
 建の寺院と伝えられています。大森氏は現在の裾野市を発祥とする在地領主であり、
 東の箱根や北の足柄方面に勢力を伸ばし、応永期には箱根山と北駿一帯を支配下に
 置いていました。

明応4年（1495）、相模の西部にも勢力を拡大していた大森氏は北条早雲のため
 小田原城にて滅亡します。その後、駿東地方の支配者になった葛山氏は、戦国時代
 のほとんどを、今川・武田・北条という有力な戦国大名に挟まれながらも、したた
 かに生き抜いてゆきます。しかし、永禄12年（1569）頃を境に、今川方から武田
 方への転身を図った葛山氏が北駿地方から姿を消し、小山町域は武田と北条の接点
 として、支配をめぐる両者のつばぜり合いの場となります。天正18年（1590）、
 豊臣秀吉の小田原城攻めによる北条氏滅亡後、秀吉の臣である中村一氏が駿府城
 に入り、慶長5年（1600）まで当地方はその支配を受けます。

江戸時代の当町域の村は、阿多野・上野の両新田を除き、慶長6年（1601）よ
 り沼津城主大久保忠佐の支配下にありました。忠佐の死後、慶長18年（1613）よ



り幕府の直轄領となり、その後元和3～5年（1617～1619）は徳川頼宣の支配下にありました。頼宣の国替えにより再び幕府代官の支配下となり、その後寛永元年（1624）より徳川忠長の領国となりました、さらに寛永10年（1633）より小田原城主に加封された稲葉氏の領地に編入され、目まぐるしく支配者が代わります。

その後寛文12年（1672）、阿多野新田が開かれます。上野新田の成立についてはよくわかっていません。天和3年（1683）より柳島・吉久保・大胡田・新柴・桑木・下古城の6か村が稲葉紀伊守知行所となり、貞享3年（1686）より小田原藩主は大久保氏に代わり、元禄12年（1699）より町域では湯船・上野・上野新田・棚頭・菅沼・用沢・阿多野新田・大御神・一色・上古城・中日向・下小林他13か村が大久保長門守領となります。下古城・菅沼両村はこの時期に2村に分立しています。

宝永4年（1707）11月の富士山噴火の降砂の大被害により、翌5年町域の全村が幕府領となり、伊奈半左衛門忠順の支配となります。懸命な復旧作業により、寛保3年（1743）には小山・生土・中島・藤曲・下古城・所領・竹之下・須走・菅沼の9か村が小田原藩領に復しますが、他の19か村は幕府領として残り、宝暦13年（1763）より葦山代官所（江川太郎左衛門）に支配替えとなります。安永7年（1778）より、大胡田村は大河内知行所を、一色村は山岡知行所を分郷し、阿多野新田は幕府領を離れて山岡知行所となります。同9年より大御神・中日向・上野・下小林他5か村は島田代官所支配に転じています。

宝永5年（1708）から幕府領であった18か村は、天明3年（1783）より2～3年の間に15か村が小田原藩領に復し、柳島・吉久保の両村も荻野山中藩領となり、

表1-3 小山町域村々の領主支配の変遷

| 西暦 | 1590 | 1600 | 10 | 20 | 30 | 40 | 50 | 60 | 70 | 80 | 90 | 1700 | 10 | 20 | 30 | 40 | 50 | 60 | 70 | 80 | 90 | 1700 | 10 | 20 | 30 | 40 | 50 | 60 | 70 |
|-------|------|------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|
| 将軍 | | | 秀忠 | 家光 | 家綱 | 綱吉 | 吉宗 | 家重 | 家治 | 家齊 | 家慶 | 家茂 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 和暦 | 天正 | 文禄 | 慶長 | 元和 | 寛永 | 正徳 | 寛文 | 延宝 | 天和 | 貞享 | 元禄 | 宝永 | 正徳 | 享保 | 元文 | 延享 | 宝暦 | 明和 | 安永 | 天明 | 寛政 | 享和 | 文化 | 文政 | 天保 | 弘化 | 嘉永 | 安政 | 明治 |
| 村名 | 18 | 6 | 1935 | 1 | 10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小生島 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中島 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 柳湯藤 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 菅沼 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 所領 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 竹之下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 新柴 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 桑木 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 吉久保 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 阿多野新田 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上野新田 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中日向 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 棚頭 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 一色 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 用沢 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 下小林 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大胡田 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上古城 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 下古城 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 須走 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 古沢 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

大御神村はただ1村、引き続き幕府領として江戸時代後期を送ることになります。

平安時代から続く富士山の参詣については、江戸時代においても富士山は信仰の山として江戸の村々や関東の村々から多数の参詣者を集めていました。須走口でも、他の登山口と同様に参詣者の宿泊や世話をすることで須走村の経営を成り立たせていました。特に須走口の御師の旦那（顧客）は、相模、武蔵、下総、上総などの国々に及んでいました。

(3) 近現代

明治維新後、当地方の村々は小田原藩から静岡藩へ領分替えになります。明治4年（1871）7月の廃藩置県後、まもなく「静岡県」に配置され、静岡県の下で明治5年（1872）の戸籍編成、学制頒布、明治8年（1875）から明治15年（1882）にかけて地租改正事業がすすみました。この土地改革は広大な富士・足柄入会地の官民有区分や共有入会地の区域・権利関係の認知・協定など地元住民の生活を左右する重要問題でした。明治前期の地方制度は、明治5年の大区小区制から郡区町村制、連合戸長役場設置を経て町村制が施行されるまで目まぐるしく変わりました。

明治22年（1889）4月の町村制により、当地では六合村（小山・生土・中島・柳島・湯船・藤曲の各旧村）、菅沼村、足柄村（竹之下・所領・新柴・桑木の各旧村）、北郷村（大御神・上野・中日向・棚頭・用沢・一色・古沢・下小林・阿多野・吉久保・上古城・下古城・大胡田の各旧村）、須走村の5か村に統合されました。また同年、東海道本線が開通し、小山駅（大正元年（1912）から駿河駅、昭和27年（1952）から駿河小山駅）が開設されました。そして、鉄道幹線の開通で戦前期日本の基幹輸出産業であった蚕糸業の普及と拡大、日本の工業化を先導した富士紡の進出により、農作が中心であった村は新時代を迎えます。

富士紡が創業の地にした小山工場は明治31年（1898）、5万錘規模の運転を開始し、大正3年（1914）までに第1～第5工場が完成します。それと共に小山地区は発展し、大正元年8月1日、六合村と菅沼村が合併し小山町が発足しました。

大正12年（1923）9月1日の関東大震災は当地に大被害を与え、県内最大の被災地となりました。死者については、小山町が149人、北郷村が28人、足柄村6人を数え、特に富士紡では、123人が亡くなっています。

また昭和9年（1934）、東海道本線が熱海經由になり、これまでの幹線はローカルの御殿場線となります。

太平洋戦争末期の昭和20年（1945）5月頃

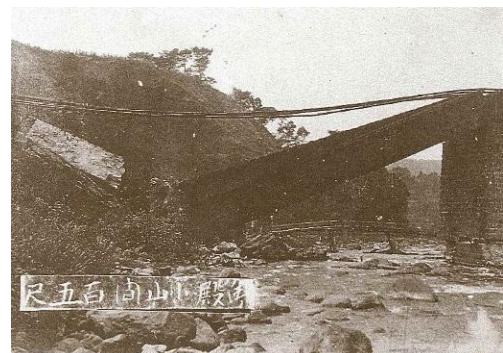


図1-32 関東大震災での落橋（花戸橋）



になると、小山町上空にもB29をはじめとする米軍爆撃機が度々飛来し、空襲警報が頻繁に鳴り響きました。7月30日にはついに空襲を受けました。富士紡第1～5工場に爆弾が投下されるとともに、周辺の市街地や学校等へも無差別な機銃掃射を浴びせられました。その結果、18人が亡くなっています。

昭和22年（1947）、新憲法下地方自治法に基づく地方自治が発足し、農地改革や六三制教育が実施されます。一時軍需工場になっていた富士紡も紡績工場として復活し、昭和29年（1954）、自衛隊富士学校が須走地区に設立されました。その頃、町村合併の促進により小山町は昭和30年（1955）足柄村、翌31年北郷村（翌年古沢区分離）、須走村を合併し、新小山町が誕生、現在の町域に拡大しました。

1960年代の高度成長期以降、農業の後退、重化学工業化の中で富士紡の地位変化、東名高速道路の開通（昭和44年（1969））によるゴルフ場や霊園の開発、富士スピードウェイの開場などが続き、小山町の姿は大きく変貌していきました。



小山町の産業

明治22年（1889）の東海道本線開通に伴い、小山駅が開設され、蚕糸業の普及拡大、富士紡績株式会社の進出など、本町の産業はそれまでの農作と山稼ぎから大きく変貌しました。その後、大正12年（1923）9月1日の関東大震災や昭和20年（1945）の空襲、度重なる台風の被害などを乗り越え、町域は発展していきます。



図1-33 東名高速道路開通

また、1960年代の高度成長期以降は、東名高速道路の開通（昭和44年）によるゴルフ場や霊園、富士スピードウェイの開場などが続き、近年では新東名高速道路の開通に合わせ、ふじのくにフロンティア（(旧) 内陸のフロンティアを拓く取組）による企業誘致等が進むなど、本町の姿は大きく変貌しています。

2 富士山噴火の歴史

富士山頂までを町域とする本町は、富士山噴火により、甚大な被害を受けてきました。ここでは、富士山噴火と小山町を舞台とした主な出来事について示します。

古文書に記録がある天応元年（781）以降、富士山（新富士火山）の噴火を含む火山活動は次のとおりです。

宝永4年（1707）の噴火に代表されるように町域は幾度となく破壊され、そのたびに再生してきました。

一方で、富士山は、火山活動への畏怖だけではなく、信仰を集めたり、豊富な湧水

が町の産業発展にも深く関わるなど、本町の暮らしは富士山への思いと富士山のもたらす自然の恵みとともにあるといえます。

表1-4 有史以降の富士山火山活動の一覧

| 年代 | 現象 | 活動経過・被害状況等 |
|--------------------|--------|--|
| ▲天応元年(781) | 噴火 | 8月。降灰。 |
| ▲延暦19～21年(800～802) | 噴火 | 800年4月15日噴火、降灰多量、スコリア降下、溶岩流。噴火場所は北東山腹。 801年も噴火し、降灰砂礫多量、足柄路は埋没、802年に箱根路が開かれた。(VEI3) |
| 826または天長3年(827) | 噴火? | 詳細不明。 |
| ▲貞観6～7年(864～66) | 大規模：噴火 | 864年6月に噴火、降砂礫多量。噴火場所は北西山腹。 長尾山付近から溶岩流出(青木ヶ原溶岩)、北西に流れたものは本栖湖に達し、また「せのうみ」を精進湖、西湖に二分、北東に流れたものは吉田付近に達する。この溶岩で人家埋没、湖の魚被害。噴火の最盛期は噴火開始約2ヶ月程度まで。マグマ噴出量は1.2 DRE km ³ 。 |
| 貞観12年(870) | 噴火? | 詳細不明。 |
| 貞観17年(875) | 噴気 | 詳細不明。 |
| ▲承平7年(937) | 噴火 | 噴火場所は北山腹。スコリア降下、溶岩流。 |
| 天曆6年(952) | 噴火? | 詳細不明。 |
| 正暦4年(993) | 噴火? | 詳細不明。 |
| ▲長保元年(999) | 噴火 | 3月26日。詳細不明。 |
| 寛仁元年(1017) | 噴火? | 詳細不明。 |
| 寛仁4年(1020) | 火映 | 秋。 |
| ▲長元5年(1033) | 噴火 | 1月19日。スコリア降下、溶岩流。噴火場所は北山腹。 |
| ▲永保3年(1083) | 噴火 | 4月17日。 |
| 応永33年(1427) | 噴火? | 詳細不明。 |
| ▲1435または永享7年(1436) | 噴火 | スコリア降下、溶岩流。噴火場所は北山腹。 |
| ▲永正8年(1511) | 噴火 | 8月。 |
| 元禄16年(1704) | 鳴動 | 2月4～7日。 |
| ▲宝永4年(1707) | 大規模噴火 | 12月16日噴火(宝永噴火)。軽石・スコリア降下。噴火場所は南東山腹(宝永火口)。 噴火1～2ヶ月前から山中のみで有感となる地震活動。十数日前から地震活動が活発化、前日には山麓でも有感となる地震増加(最大規模はM5級)。12月16日朝に南東山腹(現在の宝永山)で爆発し、黒煙、噴石、空振、降灰砂、雷。その日のうちに江戸にも多量の降灰。川崎で厚さ5cm。 噴火は月末まで断続的に起きたが、次第に弱まる。家屋・農地が埋まった村では餓死者多数。 初期はデイサイト、その後玄武岩のプリニー式噴火。江戸にも大量の降灰。噴火後洪水等の土砂災害が継続。マグマ噴出量は0.7 DRE km ³ 。(VEI5) |
| 宝永5年(1708) | 鳴動 | 10月28日。詳細不明。 |
| 宝永5～6年(1708～1709) | 火山活動? | 鳴動、降灰? 詳細不明。 |
| 文政8年(1825) | 噴気、鳴動 | 時折。 |
| 嘉永6～7年(1854～1855) | 噴火?熱? | 詳細不明。 |

| 年代 | 現象 | 活動経過・被害状況等 |
|--------------------------|------|--|
| 明治28年(1895) | 噴気? | 山頂火口縁東部の噴気活動活発化? |
| 明治30年(1897) | 噴気 | 山頂で噴気活動。温度は82℃。 ※この頃以降荒巻には噴気があったとの記録多数あり。 |
| 大正3年(1914) | 噴気? | 山頂火口縁南東部に新たな亀裂と噴気? |
| 大正12年(1923) | 噴気? | 山頂火口縁北東部と北西火口縁(山頂火口壁)に新たな噴気? ※昭和11年(1936)頃から次第に活動は低下。1957年の調査では、噴気温度は約50℃。その後1960年代まで続いたが、1982年の気象庁の観測では噴気は見られなかった。なお、山頂以外では、1957年に宝永火口、須走登山道3、7合目で地熱があったとの報告もあるが詳細は不明。 |
| 大正15年(1926) | 地震 | 8月13日。震央は富士山南東麓。 |
| 昭和62年(1987) | 地震 | 8月20～27日。山頂で有感地震4回(最大震度3)。 |
| 平成12年(2000)及び平成13年(2001) | 地震 | 2000年10～12月。2001年4～5月。深部低周波地震の多発。 |
| 平成20～22年(2008～2010) | 地殻変動 | 8月～10年初め。GPS連続観測から地下深部の膨張を示すと考えられる伸びの変化が観測されたがその後終息。 |
| 平成23年(2011) | 地震 | 3月15日22:31 静岡県東部(富士山南部付近)でM6.4。震源から山頂直下付近にかけて地震が増加。その後地震活動は低下。 |
| 平成24年(2012) | 噴気? | 2月、北西麓の3合目付近(標高1760m)でごく弱い湯気。4月以降は認められなくなった。 |

気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/314_Fujisan/314_history.html)

▲は噴火年を示す。

3 人々の往来

足柄峠を代表とする交通の要衝のあった本町は、他地域との交流の痕跡が古くから残されています。特に柳島の沼子遺跡からは、縄文時代中期中葉の勝坂式土器や後葉の曾利Ⅲ式、加曾利EⅢ式の土器などが出土していることから、現在の長野県や山梨県などの中部高地や関東地方との交流の痕跡が確認できます。

また、奈良時代から平安時代になると、官道である東海道が足柄峠を通ることとなったため、足柄峠を往来する人々が急激に増加し、東海道から甲斐への分岐点である横走郷には駅や関も設けられました。

鎌倉時代には、鎌倉往還が足柄峠を越えて竹之下村に入り、甲斐へ通じる主要道として多くの人々の往来がありました。

そして、文学作品からも人々の往来を見て取れます。『古事記』には、ヤマトタケルが足柄峠を越えて甲斐に向かった記述があります。『万葉集』には、当時の足柄峠が防人にとって行き倒れも発生する難所であり、故郷に別れを告げる場所であることが詠まれています。『更級日記』にも菅原孝標の娘が足柄山の紅葉の思い出などの歌が記述されています。

4 地区別の歴史

ここでは、先述した町内5地区の歴史概要について個別に示します。

(1) 成美地区

◆成美地区の成り立ち

成美地区は大正元年（1912）の合併前の旧六合村の範囲にあたります。六合村の名は、合併前の小山村、生土村、中島村、柳島村、湯船村、藤曲村の6村が合併したことに由来しています。六合村として合併する前の明治5年、合併前の6か村は各村内の社寺に仮教場を設け教育を行っていましたが、6か村の協議の上、中央にあたる藤曲浅間神社境内に「成美舎」を建設しました。これが現在の成美小学校の前身にあたります。

また、伝説として、中島には、本町のシンボルである「金太郎」の生家があったといわれています。その場所は現在「金時神社」として地域の方々により護られています。また、金時神社の拝殿の横には、金太郎の産湯を汲んだと伝わる「産湯の七滝」（ちよろり七滝）があります。隣の柳島には金太郎が泳いだ池と伝わる「沼子池」、湯船には金太郎の母が安産と子の健康を祈ったと伝わる「子産明神」が残されています。



図1-34 沼子池

◆原始～古代 「成美地区のはじまり」

成美地区の生土や湯船・柳島では縄文時代の土器や石器が多数出土しており、早くから人が住んでいたことが分かります。

当時の人々は日当たりがよく、森が近く、水が確保できる土地を求めて生土（音瀨含む）や湯船・柳島に集まってきたと考えられます。

なお、成美地区には弥生時代の遺跡は発見されていません。

◆中世～近世 「有力者による支配と所領の変遷」

中世において北駿地方を支配した大森・葛山一族は、系図によれば平安時代から地元各地区の有力者たちと婚姻関係を結びながら支配地を広げていきました。

室町時代になると、大森一族の支配するところとなりました。

生土の乗光寺、小山の正福寺、中島の勝福寺などが大森氏によって建てられました。

各地区にそれなりの人数が住んでいたと考えられます。

その後、大森氏は北条早雲のために滅亡し、成美地区は葛山氏の支配となります。



葛山氏の後は武田氏と今川氏・北条氏の接点の場所として、支配をめぐる三者の争いに度々巻き込まれました。

江戸時代になると、幕府領、小田原藩領と目まぐるしく替わるようになりました。宝永4年（1707）の富士山噴火の折には、降砂の大被害により全村幕府領となり、伊奈半左衛門忠順が復興の指揮を執りました。

◆近現代 「六合村の成立と小山町の誕生」

明治維新後、御厨地方の村々は小田原藩から静岡藩へ領分替えになりました。その後、土地改革が多々ありましたが、明治22年（1889）4月の町村制で、小山村、生土村、中島村、柳島村、湯船村、藤曲村の六つの村を合わせて六合村としました。

また、同年に東海道本線（現御殿場線）が開通し、富士紡が進出してきました。明治31年（1898）、富士紡小山工場が操業を開始しました。それと共に六合村には多くの家が建ち、人口が急増しました。

大正元年（1912）8月1日、富士紡の意向により六合村と菅沼村は合併し、小山町となりました。

◆成美地区と富士紡

明治時代の半ば過ぎまで、六合村と呼ばれた成美地区は田畑が広がるのどかな田園地帯でした。

富士紡の操業が始まると、六合村と菅沼村の人口が増え、商店が立ち並び、大変にぎやかになりました。両村合わせて2,200戸余り、人口約16,000人にもなりました。この頃に、工場に通いやすい音漕、落合、川前、生土などに社宅や寮が建てられました。

戦時中は一時軍需工場になっていた富士紡も、戦後は紡績工場として復活しました。富士紡は社員の健康や娯楽、福利厚生の一環として、診療所や映画館も造りました。そして、社員だけでなく、一般の人にも開放しました。当時の成美地区の生活や文化の程度を引き上げてきました。

また、駿河小山駅前通り、音漕通り、落合通りなど、たくさんの商店街ができ、成美地区はどこへ行っても人であふれ、活気のあるところでした。成美小学校は、富士紡ができてから昭和40年（1965）くらいまでの間、児童数が1,000人を超えており、一番多い時には1,800人以上も在籍していました。

日本の工業が軽工業から重工業へシフトし、



図1-35 音漕通り（昭和8年）

1990年代になると富士^{ふじぼう}紡の勢いに陰りが見られるようになりました。それにつれて、成美^{せいびちく}地区の賑わいも減少してきました。

このように成美^{せいびちく}地区は、富士^{ふじぼう}紡の盛衰と大きく関わってきた歴史があります。

(2) 明倫^{めいりんちく}地区

◆ 明倫^{めいりんちく}地区の成り立ち

明倫^{めいりんちく}地区は、合併前の旧菅沼^{すがぬまむら}村、旧所領^{しりょうむら}村の範囲にあたります。地区名及び範囲は現在の明倫^{めいりん}小学校に由来するものですが、明倫^{めいりん}小学校の沿革は明治14年(1881)の菅沼^{すがぬま}小学校、さらにその前身となる菅沼^{すがぬまむら}村^{すうこうかん}崇広館に遡ります。ここでは、旧小山町^{おやまちょう}の前身となった菅沼^{すがぬまむら}村を中心に概要を説明します。

文政3年(1820)に桑原藤泰^{くわばらとうたい}が駿河^{するがのくに}国の名所や旧跡について記した地誌『駿河^{するがき}記』によれば、「昔、広い沼があって、菅が繁っていたのでその名がついた」と書かれています。その広い沼のうち、今の小字の「菅沼^{すがぬま}」あたりがまず開発され、そこに開発領主である「土豪^{どこう}」が住んで、次第に周りを開発しました。その土豪^{めいりん}が明倫^{めいりん}小学校近くの「岩田^{いわた}館^{やかた}」を住まいにしていたと考えられています。その館にはいくつもの頼朝^{よりとも}伝説があり、昔、頼朝^{よりとも}が富士^{ふじ}の巻狩^{まきがり}をした折、ここに立ち寄り、家来の岩田^{いわた}兵部^{ひょうぶ}に具足^{よりとも}と田を与えた、と伝えられています。今も宅地内には「頼朝^{よりとも}の馬乗り石^{まのりいし}」や「頼朝^{よりとも}の足洗い井戸^{あしあらいいど}」の言い伝えが残されています。

◆ 原始～古代

明倫^{めいりんちく}地区では、原始～古代の遺跡は見つかっていません。前述したようにかつて広い沼があったとされるこの地域は須川^{すがわ}と鮎沢^{あゆさわ}川の合流地点でもあり、かつては集落の形成が難しい場所であったか、あるいは河川氾濫等によりその痕跡が残っていないものと考えられます。

◆ 中世～近世

鎌倉^{かまくら}幕府^{ばくふ}が滅びた後、建武2年(1335)には足利^{あしかが}尊氏^{たかうじ}対新田^{にった}義貞^{よしさだ}と朝廷^{ていてい}方の戦いである「竹之下^{たけのした}合戦^{がっせん}」の戦場となり、その時の様々な伝説が今も伝わり、所領^{しりょう}の白旗^{しろはた}神社^{しんじ}には戦死したと伝えられる二条^{にじょう}為冬^{ためふゆ}などその家臣75名がまつられています。

室町^{むろまち}時代の1400年頃から明倫^{めいりんちく}地区は田畑が広がり、町内でも早くから村が成り立っていました。

江戸^{えど}時代になると、西山^{にしやま}用水^{ようすい}、下原^{しもはら}用水^{ようすい}、花戸^{はなと}用水^{ようすい}、阿多野^{あだの}用水^{ようすい}(北郷^{きたごう}地区)などが引かれ、村々には豊かな



図1-36 湯山^{ゆやま}文右衛門^{ぶんえもん}筆子^{ひでこ}塚



実りをもたらしました。当時このあたりを支配していたのは、小田原藩おだわらでした。農民は年貢ねんぐとして米の他に、漆うるし・ワラビ・スギネ・ヤマイモ・ススキ・コウゾ・薪まきなど山からの採取物も納めていました。また、炭焼きは大切な稼ぎでした。

江戸時代後半になると、菅沼村すがぬまむらは子弟の教育に力を入れ、村を豊かにするよう努めてきました。現在、使い古された筆を納め、師を顕彰する筆子塚が地区内に10基残されています。

◆近現代

富士・箱根はこねの山系からの豊かな水は、この地方の大きな財産です。明治22年（1889）、小山の地に東海道本線（現JR御殿場線）ごてんばせんが開通して間もなく、ここを通った富田鐵之助氏とみだてつのすけし（当時の東京府知事）は、豊かな水に着目しました。

一年を通して豊かな水があることを確かめ、明治28年（1895）6月、ここに紡績ぼうせきの工場をつくることになりました。当時の菅沼村すがぬまむらと六合村ろくごうむらの人口は約2,400人ほどでしたが、紡績会社創業のため、仙台方面から1,000人余の人が募集に応じ、明治31年（1898）9月に富士紡ふじぼうが操業を開始しました。

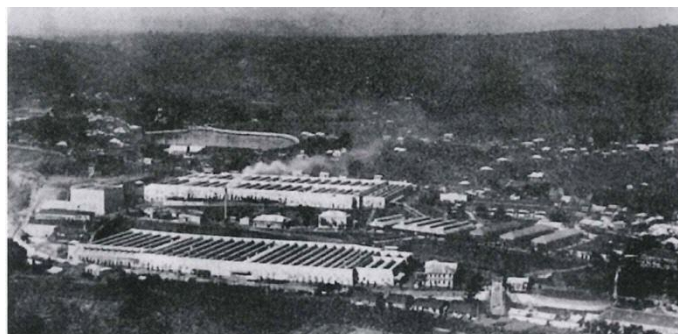


図1-37 富士紡 第一・第二工場全景
（昭和2年当時）

その後、富士紡の意向により、大正元年（1912）8月1日、富士紡第一工場・第二工場のあった菅沼村すがぬまむらと第三・第四工場のあった六合村ろくごうむらは合併し小山町おやまちょうとなり、現在に至ります。

(3) 足柄地区

◆足柄地区の成り立ち

足柄地区は明治22年（1889）に旧竹之下村たけのしたむら、旧所領村しりょうむら、旧新柴村あらしばむら、旧桑木村くわぎむらの合併により発足した旧足柄村あしがらむらを前身としています。主な集落は鮎沢川流域あゆさわがわに形成され、東側は箱根外輪山の金時山きんときさんを有し、東の足柄峠あしがらとうげは東海道本線（現JR御殿場線）ごてんばせんの開通までは神奈川かながわ県足柄地方あしがらへの主要な道でした。

◆原始～古代

今から3,000年前の縄文時代じょうもん、人々は自然に恵まれた山地の台地に住み、狩猟・採集の生活をしていました。新柴あらしばや竹之下たけのしたの遺跡からは、縄文土器じょうもんが発見されています。

弥生時代になると、水稻の栽培を行うようになり、低湿地の周辺に集落ができるのですが、足柄地区では台地の上の平坦地を利用して陸稲、ひえ、あわなどを作り、その周辺を住まいとしていました。竹之下や桑木の遺跡からは、弥生土器が発見されています。

奈良・平安時代には集落がつくられ、横山遺跡・上横山遺跡・南ノ原遺跡など多くの奈良時代の遺跡が確認されています。



図1-38 発掘された横山遺跡
(現在は県立小山高等学校敷地)

◆中世～近世

鎌倉時代初期に竹之下は宿や駅のある集落として開発されました。甲斐・信濃と伊豆・相模を結ぶ街道筋にあたりますので、交通の要地となりました。また、荷物の中継地や、情報交換の重要な場所としても栄えました。

また、町のシンボルとして親しまれている「金太郎」にまつわる伝説地もこの足柄地区には数多く伝えられています。山の名称にもなっている「金時山」は『駿河記』には、「金時山」として記されています。(金時(公時)山は文政2年(1819)が初出)この金時山の山頂には、「猪鼻神社」があり、金時が大イノシシの鼻を切って弔ったなど、いくつかの伝説が伝えられています。

その後、足利尊氏軍と新田義貞軍が激しく戦った「竹之下合戦」においては、足柄地区は戦場となり、足利幕府の始まりの活路を拓いた場所ともなりました。

そして戦国時代には、駿河・甲斐・相模の国境に位置していることから、今川、武田、北条の三強大名の勢力の接点となって戦乱の影響を大きく受けました。この国境の三角地帯に一時的な緊張緩和の空気が流れたのは、この三強の間に「三国同盟」が成立した戦国時代半ばの10年余りにすぎません。永禄11年(1568)に三国同盟が破れ、今川氏真が没落し、北条と武田が御厨地域の争奪を開始した翌年、足柄城が



図1-39 足柄城跡二の曲輪
から検出された障子堀

初めて文献に登場します。そして北条と武田は町のすぐ南にある深沢城の攻防戦を元龜2年(1571)にかけて行いました。これは、御厨地域の中でも特に竹之下地域の争奪を目的とした戦いであり、結局、深沢城は武田の手に落ち、御厨地域の軍事的、政治的拠点となりました。そのため、これに対抗する北条の前線基地としての足柄城の重要性が一段と高まりました。足柄城は国境を守り、本拠地小田原城を



防衛する北西の最重要拠点として一層拡張、整備されていきました。

江戸時代には、竹之下宿は上り下りの旅人や富士登山の人々の宿として賑わい、栄えました。

◆近現代

明治になると、当地は静岡県しずおかけんの管轄になりました。

東海道線とうかいどうせん（現JR御殿場線ごてんばせん）が開通し、足柄街道あしがらを行き来する人たちが非常に少なくなり、宿駅として成り立たなくなりました。足柄村あしがらむらの多くの人は大変困り、養蚕を始めたり、スギ・ヒノキなどの植林をして林業を営んだりしました。また、足柄村あしがらむらの人々は、隣町の小山町おやまちょうで操業が始まった富士紡ふじぼうに勤めるようになりました。

昭和30年（1955）には、町村合併の促進により小山町おやまちょうと合併し、現在に至っています。現在は、興雲寺こううんじや宝鏡寺ほうきょうじ、足柄聖天堂あしがらしょうてんどうなど足柄地区あしがらちくの多くの神社やお寺で定期的にお祭りが地区民の手により開催され、そのお祭りを未来へつないでいます。



足柄峠あしがらとうげ

海拔759mにある足柄峠あしがらとうげは、古くから足柄坂あしがらとして知られ、東国と西国を結ぶ重要な路として賑わったところです。足柄峠あしがらとうげや籠坂峠かごさかとうげは多くの人たちが行き来し、新たに鎌倉時代において宿駅が設置された竹之下たけのしたには將軍源頼朝みなもとのよりとも、そして日蓮にちれんなどが宿泊した記録が残ります。

現在、峠には足柄聖天堂あしがらしょうてんどうや、新羅三郎義光吹笙しんらさぶろうよしみつすいしょうの石、足柄あしがらの関跡の伝承地、足柄城跡あしがらじょうあとなどがあり、風光明媚な名所として、四季を通して多くの観光客が訪れます。



足柄の地名の由来あしがら

足柄あしがらの地名は、一説には、「足軽」に由来するといわれています。『新編相模国風土記稿さがみのくにふどき』には、「足軽山は、此山の杉の木をとりて船に造るに、脚の軽き事他の材にて作れる船にことなり。よりてあしからの山と付たりと云々」（足軽山の杉の木をとって船を作ると、船足がたいへん軽く速くなり、他の木で作った船と異なっている）」とあります。

『万葉集まんようしゅう』にも足軽山あしがらやまの木の船は船足が軽いという歌が載っていますので、「船の足が軽い」という意味でこの「ア・シ・カ・リ」の名が起こり、山の名、また、山のふもとのこの地を足軽にしたという説があります。そして、「ア・シ・カ・リ」は「ア・シ・ガ・ラ」に変化して「足柄あしがら」の字が使われるようになったという説もあります。この呼び方は、神奈川県あしがらかみぐんの足柄上郡あしがらしもぐん、足柄下郡あしがらしもぐん、南足柄市みなみあしがらしなどに使用されています。

一方、本町の「足柄あしがら」は足柄山あしがらやまの麓ということで明治時代から使われるようになったもので、近世までは「竹之下たけのした」、「新柴あらしば」、「桑木くわぎ」などの地名が用いられてきました。

(4) 北郷地区

◆北郷地区の成り立ち

北郷は駿河の国の北端（北筋）にある郷のことで、北筋13か村（下古城・大胡田・古沢・下小林・上古城・一色・用沢・棚頭・中日向・上野・阿多野新田・大御神・吉久保）を統合したのが北郷村です。御厨地方（小山町から御殿場市、裾野市北部）の中郷（高根地区）の北側に位置し、かつて周辺には、東郷（明倫・足柄地区）、西郷（原里地区）、南郷（御殿場地区）という呼び方もありました。

◆原始～古代

「上野奥の沢遺跡」、「一色遺跡」、「吉久保遺跡」等の遺跡から、縄文時代の土器片が見つかっています。

◆中世～近世

戦国時代には、北条・武田・今川の勢力争いの場となりました。「用沢堀之内」、「城之腰」、「上古城」、「下古城」等、城館に関わる名残が、地名に残されています。

また、宝永4年（1707）11月23日、富士山の中腹で噴火が起きました。宝永の大噴火です。たちまちふもとの家や木々まで焼き、石と砂が村全域を覆いつくしました。北郷村では、火山礫

（スコリア）が約1.5mも積もり、すべてが埋めつくされました。農民たちは田畑が埋まり、この先何年も作物ができないという絶望的な状態に追い込まれましたが、スコリアを取り除ける作業を続け、見事復興することができました。

江戸時代は、小田原藩に組み入れられ、宝永噴火（宝永4年（1707））後、幕府領となり、幕府代官伊奈半左衛門忠順・忠達のもとで救済と復興が図られました。

宝永噴火と前後して、元禄16年（1703）の大震災により阿多野用水が崩落し、水田に水が入らなくなったことで、新田村落として軌道に乗っていた阿多野新田は大打撃を受けました。阿多野用水の復旧が急務となり、トンネル方式の高さ6



図1-40 宝永噴火口



図1-41 吉久保村絵図
(宝永5年(1708))



尺（約1.8m）、幅5尺（約1.5m）、長さ631間（約1,136m）の大工事を宝永2年（1705）から行うこととなりました。

この工事は昼夜を問わず続けられ、無事宝永4年（1707）10月に完成します。工事がようやく終わり喜びも束の間、不幸にもわずか1か月後の11月23日、宝永噴火に見舞われました。田畑は1m以上の火山灰に覆われるとともに、完成した阿多野用水も埋もれ、享保元年（1716）の段階でもまだ復旧の状況は6割程でした。以後、阿多野新田の復旧は長く続くこととなります。復旧を果たした阿多野用水は、現在も北郷地区から明倫地区の田に水を送り続けており、阿多野の「水掛菜」もこのめぐみを受けて毎年冬季に栽培がなされています。

◆近現代

明治22年（1889）、用沢、棚頭、中日向、阿多野新田、大御神、下古城、吉久保、下小林、上古城、大胡田、上野、一色、古沢の13か村が合併し北郷村となりました。

その後の町村合併において、小山、御殿場とのつながりは同じ程度でしたが、富士紡をはじめとする工業が盛んで財政が豊かな小山町と昭和31年（1956）に合併しました。一方、北郷村の一部であった古沢地区は、御殿場市へ編入されました。

(5) 須走地区

◆須走地区の成り立ち

須走の地名は戦国期から見られ、「洲走」とも書きます。『駿河記』によると、須走の語意は「直走（すくはしり）」の訓略と説明されています。これは富士山を横に見ながら麓を横に走っていくことを横走り、これに対して富士山に対してまっすぐ走ることを「直走り（すぐはしり・すばしり）」といい、今の須走の語源になったといわれています。また、富士山の火山灰であるスコリアに覆われていることから、「砂走り」から「すばしり」に転じたともいわれています。

◆原始～古代

須走地区で人々の生活の痕跡がはじめて確認されるのは、縄文時代で、人々が使った土器や石器が出土しています。また、稲作農耕が始まる弥生時代になると、土器など当時の生活道具が見つっています。特に西沢遺跡からは、「手焙形土器」という県内での発見が稀有な土器が出土しています。

古墳時代に入っても生活の痕跡がみられますが、現時点で古墳として確認されているものはありません。



図1-42 手焙形土器
(所蔵：御殿場市)

◆中世～近世

室町時代には、富士山須走口登山道や登山者、宿泊施設などが、すでに存在していました。また、須走地区は駿河や相模と甲州を結ぶ、甲州街道の宿場町（中継地）として発達しました。さらに、中世末には富士信仰が盛んとなり、当時は御師の家が建ち並び、道者の登山にも重要な役割を果たしました。永禄6年（1563）と翌年の葛山氏元印判状等からは、当時関所が設けられ、通行税や入山税を徴収していたことがわかります。

◆宝永の噴火

江戸時代に入ると、宝永4年（1707）11月の富士山噴火の降砂の大被害により、当時の須走は壊滅状態となり、翌年には全域が幕府領の伊奈半左衛門忠順の管轄となりました。

町に残る複数の古文書によると、宝永の噴火で2～4mほどの火山灰が積もり、当時の家屋75棟のうち、37棟が焼失、残りの38棟は火山灰により埋没したとされ、その後火山灰の上に現在の須走地区の原型となる町が作られたとされています。

近年まで現在の町の下に当時の集落が埋もれていることは分かっていましたが、令和元年（2019）、令和4年（2022）に実施された発掘調査により、噴火に伴う火災により焼けたと思われる家屋の柱の跡、かやぶき屋根の一部とみられる炭化物、家屋の礎石か階段だった可能性がある石列、畑の畝などが発見されました。

遺物として、17世紀末の瀬戸美濃焼の播鉢、鉄製の鍋や片口、青銅製の急須などが出土しました。

宝永噴火後は幕府の援助によりいち早く復旧したことから、富士講の登山者が多く訪れ、賑わいを見せていたことが古文書の記録で分かっています。その後、明治時代に入ると養蚕業や寒天産業が盛んになりました。



図1-43 発掘された集落跡からの遺物

◆近現代

明治22年（1889）4月の町村制により、六合村、菅沼村、足柄村、北郷村、須走村の5か村に統合されました。戦後の昭和20年（1945）9月、米軍第25歩兵団が富士岡村駒門（御殿場市）に進駐したことにより、須走の一部が滝ヶ原演習場の区域であったため、須走村は米軍進駐と直接関わることとなりました。

その後、昭和31年（1956）9月30日に小山町が須走村を編入し、現在に至ります。



5 継承の活動

町域では、歴史文化資源の継承に向けた取組が行われています。ここでは、代表的な取組をいくつかまとめます。

◆たけのしただいこ竹之下太鼓保存会

はせがわかくぎょう長谷川角行が伝えたといわれているたけのしただいこ竹之下太鼓は江戸時代中期から伝わる民俗芸能で、かつてはたけのしたじんじや嶽之下神社の例祭においてだし山車の巡行の折、山車の1階でたけのしただいこ竹之下太鼓をたたき、2階で踊りを踊っていました。太鼓の曲目は巡行の前に神社の境内でたたくみやしやうてん宮昇殿、魂入れ、そして一クズシ、荷クズシ、新サンクズシ、五クズシ、七クズシがあり、巡行が終わるときにキリトウという太鼓を打ちます。昭和4年（1929）までだし山車による巡行が行われていました。

昭和4年（1929）以降、40年余り演奏されていませんでしたが、昭和40年代に有志により結成された「たけのしただいこ竹之下太鼓保存会」が中心となり継承の取組が進められました。現在でも小学生らが太鼓の練習に励み、例祭や町内のイベントでその成果を披露しています。

平成8年（1996）には、「太鼓の継承」で「博報堂賞」を受賞しています。

◆ようさわかくら用沢神楽保存会

ようさわかくら用沢神楽の復活・継承は昭和50年代からはじまり、平成8年（1996）に「ようさわかくら用沢神楽保存会」が正式に発足しました。地域の子供会と協力し、地元小学校の5、6年生が笛と太鼓の練習を行っています。



図1-44 ようさわかくら用沢神楽保存会の練習風景

6 ゆかりの人物（没年順）

◆日本武尊（倭建命）

第12代景行天皇の皇子でオウスノミコトとも呼ばれた、大和朝廷の国土統一期に献身した英雄です。『古事記』や『日本書紀』の記述に登場する人物ですが、その実在性は不確かです。その記述によれば、天皇の命を受けて西征に発ち、奇計をもって九州の熊襲を討ち、次いで「東の方十二道」の征討に赴き、その途次、伊勢でヤマトヒメノミコトから天叢雲剣（のち草薙剣と称す）を賜り、東国では幾多の難に遭いながらも平定に成功しました。しかしその帰途、伊勢で亡くなりました。『古事記』によると、日本武尊は、小山町足柄峠の頂に立ち「吾妻はや」と三度嘆いたとあり、そこから峠以東を「吾妻」と呼ぶようになったと伝えられています。

（参考 静岡新聞社「静岡県歴史人物事典」）

◆清少納言

康保3年（966）頃～万寿2年（1025）頃。父は歌人清原元輔。清原氏には和歌や漢学に精通した者も多く、恵まれた環境下に育ちました。正暦4年（993）頃から一条天皇の中宮定子のもとに出仕し、約10年間の女房生活を送りました。多数の才媛に交じって才能を発揮し、快適な日々を過ごしましたが、中宮が死去した後、まもなく宮仕えを辞し、その後の清少納言の動静は明らかでなく諸説あります。日本三大随筆の一つともいわれる『枕草子』は、この頃成立したものとされます。「関は」の段には、「横走の関」が登場します。晩年は月輪（京都市東山区月輪町）に隠棲したとされています。

◆坂田金時（武将）

幼名金太郎で有名ですが、『今昔物語集』や『古今著聞集』、『御伽草子』などで説話として取り上げられ、酒吞童子退治の物語が成立しました。平安時代中期の武将源頼光の四天王に「公時」という姓のない人物が登場し（今昔物語集）、大江山の酒吞童子退治の説話（御伽草子）が成立します。その公時の生誕地が小山町であるという伝説が伝わっています。

本町の坂田という地名や、金時が育ったという金時山、その他、金時が生まれたとされる「子産明神」や「姥の腰掛石」などの伝説が残っています。



図1-45 和漢英雄伝 金太郎

（箱根町立郷土資料館所蔵）

出典：文化遺産オンライン

◆ **源頼朝**

久安3年(1147)～正治元年(1199)。鎌倉幕府初代将軍、武家政治の創始者と評価される。源義朝の第三子、母は熱田神宮大宮司藤原季範の娘。平治元年(1159)12月、平治の乱に敗れて平氏に捕らえられ京都へ送られましたが、平清盛の継母池禅尼の助命嘆願で一命を助けられ、伊豆蛭ヶ小島(伊豆の国市)に流されて、伊東祐親、北条時政らの監視を受けました。以来治承4年(1180)の挙兵まで伊豆で暮らしました。以仁王の令旨を受け、諸国の源氏が反平家の軍を起こした時、北条時政の支援を受け三島大社の祭礼の日に挙兵し、梶原景時らの協力もあって鎌倉に到達しました。その後富士川の合戦で平維盛、忠度らの大軍を破り、その勢いのまま京都へ上ろうとしましたが、常陸に佐竹氏を討ち関東の安定を図るとともに、駿河国や遠江国に拠点をも固めました。寿永2年(1183)後白河法皇の命を受けて頼朝、義経らを西上させ木曾義仲を近江(滋賀県)に破り、引き続いて平氏を一ノ谷、屋島、壇ノ浦に追い滅亡させました。それだけでなく義経が公家勢力と結びついたことから義経追捕の名目で諸国に守護・地頭を配置し、軍事警察権を掌握しました。そして建久3年(1192)に征夷大將軍となりました。その後、『吾妻鏡』によれば、現在の御殿場市や小山町において大規模な巻狩を実施したとされ、現在も伊豆国や駿河国東部には、頼朝に関わる伝説が多く残されています。

(参考 静岡新聞社「静岡県歴史人物事典」)

◆ **藤原光親**

安元2年(1176)～承久3年(1221)。鎌倉時代初期の公卿。権中納言、正二位。葉室中納言光雅の子。後鳥羽上皇の院司となり、上皇の討幕計画の無謀さを諫めましたが聞き入れられず、承久3年(1221)の承久の変に先立ち、北条時追討の院宣を起草しました。この院宣起草の責任を問われ六波羅に捕らえられ、甲斐の武田五郎信光に預けられるため京より下りました。光親が軍返(沼津辺り)まで来たとき、幕府の使者が来て、光親を誅せという命令があったため、武田信光は加古坂(籠坂)まで行き、ここで斬殺梟首としました。その様子は『承久軍物語』(五)で詳しく述べられています。斬刑の場所は籠坂峠の西方矢筈山付辺であったといわれており、小山町には土地の有志によって「権中納言藤原光親卿之塚」と刻んだ墓碑が建てられています。

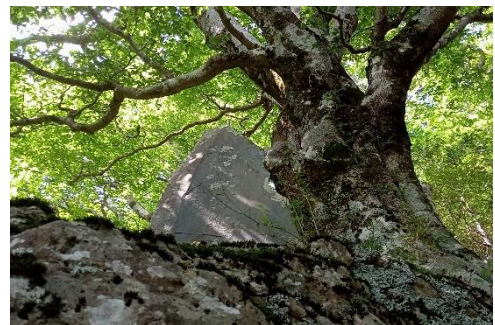


図1-46 藤原光親卿の墓

(参考 静岡新聞社「静岡県歴史人物事典」)

◆ **日蓮**

貞應元年（1222）～弘安5年（1282）。鎌倉時代法華信仰を布教し、日蓮宗（法華宗）を開創した僧。安房（千葉県）に生まれ、清澄寺で出家して天台僧となり、のち鎌倉や京畿で修学、法華經の教えが真実最高の教えであるとの法華經至上主義に到達。建長5年（1253）清澄寺でこれに基づく浄土教批判を初めて行いました（いわゆる日蓮宗の立教開宗）。このため浄土教信奉者に圧迫され、鎌倉に出て布教し、やがて地震、飢饉など災害が続出すると、その原因と対策を『立正安国論』に記し、文應元年（1260）に北条時頼に提出しました。その趣旨は浄土教の禁圧と正しい法華信仰の勧めにあったため、鎌倉幕府に捕らえられ伊豆伊東に流刑されました。赦免後安房に帰り、教えを広めましたが、同地の浄土教信奉者の襲撃を受けて、再び鎌倉に戻りました。文永5年（1268）に日本の服属を促すモンゴル帝国（元朝）の国書が到来し、『立正安国論』で指摘した他国からの侵略が現実化したことで、日蓮の信奉者も増大しました。彼らや日蓮の法華經択一主義に基づく言動が急進化し律諸宗への批判も激化したため、幕府は蒙古防衛体制確立の見地から弾圧し、日蓮を佐渡に流しました。しかし日蓮は『開目抄』、『観心本尊抄』等を著し、自己の宗教の理論化を達成しました。文永11年（1274）に赦免され鎌倉に帰りましたが、同年甲斐国身延に入山、弟子や信奉者の指導に当たりました。日蓮は久遠寺に向かう途中、竹之下で宿泊したという記録があります。弘安5年（1282）病氣療養のため常陸に向かう途中、竹之下に再び宿泊しましたが、10月12日武蔵国池上で没しました。その縁により、竹之下村の人々が「題目碑」（町指定文化財）を栗の木沢に建立しました。



図1-47 栗の木沢の
題目碑
（町指定文化財）

（参考 静岡新聞社「静岡県歴史人物事典」）

◆ **足利尊氏**

嘉元3年（1305）生、延文3年（正平13年）（1358）没。室町幕府初代将軍。貞氏の子。初め太郎、高氏と称しましたが、のち醍醐天皇の諱を得て尊氏と改名しました。元徳3年（元弘元年）（1331）の元弘の変で鎌倉幕府の命を受け西上、後醍醐天皇を笠置山に攻めましたが、早くから源氏再興の志があり、正慶2年（元弘3年）（1333）再度の西上に際し、高氏は丹波篠村八幡宮で幕府への反旗を掲げ、六波羅を滅亡させました。建武2年（1335）、北条時行の乱鎮圧のため鎌倉に下り、次いで新田義貞征伐を名目として建武政権にそむき、小山町竹之下周辺で行われた竹之下の合戦で義貞軍を破り、大挙上洛しました。翌年京都の合戦に敗れて九州に逃れますが、再度上洛し兵庫湊川で楠木正成らを破り入京し、光明天皇を擁立し、幕府



を開きました。対して後醍醐天皇は吉野に走り南朝を立てたことから、南北両朝対立の大内乱が発生しました。暦応元年（延元3年）（1338）に征夷大將軍となりましたが、弟直義と対立したことから一時南朝に帰順したものの、観応3年（正平7年）（1352）に直義を殺害し、さらに庶長子で直義の養子となった直冬とも対立しました。それ以後は南朝・直冬党と争いましたが、延文3年（正平13年）（1358）に九州親征の計画中に病死しました。

（参考 静岡新聞社「静岡県歴史人物事典」）

◆喜多善左衛門（新田開拓者）

生没年不詳。寛文期（1661～1673）の人。阿多野用水を開削し、阿多野新田を開発しました。江戸の商人と伝わっています。湯船村名主池谷市左衛門の要請により、阿多野新田の開発の金元となり、寛文8年（1668）11月、小田原藩主稲葉美濃守に原野開墾を請願しました。水源を大御神布引滝に求め、その下流に長さ50間、幅32間の堤を築き、トンネル5か所、453間、水路5,981間に及び工事が寛文12年（1672）に完成しました。開田面積25町8反余、善左衛門は工事完成直前に没しますが、子の長十郎が父の遺志を継ぎ、完成させました。

（参考 静岡新聞社「静岡県歴史人物事典」）

◆池谷市左衛門（新田開拓者）

生没年不詳。阿多野新田開発の発起者。寛文8年（1668）、駿河国湯船村の名主。寛文4年（1664）に江戸のすみやう右衛門と組み、阿多野の原野の新田開発願書を提出した湯船村・喜平治の後を継ぎ、開発を発起。寛文8年（1668）江戸材木町の喜多善左衛門を金元として、小田原藩に開発願書を提出、用水開削を起工。大御神布引滝を水源に横50間、長さ32間の貯水池を築き、水路5,981間、内トンネル453間に及び阿多野用水を完成させました。寛文12年（1672）竣工により、荒地から25町8反と畑24町歩の新田が完成。昭和45年（1970）阿多野に顕彰碑が建てられました。

（参考 静岡新聞社「静岡県歴史人物事典」）



図1-48 池谷市左衛門
顕彰碑（市翁頌徳碑）

◆伊奈半左衛門忠順（関東郡代）

寛文12年（1672）～正徳元年（1711）。江戸時代前期の関東郡代（五代目）。代官伊奈家次（最初の関東郡代、遠州寺谷用水の建設者）の子孫で、伊奈半十郎忠常の次男。通称半左衛門。宝永4年（1707）富士山の噴火で宝永山ができた時、噴出した土砂と火山灰は須走付近で3m、大御神付近で1.5mあったといわれています。幕府は被災地59か村の復興を図るため天領として関東郡代伊奈半左衛門忠順を派

遣し、諸国の公私領に100石につき2両の救援金を出させ40万両を集めました。実際に救援に充てられたのは16万両余であったといひます。被災者には一日につき米男2合、女1合、馬一頭に銭20文を一年半にわたって与えました。徳富蘇峰^{とくとみそほう}や渡辺丹治^{わたなべたんじ}により幕府米蔵の貯蔵米を百姓に与えたというエピソードを創作し、吉久保水神社^{よしくほみずじんじや}にそれを刻んだ石碑を建立しました。その後、新田次郎はその内容をもとに小説『怒る富士』^{ふじ}を書きました。

現在は須走地区^{すばしりちく}の伊奈神社^{いなじんじや}と吉久保地区^{よしくほちく}の水神社にてその功績を称える石碑が残っています。



図1-49 伊奈半左衛門像
(伊奈神社)

(参考 静岡新聞社「静岡県歴史人物事典」)

◆ 食行身禄 (宗教家)

寛文11年(1671)～享保18年(1733)。日本の宗教家であり、富士講の指導者。本名は伊藤伊兵衛。一志郡川上村(現在の三重県津市美杉町川上)の農家に生まれ、13歳のときに伯父を頼って江戸に出て奉公し、その後独立して呉服店を持つなど成功を収めました。一方で富士山への信仰心が強く、17歳のときに、富士講の祖・長谷川角行^{はせがわかくぎやう}の流れを汲む月行^{げつぎやう}の弟子となりました。その後、修行を積んで富士行者となり、「食行身禄」を名乗りました。享保18年(1733)、身禄は富士山の烏帽子岩で断食入定を始め、高弟の田辺十郎右衛門父子に「三十一日の巻」を口述し、35日後に入定(絶命)しました。その後身禄の考えを支持する人々によって関東地方を中心に富士講が盛んとなり、富士講隆盛の礎を築きました。

富士浅間神社資料館には木造の坐像が祀られています。また、富士浅間神社の社殿の前には、150回忌の記念碑が建てられています。



図1-50 食行身禄坐像
(富士浅間神社資料館)

(参考 三重県津市 広報津 歴史散歩95「富士講の祖 食行身禄」ほか)

◆ 湯山文右衛門 (教育者)

明和4年(1767)～弘化3年(1846)。菅沼村の豪農に生まれた文右衛門は、幼いころから、寺子屋を開いていた父に学問を学び、書道や俳句、絵画などの教養を身に付けました。文化5年(1808)には、自分が学んだことや道徳を多くの子どもたちに教えようと決意し、寺子屋を開設しました。

その場所は、現在の吉久保明倫館^{よしくほめいりんかん}付近と伝わっています。文右衛門が書き残した『入学名前扣帳』^{ひかえちやう}には、163名の名が記されており、寺子屋で学ぶ子弟は、現在の



御殿場市や裾野市から通ったという記述も残っています。さらに、文右衛門の寺子屋に通う子弟の構成として、富農層だけでなく、農民が三分の一余りを占めていたことから、民衆教育の普及にも努めていたことが分かります。

天保15年（1844）には、「子供礼式之事」を定め、18か条の守るべき規範を設け、挨拶の励行や来客の接待などの道徳教育の推進に尽力しました。

また菅沼村（原向）の俳人である湯山治兵衛（雅号、鷗齋）は、文右衛門の寺子屋を継承し、その筆子塚が原向の穂見神社に残っています。

文右衛門の功績を称えるため、明倫地区の生家の敷地に筆子塚が教え子たちの手により建立されました。また、その隣には「湯山文右衛門資料館」があり、当時使われた教科書や農機具などの生活用品が展示されています。



図1-51 湯山文右衛門資料館
(参考 駿東教育史)

◆二宮尊徳（経済家）

天明7年（1787）～安政3年（1856）。経済家。相模国 栢山村（神奈川県 南 足柄市）に生まれ金次郎と称しました。質素儉約を旨とし、報徳仕法の開祖となりました。幼少より独学で学び、30歳の頃、小田原服部家の財政再建に成功し、小田原藩主の目にとまります。文政4年（1821）、藩主より同領内や下野桜町領（栃木県）の復興を命ぜられ、これに成功しました。その間、飢饉で疲弊した御厨領（御殿場市、小山町）の農村復興にもあたり、御厨の大多数の村々が報徳仕法をとりいれ、復興に成功。特に藤曲村では、天保7年（1836）頃からの仕法を導入、尊徳の没する2年前の嘉永7年（1854）まで、その指導を受けたことを示す数多くの史料が残っています。安政4年（1857）、村人によって建てられた墓碑が、藤曲浅間神社に残っています。



図1-52 二宮尊徳像

(参考 静岡新聞社「静岡県歴史人物事典」)

◆滝沢唯念（唯念上人）

寛政3年（1791）～明治13年（1880）。浄土宗系の専修念仏行者。肥後国 八代（熊本県八代市）に生まれ、22歳のとき下総行徳（千葉県）の徳願寺で受戒しました。全国各地で修行し、文政13年（1830）、「富士山の麓奥の沢にて修行三カ年」の後、上野村奥の沢に堂を建て、明治7年（1874）、浄土宗増上寺の末寺として認

可を受け、滝沢寺の号を教部省より認可を受けました。

五穀を断ち、そば粉を水で練ったものを常食とし、人々の安穩を祈るため、ひたすら念仏を唱えた厳しい修行姿から、「木食念仏行者」とも呼ばれました。唯念が民衆への布教や講活動の運営に際し、自ら書き与えた南無阿弥陀仏の名号や、火伏せの竜などが現在も数多く残っています。また、独特の書体の名号碑も駿東、伊豆、西相模に数百基が残っています。墓碑は奥の沢の開山堂脇に建っています。

(参考 静岡新聞社「静岡県歴史人物事典」)



図1-53 唯念名号碑
(町指定文化財)

◆ 榊研三 (教育者)

嘉永2年(1849)～明治29年(1896)。学制初期の教育者。尾張国北方村(愛知県一宮市)に馬場外次郎として生まれました。明治8年(1875)伊豆国徳倉村(三島市)榊家の養子となり、榊研三と名乗りました。

鷺津毅堂、大槻修二、名和謙次などに和漢学、習字、代数教授法を学び、明治9年(1876)、駿東郡成美舎教員になりました。御厨教育会会長就任後には、自由民権思想をとがめられ教員免許状を被収、訓導職を免ぜられました。明治20年(1887)、駿東高等小学校に復帰、明治25年(1892)、駿東郡六合村立成美尋常小学校訓導となり、翌年同校校長に任ぜられました。明治28年(1895)六合村学務委員に就任



図1-54
榊研三頌徳之碑

しましたが、翌年病死しました。思想的には、自由民権運動に共鳴し、演説結社の弁士として活躍しました。文化的にも詩歌、書画、俳句などの文芸サロンに参加し、作品を寄せ、地元の文化人に影響を与えました。墓所は藤曲。成美小学校に頌徳之碑があります。

(参考 静岡新聞社「静岡県歴史人物事典」)

◆ 室伏董平 (政治家)

安政3年(1856)～明治34年(1901)。政治家。駿東郡生土村に書家室伏良庵(小八郎)の長男として生まれました。幼くして米山蓉谷、中垣秀実、小永井岳などに漢籍を学びました。明治12年(1879)駿東郡成美舎幹事となり、以後生土村学務委員、生土村会議員、沼津本町外161か町村連合会議員、御殿場村外64か村連合会議員、菅沼村組戸長などを歴任しました。その間、主として学務委員、衛生委員、税調査委



図1-55 室伏董平



員などとして活躍し、学校設備の充実、改善などに意を注ぎました。その後も駿東郡教育会長、駿東郡会議員、参事官、議長、県会議員などに当選歴任しました。二宮尊徳の報徳仕報の熱心な実践者でもあり、勤儉節約を旨としました。政治活動としては明治14年(1881)静岡県改進黨員となり、自由民権運動にも参加しました。大正6年(1917)菩提寺の正福寺に顕彰碑が建てられました。墓所は乗光寺の室伏家代々の墓地にあります。

(参考 静岡新聞社「静岡県歴史人物事典」)

◆あまのこういつろう 天野幸逸郎(戸長)

文政5年(1822)～明治38年(1905)。近世大御神村名主。駿東郡大御神村の人。伝右衛門。明治になり戸長、第一大区五小区区長などを務めました。大御神村に水路の開削を発起し、弘化4年(1847)より工事を開始、水路の長さ2,300m、この内水門・隧道は12か所、水田2.6haの開田に成功。全工事が完成をみたのは、明治16年(1883)でした。また、山林の共有権の確立、植林などの事業にも尽力しました。丹城と号し、文化・宗教面においても、漢詩を好み、木食行者たちのパトロンとなるなど、幅広く活動しました。大御神では碩徳碑を建て、毎年8月に「丹城祭」を実施しています。



図1-56 あまのたんじょう 天野丹城碩徳碑

(参考 静岡新聞社「静岡県歴史人物事典」)

◆はまぐちきちえもん 濱口吉右衛門(実業家、政治家)

文久2年(1862)～大正2年(1913)。紀伊国^{きいのくに}有田郡出身。濱口熊岳の次男として生まれ、9歳で江戸に出て、漢学塾にて学び、その後慶應義塾で洋学を修めました。9代目濱口吉右衛門として日本橋小網町の老舗醤油問屋「廣屋」を引き継ぎました。明治29年(1896)、第4回衆議院議員総選挙補欠選挙に出馬し当選。3期連続で衆議院議員を務め、財政整理国本培養論を献策して注目を集めました。明治33年(1900)に辞職。鐘淵紡績重役、富士瓦斯紡績・九州水力電気・高砂製糖社長、豊国銀行頭取、朝鮮銀行幹事、濱口代表社員、猪苗代水力電気取締役等を歴任し、実業界に貢献しました。



図1-57 はまぐちきちえもん 濱口吉右衛門

(参考 小山町「富士紡績(株)創設と再建」ほか)

◆^{とみたてつ}富田鐵之助（藩士、官僚、実業家）

^{てんぽう}天保6年（1835）～^{とみたさねやす}大正5年（1916）。^{とみたさねやす}仙台藩士富田実保の四男として生まれ、^{かつかいしゅう}勝海舟に師事し、^{けいおう}慶応3年（1867）幕命により米国に留学し、在米中明治維新となりましたが、明治2年（1869）政府の留学生になり、ニュージャージー州のニューアーク商業学校に入学して経済学を学びました。明治5年（1872）^{いわくらおうしゅうしせつだん}岩倉欧州使節団に加わり、^{おおくぼとしみち}大久保利通や^{いとうひろふみ}伊藤博文にその能力を買われて同年2月ニューヨーク在勤領事心得（直後に副領事）に抜擢。その後上海総領事、外務省少書記官、英国公使館1等書記官等を歴任しますが、明治14年（1881）大蔵省に転じ大蔵権大書記官を任ぜられ、横浜正金銀行管理掛を命ぜられました。翌年には大蔵大書記官となり日本銀行の創立事務を担当。日本銀行創立とともに同行副総裁、明治21年（1888）第2代総裁となるも、明治22年（1889）9月に辞職。その後、貴族院議員、東京府知事を務めました。その他横浜火災保険、日本鉄道などに関わりました。また、^{ふしぼう}富士紡の設立にも貢献し、明治29年（1896）2月に^{ふしぼう}富士紡会長に就任。そして、明治34年（1901）に辞任しました。

（参考 筒井正夫「富士紡績株式会社設立に至る企業家ネットワークの形成」）

◆^{もりむらいちざえもん}森村市左衛門（実業家）

^{てんぽう}天保10年（1839）～大正8年（1919）。実業家。代々江戸京橋に住んだ土佐侯の用達商人。幼名市太郎。安政元年（1854）、2年続けて自宅を焼失し、資産を失いましたが、夜店を商い資産を回復しました。横浜貿易開始後、生糸・羽二重・陶器等の貿易で産を成しました。森村グループ（ノリタケ・TOTO・日本ガイシ・日本特殊陶業）の創設者であり、日本銀行監事でもあった市左衛門は、横浜生糸会社・富士製紙・第一相互生命・明治製糖等の会社に出資援助したほか、明治28年（1895）、^{すんとうぐんすがぬまむら}駿東郡菅沼村に^{ふしぼう}富士紡株式会社の工場起工にあたり、その発起人・出資者となり、明治30年（1897）、同社開業後は相談役となりました。大正4年（1915）、男爵を授けられました。明治39年（1906）、^{おやま}小山から^{ふしぼう}富士紡一・二工場に渡る^{あゆさわがわ}鮎沢川に「^{もりむらばし}森村橋」が架かりました。

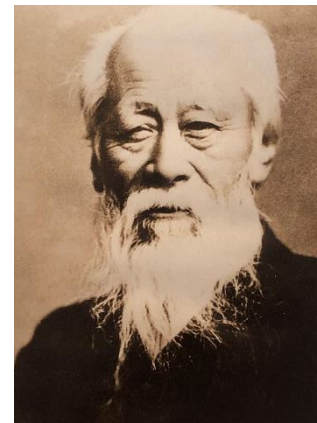


図1-58 ^{もりむらいちざえもん}森村市左衛門

（参考 静岡新聞社「静岡県歴史人物事典」）

◆^{ひびやへいざえもん}日比谷平左衛門（実業家）

^{こうか}弘化5年（1848）～^{まんえん}大正10年（1921）。^{えど}万延元年（1860）江戸に出て日本橋の綿糸商松本屋に奉公し、18歳で支配人の地位に就きました。明治11年（1878）^{ひびや}日比谷ツネの養子となり、のち独立して日比谷商店を開店し、綿糸・綿花の卸商を営みました。明治29年（1896）商業から工業に転向を図り^{とうきょうが}東京瓦斯紡績を設立し専

務に就任。明治31年（1898）に小名木川綿布おなぎがわめんぷの取締役となり、翌年社長に就任。明治33年（1900）森村市左衛門もりむらいちざえもんの要請で経営不振ふじぼうの富士紡の取締役となり、明治36年（1903）小名木川綿布おなぎがわめんぷを富士紡ふじぼうに合併しました。明治39年（1906）富士紡ふじぼうと東京瓦斯紡績とうきょうがすぼうせきの合併により富士瓦斯紡績ふじがすぼうせきが成立し、社長に就任。さらに鐘淵紡績かねがふちぼうせき会長、日清紡績にっしんぼうせき会長も務めるなど、日本の紡績界に大きな功績を残しました。大正8年（1919）日比谷銀行を設立。また第一生命保険、東京毛織などの重役や東京商業会議所副会頭なども歴任しました。



図1-59 日比谷平左衛門

「日本紡績界の巨人」、「実業界における起死回生の名医」と謳われ、富士紡の再建に大きく貢献しました。

（参考 日外アソシエーツ「367日誕生日大事典」）

◆川崎栄助（実業家）

嘉永4年（1851）～大正10年（1921）。12歳で横浜に出て足袋商の店に奉公し、明治7年（1874）独立して同地に店舗を開きました。明治10年（1877）に東京日本橋に移り足袋・木綿織物を製造販売しました。明治33年（1900）に当時経営不振に陥っていた富士紡績ふじぼうせきの改革に当たり、翌明治34年（1901）に取締役を務め、和田豊治わたとよし専務を助け社運の隆盛に貢献しました。また南亜公司、小倉製紙所、横浜電気、房総煉乳、日本電化工業などの重役を務めました。なお、豊門会館ほうもんかいの名は、川崎栄助かわさきえいすけの発議により、富士紡の発展に多大な功績を残した和田豊治わたとよしの「豊」、富士紡の三門さんもんと称された森村市左衛門もりむらいちざえもん、日比谷平左衛門ひびやへいざえもん、浜口吉右衛門はまぐちきちえもんの「門」をとって、名付けられました。



図1-60 川崎栄助

（参考 小山町「富士紡績(株)創設と再建」ほか）

◆湯山寿介（政治家）

安政5年（1858）～大正12年（1923）。実業家、政治家。駿河国駿東郡菅沼村すのくにすんとうぐんすがぬまむらの豪農、湯山家に生まれました。堀内清孝ほりうちきよたか（米山蓉谷よねやまようこく）に漢籍を学び、小田原おだわらの文学謙塾で学びました。明治13年（1880）、駿東郡菅沼村学務委員すんとうぐんすがぬまむらに当選。以後、各種委員、議員を歴任。主として勸業、農事改良、教育関係事業の発展に力を注ぎました。その後も菅沼村会議長すがぬまむら、駿東富士両郡連合町村会議員すんとうふじ、沼津中学区学務委員ぬまづなどを経て、明治17年（1884）、県会議員に



図1-61 湯山寿介

当選。明治22年（1889）、町村制施行以後、駿東郡27か町村連合会議員、県会議員、衆議院議員などを歴任。大正元年（1912）に本町が発足するのに伴い、初代小山町長に選任されました。御厨銀行（静岡銀行）、富士瓦斯紡績株式会社設立に際し出資援助し、駿東地方の政財界で大きな力を持ちました。大正12年（1923）、小山町育英奨学資金を寄付し、奨学活動にも尽くしました。それらの功績により従六位勲四等を受章。本町には「寿介道路」の名が残っています。墓所は十輪寺にあります。
 （参考 静岡新聞社「静岡県歴史人物事典」）

◆和田豊治（実業家）

文久元年（1861）～大正13年（1924）。実業家。明治29年（1896）駿東郡菅沼村に創業した富士紡績創業期の専務取締役、社長。大分県中津町（中津市）に生まれました。明治17年（1884）、慶応義塾大学を卒業。その後3年間アメリカで生活。帰国後、日本郵船会社、三井銀行、鐘ヶ淵紡績支配人等を務めた後、明治34年（1901）、富士紡績に招かれ専務取締役に就任。創業後不況に苦しむ同社の経営立て直しに尽力し、再生に成功しました。大正5年（1916）社長に就任。また、本町の振興にも意を注ぎ、大正元年（1912）の小山町制施行の際には、富士紡の株式100株を町の基本財産として寄付しました。厚生施設、財団法人豊門会館や豊門グラウンドを建設。大正11年（1922）貴族院議員に勅選されました。従五位勲三等瑞宝章を受章。大正13年（1924）、豊門公園内に町民の手により遺徳碑が建立されました。



図1-62 和田豊治

（参考 静岡新聞社「静岡県歴史人物事典」）

◆渋沢栄一（実業家）

天保11年（1840）～昭和6年（1931）。初め篤太夫と称し、号青淵。武蔵国榛沢郡血洗島（埼玉県大里郡豊里村）に生まれました。生家は養蚕、藍作のほか藍玉作りも手掛けた豪農。少、青年時代は家業に従事して商才を発揮、幕末の動乱期に志士と交わり尊王攘夷運動にはしりました。後に一橋家に仕え、徳川慶喜の弟昭武がパリの万国博覧会列席に際し随行してフランスに渡航、先進国の近代的産業設備や経済制度を見聞しました。維新の変革で急ぎ帰国したのは、明治元年（1868）11月。徳川慶喜は水戸（茨城県水戸市）から駿府（静岡市）に移り、宝台院に謹慎していました。渋沢が洋行中の報告に訪れると、慶喜は彼の人物と外国の新知識とを徳川家のために用いようと仕官を勧めました。渋沢は民間の実業人になろうと思っていましたが、勧めに従い徳川藩の勘定組頭となり、翌年の正月は呉服町の川村屋の二階で迎えました。川村屋の跡は現在、静和産業となっています。彼はここで商法会所の目



論見書を作成しました。商法会所は明治2年（1869）1月設立、合本組織（合資会社）で外国の会社制度に倣ったものです。渋沢が監督指導しましたが、8月には廃止されました。事業は常平倉という名で引き続き行われ、家族も東京から呼び寄せました。同年11月新政府が彼の新知識を必要として上京を懇望、民部省租税正に任じ旧制度の改革に当たらせようとし、彼はこれに応じて東京に戻りました。明治4年（1871）大蔵権大丞（次官）に上り、商工業、経済金融などの制度の整備に努めました。明治6年（1873）官を辞し、以後は民間人として第一銀行、王子製紙、大阪紡績、東京ガスほか五百余の会社に関係し、財界の大御所として実業界、国際親善、福祉事業等に活躍、偉大な業績を残しました。

豊門公園内には、渋沢栄一の「篆額」による和田豊治の遺徳碑があり、また、豊門会館の玄関正面に「豊門会館」としたためられた渋沢栄一の書が掲げられています。



図1-63 渋沢栄一の書（豊門会館入口）

（参考 静岡新聞社「静岡県歴史人物事典」）

◆フレデリック・スタール（人類学者）

安政5年（1858）～昭和8年（1933）。ニューヨーク州オーバーン市に生まれ、明治15年（1882）にロチェスター大学で学位を得、明治18年（1885）にラファイエット大学で博士号（地質学）を取得しました。その後アメリカ自然史博物館（AMNH）で地質学の学芸員として働くようになると、人類学と民族学に興味を持つようになりました。明治22年（1889）～明治24年（1891）までAMNHの民族学担当の学芸員として働きました。また、明治21年（1888）から翌年にかけては、国立の歴史的遺物の保存団体であるシャトールカ協会の記録係としてもニューヨーク北西部の人類学調査に携わりました。



図1-64 フレデリック・スタール
（写真提供：静岡県富士山世界遺産センター）

明治37年（1904）2月9日、日露戦争開戦の前日にアイヌ研究のため初来日し、以降およそ30年の間に16回日本を訪れました。昭和8年（1933）8月に東京にて他界。来日中は5度に渡り須走口より富士山山頂へ登山し、大正11年（1922）にはシカゴ大学にて富士山に関する展覧会を開催しました。

日本では羽織袴で通し、日本全国を行脚しつつ様々な分野の日本の民俗について研究を行いました。納札にも強い関心を持ち、その蒐集・研究を行ったことから「お札博士」とも呼ばれました。スタールと小山町の関係は深く、死後には須走地区に慰

霊碑が建てられ、本人の遺言により遺骨も埋葬されています。碑面の文字は徳富蘇峰の筆によるもので、博士の人望と交流の厚さを物語っています。

(参考 「静岡県富士山世界遺産センターHP (<https://mtfuji-whc.jp/>)」)

◆北原白秋（詩人・童謡作家）

明治18年（1885）～昭和17年（1942）。福岡県柳川に生まれました。本名 隆吉。詩、短歌、民謡、童謡等に優れた業績を残しました。静岡県との関わりは、短歌、民謡の両面が主であり、大正11年（1922）2月から昭和12年（1937）10月まで、鷺津（湖西市）、静岡、三保（清水市）、沼津、須走、伊豆の各地に及んでいます。須走では、昭和9年（1934）6月、中西悟堂から野鳥を聴く会に誘われて来訪し、「きよろろ 鶯」という優れた随筆がなされました。昭和12年（1937）5月『多磨』主宰の野鳥見学の会で再訪し、短歌「夏鳥」（14首）、随筆「野鳥見学記」を得ました。

(参考 静岡新聞社「静岡県歴史人物事典」)

◆徳富蘇峰（ジャーナリスト・詩論家）

文久3年（1863）～昭和32年（1957）。肥後（熊本県）水俣の郷土、徳富一敬の長男として生まれました。本名は猪一郎、字は正敬。熊本洋学校にて学び、後に京都の同志社に移りましたが、明治13年（1880）に退学。翌年帰郷して大江義塾を開き、漢学や英学、歴史、経済、政治学などを教授しました。その後『第一九世紀日本ノ青年及其教育』、『将来之日本』を出版し文名を馳せました。明治20年（1887）に上京して民友社を設立し、雑誌『国民之友』や『国民新聞』などを刊行し、平和主義のジャーナリストとして活動しました。日露戦争後は内務省勅任参事官となり、明治44年（1911）に貴族院議員となります。大正2年（1913）に政界を離れ、御厨の青竜寺（現御殿場市）を訪れましたが病に倒れ、この地で静養し、以後40年余りにわたってしばしば滞在しました。昭和11年（1936）7月には御厨において「御厨蘇峰会」が創立されました。大正12年（1923）に『近世日本国民史』に対して日本学士院賞を授与されました。第二次世界大戦中は大日本文学報国会、大日本言論報国会の会長となり、昭和18年（1943）に文化勲章を受章。敗戦後は公職追放の指名を受け、熱海の伊豆山へ移りました。昭和32年（1957）この地で死去しました。

小山町においては昭和11年（1936）に豊門会館において御厨蘇峰会の発会式を行っています。また館内には徳富蘇峰による「和為貴」の額が掲げられています。



図1-65 徳富蘇峰の書

(参考 小山町「豊門公園 ガイドのしおり」、静岡新聞社「静岡県歴史人物事典」)

◆^{あさくらふみお}朝倉文夫（彫刻家）

明治16年（1883）～昭和39年（1964）。明治16年（1883）^{わたなべようぞう}渡辺要蔵の三男として生まれました。明治26年（1893）に^{あさくらたねひこ}朝倉種彦の養子となり、4月に直入郡高等小学校に入学。明治36年（1903）、20歳のとき、東京美術学校彫刻選科に入学。明治40年（1907）に卒業作品として「進化」を作成、研究科に入学。その後明治41年（1908）の「闇」「老猿」、明治43年（1910）の「墓守」など、数々の受賞作品を完成させました。日本近代彫塑技法を確立し、明治・大正・昭和にわたり、日本美術界の重鎮として位置付けられました。大正13年（1924）に帝国美術院会員となりますが昭和3年（1928）にこれを辞任。昭和9年（1934）にアトリエを改築し「朝倉彫塑塾」を開きました。小山町においては、独特の意匠が特徴的である「和田君遺惠碑」（国登録有形文化財）のデザインを手掛けました。



図1-66 ^{ほうもんこうえん}豊門公園内の和田君遺惠碑

なお、次女の朝倉響子が昭和37年（1962）に制作した「汗影の像（印刷工）」が須走小に建てられています。

（参考 ^{おやまちょう}小山町「^{ふじぼう}富士紡と文化遺産」ほか）

◆^{あさくらつねと}朝倉每人（政治家・実業家）

明治15年（1882）～昭和46年（1971）。大分県で生まれました。明治40年（1907）京都帝国大学法科を卒業後、同年^{ふじがすぼうせき}富士瓦斯紡績に入社しました。大正14年（1925）には同社常務取締役就任し、昭和5年（1930）からは第二^{だいにふじでんりょく}富士電力株式会社代表取締役、^{ふじでんりょく}富士電力株式会社代表取締役、衆議院議員（立憲民政党）を歴任しました。昭和12年（1937）からは^{にっさんじどうしゃ}日産自動車株式会社常務取締役、^{にっさんじどうしゃ}日産自動車販売株式会社代表取締役、^{にほんじどうしゃはいきゅう}日本自動車配給株式会社社長、^{じどうしゃとうせいかい}自動車統制会理事を務めました。戦後、連合軍最高司令官総司令部（GHQ）の指令により、昭和21年（1946）に公職を追放されましたが、昭和25年（1950）に追放が解除され、^{めいわぼうせき}明和紡績株式会社社長、経済問題調査会理事長、育英奨学・社会福祉関係団体役員等を歴任しました。小山町においては、^{おやまちょう}富士紡績^{ふじぼうせきおやま}小山工場第6代工場長を務めた経験があり、「^{わだざか}和田坂」の命名者として知られています。



図1-67 ^{わだざか}和田坂

（参考 ^{おやまちょう}小山町「^{ふじぼう}富士紡と文化遺産」ほか）

◆中西悟堂（野鳥研究家）

明治28年（1895）～昭和59年（1984）。石川県金沢市長町に生まれました。父・富男は日清戦争の負傷がもとで亡くなり、母は長崎の実家へ戻ったため、東京にいた父の長兄、中西元治郎の養子となりました。明治44年（1911）に神代村（現・調布市）の天台宗深大寺で得度、法名をもらい、戸籍上も「悟堂」と改名しました。短歌や詩に親しみながら、昭和元年（1926）からは虫類や鳥類の観察をはじめ、昭和9年（1934）3月に「日本野鳥の会」を創設、5月に季刊誌『野鳥』を創刊しました。同年6月には富士山麓、小山町須走にて日本で最初の探鳥会（鳥巢見学会）を開催し、翌10年（1935）には『野鳥と共に』を刊行、これにより野鳥という言葉が世間に定着しました。その後は、昭和43年（1968）に『定本野鳥記』を著し、昭和45年（1970）に詩人クラブの会長に就任したほか、昭和46年（1971）に勲三等旭日中綬章を受賞、昭和52年（1977）には文化功労者として顕彰されました。



図1-68 日本野鳥の会70周年記念碑

富士浅間神社境内には、「日本野鳥の会70周年記念碑」が建てられています。

（参考 公益社団法人日本野鳥の会HP（<https://www.wbsj.org/>）ほか）



7 おやまちょう 小山町の歴代町長一覧

| 歴代 | 氏名 | 就任期間 |
|----|--------------------|--------------------------------------|
| 1 | ゆやまじゆかい 湯山寿介 | 大正元年（1912）10月16日 ～ 大正5年（1916）10月15日 |
| 2 | ゆやまごうへい 湯山剛平 | 大正5年（1916）10月16日 ～ 大正9年（1920）10月15日 |
| 3 | むろふしかん 室伏完 | 大正9年（1920）10月18日 ～ 大正13年（1924）10月17日 |
| 4 | むろふしかん 室伏完 | 大正13年（1924）10月18日 ～ 大正14年（1925）3月17日 |
| 5 | ゆやまごうへい 湯山剛平 | 大正14年（1925）10月12日 ～ 昭和4年（1929）10月11日 |
| 6 | ゆやましようへい 湯山正平 | 昭和4年（1929）11月8日 ～ 昭和8年（1933）11月7日 |
| 7 | たかはしぶんじろう 高橋文治郎 | 昭和8年（1933）11月8日 ～ 昭和12年（1937）11月7日 |
| 8 | いわたゆきえ 岩田幸恵 | 昭和12年（1937）11月8日 ～ 昭和13年（1938）9月11日 |
| 9 | たかはしぶんじろう 高橋文治郎 | 昭和13年（1938）9月20日 ～ 昭和16年（1941）1月16日 |
| 10 | むろふたけし 室伏武 | 昭和16年（1941）2月3日 ～ 昭和20年（1945）2月2日 |
| 11 | むろふたけし 室伏武 | 昭和20年（1945）2月3日 ～ 昭和21年（1946）11月24日 |
| 12 | ゆやましようへい 湯山正平 | 昭和22年（1947）4月5日 ～ 昭和26年（1951）4月4日 |
| 13 | ゆやましようへい 湯山正平 | 昭和26年（1951）4月23日 ～ 昭和30年（1955）4月22日 |
| 14 | ゆやましようへい 湯山正平 | 昭和30年（1955）5月1日 ～ 昭和34年（1959）4月30日 |
| 15 | すずきしげる 鈴木繁 | 昭和34年（1959）5月1日 ～ 昭和38年（1963）4月30日 |
| 16 | しんじょうしょうぞう 神成昇造 | 昭和38年（1963）5月1日 ～ 昭和42年（1967）4月30日 |
| 17 | しんじょうしょうぞう 神成昇造 | 昭和42年（1967）5月1日 ～ 昭和46年（1971）4月30日 |
| 18 | ゆやまかつんど 湯山勝人 | 昭和46年（1971）5月1日 ～ 昭和50年（1975）4月30日 |
| 19 | ゆやまかつんど 湯山勝人 | 昭和50年（1975）5月1日 ～ 昭和54年（1979）4月30日 |
| 20 | ゆやまかつんど 湯山勝人 | 昭和54年（1979）5月1日 ～ 昭和58年（1983）4月30日 |
| 21 | たかはしはるお 高橋春雄 | 昭和58年（1983）5月1日 ～ 昭和62年（1987）4月30日 |
| 22 | たしろかずお 田代和男 | 昭和62年（1987）5月1日 ～ 平成3年（1991）4月30日 |
| 23 | たしろかずお 田代和男 | 平成3年（1991）5月1日 ～ 平成7年（1995）4月30日 |
| 24 | おさだひさし 長田央 | 平成7年（1995）5月1日 ～ 平成11年（1999）4月30日 |
| 25 | おさだひさし 長田央 | 平成11年（1999）5月1日 ～ 平成15年（2003）4月30日 |
| 26 | おさだひさし 長田央 | 平成15年（2003）5月1日 ～ 平成19年（2007）4月30日 |
| 27 | たかはしひろし 高橋宏 | 平成19年（2007）5月1日 ～ 平成23年（2011）4月30日 |
| 28 | こみやまさきひで 込山正秀 | 平成23年（2011）5月1日 ～ 平成27年（2015）4月30日 |
| 29 | こみやまさきひで 込山正秀 | 平成27年（2015）5月1日 ～ 平成31年（2019）4月30日 |
| 30 | いけやせいいち 池谷晴一 | 令和元年（2019）5月1日 ～ 令和5年（2023）4月30日 |
| 31 | こみやまさきひで 込山正秀 | 令和5年（2023）5月1日 ～ 令和9年（2027）4月30日（任期） |

第2章 小山町の歴史文化資源の概要と特徴

第1節 指定等文化財の概要と特徴

1 指定等文化財の概要

令和5年（2023）8月現在、本町の指定等文化財は、国指定2件、国登録8件、県指定4件、町指定18件の合計32件で、表2-1、表2-2に示すとおりです。

これらには、国指定特別名勝、国指定史跡である「富士山」や、それを中心とした富士山信仰にまつわる文化財建造物や神社等の御神木となる天然記念物のほか、「豊門会館」（国登録有形文化財）を中心とした紡績産業に関わる文化財建造物が多く含まれるのが特徴です。

文化財の類型別にみると、有形文化財として建造物14件と美術工芸品5件、無形の民俗文化財1件、記念物として遺跡（史跡）2件と名勝地（名勝・特別名勝）1件、動物、植物、地質鉱物（天然記念物）9件となっています。

また、平成25年（2013）に世界文化遺産に登録された「富士山」の構成資産が町内には2件あります。1つ目は、「富士山域」の構成要素である「須走口登山道」です。「富士山域」は、世界遺産の価値である「信仰の対象」と「芸術の源泉」として、重要なエリアである標高約1,500m以上（馬返し以上）を対象としており、須走口五合目の「古御嶽神社」から山頂にかけての登山道および山頂を構成資産としています。そして、もう1つの構成資産として須走口登山道の起点である「富士浅間神社」があります。いずれも「史跡富士山」として国指定文化財となっており、馬返し以上の富士山の山体は、特別名勝に指定されています。



図2-1 須走口登山道



図2-2 富士浅間神社



表2-1 指定等文化財の集計表

(令和5年8月1日現在)

| 種類 | 種別 | 国指定等 | 県指定 | 町指定 | 国登録 | 合計 | |
|---------|-------------------|-------|-----|-----|-----|----|---|
| 有形文化財 | 建造物 | 0 | 0 | 6 | 8 | 14 | |
| | 美術工芸品 | 絵画 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | | 彫刻 | 0 | 1 | 2 | 0 | 3 |
| | | 工芸品 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 書跡・典籍 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | | 古文書 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 考古資料 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 歴史資料 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 無形文化財 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 民俗文化財 | 有形の民俗文化財 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 無形の民俗文化財 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | |
| 記念物 | 遺跡（史跡） | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | |
| | 名勝地（名勝・特別名勝） | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | |
| | 動物、植物、地質鉱物（天然記念物） | 0 | 3 | 6 | 0 | 9 | |
| 文化的景観 | | 0 | - | - | - | 0 | |
| 伝統的建造物群 | | 0 | - | - | - | 0 | |
| 合計 | | 2 | 4 | 18 | 8 | 32 | |

※1：「-」は、法あるいは条例にて該当のないものを示す。



図2-3 指定等文化財の分布図

表2-2 指定・登録文化財リスト (令和5年8月1日現在)

| 分類 | 名称 | 員数 | 指定日 | 所有者等 | 所在地 |
|---|--|-------------|-------------|--------------------|-------------------|
| 国指定 | 特別名勝 富士山 | 1件 | S27. 11. 22 | 国・富士山本宮浅間大社 | 須走口登山道の馬返し以上 |
| | 史跡 富士山 | 1件 | H23. 2. 7 | 国・富士浅間神社・富士山本宮浅間大社 | |
| 県指定 | 美術工芸品 木造地藏菩薩坐像 | 1体 | S60. 3. 19 | 宝鏡寺 | たけのした 竹之下1462 |
| | 天然記念物 富士浅間神社のハルニレ 大胡田天神社のイチョウ | 1本 | S38. 2. 19 | 富士浅間神社 | すばしり 須走126 |
| | | 1本 | S41. 3. 22 | 大胡田天神社 | おおごだ 大胡田643 |
| | 柳島八幡神社の二本スギ | 2本 | S42. 10. 11 | 柳島八幡神社 | やなぎしま 柳島168 |
| 町指定 | 建造物 甘露寺宝篋印塔 嘉慶銘宝篋印塔 栗の木沢の唯念名号碑 栗の木沢の題目碑 富士浅間神社殿 藤曲浅間神社の二宮金次郎墓碑 | 1基 | S48. 10. 25 | 甘露寺 | すがぬま 菅沼683 |
| | | 1基 | S63. 12. 16 | 個人 | すがぬま 菅沼1122-2 |
| | | 1基 | H 3. 5. 1 | たけのしたく 竹之下区 | たけのした 竹之下 3676-20 |
| | | 1基 | H 4. 6. 1 | たけのしたく 竹之下区 | たけのした 竹之下 3677-17 |
| | | 1基 | H18. 8. 24 | 富士浅間神社 | すばしり 須走126 |
| | 美術工芸品 坂下区十王堂地藏菩薩坐像 坂下区十王堂十王図 坂下区十王堂木食観正宝号軸 坂下区十王堂石仏 | 1体 | H21. 12. 16 | さかしたく 坂下区 | すがぬま 菅沼707-1 |
| | | 10幅 | H21. 12. 16 | さかしたく 坂下区 | すがぬま 菅沼707-1 |
| | | 1幅 | H21. 12. 16 | さかしたく 坂下区 | すがぬま 菅沼707-1 |
| | | 17体 | H21. 12. 16 | さかしたく 坂下区 | すがぬま 菅沼707-1 |
| | 無形民俗 竹之下太鼓 | 1団体 | S59. 12. 21 | たけのしたく 竹之下区 | たけのした 竹之下 |
| | 史跡 乗光寺大森六代之墓 | 6基 | S48. 10. 25 | じょうこうじ 乗光寺 | いきど 生土234-1 |
| | 天然記念物 湯船八幡神社夫婦スギ 上野神明宮のアカガシ 富士浅間神社のエゾヤマザクラ 富士浅間神社の根上がりモミ 棚頭産神社のスギ 用沢八幡宮の三本スギ | 1本 | S58. 5. 1 | ゆふねく 湯船区 | ゆふね 湯船371 |
| | | 1本 | S58. 5. 1 | うえの 上野神明宮 | うえの 上野178 |
| | | 1本 | S58. 5. 1 | 富士浅間神社 | すばしり 須走126 |
| | | 1本 | H 3. 5. 1 | 富士浅間神社 | すばしり 須走126 |
| | | 2本 | S63. 12. 16 | たながしらく 棚頭区 | たながしらく 棚頭714 |
| | | 3本 | S63. 12. 16 | ようさわく 用沢区 | ようさわ 用沢517 |
| 国登録 建造物 豊門会館(旧和田豊治家住宅)和館 豊門会館(旧和田豊治家住宅)洋館 豊門公園西洋館(旧豊門青年学校) 豊門公園正門 豊門公園噴水泉 豊門公園和田君遺徳碑 森村橋 松村家住宅主屋 | 1棟 | H17. 11. 10 | おやまちょう 小山町 | ふじまがり 藤曲144-8 | |
| | 1棟 | H17. 11. 10 | おやまちょう 小山町 | ふじまがり 藤曲144-8 | |
| | 1棟 | H17. 11. 10 | おやまちょう 小山町 | ふじまがり 藤曲142-7 | |
| | 1基 | H17. 11. 10 | おやまちょう 小山町 | ふじまがり 藤曲144-8 | |
| | 1基 | H17. 11. 10 | おやまちょう 小山町 | ふじまがり 藤曲142-7 | |
| | 1基 | H17. 11. 10 | おやまちょう 小山町 | ふじまがり 藤曲144-8 | |
| | 1橋 | H17. 11. 10 | おやまちょう 小山町 | おやま 小山133-6 地先 | |
| | 1棟 | H20. 7. 8 | 個人 | すばしり 須走31-32 | |



2 指定等文化財の特徴

町域における指定等の対象になっている文化財を種類別にみると、有形文化財19件、民俗文化財1件、記念物12件の合計32件があります。また、指定等の区分別にみると、国指定2件、県指定4件、町指定18件、国登録8件であり、町指定あるいは国登録の建造物が多くあります。

(1) 有形文化財

① 建造物

建造物は14件（町指定6件、国登録8件）が指定・登録されています。

町指定建造物には石造物が多く、特に嘉慶年間（1387～1389）や応永7年（1400）の宝篋印塔など、古い形式が多いことと、小型の宝篋印塔が多い駿東地方において、中規模のものが残っているのが特徴です。

また、国登録有形文化財8件は、豊門会館（旧和田豊治家住宅）和館・洋館や豊門公園西洋館（旧豊門青年学校）、和田君遺徳碑などの富士紡に関わる建造物の他、須走地区の松村家住宅主屋があります。

なお、森村橋については令和2年度（2020）に修復が完了し、土木学会田中賞を受賞しています。



図2-4 豊門公園西洋館
（旧豊門青年学校）

② 美術工芸品

美術工芸品は5件30点（県指定1件1点、町指定4件29点）が指定されています。美術工芸品のうち、1件は県指定の木造地藏菩薩坐像（宝鏡寺）で、御厨地方における鎌倉文化伝播の様相をうかがい知る数少ない文化財の一つとして貴重です。

残り29点は坂下区十王堂に安置される地藏菩薩坐像、十王図（10幅）、木食観正宝号軸、石仏（17体）が町指定となっています。



図2-5 木造地藏菩薩坐像（宝鏡寺）
（県指定）



図2-6 坂下区十王堂十王図
（第一王）（町指定）

(2) 無形文化財

現時点で指定されている無形文化財はありません。

(3) 民俗文化財

①有形の民俗文化財

現時点で指定されている有形の民俗文化財はありません。

②無形の民俗文化財

無形の民俗文化財は町指定の「竹之下太鼓」1件です。竹之下太鼓は江戸時代中期から伝わる民俗芸能で、富士講の導師の安全祈願に由来すると言われていています。神楽や神事に関わるものは現在指定されていません。



図2-7 竹之下太鼓（町指定）

(4) 記念物

①遺跡（史跡）

史跡は、2件（国指定1件、町指定1件）が指定されています。国指定の史跡富士山の範囲は富士山八合目以上で、富士浅間神社と須走口五合目から上方の須走口登山道が史跡を構成しています。

また、乗光寺大森六代之墓（6基）が町指定となっています。



図2-8 乗光寺大森六代之墓（町指定）

②名勝地（名勝・特別名勝）

名勝地（特別名勝）は、1件が指定されています。国指定の特別名勝富士山は、本町のみならず、日本のシンボルともいえる重要な文化財です。



③動物、植物、地質鉱物（天然記念物）

天然記念物は、9件が指定されています。天然記念物は全て樹木で、県指定が3件、町指定が6件です。柳島八幡神社やなぎしまはちまんじんじやの二本スギ（県指定）など、古木・名木が指定されています。



図2-9 やなぎしまはちまんじんじや 柳島八幡神社の二本スギ
（県指定）

（5）文化的景観

現時点で選定されている文化的景観はありません。

（6）伝統的建造物群

現時点で選定されている伝統的建造物群はありません。

第2節 世界遺産と日本農業遺産

1 世界文化遺産

静岡県と山梨県にまたがり、山頂までが町域となる富士山は、日本一の高さ（標高3,776m）を持つ活火山です。富士山は平成25年（2013）6月、第37回世界遺産委員会において、「富士山～信仰の対象と芸術の源泉～（Fujisan, sacred place and source of artistic inspiration）」の名称のもと、文化遺産として世界遺産に登録されました。

その背景には、富士山が「信仰の対象」とともに、「芸術の源泉」として、日本人の自然観や日本文化に大きな影響を与えてきた歴史があります。かつては噴火を繰り返す山として畏れられていた富士山は、富士講と呼ばれる信仰集団や浮世絵の登場により、日本人にとって身近な存在になりました。人と自然が信仰と芸術をとおして共生する姿は、富士山が持つ大きな特徴といえるでしょう。そうした歴史文化にゆかりのある25か所の構成資産からなる富士山を、ユネスコ世界遺産委員会は未来に受け継ぐべき世界の宝として認めたといえます。

小山町には、その構成資産（要素）として、須走の富士浅間神社と須走口登山道があります。

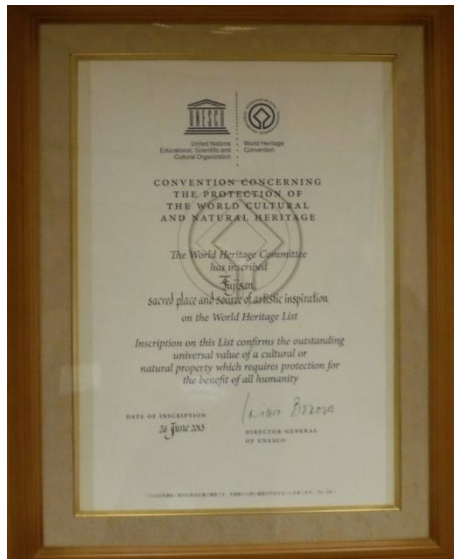


図2-10 世界遺産の登録証
 （富士浅間神社）

表2-3 世界文化遺産 (令和5年8月1日現在)

| 分類 | 名称 | 員数 | 指定日 | 所有者等 | 所在地 |
|--------|---------------------|----|------------|-------------|---------|
| 世界文化遺産 | 構成要素 富士山（須走口登山道） | 1件 | H25. 6. 22 | 国・富士山本宮浅間大社 | 五合目から山頂 |
| | 構成資産 富士山（富士浅間神社） | 1件 | H25. 6. 22 | 富士浅間神社 | 須走126 |





富士山ふじさんの顕著な普遍的価値（世界遺産富士山）

●「富士山ふじさん信仰」という山岳に対する固有の文化的伝統を表す証拠

富士山ふじさんに住まうと考えられた神仏への信仰を起源として、火山との共生を重視し、山麓の湧水などに感謝する伝統が育まれました。その本質は、時代を超えて今日の富士登山及び巡礼の形式・精神にも確実に継承されました。富士山ふじさんとその信仰を契機として生み出された多様な文化的資産は、富士山ふじさんが今なお生きている山岳に対する文化的伝統の類い稀なる証拠であることを示しています。

●顕著な普遍的意義を持つ芸術作品との直接的・有形的な関連性

19世紀前半の浮世絵に描かれた富士山ふじさんの図像は、近・現代の西洋美術のモチーフとして多用され、西洋における数多くの芸術作品に多大なる影響を与えたのみならず、日本及び日本の文化を象徴する記号として広く海外に定着しました。富士山ふじさんは、そのような顕著な普遍的意義を持つ芸術作品と直接的・有形的な関連性を持ち、日本及び日本の文化の象徴としての記号化された意味を持つ類い稀なる山岳です。

出典：富士山ふじさん世界遺産センターHP



世界遺産登録後の歩み

| | |
|----------------------|---|
| 平成25年（2013） 6月22日 | カンボジアで開催されたユネスコ世界遺産委員会で富士山 <small>ふじさん</small> の世界文化遺産登録決定 |
| 平成26年（2014） 7月 | 富士山 <small>ふじさん</small> 保全協力金（基本1,000円）の受付が本格開始 |
| 平成27年（2015） 3月 | 静岡 <small>しずおか</small> 、山梨両県にて世界遺産富士山 <small>ふじさん</small> 基本条例を制定 |
| 平成29年（2017） 12月 | 静岡県富士山 <small>ふじさん</small> 世界遺産センター開設 |
| 令和2年（2020） 7月～9月 | 新型コロナウイルス感染症の影響で史上初の夏山閉山 |
| 令和2年（2020） 12月 | 3回目となる富士山 <small>ふじさん</small> 保全状況報告書をユネスコに提出。 山梨県側の富士山 <small>ふじさん</small> 麓から吉田口5合目にかけての登山鉄道構想に言及。 |
| 令和4年（2022） 3月 | 新たな富士山 <small>ふじさん</small> 火山広域避難計画の中間報告書にて、溶岩流が3時間位内に到達する地域の一般住民は徒歩避難が原則に。 |
| 令和5年（2023） 6月22日 | 世界遺産登録10年 |

2 日本農業遺産

本町を含む静岡県内（静岡市、浜松市、富士宮市、御殿場市、下田市、伊豆市、東伊豆町、河津町、松崎町、西伊豆町、小山町）では、伝統的な農法により行われるワサビ生産、「静岡水わさびの伝統栽培」が日本農業遺産に認定されています。

静岡県は世界のワサビ栽培発祥の地で、静岡市葵区有東木で約400年前の慶長年間（1596～1615）に栽培が始まったとされます。その後、伊豆半島に伝播し、地域で独自の発展を遂げ「畳石式」と呼ばれる栽培方式が確立されました。

本町では、伊豆からこの地へ移り住んだ生産者が栽培を広めたとされ、小山町・御殿場市周辺では火山礫により通水性を高めた「北駿式」と呼ばれる栽培方式で生産されています。

なお、日本農業遺産認定地域のうち、静岡市・伊豆市・下田市・東伊豆町・河津町・松崎町・松崎町域については世界農業遺産に認定されています。



図2-11 北郷地区のワサビ田

日本農業遺産

日本農業遺産とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、ランドスケープ及びシースケープ、農業生物多様性などが相互に関連して一体となった、我が国において重要な伝統的農林水産業を営む地域（農林水産業システム）であり、農林水産大臣により認定されます。

令和5年1月現在、日本農業遺産は、24地域が認定されています。



第3節 未指定の歴史文化資源の概要と特徴

1 未指定の歴史文化資源の概要

令和5年(2023)8月1日現在、明確に把握できている本町の未指定の歴史文化資源は、総数71,102件を数え、その内訳は有形文化財69,787件、民俗文化財5件、記念物106件、文化的景観1件、埋蔵文化財包蔵地42件、その他の歴史文化資源1,161件です。

これらは大切な地域の宝として守られるとともに、地域別の文化財パンフレットにもまとめられ、観光・まちづくり等において活用が図られています。

なお、町内には、宝篋印塔ほうきょういんとうや道祖神どうそじん、供養塔などが多数残存しており、石造物の存在が町の歴史を特徴付ける要因の一つであるため、歴史文化資源の種別に石造物の項目を設けました。

表2-4 未指定の歴史文化資源の集計表(※1) (令和5年8月1日現在)

| 種類 | 種別 | 地区 | | | | | | 合計 | |
|----------|---|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|---------|--------|
| | | せいび 成美 | めいりん 明倫 | あしがら 足柄 | きたごう 北郷 | すばしり 須走 | 地区を またぐ | | |
| 有形文化財 | 建造物 | 32 | 26 | 20 | 46 | 11 | —※2 | 135 | |
| | 石造物※3 | 413 | 282 | 433 | 223 | 106 | — | 1,457 | |
| | 美術 工芸品 | 絵画 | — | — | — | — | — | — | — |
| | | 彫刻 | — | — | — | — | — | — | — |
| | | 工芸品 | — | — | — | — | — | — | — |
| | | 書跡・典籍 | — | — | — | — | — | — | — |
| | | 古文書 | 10,012 | 5,492 | 10,326 | 36,464 | 5,901 | — | 68,195 |
| | | 考古資料 | — | — | — | — | — | — | — |
| 歴史資料 | — | — | — | — | — | — | — | | |
| 無形文化財 | | — | — | — | — | — | — | — | |
| 民俗文化財 | 有形の民俗文化財 | — | — | — | — | — | — | — | |
| | 無形の民俗文化財 | — | — | — | 1 | — | 4 | 5※4 | |
| 記念物 | 遺跡 | 21 | 5 | 30 | 15 | 26 | — | 97 | |
| | 名勝地 | — | — | 2 | — | 4 | — | 6 | |
| | 動物、植物、地質鉱物 | 1 | — | — | 1 | 1 | — | 3 | |
| 文化的景観 | | — | — | — | 1 | — | — | 1 | |
| 伝統的建造物群 | | — | — | — | — | — | — | — | |
| 埋蔵文化財包蔵地 | | 11 | 1 | 20 | 9 | 1 | — | 42 | |
| 文化財の保存技術 | | — | — | — | — | — | — | — | |
| その他 | 伝承 | 13 | 2 | 29 | 2 | 5 | — | 51 | |
| | 信仰 | — | — | — | — | 17 | — | 17 | |
| | 行事・イベント | 2 | 1 | 6 | 2 | 4 | — | 15 | |
| | 地名(町域の成立に関わる地名として25の旧村、1,050ほどの小字名が挙げられる) | | | | | | 1,075 | 1,075※4 | |
| | 特産品(水掛菜 <small>みずかけな</small> 、ワサビ、水稲など富士山麓 <small>ふじさんろく</small> の湧水を生かした特産品が挙げられる) | | | | | | 3 | 3※4 | |
| 合計 | | 10,505 | 5,809 | 10,866 | 36,764 | 6,076 | 1,082 | 71,102 | |

- ※1：現時点で把握できている未指定の歴史文化資源の集計である。
- ※2：「－」は、把握できていないものを示す。
- ※3：「石造物」は本来、建造物や美術工芸品に含まれるが、本町の歴史文化の特徴を示すものであるとともに、未指定のため評価（価値付け）が定まっていないことから、独立した項目を設けた。
- ※4：無形の民俗文化財のうち、食文化に関するものは町域全体に係わるため、地区別の内訳と合計は一致しない。同様に地名・特産品も複数地域にまたがる場合があるため、地区別の内訳は表示していない。

これらの未指定の歴史文化資源のうち、位置の特定できている有形文化財や遺跡、名勝地等を地図上にプロットし、その分布を解析すると、次の図（ヒートマップ）に示されるように、^{せいびちく}成美地区の^{ふしまがり}藤曲周辺、^{めいりんちく}明倫地区の^{すがぬま}菅沼周辺、^{あしがらちく}足柄地区の^{たけのした}竹之下周辺、^{きたごうちく}北郷地区の^{ゆいねんじ}唯念寺周辺、^{すばしりちく}須走地区の^{ふじせんげんじんじや}富士浅間神社周辺に集積、集中していることがわかります。

これらはそれぞれ、^{ふじぼう}富士紡ゆかりの歴史文化資源、^{あしがらとうげ}足柄峠ゆかりの歴史文化資源、そして^{ふじさん}富士山ゆかりの歴史文化資源が集中する地区であるという特徴があります。

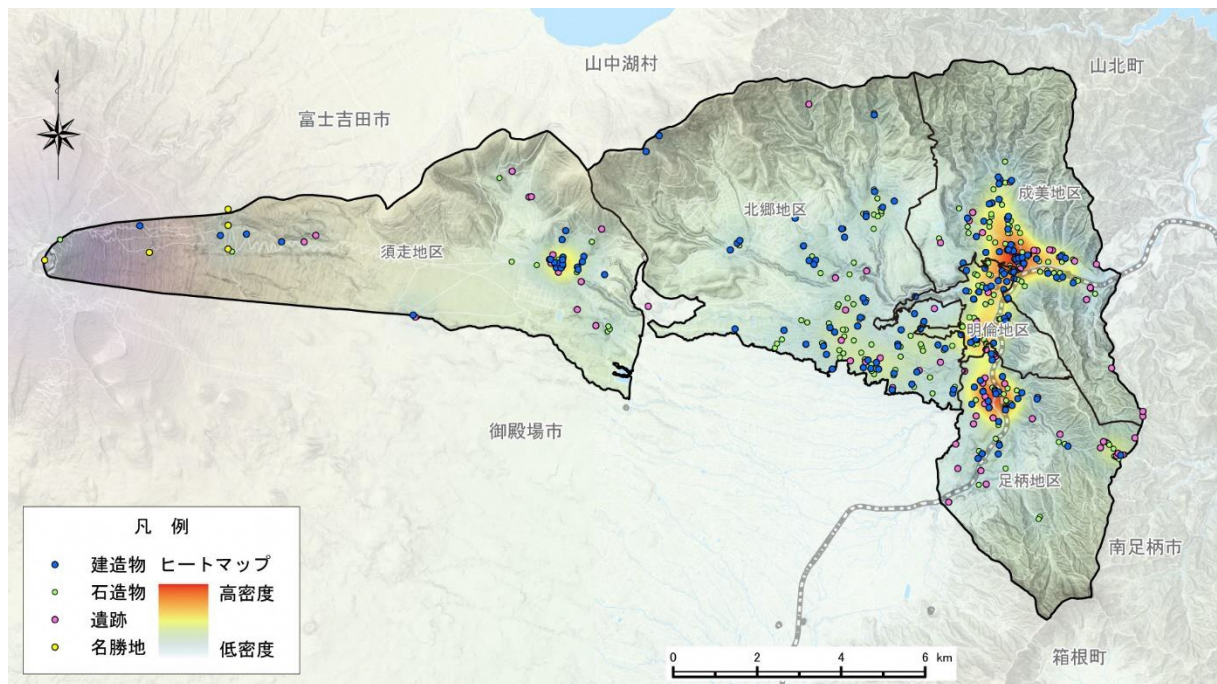


図2-12 未指定の歴史文化資源の分布とヒートマップ



2 未指定の歴史文化資源の特徴

ここでは、未指定の歴史文化資源の概要と特徴について整理します。なお、詳細な歴史文化資源のリストは巻末資料編に掲載しています。

(1) 有形文化財

① 建造物

これまでに確認されている未指定の建造物は135件を数えます。神社や寺院の建物と、お堂がそのほとんどを占めますが、成美地区の生土用水や藤曲用水のほか、湯船大堰、明倫地区の天神原貯水池などの土木構造物や農業関連の建造物も残っています。これらは、農業や生活に不可欠な施設として、現在もそのまま地区の人々に利用されています。



図2-13 藤曲用水

また、深沢城（御殿場市）から移設されたと伝わる城門が成美地区の勝福寺と明倫地区の十輪寺に残されています。

足柄地区には、足柄城跡の一の曲輪の北側に足柄聖天堂があります。弘仁2年（811）に弘法大師が堂を建設し、「大聖歡喜双身天」を安置したと伝えられています。浅草の聖天、生駒山の聖天と並び、「日本三大聖天」と呼ばれています。



図2-14 迎久須志之神社
(富士山須走口九合目)

須走地区には、富士浅間神社に合祀された各種社殿の他、富士山須走口五合目の古御嶽神社、本六合目の胎内神社、九合目の迎久須志之神社の社殿が残っています。いずれも現在も定期的に宗教行事が行われている神社です。

② 石造物

町内の石造物で、これまで確認されているものは、1,457基です。地区別には、足柄地区が433基と最多であり、続いて成美地区413基、明倫地区282基、北郷地区223基（資料編（2）石造物・イ.近世以降・番号842、846は唯念上人に関する石碑群として1基とカウント）、須走地区106基（資料編（2）石造物・イ.近世以降・番号994は、富士浅間神社の富士講石碑群として1基とカウント）となっています。

石造物は、小山町を特徴付けるものとして、句碑、歌碑、筆子塚、巡礼供養塔を

始め、^{どうそじん}道祖神や^{ばとうかんのん}馬頭観音、^{そうたいどうそじん}双体道祖神や道しるべなども残っています。これは、^{おやまちょう}小山町に^{あしがらこどう}足柄古道や^{かまくらおうかん}鎌倉往還が通っていただけでなく、^{みくりやはちじゅうはつか}御厨八十八箇所巡礼や^{しよじゆんれい}御厨横道巡礼のルートとなっていたことから多く築かれたものと思われます。

また、江戸時代後期から^{おやまちょうえの}小山町上野に「^{ゆいねんじ}唯念寺」を開いた念仏行者^{ゆいねん}唯念の名号碑^{みょうごうひ}が町内に17基残っています。名号碑は、平成22年（2010）の豪雨災害で1基が流亡しましたが、えぐれた河床から別の^{みょうごうひ}名号碑が新たに1基発見されました。この名号碑や名号塔は、^{みょうごうひ}駿河、^{みょうごうひ}伊豆、^{みょうごうひ}相模を中心に数百以上建立されたようですが、現在までその実数の把握には至っていません。たびたび水害により流出したものもありますが、現在でも^{ゆいねんじ}唯念寺及び^{ゆいねんじ}唯念寺開山堂には、観音像や地蔵などの石造物が残っています。

^{すばしりちく}須走地区の石造物は、^{ふじせんげんじんじや}富士浅間神社境内におよそ70基の^{ふじこう}富士講に関連する石碑が残っています。さらに、^{すばしりぐち}須走口登山道の道しるべの役割を果たした「^{ふじこう}丁目石」の起点が^{ふじせんげんじんじや}富士浅間神社西側の現在の^{みやうえ}宮上駐車場にあり、旧登山道沿いに5基確認されています。そのうちの1基（百一丁目の丁目石）は、令和4年に新たに発見されました。そして、最大数の丁目が「101」であることから、未発見の丁目石が残存している可能性があります。

このように多数の石造物が町内に残っている要因として、^{あしがらちく}足柄地区や^{すばしりちく}須走地区などが交通の要衝だったことで、^{どうそじん}道祖神や道しるべ等が数多く建てられたことや、^{せいびちく}成美地区や^{きたごうちく}北郷地区などが巡礼路のルートであり、その石造物を現在も使用していることなどが考えられます。さらに、幕末から明治にかけて長野県から石工が数多く町内に出稼ぎに来ていたこともひとつの要因となっています。



図2-15 丁目石の起点となる石造物



図2-16 九十六丁目の丁目石



図2-17 新たに発見された丁目石（百一丁目）



③美術工芸品（古文書）

現在、町で把握している美術工芸品の圧倒的多数を占めているのは古文書です。本町では町内の旧家などから発見された古文書などを調査し、『^{おやまちょうし}小山町史資料所在目録』などの形で整理してきました。これまで整理された古文書の総数は6万件以上にのぼり、町の歴史文化の解明に役立てられてきました。古文書の分布に関しては^{きたこうちく}北郷地区で把握されたものが多く、総数の半数以上にあたる3万件以上が発見されています。なお、古文書は、^{むらかがみ}村鑑や検地帳、法度などの公式文書や証文、私信などの近世文書が多数を占めています。

◆御札

町域の旧家から、しばしば大量に保管された御札が発見されています。これらは主に寺社から授かったものであり、屋根裏の木箱に納めたり、俵に入れて吊るされて保管され、時には1,000点を超える御札が見つかる場合もありました。これらは地域の信仰や交流の歴史を知る上で重要なものです。

一方で、本町では小正月の「さいと焼き」（どんど焼きとも呼ばれる）において旧札を焚き上げる風習もあり、必ずしも御札を保存する風習があったわけではありませんでした。

（2）無形文化財

現時点で把握している未指定の無形文化財はありません。

（3）民俗文化財

①有形の民俗文化財

現時点で具体的な把握に至っている有形の民俗文化財はありませんが、町内の林業や農業にかかわる民具が残されている可能性があります。

②無形の民俗文化財

本町に残る無形の民俗文化財は少なく、民俗芸能は町指定文化財である^{たけのした}竹之下^{だいこ}太鼓を除くと、^{ようさわかくら}用沢神楽のみが確認できます。古文書によると、^{ようさわかくら}用沢神楽は江戸時代から明治にかけて行われていたとされ、当時の神楽は継承されていませんが、地域の古老に伺った話をもとに、神楽を復活させ、^{よしだじんしゃ}吉田神社や^{ようさわはちまんぐう}用沢八幡宮を拠点に太鼓と笛の奉納が行われています。

また、食文化として、^{ほこすし}箱鮓や特徴的な雑煮、^{みすかけ}水掛菜料理などが挙げられます。

◆箱鮓（箱寿司）

本町や御殿場市域に伝わる料理として「箱鮓」が挙げられます。1人前の箱にすし飯を敷き詰め、シイタケ、油揚げ、ニンジン、卵、でんぶ、ミョウガなどを具材とし、蓋をして軽く押したもので、祭りや田植え終わりの早苗振りなどでよく作られていたとされます。



図2-18 箱鮓（1993年撮影）

◆雑煮

湯船地区などには、サトイモとダイコンの味噌煮の雑煮が正月料理として伝わっています。伝承によると、宝永4年（1707）11月の富士山の噴火の際、火山灰等により雑煮の具となる野菜が失われましたが、既に収穫して保存されていた里芋と大根だけが残り、それ以来このような雑煮が続けられているとされています。

（参考：『湯船の古い民俗文化を探る』雷親会 昭和60・61年）

◆水掛菜（とう菜）料理

水掛菜の最も一般的な食べ方としては、「水掛菜漬」が最も知られています。

平成期までの漬け方として、水掛菜25キロをあら塩1キロ（4%）の濃度で塩漬けし、水掛菜に塩を少しずつ振りながらよく手で塩揉みし、2斗樽に平らになるように詰めていきます。その後水抜きをしながら、3日間漬けることにより「水掛菜漬」が完成します。

現在は、まず手摘みによる摘み取りを行います。摘み取った水掛菜の中から、太い茎、枯葉、赤葉を取り除きます。その後、水を流しながら水掛菜をよく洗い、その上で水切りを30分以上かけて行います。漬ける際は、生葉10kgに対し、塩420gを加え、手で水掛菜が濃い緑色に変色するまで揉み込みます。漬け込んでから1昼夜は天地替えを行い、3日程度漬け込むことで完成します。

塩漬けや唐辛子を入れたり、生産者の嗜好により様々な水掛菜漬が作られますが、町民はこの水掛菜漬を食べることにより春の訪れを感じます。

その他の食べ方として、水掛菜の入った玉子豆



図2-19 水掛菜の収穫

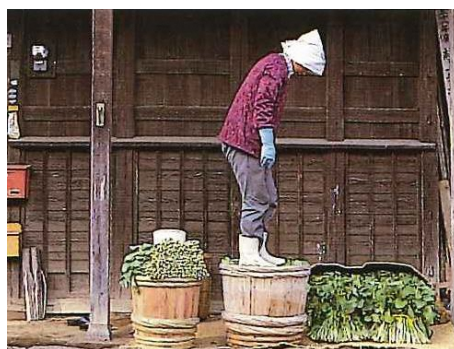


図2-20 昭和期における水掛菜の漬け込み

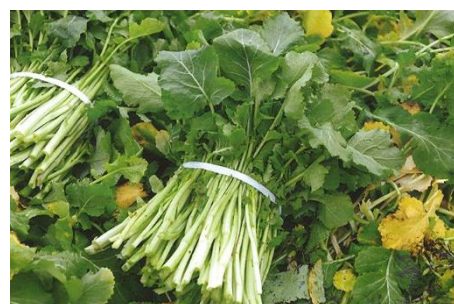


図2-21 水掛菜の生葉



腐や辛子和え、海苔巻きにした菜寿司、ドリア、水^{みず}掛^{かけ}菜^なと鶏モツの辛味炒めなど、和洋中で楽しめる料理があります。

水掛菜^{みずかけな}の出荷の時期には、町内の道の駅や農協などで買い求め来る方が多く来町し、季節を感じる野菜、伝統の野菜、そして無農薬の野菜として高く評価されています。



図2-22 製品となった水掛菜^{みずかけな}

(4) 記念物

① 遺跡

本町における遺跡は全て未指定です。町域は富士山^{ふじさん}の火山活動の影響を受けやすい位置であることから、富士山^{ふじさん}の造山活動や噴火活動が活発であった旧石器時代や古墳時代の遺跡や古墳は見つかっていません。

町域最古の遺跡は、柳島^{やなぎしま}にある縄文時代^{じょうもん}早期の土器が発見された「沼子遺跡^{ぬまこいせき}」です。その他、古代の遺跡や中世から近世の城跡や古道、発電所や暗渠などの近現代の産業に関わる遺産などが挙げられます。



図2-23 沼子遺跡^{ぬまこいせき}

また、小山町^{おやまちょう}域は、宝永4年(1707)の宝永噴火^{ほうえい}で、降灰により全滅したエリアです。噴火後は、降灰を除去せず、スコリアの上に村を再興したことから、近年のレーダー探査や試掘調査により、宝永噴火^{ほうえい}で埋没した町並みなどが明らかになってきています。本町は、宝永噴火最大の被災地であり、県立小山高等学校^{おやま}のある横山^{よこやま}遺跡^{いせき}や湯船城跡^{ゆふねじょうあと}、須走^{すばしり}の日向遺跡^{ひなだいせき}など至る所で噴火前の畑の跡などが確認されています。

一方、倒壊、消滅している神社なども遺跡に分類しています。五合目下方の御室浅間神社^{おむろせんげんじんじや}は、社殿が倒壊した状態であり、さらにその脇の雲霧神社^{くもぎりじんじや}は跡地のみが確認できる状況です。



図2-24 倒壊した御室浅間神社^{おむろせんげんじんじや}

②名勝地

名勝地としてあげた6件のうち4件は、富士山に関連するものです。いずれも特別名勝富士山の範囲内にあることから文化財保護法で保護されていますが、展望地点として特筆に値するため、個々の地点を名勝地として位置付けました。

金時山は、金太郎の遊び場として知られており、山頂からは富士山や芦ノ湖、太平洋を見渡せる展望地として常に多くの登山者で賑わっています。

足柄城跡の裾に位置する誓いの丘は、町全域を見渡せる展望地点です。富士山頂から三国山地、愛鷹山、そして御殿場市から裾野市に広がる東富士演習場を眺めることができるため、季節を問わず、多くのハイカーや写真家が訪れています。



図2-25 金時山から望む富士山

③動物・植物・地質鉱物

地質に関するものとして、神縄断層があり、伊豆半島が100万年前から50万年前にかけて本州に衝突した場所として、数多くの地学研究者や学生等が訪れています。

本州側は凝灰岩、伊豆半島側は礫層となっています。



図2-26 神縄断層

(5) 文化的景観

文化的景観としては、「阿多野用水により営まれる水田景観」が挙げられます。江戸時代に作られた阿多野用水は、丹沢山系の湧水を水源に持ち、暗渠を主体とする農業用水です。用水を利用し、春～秋は米、秋～冬は水掛菜が作られています。冬季の水掛菜田での栽培は、明治20年代より続く伝統的な風景として、町民にとって冬の風物詩となっています。





図2-27 水掛菜の栽培風景

(6) 伝統的建造物群

現時点で把握されている未指定の伝統的建造物群はありません。

(7) 埋蔵文化財包蔵地

埋蔵文化財包蔵地は、現在42か所が登録されています。富士山の造山活動が盛んだった旧石器時代については、現在まで確認されていません。

最古の埋蔵文化財包蔵地は、柳島にある縄文時代早期の「沼子遺跡」です。その他、上野や生土、一色などにも存在しています。弥生時代の埋蔵文化財には、桑木の「池の沢遺跡」があります。須走地区の西沢から弥生時代後半から古墳時代初頭の「手焙形土器」が出土し、国の重要文化財に指定されています（御殿場市所有）。しかし、出土地点が明確でないことと、土器の散布が無いことから埋蔵文化財包蔵地登録はなされていません。なお、これまで縄文時代や弥生時代の集落は確認されていません。

古墳時代の埋蔵文化財包蔵地として、竹之下の「横山遺跡」などがありますが、古墳は1基も確認されていません。

奈良・平安時代の包蔵地として、竹之下の「上横山遺跡」や桑木の「南ノ原遺跡」があります。南ノ原遺跡は鍛冶を行っていた集落として住居跡のほか、刀子、鉄製装飾品などが出土しています。

中世の豪族の館として藤曲の「藤曲屋敷」、竹之下の「竹之下屋敷」のほか、城跡として「足柄城跡」、「生土城跡」、「尾立城跡」など後北条氏に関連する城跡が残っています。

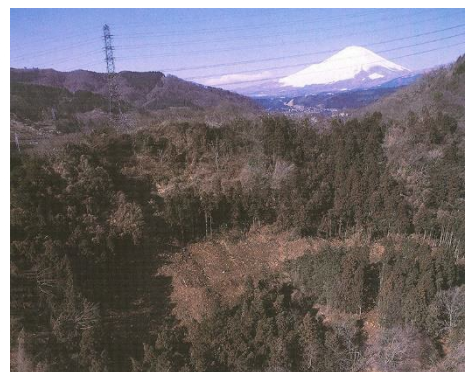


図2-28 尾立城跡

江戸時代の埋蔵文化財包蔵地として、須走の「日向遺跡」が登録されています。この遺跡には、宝永噴火で埋没した家屋や畑が検出しており、噴火後に火山灰を除去せずに、火山灰の上に新たに町を再興したことによるものです。また、中世の「湯船城跡」からも宝永噴火で埋没した畑跡が検出されました。

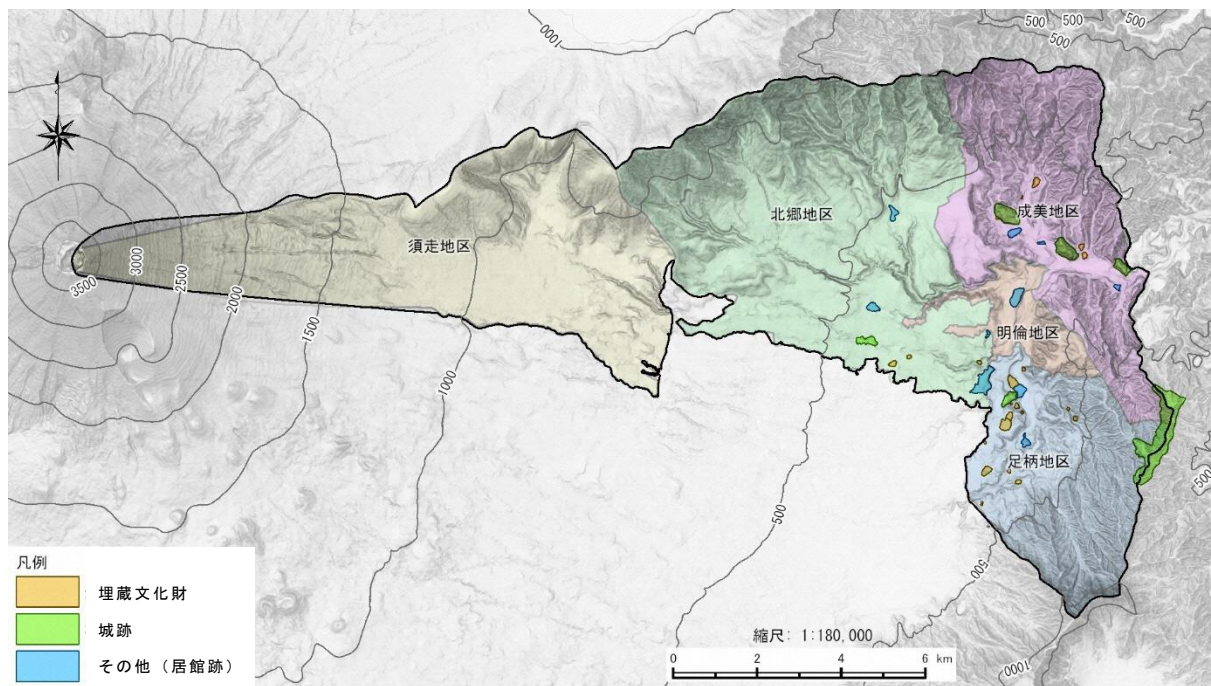


図2-29 埋蔵文化財の分布図

(8) 文化財の保存技術

現時点で把握されている文化財の保存技術はありません。

(9) その他の歴史文化資源

文化財保護法に定められる文化財等の類型に該当しないものの、金太郎伝説や合戦にまつわる伝承、富士講などの信仰、社寺などで行われる歴史ある行事・イベント、歴史にゆかりのある地名、特産品など、本町の歴史文化を語る上で欠かすことのできない歴史文化資源が存在します。

① 伝承

本町の町域には数多くの伝承地が存在します。それらは未指定文化財と同様に文化財パンフレットにまとめられ、成美地区13件、明倫地区2件、足柄地区29件、北郷地区2件、須走地区5件の合計51件となっています。

これらは金太郎伝説の伝承地、竹之下合戦の舞台などが主なものとなっています。



◆**金太郎の伝承**

平安時代に関する逸話として、**金太郎**の伝承があります。

本町は童謡に歌われる「**足柄山の金太郎**」が生誕し、幼少期を過ごした地として、数々の伝承が残っています。これらの伝承については昭和55年（1980）に発行された『**足柄山の金太郎**』という冊子にまとめられています。

足柄山の近くで**山姥**を母として生まれ育った**金太郎**は、赤い体をした大変力の強いたくましい子どもと言われています。いつも大きな「まさかり」を肩に、獣や魚、鳥などを仲間として、山中を裸で駆け回って遊ぶ健康な体の持ち主でした。成人すると**源頼光**に見出され、**坂田公時**という名をいただき、**渡辺綱**、**碓井貞光**、**卜部季武**と共に、「**頼光の四天王**」と呼ばれる武士になりました。

◆**虎御前石と頼朝の馬蹄石**

鎌倉時代に関する逸話として、「**虎御前石**」と「**頼朝の馬蹄石**」の伝承があります。

虎御前は、『**吾妻鏡**』にも登場する実在する人物であり、**相模（大磯）**の長者の娘で、**曾我十郎祐成**の妾でした。**十郎祐成**と**五郎時致**の兄弟が、**源頼朝**が行った**富士**の巻狩りに乗じて父の敵・**工藤祐経**の仇討ちを果たそうと聞いた**虎御前**は、**大磯**から**足柄山**へ来ました。**足柄城跡**西側500mの山中にあるこの石に座って夜を明かしながら、**曾我兄弟**の悲願成就を祈ったといわれています。それ以来この石は「**虎御前石**」と呼ばれ、**富士山**に向かってこの石の上に座り願い事をすると、願いが叶うといわれています。また、この石の前を通る古道は、「**虎御前古道**」、この山の地名は「**虎御前山**」と呼ばれています。

頼朝の**馬蹄石**は**富士**の巻狩りの際にそこを通りかかった**源頼朝**の馬の蹄の跡が残った石だと伝えられています。

◆**延命地藏尊（用沢小僧）**

地元には伝説として次のように伝わっています。

宝暦4年（1754）、**用沢**に**庄兵衛**という子が生まれました。大きくなるに従いその行動は神出鬼没となり、大家の財宝を盗んでは貧しい人々に与えたりしたことから、「**用沢小僧**」と呼ばれました。**安永**6年（1777）、盗みをする**用沢小僧**は藩主の命令で捕えられ、**井戸**に落とした**用沢小僧**を村中で石詰めにして殺してしまいました。その後、村に災いが続いたため、**天保**2年（1831）、**青龍寺**の**西堂孝州**和尚が現在地に石の**地藏像**を安置し、供養しました。

現在、**用沢**地区の旧家の庭先には、小型の五輪塔型の**供養塔**が置かれています。



図2-30 供養塔

◆**鬼鹿毛馬頭観音**

室町幕府の第6代征夷大將軍足利義教が富士山麓にて巻狩りを行った際、鎌倉の小栗判官助重が照天姫と共に十人の士卒を従え將軍にまみえんと新柴村横山の地にさしかかったとき、愛馬鬼鹿毛は命尽きて亡くなりました。助重は横山という武将の元で愛育され、横山という地で命尽きたことに因縁を感じ、この地に手厚く葬り寺を建てました。このとき、本尊を鬼鹿毛馬頭観世音菩薩と称し、寺号を鬼鹿毛寺としたといわれています。

寺は元禄16年（1703）の震災により現在の位置に移り、山号は和泉山、寺号は円通寺と改められました。円通寺では鬼鹿毛馬頭観音を御本尊（秘仏）とし、60年に一度の御開帳があります。近年では平成26年（2014）に公開されました。

②**信仰**

信仰には、御師に関わる祭器や民具などの有形文化財や、念仏や祭祀等の無形文化財が混在しており、これらの有形文化財と無形文化財が一体となって1つの歴史文化を構成していることから、本計画では「信仰」としてここに整理します。

◆**富士講**

須走地区は近世以来続いてきた富士講をはじめとする富士登山関係者の受け入れ地として発展し、幕末期の街道沿いには家々が並び、街道の中央には火の見やぐらや石塔が立ち並んでいました。

また、須走地区には、かつて17軒の富士講の御師住宅があったことがわかっています。これらの御師は富士講の人々が登山する期間である7月から8月に自分の家を宿にして、富士講の人々のサポートを行いました。富士登山用の装束の手配から弁当や薬、笠等を準備し、登山者の安全を祈願しました。

そして、御師住宅を利用した人々（檀家）の村を秋から春にかけてまわり、御札を配っていました。



図2-31 富士講信者の装束

◆**山の神講、観音講、庚申講**

本町に伝わる信仰の代表的なものとして「山の神講」や「観音講」「庚申講」が挙げられます。山の神講では講員が順まわりに当番をつとめ、1月17日の早朝に各家庭で山の神に詣でて、患方に向かって弓を射て祝う行事を行います。また、その年の当番の家で夕食を食べ、上座に山の神の掛軸を飾り、年長者の音頭でおまいりをし、



御供神で乾杯をして会食をします。観音講はその翌日の1月18日と8月18日に行われます。庚申講は干支で庚申にあたる日に神仏を祀って徹夜をする行事で、町内には多くの庚申塔があります。

③行事・イベント

本町には寺社に伝わる大祭や富士山の開山式・閉山式などの伝統的な祭事の他にも、広く町民に親しまれる富士山金太郎春まつり・夏まつりなどが開催されています。これらは町民が歴史文化にふれる機会として、重要な役割を担っています。

なお、これらの行事のうち、富士山の開山式・閉山式や寺社の大祭等の祭事の一部には、無形の民俗文化財として位置付けるべきものもありますが、本計画では一連の祭事全体を「行事・イベント」として位置付けました。本町の主な伝統行事として、次の表に併せて整理します。



図2-32 足柄峠笛まつり

表2-5 小山町の主な伝統行事

| 実施時期 | 名称 | 備考 |
|----------|------------|---|
| 4月17・18日 | 円通寺大祭 | 円通寺 |
| 4月20日 | 聖天堂大祭 | 日本三大聖天尊のひとつに数えられる |
| 4月20日 | 金時山頂猪鼻神社大祭 | 猪鼻神社 |
| 5月3日 | 富士山金太郎春まつり | 子どもたちの健康を祈願し開催される |
| 5月5日 | 富士浅間神社例大祭 | 富士浅間神社（4日：前夜祭、6日：後日祭） |
| 6月下旬 | 沼子弁財天大祭 | 沼子弁才天公園 |
| 7月1日 | 富士山開山式 | 富士登山者や山小屋の方々の安全を祈願。 須走本通りでパレード開催（富士浅間神社） |
| 7月10日 | 富士山開通式 | 富士登山の安全を祈願する（須走口五合目） |
| 7月下旬 | 富士山金太郎夏まつり | 自然とのふれあいを楽しむイベント |
| 8月23・24日 | 竹之下地藏尊大祭 | 宝鏡寺 |
| 8月31日 | 大御神角取神社風祭 | 八幡宮（角取神社） |
| 9月10日 | 富士山閉山式 | 富士山の閉山を奉告する祭典（富士浅間神社） |
| 9月第2日曜日 | 足柄峠笛まつり | 足柄峠を挟む小山町と南足柄市が共同で開催 |
| 9月末 | 白簾神社祭典 | 竹之下合戦の二条為冬卿他74名の菩提を弔う |
| 12月12日 | 竹之下合戦慰霊祭 | 興雲寺 |

④地名

◆おあざめい
◆大字名

第1章にて述べた合併の歴史をさらに遡ると、本町にはかつて25の村（現在は本町に所属していない旧古沢村を含む）があり、それらは現在の大字名として受け継がれています。それらの多くは地域の地形や地理的条件により形成された集落から生まれたもので、合併により1つの町となった現在でも、地域の行事や風習、祭りの違いなど、かつての地域の特色が受け継がれています。（合併の経緯については第1章を参照）

◆こあざめい
◆小字名

本町の地名の最も細かい単位である「小字名」について、『小山町史』の編纂準備の過程で町地形図に小字名を切った『字切地形図』を作成し、町の大切な研究資料として現在も利用されています。この『字切地形図』によると、約1,050の小字があります。明治期以降、全国の小字は統合・廃止により減少し、一般的に住所の表記に使用されないことも多いものですが、町の歴史などを知る上で重要な資料でもあります。代表的な例として「屋敷（ヤシキ）」という小字は、古い家筋の住居などがあった場所とされています。

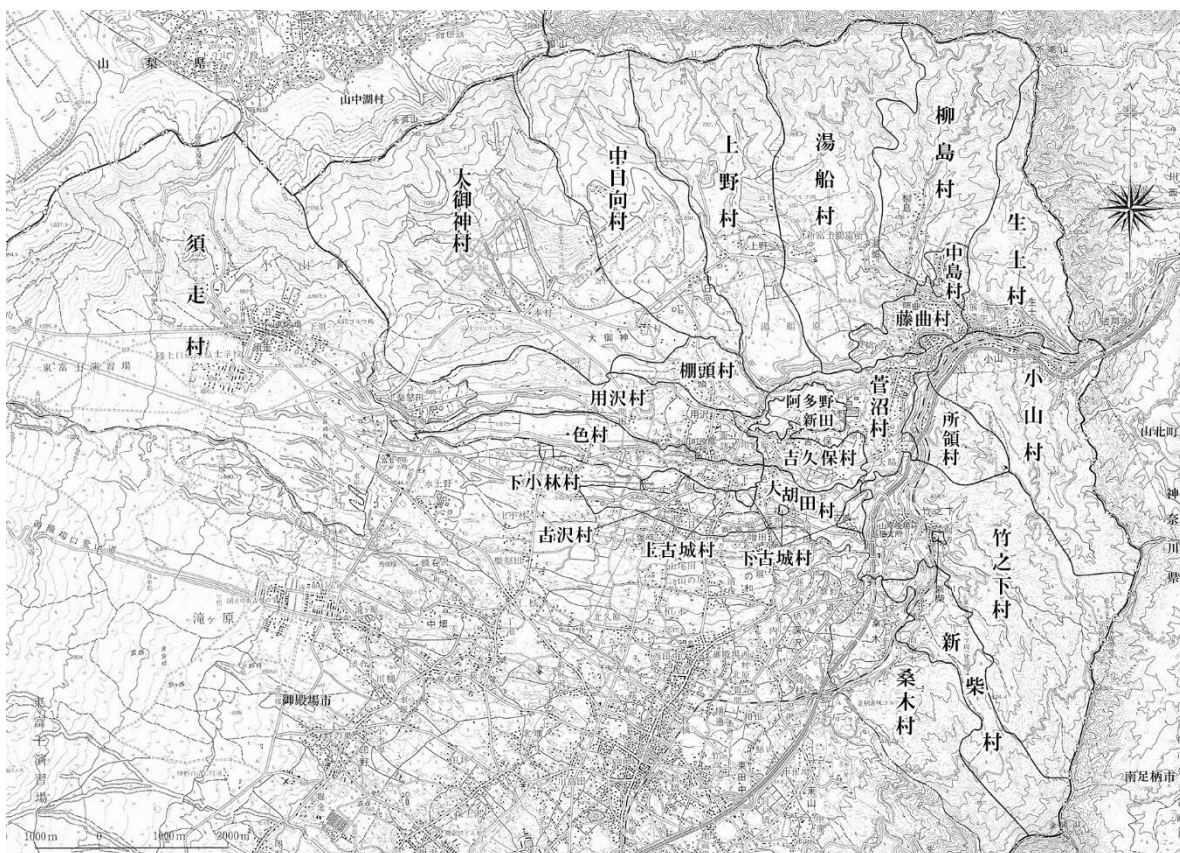


図2-33 町域の旧村25か村



⑤特産品

本町の特産品としては、水掛菜、ワサビ、水稲といった農作物が挙げられます。

◆水掛菜（とう菜）

『北駿の水掛菜料理』によれば、町に水掛菜が伝わった経緯として次のように示されています。「明治19年春、旧北郷村阿多野の戸長である喜多長平治が越後に旅をした折に、湧水利用により厳寒期を過ぎたばかりの春にも関わらず、青々とした菜が栽培されているのを見つけ、小山町の湧水と類似することから、その種子を譲り受け、持ち帰り、これを越後と同様な栽培をしたのが始まりとされている。」



図2-34 水掛菜の栽培風景

当時は水稲用の緑肥として栽培されていましたが、明治20年代に東海道線（現JR御殿場線）施設工事の際、労働者として来町した越後の婦人が食用に供したのが調理の始まりとされています。この頃より「とう菜」あるいは「水菜」として近隣町村で販売され、その後は小山町から御殿場市域へも広まりました。

稲刈りを終えた10月頃に高畦にした田に水掛菜の種を蒔きます。そして、霜害から護るために高畦に水をかけ流して育て、1月下旬から2月下旬にかけ、茎を手摘みします。湧水を掛け流すことで、青葉の凍結を防ぐことが出来ました。

なお、天保5年（1834）に御殿場の二岡神社神職内海信尹が記した『二岡詣』には、「奈良橋の水菜」が登場しますが、喜多長平治が栽培を始めた水掛菜と同一種のものであるかは分かっていません。

◆ワサビ

須走地区や北郷地区の河川上流では、谷地にワサビ田が分布しています。そのほとんどが富士山の湧水を利用した場所に作られており、「畳石式」や「北駿式」と呼ばれる生産方式は、日本農業遺産に認定されています。本町を含む駿東地方のワサビ栽培の歴史は、明治末期から大正期にかけて伊豆地方の生産者によって開かれたのが始まりといわれていますが、水掛菜の節で示した『二岡詣』には、「上小山の山葵」が登場しますので、その起源は諸説あります。



図2-35 「北駿式」のワサビ田

現在はスコリア層の上に壇状にワサビ田を広げ、湧水を掛け流す「北駿式」が主流となっており、須走地区と北郷地区で営まれています。

◆水稲（コシヒカリ）

御殿場市及び本町で生産される「ごてんばこしひかり」は、静岡県随一のブランド米といわれています。ごてんばこしひかりは北駿地域の標高300～600m地帯の、冷涼で昼夜の気温差が大きい気候や、富士山の豊富な伏流水を利用して栽培されています。地域のコシヒカリの生産は昭和48年（1973）に導入され、今も栽培技術と品質の向上が図られています。



図2-36 「ごてんばこしひかり」の栽培風景（小山町阿多野）



第3章 小山町の歴史文化の特徴

本町の歴史文化を説明する上で重要となる要素として、町民のアイデンティティや信仰及び文化芸術につながる「富士山」、小山町の発展の基礎となった「近代産業の発展」、古くから交通の要衝として重要な役割を果たした「足柄峠」の歴史文化を挙げることができます。

本章では、第1章・第2章を踏まえて、次の3点に焦点を当て、本町の歴史文化の特徴について整理します。

なお、本文中に記載のある歴史文化資源の位置や概略は第6章に整理しています。

1 富士山に関する歴史文化

活火山富士山とともに生きるまち

日本の象徴ともいえる富士山は古くから信仰や崇拝の対象であり、多くの寺社や登拝・遙拝の対象とされ、本町においても富士浅間神社や富士登山道などゆかりの資源や信仰が受け継がれています。

一方で、小山町は江戸時代の「宝永の大噴火」の最大の被災地でもありましたが、小山の人々は力を合わせ復興を遂げました。

2 小山町への企業進出に関する歴史文化

企業進出による小山の産業革命

東海道線(現JR御殿場線)の開通を契機に富士紡の工場が進出したことで小山町は転換期を迎え、時には震災や戦災などの苦難を乗り越えながら、企業とともに町は発展していきました。

現在でも豊門公園やその周辺には豊門会館や森村橋など、富士紡ゆかりの文化財が数多くあり、その歴史と功績を身近に感じることができます。

3 足柄峠周辺に関する歴史文化

歴史と伝説が息づく足柄峠

古くから交通の要衝として利用された足柄峠には、古道や合戦の伝承地、城跡や寺社などの歴史文化資源が数多く分布しています。また、小山町は金太郎(坂田公時)生誕の地といわれ、金太郎ゆかりの地が多く分布しています。

足柄峠には『万葉集』にも登場する「足柄の坂」や「足柄山」の地名や、現在も残る足柄城跡などの史跡、弘法大師の伝承の残る聖天堂など、この地の歴史を示す歴史文化資源が数多く残されています。



第1節 活火山富士山とともに生きるまち

富士山信仰にまつわる歴史文化資源は、静岡県及び山梨県の両県にまたがっていることから、はじめに全体の概要を示した上で、次に本町に関わるものを記述します。

1 富士山信仰の歴史とそれにまつわる歴史文化資源

(1) 噴火と遙拝（9世紀頃～）

古来、火山活動を繰り返す富士山は近づくことが難しく、山麓から山頂を仰ぎ見て崇拝する「遙拝」の対象となってきました。文献資料に見る富士山の噴火災害の記録は8世紀（平安時代）に遡り、火山活動の活発化は、鎮火の祈りを行うため浅間大神を鎮座することにつながりました。町内の富士浅間神社社殿の造営も、9世紀初頭にまで遡ると伝えられています。

(2) 修験と登拝（12世紀～）

12世紀以降、修験者たちは、富士山を山岳修行の地とし、富士山の御神徳を拝しながら登山する「登拝」を志すようになりました。走湯山（伊豆山神社）で修行した末代上人（生没年不詳）は、久安5年（1149）頃に富士山へ登拝し、山頂に大日寺を構えて一切経を埋納し、さらに南麓の村山に富士山興法寺（村山浅間神社）を開き、修験道（村山修験）の拠点として発展していきました。大宮・村山口登山道は、村山修験の修験者たちが富士山へ登拝・修行するために開かれた道であり、中世及び近世の江戸時代には、修験者たちが村山口以降山頂までの登山道を管轄し続けました。

(3) 信仰の大衆化と巡拝（14世紀～）

14～16世紀になると、社寺を参詣したり巡拝することを目的とした多くの人々が富士山への登拝を果たすようになりました。そのため登山の案内や世話を務める御師の活動が活発化し、彼らが住む北東麓の上吉田（富士吉田市）や河口が御師集落として繁栄しました。17世紀になると、富士山域及び人穴などで修行した長谷川角行（1541～1646）を祖とする富士講が誕生し、角行の修行の場と伝わる人穴・内八海・外八海などがその霊場とされて、これらを巡る「巡拝」という信仰形態が広まりました。18世紀、富士講は村上光清（1683～1759）・食行身祿（1671～1733）といった指導者のもとで隆盛し、北口本宮富士浅間神社の再建をはじめ、山頂の噴火口の周囲をめぐる御鉢廻り、富士山の山腹を横に一周する御中道巡りなど、山域・山麓の巡礼路の整備が進みました。

(4) 登山の多様化(19世紀中頃～)

19世紀になると富士山^{ふじさん}信仰の神道化が進み、特に明治政府が成立すると、山頂の信仰遺跡群をはじめ山域の処々に祀られていた仏像・仏具の多くが撤去され、それらを祀った^{どうう}堂宇は神社に改められました。また、御師職^{おし}の制度的廃止や富士講再編の動きが進む一方、女人参詣禁止の撤廃や開山期間の拡大、潔斎^{けっさい}の簡略化など多様な信仰形態が広まりました。

現在では交通手段の利便性の向上により、国内外からの来訪者が増加するとともに、観光など、富士^{ふじ}登山に対する動機が多様化しました。また、古くからの巡礼路沿いの山小屋は一部閉鎖されたものもありますが、巡礼路の一部は、現在も、様々な想いを抱き富士山^{ふじさん}を訪れる人々に利用され続けています。



コラム：富士山^{ふじさん}の主な霊場

人穴^{ひとあな} (人穴富士講遺跡^{ふじこういせき})

人穴^{ひとあな}富士講遺跡^{ふじこういせき}は富士宮市の人穴浅間神社^{ひとあなせんげんじんじや}の境内にあり、犬涼み山溶岩流内^{いぬすず やまようがなりゅう}にできた長さ約83mの溶岩洞穴「人穴」^{ようがんどうけつ}と富士講員が建立した200基を超える登拝碑塔^{とほいひとう}等が存在します。『吾妻鏡』^{あづまかがみ}には、「浅間大菩薩(富士山の神)^{せんげんだいぼさつ ふじさん}の御在所」と記され、富士講の開祖とされる長谷川角行^{はせがわかくぎょう}が16～17世紀に修行し、入定したと伝えられる聖地です。以来、人穴は角行の修業の地・入滅^{にゅうめつ}の地として信仰を集め、参詣や修行のために人穴を訪れる講員も多く、供養碑や記念碑などの碑塔を建立することが習慣的に行われました。

内八海^{うちはっかい}

富士山を取り巻く八つの湖である泉瑞^{せんずい}、山中湖^{やまなかこ}、明見湖^{あすみこ}、河口湖^{かわぐちこ}、西湖^{さいこ}、精進湖^{しょうじこ}、本栖湖^{もとすこ}、四尾連湖^{しびれこ}を内八海^{うちはっかい}といい、16世紀後半に角行^{かくぎょう}が富士山麓^{ふじさんろく}の湖沼で「水垢離^{みずごり}」などの水行^{すいぎょう}を行ったとの伝承に基づき、富士講信者の間では山麓の8つの湖沼を巡って水行を行う「内八海巡り^{うちはっかいめぐり}」の行法が定着しました。

外八海^{そとはっかい}

外八海^{そとはっかい}は角行^{かくぎょう}が水行^{すいぎょう}を行った地とされ、琵琶湖^{びわこ}、二見浦^{ふたみがうら}、箱根湖(芦ノ湖)^{はこねこ あしのこ}、諏訪湖^{すわこ}、中禅寺湖^{ちゅうぜんじこ}、榛名湖^{はるなこ}、桜池^{さくらいけ}、鹿島海^{かしまかい}(霞ヶ浦)^{かすみがうら}を指します。これら8つの湖沼を巡り水垢離^{みずごり}を行う修行を「外八海巡り^{そとはっかいめぐり}」と称します。



2 須走口登山道

小山町須走の富士浅間神社を起点とし、吉田口登山道と合流して、山頂の東部へと達する登山道です。その起源は明確ではありませんが、七合目（標高約2,925m）の沿道からは、富士山への奉納物として現存最古の事例である至徳元年（1384）の紀年銘を持つ懸仏が出土しているほか、『勝山記』の明応9年（1500）の記事には須走口登山道に参詣者が集中したとの記述が見られます。

この登山道は、富士浅間神社及びその所在地である須走村が山頂部まで管理していました。宝永4年（1707）の宝永噴火の際には大きな被害を受けましたが、翌年には復興を完了し、多くの参詣者・富士講信者による登拝が行われるようになりました。

昭和34年（1959）には、南麓から現在の五合目（標高約2,000m）に至るバスの通行が可能な道路が完成し、それに伴い、五合目以下の区域における登山道の利用がほとんど見られなくなったため、現在では部分的に登山道の位置を確認することが不可能な区間が存在します。

世界遺産富士山としての須走口登山道の範囲は、現在も利用されている五合目から山頂にかけての区間です。この区間の沿道には複数の山小屋が建てられており、それらの多くが現在も宿泊所として機能しています。

また、五合目には、五合目以下の登山道沿いに存在した複数の神社を昭和54年（1979）に合祀・移築した古御嶽神社があります。

本六合目（標高約2,700m）付近の沿道には参詣者・富士講信者の信仰を集めた風穴の御胎内があるほか、九合目（標高約3,575m）の沿道には18世紀初頭に存在したと考えられる富士浅間神社の末社としての迎久須志之神社及び日の出を遥拝する場所のひとつであった「日ノ見御前」（日ノ御子社）と呼ばれる平坦部が存在します。



図3-1 至徳元年の紀年銘を持つ懸仏

3 富士浅間神社 (須走浅間神社)

須走口登山道の起点となった神社であり、社伝によると、社殿の造営は9世紀初頭にまで遡るものとされています。16世紀には有力封建領主の庇護の下に、山頂部の散銭取得権の一部を獲得しました。社殿は宝永4年(1707)の宝永噴火で崩壊し、享保3年(1718)に再建されました。それ以降に描かれた絵図によると、御神木を含むスギの巨木等の社叢に覆われた境内には、現在と同様の配置・構造の下に、鳥居、参道、「神門」と呼ばれる楼門が一行に建ち、その奥に拝殿・幣殿・本殿が建ち並んでいたことが知られています。平成21年(2009)の本殿の修理にあたっては、享保3年(1718)以降の修築痕跡が随所に認められたものの、いずれの修築に当たっても、享保3年(1718)の再建時における部材の一部が継続的に使用されてきたことが明らかとなりました。18世紀後半以降には、多くの参詣者が立ち寄るようになり、現在、登山道へ連続する参道の両側には、主として20世紀前半に富士講信者が寄進した登拝回数達成を記念するものなど、約70基もの石碑等が残されています。



図3-2 富士講の石碑

また、富士浅間神社では毎年7月1日に開山式、10日に富士登山の安全を祈願する開通式、9月10日に閉山を奉告する閉山式が執り行われています。

なお、富士浅間神社には、「須走浅間神社」、「東口本宮富士浅間神社」との呼称もあります。

4 鎌倉街道 (御坂路)

鎌倉街道は、富士山の北麓を經由して、甲府盆地と御厨地域とを結ぶ古代以来の主要道で、鎌倉往還や鎌倉道とも呼ばれました。河口浅間神社がある河口から河口湖東岸を通過して、北口本宮富士浅間神社・御師住宅がある上吉田に至り、さらに山中湖南岸・籠坂峠(山中湖村・小山町)を經由して、富士浅間神社(須走浅間神社)がある須走へと向かいました。古代東海道又は中世の鎌倉街道として整備されましたが、15・16世紀以降、富士山への参詣者が往来する巡礼路としても利用されました。また、上吉田から忍野八海に向かう道や、山中湖(東岸から三国峠(山中湖村・神奈川山北町)經由で竹之下(小山町)に向かう道も「鎌倉道」と呼ばれました。

また御坂路は、奈良・平安時代に御坂峠を越えて都と甲斐を結んでいた官道(東海道甲斐路)の一部で、鎌倉時代以降は鎌倉街道とも呼ばれ、中央線や中央自動車路が発達するまで甲斐と鎌倉・京都等を結ぶ重要な交通ルートとして使用されました。



5 富士講御師

富士山は、江戸時代においても信仰の山として江戸の町々や関東の村々を中心に各地から多数の参詣者や富士の参詣者を集めていました。富士講信者の宿泊や世話をすることなどの富士山参詣客や交通労働などで須走村は経営を成り立たせていました。須走村の御師は貞享3年（1686）の「御国替被遊候諸事書上下帳」によれば、旦那（御師と継続的に固定した関係を持つ参詣者）として相模・武蔵・下総・上総・安房の国々に及んでおり、そのほかに常陸・奥州・下野・上野の国々からも参詣者があると記されています。御師が営む宿に各地から訪れた参詣者を宿泊させ、富士登山のための準備や世話をしました。さらに、御師ではない百姓身分の人が経営する旅籠も存在していました。

また、延宝8年（1680）の『竹之下村鑑』には、竹之下には御師19人がおり、檀那場は相州であったことが記されています。

その後、宝永噴火の影響を受けながらも御師たちは参詣者の支援を続けていき、その活動は現在も数多くの古文書に記録されています。

6 宝永の噴火と復興

宝永4年（1707）の噴火によって、須走村は他の地区よりも大きな被害を受けました。11月23日、午後4時に富士浅間神社の神職小野大和守の家に火の玉が落ち、家はたちまち炎上、その他の民家も含めて37戸が焼失しました。

その他、焼失はしなかったものの3～4mにも及ぶ砂に埋もれたり、潰れた家が38戸ありました。富士浅間神社も大破し、須走村は壊滅状態となりました。

その後、小山町の他の地区（北郷地区や明倫地区）などは復興が難しかったことから須走口登山道を復興するため、須走だけに特別な災害復旧支援金が幕府から与えられました。翌宝永5年（1708）には、富士登山が再開したこともあり、村人たちは徐々に須走へ戻り、火山灰やスコリアの上に村を再建することとなりました。

しかし、噴火により馬の飼料となる草はなく、馬を手放すこととなり、他村の馬を借り、馬による荷物の輸送は困難となりました。その後、富士登山の要衝であった須走は、登山者の案内や宿泊といった商いが村人の生活を支えるようになりました。

7 世界遺産「富士山」

日本一の高さ（標高3,776m）を持つ活火山、富士山は、平成25年（2013）6月、第37回世界遺産委員会において、「富士山—信仰の対象と芸術の源泉—」の名称のもと世界文化遺産に登録されました。その背景には、富士山が「信仰の対象」であるとともに、「芸術の源泉」として、日本だけでなく世界中の文化に大きな影響を与えてきた歴史があります。

かつては噴火を繰り返す山として畏れられていた富士山は、富士講と呼ばれる信仰集団や浮世絵の登場もあり、日本人にとって身近な存在になりました。人と自然が信仰と芸術を通して共生する姿は、富士山が持つ大きな特徴といえます。

町域には世界遺産富士山の顕著な普遍的価値を構成する資産として、富士山麓（須走口登山道を含む）や富士浅間神社（須走浅間神社）があり、信仰の対象、あるいはその拠点として重要な役割を担っています。



図3-3 世界遺産記念銘
（富士浅間神社）



第2節 企業進出による小山の産業革命

1 小山町の殖産興業（紡績産業）の概要

本町の経済的発展は、明治29年（1896）に新興工業であった紡績事業への進出を目指し、富士紡績株式会社が創業されたことから始まりました。富士紡の進出以前、明治24年（1891）の小山地区の人口は2,578人でしたが、明治43年（1910）には15,314人、大正14年（1925）には19,000人を超えたことからわかるように、同社は現在の小山町の発展に大きく寄与しました。全国各地から数多くの工女が移り住み、寒村であった一体が活気溢れる町、産業革命を起こした町として、近隣市町村からも大いに注目されることとなりました。

初代会長の富田鐵之助、2代会長の浜口吉右衛門と会社が続く一方で、操業間もなく倒産の危機に瀕することとなりました。そこで森村市左衛門の呼びかけにより、専務取締役として入社した和田豊治が累積赤字を償却するだけでなく、純益をあげながら、瞬く間に再興していきます。日比谷平左衛門が社長を務める小名木川綿布の買収や東京瓦斯紡績との合併を経て、当初の2倍の10万錘を有する大企業となっていたのです。そして、大正元年（1912）の菅沼村と六合村の合併に際しては、和田は富士紡の株券100株を贈呈しました。これが小山町の基本財産となり両村が財産を持ち寄らないで新制小山町が誕生するきっかけとなりました。倒産の危機にあり、誰もが見放しかけていた富士紡に入社して見事に会社を立て直した和田豊治は、後に「二世渋沢（栄一）」と謳われ、交友の広さ、面倒見の良さから「友を持つなら和田を持って」とまでいわれるようになりました。

大正12年（1923）9月1日に起きた関東大震災からの復興に尽力していた同年11月、和田豊治は重患となり町民は皆その回復を祈願しましたが、翌年3月に亡くなってしまいました。町にその訃報が届くと、自分の親を亡くしたように悲しみ、全町をあげて彼に哀悼の意を捧げました。

その後昭和になって、紡績業は衰退の途を辿ることとなりましたが、現在、富士紡績株式会社は富士紡ホールディングス株式会社と社名変更し、紡績業ではなく、研磨材などの工業製品を製造しています。



図3-4 和田豊治像
(豊門公園)

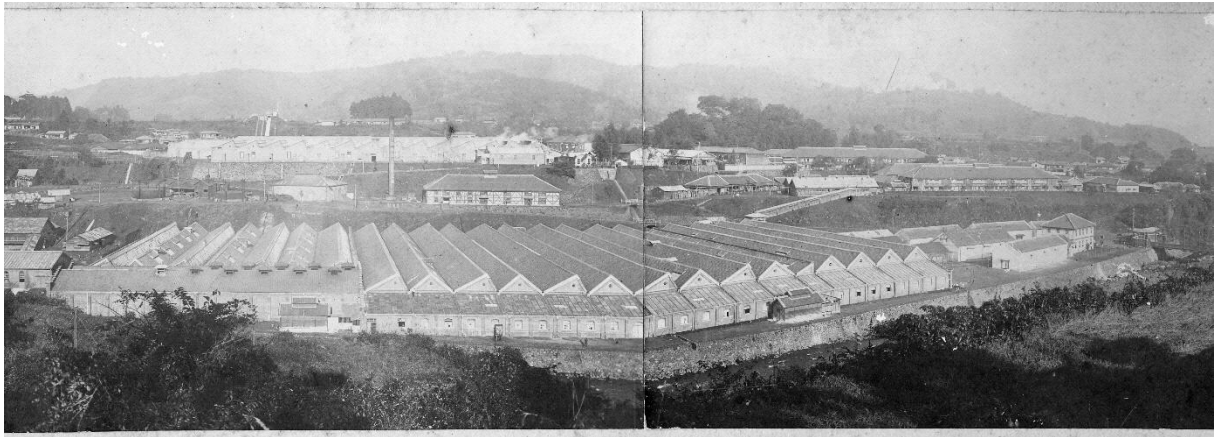


図3-5 富士紡績株式会社 小山工場の外観



図3-6 富士紡績株式会社 小山工場の内観



2 小山の発展と偉人の功績を象徴する「豊門公園」

和田豊治の死後、和田の遺志によって、東京向島の邸宅、延べ126坪が遺族より寄贈されました。現在の豊門公園の場所において、庭園の築造と邸宅の移転工事が行われ、大正14年（1925）12月に移築が完了し、翌年5月16日には盛大な開館式が挙行されました。

豊門会館の名前の由来は、富士紡の四大恩人の功績を後世に継承するために、和田豊治の「豊」と、富士紡の三門と称せられた森村市左衛門、日比谷平左衛門、浜口吉右衛門の三翁の「門」をとったものです。

その後会館には、評論家であった徳富蘇峰が昭和11年（1936）に、飯沼静岡県知事が昭和13年（1938）に、李朝最後の皇太子といわれた李垠殿下等多くの方々が見学、宿泊をしています。また会館内には、本山白雲作の「和田豊治像」や勝海舟書の「六合山荘」、渋沢栄一書の「豊門会館」、徳富蘇峰書の扁額等があります。

会館の洋館部分は、「特に洋間の天井の漆喰塗りと中央に円形照明座を造り、主室の全面に施された漆喰装飾は見事である。」と評価されており、平成17年（2005）11月には、国登録有形文化財に登録されました。

豊門公園の敷地内には、豊門会館と同時に国の登録有形文化財となった「西洋館（旧豊門青年学校）」や、「正門」、「噴水泉」、朝倉文夫作の「和田君遺徳碑」があり、その他、大熊氏広作の日比谷平左衛門氏の銅像（復元）など、小山町と富士紡の歴史を語るうえでも重要なものが多数残っています。

また、豊門公園は令和3年（2021）に第14回静岡県景観賞優秀賞を受賞し、令和4年（2022）1月からは「豊門会館」と「西洋館」が一般公開されています。公園の美しい景観と貴重な文化財は市民の憩いの場、学びの場としても重要な役割を担っています。



図3-7 豊門会館



図3-8 西洋館と噴水泉

第3節 歴史と伝説が息づく足柄峠 あしがらとうげ

1 足柄という地名 あしがら

足柄という地名は『古事記』や『万葉集』にも登場する日本で最も古い地名のひとつです。「あしがら」地名の語源については、江戸時代の地誌『新編相模国風土記稿』や、鳥居龍蔵（1870～1953）博士の、「足柄は足軽の意味で、もとは、船足の軽くて速い」の意味をさしましたが、後に坂や山の名になったという説があります。この説をはじめ、足柄山の語源は、日本語は勿論、アイヌ語・朝鮮語・レブチャ語・アルタイ語や中国語に至るまで数々の説がありますが、未だに結論は出ていません。

2 足柄峠の縄文時代 あしがらとうげ

足柄峠では、大正時代に峠の茶屋の主人（高橋氏）や、八幡一郎（1902～1987）・鳥居龍蔵といった研究者たちによって、縄文土器が採取され、この峠には縄文時代から人々の行き来や生活があったことが分かりました。

本町の縄文時代の遺跡「御園遺跡」から出土した黒曜石は、長野県の和田峠や霧ヶ峰、伊豆七島の神津島、箱根や伊豆半島などから運ばれたことが分かっています。それと同様、当時の足柄峠も様々な人々の往来があったことが分かります。

3 足柄路の成立 あしがらじ

箱根山が急峻であったことや、鮎沢川（酒匂川）沿いが水害に悩まされる土地であったことなどから、足柄峠は交通の要衝として利用されました。

足柄坂・峠越えの道が文献に登場するのは、日本最古の本『古事記』です。有名なヤマトタケルの物語に、足柄坂から甲斐の酒折宮に向かった記録があり、この頃には足柄路が成立していたと思われます。当時は、「東海道駿河郡横走郷」が律令制のもとで本町を含む周辺地域を含む行政区分として存在していました。東海道は、広域の行政区であるとともに交通路の名でもあり、交通路に定められた駅伝制は、地方と都を結ぶ重要な交通・交易を担っていました。

『万葉集』には、足柄越えの困難さを詠む歌や、相模国（神奈川県）に住んでいた庶民の足柄の歌があり、本町周辺の人々が足柄山中で生活していたことを教えてくれます。以来『更級日記』、『海道記』など、著名な文献に足柄路が登場することになります。南北朝時代には、東西交通の要衝である足柄峠や御厨地方をめぐる、「竹之下の合戦」の戦場となり、戦国時代には、甲斐の武田、駿河の今川、相模の北条の三大名が、御厨の地を奪い合う長い戦いが繰り広げられました。



4 足柄峠に存在する主な文化財

◆ 足柄城跡

足柄峠の頂上部分には、北条氏が築いた足柄城の跡が残っています。武田信玄の攻撃に対抗するために築かれた城ですが、段々改修が進められ、豊臣秀吉の北条攻めに対してより防備を固くした遺構が現在残っている城跡です。一の曲輪から五の曲輪まで続く曲輪の跡、空堀、井戸跡などを遊歩道で歩くことができます。その他、足柄城には付属の砦として、北に猪鼻砦、南の尾根に通り尾砦から、古楢尾・阿弥陀尾・丹土尾砦など、五つの砦群が防備を固めていました。ただし、足柄城の城兵は小田原に籠城することになり、足柄城は空になったため、豊臣軍は戦わずして足柄峠を越えました。



図3-9 足柄城跡の復元鳥瞰図
(小山町史第6巻)

◆ 足柄古道

古代中世の足柄路は、ほぼ現在の御殿場線沿いに竹之下（足柄駅）まで来て、足柄路にかかり、林道戦返り線付近を辿って峠越えをしたことが分かっています。足柄峠のどのあたりを通っていたのかは分かりませんが、峠の足柄城一の曲輪跡などで、奈良・平安時代の土器が出土していますので、現在の峠付近を越えていたことは間違いありません。



図3-10 足柄古道

◆ 新羅三郎義光吹笙の石（伝承地）

足柄峠の金時山分岐に新羅三郎義光吹笙の石があります。この石は、近年、200mほど西側の路傍から、道路拡張のときに現在地に移されました。この石に伝わる伝承では、楽土の名門豊原家に伝わる笙の名曲を知る新羅三郎義光を、豊原時秋が足柄峠まで追ってきて伝授してもらう話ですが、これは史実ではなく言い伝えです。『小山町史』ではその事実を解き明かしていますが、言い伝えは言い伝えとして観光資源として町では積極利用し、毎年9月には、峠を挟んだ南足柄市と共に、「笛祭り」を開催しています。



図3-11 新羅三郎義光吹笙の石

◆ 虎御前石（伝承地）

あしがら とらごぜんやま そが あだう そがじゅうろう とらごぜん
 足柄山中の虎御前山にある曾我の仇討ちで有名な曾我十郎の愛人虎御前が、寝そ
 べった跡だと伝える石ですが、民俗学的には「曾我伝説」として、箱根神社や
 おおいそたかくしんじや
 大磯高来神社の神主や巫女たちが伝えた伝説だとされています。

5 近世の足柄峠

おやまちょうたけのした の近世文書に峠の「八郎兵衛の茶屋」が記され、やぐらざわかいどう
 小山町竹之下の近世文書に峠の「八郎兵衛の茶屋」が記され、矢倉沢街道と呼ぶ峠
 はこねとうげ
 越えの道は、箱根峠越えの裏道として人々の往来も多かったことが分かっています。
 みなみあしがら し やぐらざわせきしよあと そがぬまむら おやまちょうない
 南足柄市矢倉沢関所跡の個人宅には、菅沼村等の小山町内の人々の納めた関所手形
 が残っており、おたわらはんりょう みくりや
 小田原藩領だった御厨の人々の利用が多かったことが分かります。
 いのうただたか そくりょうにつき あしがらとうげ
 日本地図の製作で有名な伊能忠敬の「測量日記」には、足柄峠越えの記録が残り、
 しんらさぶろうよしみつししやう きんとき つぶていし
 そこでは、現在の新羅三郎義光吹笙の石が「公時の礫石アリ」と記録されています。

6 現在の足柄峠

あしがらとうげ
 現在の足柄峠は道路やトイレも整備され、素晴らしい富士山の眺望や、峠上に残
 るあしがらじょうあと
 る足柄城跡の探訪など、観光や史跡めぐり、歴史研究などのために、多くの人々が
 訪れていて、本町では富士山と並ぶ観光地として知られています。峠付近には見ど
 ころも多く、いくたちょうすけ きゅうふあんぎゅうおう ばしやうくひ ふるみずしん
 歌人生田蝶介の歌碑、牛負庵牛翁の建てた芭蕉句碑、古見豆人などの文学
 碑や、峠を越える人々の祈りの込められたろくじぞう ふじこうどうしゅひ
 六地藏、富士講導者碑、道しるべ、いっさいきやう
 宝塔、唯念名号碑などの多くの石造物が路傍を彩ります。



あしがらじょうあと ふじさん
 図3-12 雪の積もる足柄城跡から望む富士山



序章

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

資料編

第4章 歴史文化資源の調査

第1節 これまでの調査の概要

これまで本町では、「^{おやまちょうし}小山町史（全9巻）」の^{へんさん}編纂に係る文化財の把握調査や、個別の文化財や埋蔵文化財に対する詳細調査などが実施されてきました。これらの概要は次に示すとおりです。

なお、本計画では調査の種類について、次のとおり調査に関する用語を定義します。また、調査の種類に関わらず広く調査全般を指す場合には「調査」と表現するものとします。



図4-1 ^{おやまちょうし}小山町史（全9巻）

表4-1 歴史文化資源の調査に関する用語

| 調査の種類 | 解説 |
|-------|--|
| 把握調査 | 新たな歴史文化資源の存在を把握するための調査（地域別の調査、類型別の調査等） |
| 詳細調査 | 既に把握されている歴史文化資源を対象に、その詳細を調査し、文化財としての価値を把握するための調査 |
| 再調査 | 過去に把握された歴史文化資源を対象に、その所在を再把握するための調査 |
| 現況調査 | 過去に把握された歴史文化資源を対象に、その保存状態や経年変化の現状を把握するための調査 |
| 発掘調査 | 地中に埋蔵されている文化財の発掘による調査 （試掘調査、確認調査、本発掘調査） 本発掘調査の目的＝学術目的、整備・活用目的、記録保存目的 |

1 ^{おやまちょうし}小山町による把握調査

本町における歴史文化資源に関する調査成果をまとめた資料を代表するものとして、平成2年（1990）～平成10年（1998）に発行された「^{おやまちょうし}小山町史（全9巻）」が挙げられます。これらは^{おやまちょうし}小山町の歴史について、原始・古代から近現代までの歴史、民俗、及びそれらに関する資料をとりまとめたもので、町史の執筆にあたっては既存の調査成果のとりまとめ、歴史文化資源の各種調査が実施されています。

また、町史^{へんさん}編纂に先立って実施された地域別・類型別の把握調査の結果を踏まえ、昭和40年（1965）～昭和57年（1982）に整理された「^{おやまちょうし}小山町文化財のしおり（第一集～第七集）」には、有形・無形の歴史文化資源が網羅的に整理されています。

さらに、町史^{へんさん}編纂とともに昭和62年（1987）～平成8年（1996）に作成された

「^{おやまちょう}小山町の歴史（第1号～第9号）」には、^{へんざん}町史編纂にあたって実施された調査結果が分野別に掲載されています。個人所蔵等の古文書等については資料目録も作成されています。

なお、これらの文献の詳細は巻末資料編に掲載しています。

2 ^{おやまちょう}小山町による詳細調査等

^{おやまちょう}小山町教育委員会では、文化財の把握調査以外にも、指定・未指定の文化財の現況調査、新たな文化財指定に向けた詳細調査、埋蔵文化財の発掘調査について、必要に応じて調査を実施してきました。なお、^{ぬまこいせき}沼子遺跡や^{あしがらじょうあと}足柄城跡に代表される個別の遺跡の発掘調査にあたっては、詳細な調査報告書が刊行されています。

表4-2 ^{おやまちょう}小山町教育委員会による刊行物の一覧

| 書籍名 | 著者名 | 刊行年 |
|------------------------|--------------------|------|
| 足柄城址測覧図・足柄城概念図 | 小山町教育委員会 | 1980 |
| 上横山遺跡 発掘調査概報 | 小山町教育委員会 | 1981 |
| 南ノ原遺跡 | 小山町教育委員会 | 1993 |
| 尾立城跡発掘調査報告書 | 小山町教育委員会 | 1998 |
| 下古城跡確認調査報告書 | 小山町教育委員会 | 1999 |
| 足柄城跡発掘調査報告書 | 小山町教育委員会 | 1999 |
| 沼子遺跡確認調査報告書 | 小山町教育委員会 生涯学習センター | 2000 |
| 平成20年度富士山須走口文化財調査概要報告書 | 小山町教育委員会 | 2008 |
| 足柄城跡Ⅱ | 小山町教育委員会 生涯学習課 | 2005 |
| 足柄城跡Ⅲ | 小山町教育委員会 生涯学習課 | 2010 |
| 足柄峠文化遺産総合調査報告書 | 小山町文化財保護審議会 | 2016 |
| 富士山巡礼路調査報告書須走口登山道 | 小山町・静岡県富士山世界遺産センター | 2018 |

※令和5年8月現在、^{おやまちょうりつ}小山町立図書館に所蔵されているもの

◆^{やすだ}安田コレクション

^{おやまちょうりつ}小山町立図書館では平成6年（1994）に^{ふじさん}富士山研究家である「^{やすだ}安田貞次」氏の御遺族から^{ふじさん}富士山資料の書籍、版画等の寄贈を受けました。

町では、寄贈された資料を^{ふじさん}富士山に関する書籍、雑誌、^{ふじさん}富士山周辺の郷土資料等に分類、整理し、資料を図書館で適切に保管するとともに展示や研究等に活用を図っています。



図4-2 ^{ふじさんぜんじょうず}富士山禅定図（^{やすだ}安田コレクション）

表4-3 町立図書館が保有する安田^{やすだ}コレクションの内訳

| 種別 | 数量（件数） |
|--------------------|--------|
| 富士山に関する書籍 | 852 |
| 富士山に関する雑誌 | 246 |
| 富士山周辺の郷土資料 | 51 |
| 山岳に関する書籍 | 281 |
| 富士山関係の新聞・雑誌記事スクラップ | 70 |
| 広重・北斎に関する書籍・版画 | 76 |

3 町民向けのガイドブック等

既往の調査成果を活用し、歴史文化資源の情報や分布を整理した「小山町文化財^{おやまちょう}のしおり」や「史跡いろいろみちしるべ（文化財マップ）」、地区別のパンフレット「ふるさとおやま文化財ガイド」などが発行されています。

表4-4 パンフレットや副読本等の刊行物の一覧

| 書籍名 | 著者名 | 刊行年 |
|--------------------------|-------------------|------|
| 小山町文化財のしおり 城址研究資料 | 小山町教育委員会 | 1976 |
| 小山町文化財のしおり 第1—3集 | 小山町教育委員会 | 1987 |
| 小山町文化財のしおり 第4集・第5集 | 小山町教育委員会 | 1987 |
| 足柄山の金太郎 | 小山町役場 | 1980 |
| 史跡いろいろみちしるべ その1 全町編 | 教育委員会 | 1990 |
| 史跡いろいろみちしるべ その2 成美地区編 | 教育委員会 | 1991 |
| 史跡いろいろみちしるべ その3 明倫地区編 | 教育委員会 | 1992 |
| 史跡いろいろみちしるべ その4 足柄地区編 | 教育委員会 | 1993 |
| 史跡いろいろみちしるべ その5 北郷地区編 | 教育委員会 | 1994 |
| 史跡いろいろみちしるべ その6 須走地区編 | 教育委員会 | 1995 |
| 史跡いろいろみちしるべ その1 全町編（改訂版） | 教育委員会 | 1999 |
| ふるさとおやま見てある記 | 小山町教育委員会 | 1981 |
| 続 ふるさとおやま見てある記 | 小山町教育委員会 | 1983 |
| 町民講座 「町内史跡めぐり」 | 小山町教育委員会 | 1990 |
| おやま ー富士山と金太郎のまちー | 小山町小学校社会科副読本編集委員会 | 2015 |
| おやま ー富士山と金太郎のまちー 令和2年度版 | 小山町小学校社会科副読本編集委員会 | 2020 |
| おやま ー富士山と金太郎のまちー 令和3年度版 | 小山町小学校社会科副読本編集委員会 | 2021 |
| おやま ー富士山と金太郎のまちー 令和4年度版 | 小山町小学校社会科副読本編集委員会 | 2022 |
| おやま ー富士山と金太郎のまちー 令和5年度版 | 小山町小学校社会科副読本編集委員会 | 2023 |
| 明倫地区をたずねて ふるさとおやま文化財ガイド | 教育委員会 | 2018 |
| 成美地区をたずねて ふるさとおやま文化財ガイド | 教育委員会 | 2019 |
| 足柄地区をたずねて ふるさとおやま文化財ガイド | 教育委員会 | 2020 |
| 北郷地区をたずねて ふるさとおやま文化財ガイド | 教育委員会 | 2021 |
| 須走地区をたずねて ふるさとおやま文化財ガイド | 教育委員会 | 2022 |
| ふるさとおやま文化財ガイド WEB版 | 教育委員会 | 2022 |



| 書籍名 | 著者名 | 刊行年 |
|----------------------|-------|------|
| 豊門会館（入館時配付パンフレット） | 小山町 | 2020 |
| 豊門会館（入館時配付パンフレット）改訂版 | 教育委員会 | 2022 |

※令和5年8月現在、おやまちょうりつ小山町立図書館に所蔵されているもの及び教育委員会にて配布しているもの

4 静岡県による調査

町による調査のほか、しずおかけん静岡県（しずおかけん静岡県埋蔵文化財センター、しずおかけんふじさん静岡県富士山世界遺産センター、しずおかけん静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化財課他）による調査も実施され、報告書がまとめられており、このうち本町に関連するのは次のとおりです。

表4-5 しずおかけん静岡県（しずおかけん文化財課・しずおかけん静岡県埋蔵文化財センター）による刊行物の一覧

| 名 称 | 発行年 |
|--------------------------------|------|
| 静岡県遺跡地名表埋蔵文化財包蔵地一覧 | 1961 |
| 静岡県の古代文化静岡県遺跡地名表解説篇 | 1963 |
| 静岡県民俗資料緊急調査報告書 | 1966 |
| 静岡県の民家 | 1973 |
| 静岡県民俗地図民俗文化財分布調査報告書 | 1976 |
| | 1977 |
| 静岡県の近世社寺建築近世社寺建築緊急調査報告書 | 1979 |
| 静岡県歴史の道調査報告書東海道 | 1980 |
| 静岡県歴史の道調査報告書 | 1980 |
| 静岡県の中世城館跡 | 1981 |
| 上横山遺跡 | 1981 |
| 横山遺跡 | 1984 |
| 静岡県の民謡 民謡緊急調査報告書 | 1986 |
| 横山遺跡沼駿学区新設高校建設用地埋蔵文化財調査報告書 本文編 | 1985 |
| 〃 図版編 | |
| 静岡県の諸職静岡県諸職関係民俗文化財調査報告書 | 1989 |
| 静岡県の民俗芸能静岡県民俗芸能緊急調査報告書 | 1996 |
| 静岡県の重要遺跡静岡県内重要遺跡詳細分布調査報告書 | 1998 |
| 静岡県の祭り・行事 静岡県の祭り・行事調査事業報告書 | 2000 |
| 静岡県の近代化遺産静岡県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書 | 2000 |
| 静岡県の近代和風建築静岡県近代和風建築総合調査報告書 | 2002 |
| 静岡県の古代寺院・官衙遺跡 | 2003 |
| 静岡県の天然記念物（地質鉱物） | 2004 |
| 静岡県の中近世墓 基礎資料編 | 2019 |
| 湯船城跡他 | 2019 |
| 静岡県の文化的景観総合調査報告書 | 2022 |

表4-6 しずおかけん静岡県（しずおかけん静岡県環境部水計画室）による刊行物の一覧

| 名 称 | 発行年 |
|-------------------------|------|
| 小山町の湧水 富士山北東麓・東麓湧水量調査報告 | 2000 |

5 その他の主体による調査

行政による調査のほか、個人、あるいは地域の団体等により各種調査が実施され、次のとおり調査成果がまとめられています。

表4-7 その他の主体による刊行物の一覧

| 書籍名 | 著者名 | 刊行年 |
|------------------------------------|---------------|---------|
| 富士登山須走口植物案内 | 御殿場馬車鉄道株式会社 | 1912 |
| 富士と足柄 | 横井春野 | 1913 |
| 駿東郡小山町誌 | 永田 総太郎 | 1914 |
| 和田豊治伝 | 喜多貞吉 | 1926 |
| 須走郷土読本 | 須走尋常高等小学校 | 1931 |
| 須走読本 | 湯山 茂 | 1931 |
| 富士紡績株式会社五十年史 | 沢田 謙 | 1947 |
| 東駿地誌 | 東駿地誌編集委員会 | 1959 |
| 秀峰 9(1963年) | 小山秀峰山岳会 | 1964 |
| 弘法寺浅間社宝経巻考 郷土史シリーズ 須走編 第1集 | 高村 愛治 | 1965 |
| 須走村古文書目録 郷土史シリーズ須走編 第2 | 高村 愛治 | 1965 |
| すかわ 8 | 富士紡小山工場須川寮自治会 | 1965 |
| 小山町経済の実態と環境 第2巻 第1号 その経済圏と生活圏を求めて | 御殿場高等学校経済研究班 | 1968 |
| 風神つのととり考 静岡県駿東郡大御神郷史序論 | 田代 道弥 | 1968 |
| 小山町経済の実態と環境 第2巻第2号 その商業実態と社会経済圏の行え | 御殿場高等学校経済研究班 | 1969 |
| 小山町経済の実態と環境 第2号(別冊:資料篇) | 御殿場高等学校経済研究班 | 1969 |
| 延宝八年駿河国駿東郡御厨菅沼村鑑帳 | 池谷 雄 | 1974 |
| すばしり 小山町立須走小学校創立百周年記念文集 | 小山町立須走小学校 | 1974 |
| 湯舟のむかし 1~8 | 池谷 雄 | 1974~76 |
| 相沢考古1~5 | 鈴木信久 | 1974~86 |
| 駿東教育史 | 駿東教育史編集委員会 | 1975 |
| 富士山東麓駿河小山付近の第四系 | 町田 洋 ほか | 1975 |
| 富士山東麓駿河小山付近の第四系 | 町田 洋 | 1975 |
| 御法度写帳 湯舟あさか園高橋家蔵 | 池谷 雄 | 1976 |
| 宝永噴火と棚頭の文書 | 棚頭区 | 1976 |
| 伊奈神社祭典 | 棚頭区 | 1976 |
| 宝永噴火と棚頭の文書 | 棚頭区 | 1976 |
| 横走りと金太郎 | 岩田 稲夫 | 1977 |
| 富士山須走浅間神社と須走の歴史 第1巻 | 矢島 佳明 | 1977 |
| 駿河国駿東郡小山村鑑帳本下書 | いけや たけし | 1977 |
| 小山町北辺の城館址についての私見 | 池谷 雄 | 1977 |
| 私たちの先祖 一色村の宗門人別張より | 池谷 雄 | 1978 |
| 先祖を考える 湯舟村名主の系譜 | 池谷 雄 | 1978 |
| 小山の町と和田豊治 | 岩田 喜久治 | 1978 |
| 城郭学から見た古代足柄の城 | 矢島 佳明 | 1978 |
| 歴史を学ぶ会郷土史跡探訪 第1回 北郷地区 | 小山町歴史を学ぶ会 | 1979 |



第4章 歴史文化資源の調査

| 書籍名 | 著者名 | 刊行年 |
|------------------------------------|-----------------------|------|
| 小山町震災史 | (出版者不明) | 1979 |
| 歴史を学ぶ会郷土史跡探訪 第1回 | 小山町歴史を学ぶ会 | 1979 |
| 御霊八幡宮之記 昭和55年康申年2月 | 池谷 準作 | 1980 |
| 足柄峠編年表 | 小山町歴史を学ぶ会 | 1980 |
| 富士テフラと古代遺跡 | 町田 洋 | 1980 |
| 小山・御殿場地域の道祖神・庚申塔と唯念ゆかりの石造物をたずねて | 森本 伸二 | 1982 |
| ヴェールをぬぎはじめた「足柄城」 戦国の山城と壮大な山岳城砦群 | 小笠原 清 | 1982 |
| 50年前の小山町 | 池谷 雄 | 1982 |
| 江戸時代の一色村 | 池谷 雄 | 1982 |
| 小山町歴史資料集 生土村篇 | 小山町歴史を学ぶ会 | 1982 |
| 小山町歴史資料集 | 小山町歴史を学ぶ会 | 1982 |
| 歴史を学ぶ会資料 1 | 小山町歴史を学ぶ会 | 1982 |
| 先祖の名前 | 湯船雷親会 | 1983 |
| 上横山遺跡 | 上横山遺跡発掘調査団 | 1983 |
| 明治時代の一色むら | 池谷 雄 | 1984 |
| 富士山麓に史跡を探る | 岩田 稲夫 | 1984 |
| 北郷小学校開校百周年記念誌 | 小山町立北郷小学校開校百周年記念事業委員会 | 1984 |
| 成美百年 | 小山町立成美小学校創立百周年記念事業委員会 | 1985 |
| 湯船の古い民俗・文化を探る | 雷親会 | 1985 |
| 北駿の水かけ料理 | 御殿場市・小山町水かけ菜生産組合、御殿場市 | 1985 |
| 富士紡績労働組合五十年史 本編・年表編 | ゼンセン同盟富士紡績労働組合 | 1987 |
| 唯念行者と唯念寺 | 小山町歴史を学ぶ会 | 1988 |
| 駿河れき岩層を中心とする地層の研究 平成元年度 | 小山町立小山中学校・臼井和美 | 1989 |
| 富士山東麓の地質・地形 御殿場・小山の地質地形 | 保坂 貞治 | 1989 |
| 小山町中小製造業の実態と移転・集団化について | 小山町商工会工業部 | 1989 |
| 足柄城 | 小田原城郭研究会 | 1989 |
| 須走 第1号 富士山東麓 | 須走の歴史を学ぶ会 | 1991 |
| ふるさと明倫 明倫小学校開校80周年記念 | 明倫小学校開校80周年記念事業委員会 | 1991 |
| 小山町須川の成因と湧水 | 保坂 貞治 | 1991 |
| 矢倉沢通見取絵図 第一巻 塚原・関本・矢倉沢・竹ノ下 絵図編 解説編 | 東京美術 | 1992 |
| 須走 第2号 | 須走の歴史を学ぶ会 | 1992 |
| 用沢地主組合の歩み | 用沢地主組合 | 1992 |
| 下毛野公時と金太郎伝説の成立 | 川島 茂裕 | 1992 |
| 小山町歴史年表 | 小山町歴史を学ぶ会 | 1992 |
| 日本の歴史10 戦国の群像 | 池上裕子 | 1992 |
| 日本の歴史13 元禄享保の時代 | 高埜利彦 | 1992 |
| 日本の近世7 身分と格式 | 高埜利彦 | 1992 |
| マンガ 日本の歴史33 | 石ノ森章太郎 | 1992 |
| 足柄読本 復刻版 | 高橋美策 | 1993 |
| 実業の系譜 和田豊治日記 | 和田豊治 | 1993 |
| 一色区の民間信仰 | 一色区 | 1993 |
| 足柄山の金太郎伝説の成立以前 | 川嶋 茂裕 | 1993 |

| 書籍名 | 著者名 | 刊行年 |
|---------------------------|------------------------------|------|
| 日本の歴史別巻 日本史研究事典 | 永原慶二 | 1993 |
| 足柄山 組合設立40周年記念誌 | 小山町足柄森林業組合 | 1994 |
| このはな 小山町地域教材集 | 小山町 地域教材研究委員会 | 1994 |
| 光を観る 小山町観光協会30周年記念誌 | 小山町観光協会 | 1994 |
| 足柄山 | 小山町足柄林業組合、小山町 | 1994 |
| 慰霊録 | 小山町 遺族会 | 1995 |
| クロニック戦国全史 | 池上 裕子/[ほか]編集 | 1995 |
| 一色と山野入会 上巻 | 一色古文書調査委員会 | 1996 |
| 成美小学校111周年記念誌 | 成美111年記念誌部編集委員会編 | 1996 |
| 富士紡績百年史 上巻・下巻 | 富士紡績株式会社 | 1997 |
| 画集 富士の里 須走 | 山岸昱 | 1997 |
| 伝説金太郎物語を科学する | 飯田 章 | 1997 |
| 史話と伝説のあしがら | 足柄史跡を守る会 | 1997 |
| 小山町文化連盟40周年記念誌 | 小山町文化連盟 | 1997 |
| 小山中五十年 創立五十周年記念誌 | 小山中学校創立五十周年記念編集委員会 | 1998 |
| 北郷中学校創立50周年記念誌 | 北郷中学校創立50周年記念事業実行委員会 | 1998 |
| 一色と山野入会 下巻 | 一色古文書調査委員会 | 1998 |
| 富士山南東麓の地下構造と地下水 | 保坂 貞治 | 1999 |
| 古代東海道足柄路・甲斐路抄調査書 | 齊藤 泰造 | 1999 |
| このはな 地域教材実践事例集 | 小山町 地域教材研究委員会 | 1999 |
| 小山秀峰山岳会四〇周年記念誌 | 小山秀峰山岳会四〇周年記念誌編集部会 | 1999 |
| 戦国時代社会構造の研究 (歴史科学叢書) | 池上 裕子 | 1999 |
| 金太郎伝説 謎ときと全国の伝承地ガイド | 金太郎・山姥伝説地調査グループ | 2000 |
| 至誠 小山町立須走中学校創立50周年記念誌 | 小山町立須走中学校 | 2001 |
| 近世の村と生活文化 | 大藤 修 | 2001 |
| 画集 富士の里 須走第2集 | 山岸昱 | 2002 |
| 金太郎の誕生 | 鳥居フミ子 | 2002 |
| 身近な山野草・木の実 -富士山の恵み- 食・薬・健 | 保坂 貞治 | 2002 |
| 富嶽旅百景一観光地域史の試み | 青柳周一 | 2002 |
| ソニーを創った男 | 井深 大 | 2002 |
| 富士山宝永噴火と土砂災害 | 国土交通省 中部地方整備局 富士砂防事務所 | 2003 |
| 日本野鳥の会70周年記念事業記念碑・記念探鳥会 | 日本野鳥の会70周年記念探鳥会実行委員会 | 2004 |
| 復活須走探鳥会70周年 中西悟堂記念歌碑について | 津戸英守 | 2004 |
| 小山町体育史 | 小山町体育協会創立50周年記念事業 実行委員会記念誌部会 | 2004 |
| 1707 富士山宝永噴火 報告書 | 災害教訓の継承に関する専門調査会 | 2006 |
| 須走村栞 修復版 | 歴史の会 | 2006 |
| 永原慶二の歴史学 | 永原慶二追悼文集刊行会 | 2006 |
| 富士山東口須走登山道資料解題 | 小林謙光 | 2007 |
| 収蔵版木展 版木にみる富士信仰の諸相 | 東口本宮富士浅間神社 | 2008 |
| 富士の里 須走 | 須走歴史研究会 | 2009 |

第4章 歴史文化資源の調査

| 書籍名 | 著者名 | 刊行年 |
|--|---------------------------|---------|
| ふじあざみライン 須走登山道ごあんない 静岡県東海道400年祭 富士山東口登山道と「須走宿」 | 須走宿実行委員会 | 2009 |
| あしがら 創立百周年記念誌 | 足柄小学校創立百周年記念事業実行委員会記念誌部 | 2009 |
| 富士山御師の歴史的研究 | 高埜 利彦 | 2009 |
| 明倫 自彊 日新 明倫小学校開校百周年記念誌 | 小山町立明倫小学校開校百周年記念事業委員会記念誌部 | 2011 |
| 日清戦後、富士紡績会社の経営危機とその克服過程—和田豊治の経営・労務改革（1）— | 筒井 正夫 | 2011 |
| 富士紡績関連論文 | 筒井 正夫 | 2011 |
| 金太郎の謎 | 鳥居フミ子 | 2012 |
| 御殿場・裾野・小山今昔写真帖 | 郷土出版社 | 2013 |
| 歴史学叙説 | 永原 慶二 | 2013 |
| 富士山麓の自然 御殿場市・裾野市・小山町の生物多様性 1～4 | 蒔苗博道 | 2013～16 |
| 二宮金次郎と藤曲村について | 藤曲喜雄 | 2015 |
| 豊門会館・富士紡関係文化遺産資料集 | 樽林一美 | 2015 |
| 富士山宝永大爆発 | 永原 慶二 | 2015 |
| 人物叢書 二宮尊徳 | 大藤 修 | 2015 |
| シリーズ日本近世史3 天下泰平の時代 | 高埜利彦 | 2015 |
| 富士山宝永噴火資料集 | 宝永噴火古文書研究会 | 2016 |
| 足柄山の金太郎 坂田公時伝承地を巡って | 日本の鬼の交流博物館 | 2016 |
| 巨大企業と地域社会 | 筒井 正夫 | 2016 |
| 北条早雲（日本史リブレット人 042） | 池上 裕子 | 2017 |
| クマ問題を考える | 田口洋美 | 2017 |
| 交差点の文化史 | 渡辺浜男 | 2017 |
| 須走口 標高2,000mの草原と森林 宝永噴火から再生する森 | 富士山の森を守るホシガラスの会 | 2018 |
| 雑学記 | 岩田さやか | 2018 |
| 草創期の小山中学校と当時の小山町 | タカジャッポ会（草創期小山中学野球部OB会） | 2018 |
| 富士山と四囲の山々の自然とくらし | 保坂 貞治 | 2019 |
| 日本史リブレット 江戸時代の神社 | 高埜利彦 | 2019 |
| 駿河国薩埵道を行く | 渡辺浜男 | 2020 |
| 二宮金次郎 藤曲村の報徳仕法 | 藤曲喜雄 | 2021 |
| 地域史構築の考古学 | 渡辺康弘 | 2021 |

※令和5年8月現在、おやまちょうりつ 小山町立図書館に所蔵されているもの

第2節 調査の現状と課題

1 これまでの調査の概要

第1節にて整理したこれまでの調査の概要として、^{おやまちょう}小山町の歴史文化資源の把握調査の状況を地区別にまとめると、次の表のように整理することができます。

表4-8 ^{おやまちょう}小山町における歴史文化資源の把握調査の状況（令和5年時点）

| 種類 | 種別 | 把握 件数 | 地区 | | | | | |
|-----------|------------|----------|-----------|------------|------------|------------|------------|---|
| | | | せいび 成美 | めいりん 明倫 | あしがら 足柄 | きたごう 北郷 | すばしり 須走 | |
| 有形 文化財 | 建造物 | 149 | △ | △ | △ | △ | △ | |
| | 石造物 | 1,457 | ○ | ○ | △ | △ | △ | |
| | 美術 工芸品 | 絵画 | 1 | × | × | × | × | × |
| | | 彫刻 | 3 | × | × | × | × | × |
| | | 工芸品 | 0 | × | × | × | × | × |
| | | 書跡・典籍 | 1 | × | × | × | × | × |
| | | 古文書 | 68,195 | △ | △ | △ | △ | △ |
| | | 考古資料 | — | × | — | × | — | × |
| 歴史資料 | — | × | × | × | × | × | | |
| 無形文化財 | | — | — | — | — | — | — | |
| 民俗 文化財 | 有形の民俗文化財 | — | × | × | × | × | × | |
| | 無形の民俗文化財 | 6 | — | — | ○ | ○ | × | |
| 記念物 | 遺跡 | 99 | △ | △ | △ | △ | △ | |
| | 名勝地 | 7 | — | — | — | — | ○ | |
| | 動物、植物、地質鉱物 | 12 | × | × | × | × | × | |
| 文化的景観 | | 1 | × | × | × | △ | × | |
| 伝統的建造物群 | | — | × | × | × | × | × | |
| 埋蔵文化財包蔵地 | | 42 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 文化財の保存技術 | | — | × | × | × | × | × | |
| その他 | 伝承 | 51 | △ | △ | △ | △ | △ | |
| | 信仰（御師関連） | 17 | — | — | △ | — | △ | |
| | 祭事・イベント | 15 | △ | △ | △ | △ | △ | |
| | 地名（小字名等） | 1,075 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 特産品 | 3 | △ | △ | △ | △ | △ | |

把握件数：第2章にて整理した指定文化財と未指定文化財の件数の合計

○：おおむね調査が完了しているもの。

△：部分的に調査されているが、全体が把握できていないもの。

×

—：該当する歴史文化資源が存在しないもの。

2 調査の現状

- ・社寺に保管されている仏像や絵画、棟札、個人が所有する工芸品等の美術工芸品があることがわかっていますが、調査やその成果の整理が不足していて、その総数や特徴について把握できていません。
- ・動物、植物、地質鉱物等については把握調査が実施できていません。
- ・建造物・石造物や古文書、伝承や信仰、祭事・イベント等に関する調査は進んでいる地区もありますが、全体像の把握には至っていません。
- ・歴史ある橋梁、家屋、土木施設等の建造物は、所在の把握は出来ていますが、詳細調査には至っていません。また、用水に関わる^{すいどう}隧道、貯水池や発電に関わるダムや発電所などについても所在の把握は出来ていますが、詳細調査には至っていません。
- ・無形の民俗文化財は、地域の担い手の減少により消滅の危機に瀕しているものもみられるため、消滅する可能性があります。内容について把握しきれていません。
- ・動物・植物・地質鉱物等の多くは、詳細調査が未実施でその価値が把握できていません。
- ・水掛菜^{みずかけな}・ワサビ等の有名な特産品は、その食生活等の生活文化、さらにその広がりについても把握できていません。
- ・既往調査から年数が経ち、その後の現状が掴めていないものも含め、十分な現況調査ができていません。
- ・各種調査を実施するための人材や体制が不十分です。
- ・周知の埋蔵文化財包蔵地の中には、試掘や確認調査の実施に至っていないものがあります。



図4-3 あだのようすい^{すいどうない} 阿多野用水の隧道内



図4-4 にしやまようすい 西山用水

3 調査の課題

- 有形文化財の建造物は「把握調査」に地区的偏在があること、詳細調査に至っていないこと、美術工芸品は「把握調査」が不十分であることが課題です。
- 無形の民俗文化財は、食文化などの再調査や詳細調査が未実施です。
- 無形文化財、有形の民俗文化財、文化的景観、伝統的建造物群、文化財の保存技術については把握調査の実施が必要です。
- 記念物は、動物、植物、地質鉱物で把握調査と詳細調査が出来ていないことが課題です。
- 埋蔵文化財は、適切な保存に向けた包蔵地の把握のため、試掘や確認調査を継続する必要があります。
- 伝承や信仰、祭事については、詳細調査による記録化ができていないことが課題です。
- 水掛菜みすかけなのような特産品は、どこまでの地域で食卓に出されているかなどについても把握が必要です。
- これまでに調査が実施された古文書、石造物、絵画、彫刻等の文化財については、調査成果のとりまとめが十分にできておらず、調査成果を活かすことができていません。
- 町史編纂へんさん時に把握した歴史文化資源を含め、過去の調査で把握した歴史文化資源について、現在の所在をつかめていないものがあります。
- 現況調査を円滑に行うための体制が不十分であるため、歴史文化資源の定期的な状況把握に至っていません。



第3節 調査の方針と措置

1 調査の方針

これまでに整理した現状と課題を考慮し、本計画では次の3つの方針に基づき、歴史文化資源の調査の取組を推進します。

(1) 未調査類型等の重点調査の実施

本町では、歴史文化資源の把握状況に偏りがあることから、調査の不足する歴史文化資源については、計画的な把握調査の実施を優先事項とします。ただし、現在の調査体制では全てを同時に行うことはできないので、まずは現時点で把握調査が不足している類型の中でも有形文化財（建造物）や無形の民俗文化財、記念物（動物・植物・地質鉱物）のほか、伝承や信仰・祭事・イベント・特産品などの生活や産業との結び付きの強い歴史文化資源の把握調査に取り組むこととします。あわせて、無形文化財や有形の民俗文化財、文化的景観、伝統的建造物群、文化財の保存技術については、将来的な把握調査の実施に向けて調査計画を検討していきます。また、無形の民俗文化財や有形文化財（建造物）、記念物（動物・植物・地質鉱物）については、再調査もあわせて実施していきます。

なお、今後把握調査を進める中で文化財指定等による保護が必要と判断されるものが見つかることも想定されるため、必要に応じて調査スケジュールの見直しを図っていきます。

(2) 調査成果のデータベース化

町史編纂^{へんさん}時の調査等、過去に行った調査の成果を今後の調査や保存・活用に活かすため、既往調査成果を再整理し、データベース化を推進していきます。作成したデータベースについては、新たに実施した把握調査や再調査、現況調査の成果等を踏まえて適宜更新していきます。

(3) 文化財の現状の的確な把握の推進

把握調査から相当年数が経過している歴史文化資源も多いことから、把握済みの文化財を適切に保存するため、定期的なパトロールを実施します。また、埋蔵文化財包蔵地の実態を把握するための調査を実施します。

2 調査の措置

方針に基づく具体的な措置は次のとおりです。

なお、歴史文化資源の調査に当たっては、町費、県費、国費（文化財補助金・デジタル田園都市国家構想交付金）、その他民間資金等を活用しながら進めていきます。

さらに町では、平成27年（2015）に「おやまちょう小山町文化財保護基金条例」を制定し、文化財保護基金を設置しました。この基金に「ふるさと寄附金（ふるさと納税）」により得た寄附金の一部（用途選択において文化財保護を選択したものを）を繰り入れ、必要に応じて「ふるさと寄附金（ふるさと納税）」を活用しながら歴史文化資源の調査を行います。

表の解説

- ・実施期間：前期…R 6～7、後期…R 8～12、次期…次期計画の対象期間
- ・実施主体の詳細は第7章を参照
- ・期間を設けるもの…実線、恒常的に行うもの…点線
- ・実施主体：◎…特に主体的に実施、○…主体的に実施

（1）未調査分野等の重点的調査

| No | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 実施主体 | | | |
|----|--------------|---|------|----|----|-------------------|----------|----|---------|
| | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有者 等 | 地域 | 団体 等 |
| 1 | 把握調査計画の検討 | 無形文化財、有形の民俗文化財、文化的景観、伝統的建造物群、文化財の保存技術の把握調査の実施に向けた検討及び情報収集を行う | | | → | ◎ 生涯学習課 | | ○ | ○ |
| 2 | 無形の民俗文化財等の調査 | 消滅する可能性のある無形の民俗文化財や伝承などの再調査と詳細調査の実施 | | | → | ○ 生涯学習課 | | ◎ | |
| 3 | 特産品等の調査 | <small>みずかけな</small> 水掛菜・ワサビなどの特産品の歴史的背景や、現在の生産から消費における文化的側面の調査 | | → | | ◎ 生涯学習課 農林課 | ◎ | ○ | |
| 4 | 建造物調査 | 橋梁、家屋、土木施設等の再調査及び詳細調査の実施 (<small>あゆきわ</small> 鮎沢橋、 <small>はなど</small> 花戸橋、 <small>あだのようすい</small> 阿多野用水等) | | | → | ◎ 生涯学習課 建設課 | ○ | ○ | |
| 5 | 天然記念物調査 | 動物・植物・地質鉱物等の再調査及び詳細調査の実施 (鳥獣、水生生物、 <small>かななわだんそう</small> 神縄断層等) | | | → | ◎ 生涯学習課 農林課 | | | |



(2) 調査成果のデータベース化

| No | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 主体 | | | |
|----|-----------------|---|------|----|----|------------|----------|----|---------|
| | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有者 等 | 地域 | 団体 等 |
| 6 | 文化財データベースの構築と運用 | 石造物、美術工芸品（絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍、古文書、考古資料、歴史資料）等のデータベースの構築 | | | → | ◎ 生涯学習課 | | | |
| 7 | 文化財データベースの更新 | 新たに実施した把握調査や再調査、現況調査の成果に基づく、データベースの更新 | | | → | ◎ 生涯学習課 | | | |

(3) 文化財の現状の的確な把握の推進

| No | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 主体 | | | |
|----|------------------------|--|------|----|----|------------|----------|----|---------|
| | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有者 等 | 地域 | 団体 等 |
| 8 | 定期的な文化財パトロールの実施による現状把握 | 枯死の可能性のある指定樹木等の最新状況の確認など、保存・管理状況の定期的な確認を行う | | | → | ◎ 生涯学習課 | | | |
| 9 | 埋蔵文化財包蔵地の把握 | 試掘や確認調査の実施 | | | → | ◎ 生涯学習課 | | | |

第4節 調査の体制

1 課題

歴史文化資源の調査の実施は^{おやまちょう}小山町教育委員会が中心となって行いますが、本町では文化財類型ごとの専門職員は配置されていないことから、現状では職員のみでの実践は困難な状況です。

2 方針

そのため、文化財保護審議会の助言・提言や、地域のボランティア団体等の人材と連携しながら、積極的な歴史文化資源の調査を実施していきます。実施にあたっては、町民などが調査段階から関われるような調査手法を合わせて検討することで、限られた人材資源から最も効果的な成果が得られるよう、協力体制の構築を目指します。

また、農業遺産や文化的景観など、文化財だけではなく、農業や都市計画などの知見が必要となる分野については、都市整備課、商工振興課、観光スポーツ交流課、農林課などの専門職員との連携を図りながら、把握調査を実施していきます。

さらに、国、県、世界遺産センターをはじめ、教育・研究機関等との連携、専門の調査機関への委託など、幅広い実施体制について検討し、効果的に推進していきます。

3 措置

これらの取組の推進にあたっては、^{おやまちょう}小山町文化財保護審議会を中心に、調査や進捗管理、連携等の手法について検証を行うことで、体制の整備を図ります。

表の解説

- ・実施期間：前期…R 6～7、後期…R 8～12、次期…次期計画の対象期間
- ・実施主体の詳細は第7章を参照
- ・期間を設けるもの…実線、恒常的に行うもの…点線
- ・実施主体：◎…特に主体的に実施、○…主体的に実施

| No | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 主体 | | | |
|----|---------|--|------|----|----|------------|------|----|-----|
| | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政担当課 | 所有者等 | 地域 | 団体等 |
| 1 | 調査体制の整備 | 文化財保護審議会を中心に調査の実施体制、調査手法等を検討 | — | — | — | ◎ 生涯学習課 | ○ | ○ | ○ |
| 2 | 調査の実施 | 文化財保護審議会を中心に調査の実施と進捗管理を行うとともに、庁内各課及び国、県、教育・研究機関等とも連携を図り、調査体制の充実を図る | — | — | — | ◎ 生涯学習課 | ○ | ○ | ○ |

序章

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

資料編

第5章 歴史文化資源の保存・活用

第1節 計画の基本理念と目指す方向性

本町の歴史文化資源はこれまで活用が一部にとどまっていた背景があります。しかしながら、近年文化財を含む歴史文化資源はインバウンド等も含めた観光産業にとって非常に重要なものであり、富士山^{ふじさん}の世界文化遺産登録、近代産業遺産への注目の高まりなどを背景に、本町の歴史文化も観光産業の発展に大きく貢献する可能性を秘めています。

さらに、地域の歴史文化資源は住民にとって地域の「誇り」や「自慢」など、心の拠り所となりうるものであり、歴史文化資源を活用した教育やまちづくりの取組みも非常に重要なものです。

一方、本町の歴史文化資源は、担い手・後継者不足等により、継承が困難となっています。今後は、地域と密接に関係する歴史文化資源の価値を再評価し、行政、所有者、地域、民間企業等の団体が協力し、適切な保存に努めるとともに、積極的に保存・活用することが求められます。このようななか、町政の基本理念ともいえる『小山町^{おやま}民憲章^{ちやうみんけんしやう}』では、以下のような考え方を掲げています。

わたくしたちは、富士^{ふじ}のもと 水と緑にめぐまれていることに誇りを持ち、
金太郎^{きんたろう}のように、健康で、明るい、ゆたかな町づくりをすすめます。

- 一、めぐまれた自然を愛し、美しいまちをつくります。
- 一、きまりを守り、安全で、住みよいまちをつくります。
- 一、のびゆく力を育て、文化の薫り高いまちをつくります。
- 一、働くことによるこびをもち、健康なまちをつくります。
- 一、たがいに助け合い、親切で、あたたかいまちをつくります。

町民憲章に掲げられたこれらの指針は、文化財の保存と活用により目指す小山町^{おやまちょう}の姿に通じるものです。本計画は、町民憲章で掲げる理念を、文化財の保存と活用を通して体現することを目指し、憲章の理念と各条文を踏まえ、本計画の理念と目指す方向性を次のように定めます。



おやまちょう

小山町文化財保存活用地域計画の基本理念

わたしたちは、恵まれた自然環境に育まれた小山の歴史文化に誇りを持ち、
歴史文化の継承、体験や学習、にぎわいづくりを通じて、
金太郎のように、健康で、明るい、ゆたかな町づくりをすすめます。

町民憲章の条文

- めぐまれた自然を愛し、美しいまちをつくります。
- きまりを守り、安全で、住みよいまちをつくります。
- のびゆく力を育て、文化の薫り高いまちをつくります。
- 働くことによるこびをもち、健康なまちをつくります。
- たがいに助け合い、親切で、あたたかいまちをつくります。

本計画で目指す方向性

- 富士山の景観や豊かな農村環境、貴重な植物などを大切にし、後世へ継承していきます。
- 文化財保護法や文化財保護条例を遵守し、大切な歴史文化を守っていきます。
- 体験や学習など、歴史文化とふれあう機会を創出し、歴史文化の薫るまちを目指します。
- 富士紡や農業遺産などの歴史を学び、健康や生きがいづくり、産業の発展へ活用します。
- 多様な主体が助け合い、協力することで、歴史文化の保存・活用に取り組めます。

また、本計画ではこれら「目指す方向性」を実現するための具体的な取組（措置）を定めるにあたり、「保存」、「活用」、そして保存・活用を確実かつ円滑に進めるための「体制・支援」の3つの視点から基本方針を整理することとします。基本方針の具体的な内容は第2節に示します。



図5-1 町民憲章（小山町役場前）

第2節 保存・活用の基本方針

本計画では、計画の基本理念と目指す方向性に基づき、次のとおり文化財の保存・活用の基本方針を定めます。

基本理念

わたしたちは、恵まれた自然環境に育まれた小山^{おやま}の歴史文化に誇りを持ち、歴史文化の継承、体験や学習、にぎわいづくりを通じて、金太郎^{きんたろう}のように、健康で、明るい、ゆたかな町づくりをすすめます。

- ・富士山^{ふじさん}の景観や豊かな農村環境、貴重な植物などを大切にし、後世へ継承していきます。
- ・文化財保護法や文化財保護条例を遵守し、大切な歴史文化を守っていきます。
- ・体験や学習など、歴史文化とふれあう機会を創出し、歴史文化の薫るまちを目指します。
- ・富士紡^{ふじぼう}や農業遺産などの歴史を学び、健康や生きがいづくり、産業の発展へ活用します。
- ・多様な主体が助け合い、協力することで、歴史文化の保存・活用に取り組めます。

基本方針

I 保存の方針（→第5章第3節）

(1) 究める（歴史文化資源の発見・調査・研究）

新たな歴史文化資源の発見と調査、研究に努めます。

(2) つなぐ（歴史文化資源の継承）

歴史文化資源とそれを取り巻く風致景観を大切にし、後世へ継承します。

(3) まもる（歴史文化資源の防災・防火・防犯）

歴史文化資源の防災・防火・防犯対策を進めます。（詳細は第8章）

II 活用の方針（→第5章第3節）

(1) ふれる（歴史文化資源と触れ合う機会の創出）

誰もが歴史文化資源とふれあう機会を創出し、歴史文化の薫るまちを目指します。

(2) いかす（歴史文化資源を活用した産業発展、まちづくり）

富士紡^{ふじぼう}の歴史や農業遺産などの歴史を学び、活用し、健康や生きがいづくり、産業の発展を目指します。

保存・活用を支える体制と支援

III 体制・支援の方針（→第5章第3節、及び第7章）

(1) 整える（助け合い、協力するための体制の整備）

多様な主体が助け合い、協力するための体制を整備します。（詳細は第7章第1節）

(2) 支える（基盤整備や支援充実）

歴史文化の保存・活用を進めるための支援充実を図ります。（詳細は第7章第2節）



第3節 保存・活用の課題

基本方針の実施にあたり、課題となる事項は次のとおりです。

1 保存の課題

(1) 「究める」ための課題

- ①食文化をはじめとする無形の民俗文化財など、全体像の把握が十分に出来ていない歴史文化資源があります。
- ②町史編纂時など、過去の調査で把握した有形文化財や記念物などの歴史文化資源の中には、現在の所在について再確認できていないものや、学術的な評価が十分にできていないものがあります。
- ③これまでに把握調査や詳細調査を実施した有形文化財などの歴史文化資源について整理が十分に行われていません。
- ④劣化やき損等の最新の状況が把握できていない歴史文化資源があります。また、周知の埋蔵文化財の中には、試掘や確認調査の実施に至っていないものがあり、適切な保存に向けた包蔵地の把握が不十分です。

(2) 「つなぐ」ための課題

- ①過去に把握した無形の民俗文化財の中には、現在の実態が把握できていないものがあり、消滅の危機に瀕しているものや消滅してしまったものも存在する可能性があります。
- ②本町の歴史文化の理解では欠かせない歴史文化資源にもかかわらず、指定等による保存に至っていないものがあります。
- ③豊門会館などの建造物や天然記念物を始め、指定文化財や登録文化財の中には、劣化やき損が報告されているものがありますが、現在の状況が十分に把握できていないため、計画的な修理・整備が遅れているものがあります。
- ④歴史文化資源の所有者の高齢化・担い手不足が進行していることから、将来的な担い手の確保に向けた取組が必要です。

(3) 「まもる」ための課題

- ①歴史文化資源の所有者・管理者の防災・防犯に対する継続的な意識啓発が必要です。
- ②歴史文化資源を災害から守るための防災・防犯設備の整備が不十分です。



2 活用の課題

(1) 「ふれる」ための課題

- ①歴史文化史資源の価値や魅力が町内外の人々に十分に理解されていません。
- ②町民が地域と歴史文化資源の理解を深めるために、本物の文化財に触れる機会の提供が必要です。
- ③総合的な文化財情報の発信や歴史文化資源の価値や情報を発信するための看板や案内表示が不十分です。
- ④未公開のため、地域に知られていない歴史文化資源があり、住民に親しまれていません。

(2) 「いかす」ための課題

- ①歴史文化資源が学校での地域学習の場として十分に活用しきれていません。
- ②文化財の活用方法が限定的であるため、魅力を生かす多様な取組を充実させる必要があります。
- ③交流人口の拡大につなげるため、各地区に存在する歴史文化資源を活用したツアー等の開催が必要です。

3 体制・支援の課題

(1) 「整える」ための課題

- ①歴史文化資源に興味・関心があり、保存・活用の担い手となることに意欲がある町民の力を生かしきれていません。
- ②行政における歴史文化資源の保存・活用に関わる人材が不足しています。
- ③町民が歴史文化資源を知る機会が不足しているため、学習の場となる学校教育や社会教育との連携が必要です。
- ④災害時における歴史文化資源の取扱いに対応する体制が構築されていません。

(2) 「支える」ための課題

- ①未指定の歴史文化資源を守るための仕組みについて検討が必要です。
- ②所有者等による保存・管理が難しい歴史文化資源について、所有者等をサポートする仕組みが整っていません。
- ③資料館や収蔵庫のような歴史文化資源の保存・活用の核となる施設が不足しています。



第4節 保存・活用の実施方針

1 保存の方針

(1) 究める（歴史文化資源の発見・調査・研究）

新たな歴史文化資源の発見と調査、研究に努めます。

- ①歴史文化資源の把握調査実施に向けた検討を行ったうえで、祭事・イベントなどの無形の民俗文化財や水掛菜^{みすかけな}やワサビなどの特産品の文化的側面に関連する未調査の歴史文化資源について重点的な調査を実施します。
- ②既往調査から時間の開いている歴史文化資源の再調査や詳細調査を推進します。
- ③既往調査成果に基づき文化財データベースを作成することで調査、研究の基礎とします。また新たな調査で得られた知見をもとにデータベースを更新していきます。
- ④歴史文化資源の現状を的確に把握し、速やかな対応をするために、文化財パトロールを実施するとともに埋蔵文化財の試掘や確認調査を継続します。

(2) つなぐ（歴史文化資源の継承）

歴史文化資源とそれを取り巻く風致景観を大切にし、後世へ継承します。

- ①祭事や芸能など消滅又は消滅の危機に瀕している無形の民俗文化財の洗い出しと調査を行います。
- ②詳細調査の結果、価値が認められ、指定等の条件が整った歴史文化資源について、指定等による保存を推進します。
- ③指定文化財や登録文化財については、劣化・き損状況を確認のうえ、詳細調査の成果も踏まえた計画を立て、修理・整備を実施します。
- ④将来的な担い手の確保につなげるため、学校教育における学習機会の創出を図り、郷土愛の醸成による持続可能な歴史文化資源の継承体制の構築を目指します。

(3) まもる（歴史文化資源の防災・防火・防犯）

歴史文化資源の防災・防火・防犯対策を進めます。

- ①文化財所有者等の防災意識の維持・向上のため、歴史文化資源防災訓練を定期的実施します。
- ②歴史文化資源を災害等から守るため、防災・防犯設備の充実に努めます。

2 活用の方針

(1) ふれる（歴史文化資源と触れ合う機会の創出）

誰もが歴史文化資源とふれあう機会を創出し、歴史文化の薫るまちを目指します。

- ①幅広い世代に対して理解を促すため、一般の人にもわかりやすい資料を用いて、歴史文化資源に関する情報の発信力強化に努めます。
- ②文化財講座の開催や学校教育での歴史文化資源の活用など、町民が直接歴史文化資源に触れる機会の創出を図ります。
- ③文化財データベースの公開と、来訪者が歴史文化資源を理解するための説明板等の充実を推進します。
- ④未公開歴史文化資源の一般公開など、歴史文化資源の所有者との連携した取組を推進します。

(2) いかす（歴史文化資源を活用した産業発展、まちづくり）

ふじぼう富士紡の歴史や農業関連の歴史文化資源を学び、活用し、健康や生きがいづくり、産業の発展を目指します。

- ①学校教育との連携を強化し、現地学習や出前講座、体験講座等の郷土学習の促進に努めます。
- ②ほうもんかいかん豊門会館やせいようかん西洋館等におけるコンサートやアート作品の展示をはじめとする文化芸術振興イベントなど国登録有形文化財におけるユニークベニユールの取組をより一層推進します。
- ③観光関係者と連携して、文化財ツアーの開催等を推進します。

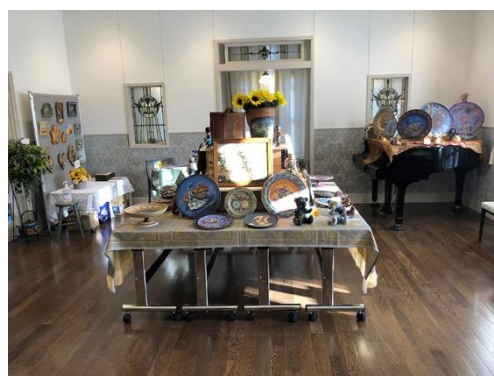


図5-2 アート作品展示会
ほうもんこうえんせいようかん
(豊門公園西洋館)



3 体制・支援の方針

(1) 整える（助け合い、協力するための体制の整備）

多様な主体が助け合い、協力するための体制を整備し、歴史文化資源の保存・活用の取組を促進します。

- ①文化財ボランティアの育成や郷土史研究の人材の育成により、歴史文化資源の魅力を守り伝える担い手を増やします。
- ②文化財専門職員の育成等により、文化財保護行政の推進体制を強化します。文化財専門職員の育成にあたっては、県や国との連携を十分に図ります。
- ③教育の機会を創出のため、学校や公民館等との連携を推進します。
- ④発災時の連絡・連携体制を構築し、平時から備えます。

(2) 支える（基盤整備や支援充実）

歴史文化の保存・活用を進めるための基盤整備や支援充実の取組を推進します。

- ①現在、未指定の歴史文化資源に対する新たな保護の枠組みとして、町登録制度の整備の必要性について検討します。
- ②歴史文化資源の所有者をサポートするため、民間団体の活力を生かした文化財保存活用支援団体の指定等について検討します。
- ③歴史文化資源の保存・活用の核となる、収蔵庫や公開・学習施設の整備に向けた取組を推進します。

第5節 保存・活用の措置

第1節にて示した基本理念と基本方針に基づき、具体的な取組（措置）を次のとおり設定します。

保存・活用に当たっては、町費、県費、国費（文化財補助金・デジタル田園都市国家構想交付金）、その他民間資金等を活用しながら進めていきます。

さらに町では、未指定文化財や文化財周辺の設備を整備することを目的に、平成27年（2015）に「おやまちょう小山町文化財保護基金条例」を制定し、文化財保護基金を設置しました。この基金に「ふるさと寄附金（ふるさと納税）」により得た寄附金の一部（使途選択において文化財保護を選択したもの）を繰り入れ、国登録有形文化財の改修工事や国登録有形文化財の周辺の公園整備などを行いました。今後も必要に応じて「ふるさと寄附金（ふるさと納税）」を活用しながら歴史文化資源の保存と活用に努めていきます。

表の解説

- ・ 実施期間：前期…R 6～7、後期…R 8～12、次期…次期計画の対象期間
- ・ 実施主体の詳細は第7章を参照
- ・ 黄色に着色されているものは、計画期間内において重点的かつ優先的に実施する取組（詳細は5-13に記載）
- ・ 期間を設けるもの…実線、恒常的に行うもの…点線
- ・ 実施主体：◎…特に主体的に実施、○…主体的に実施

1 保存に関する措置

(1) 究める

| No | 方針 | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 実施主体 | | | | |
|-----------|----|--------------|---|------|----|----|-----------|----------|----|---------|---|
| | | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有者 等 | 地域 | 団体 等 | |
| 1 (再掲) | ① | 把握調査計画の検討 | 無形文化財、有形の民俗文化財、文化的景観、伝統的建造物群、文化財の保存技術の把握調査の実施に向けた検討及び情報収集を行う | ● | ● | ● | ◎ | | | ○ | ○ |
| 2 (再掲) | ① | 無形の民俗文化財等の調査 | 消滅する可能性のある無形の民俗文化財や伝承などの再調査と詳細調査の実施 | ● | ● | ● | ○ | | | ◎ | |
| 3 (再掲) | ① | 特産品等の調査 | <small>みずかけな</small> 水掛菜・ワサビなどの特産品の歴史的背景や、現在の生産から消費における文化的側面の調査 | ● | ● | ● | ◎ | ◎ | | ○ | |
| 4 (再掲) | ② | 建造物調査 | 橋梁、家屋、土木施設等の再調査及び詳細調査の実施 (<small>あゆさわ</small> 鮎沢橋、 <small>はなど</small> 花戸橋、 <small>あだのようすい</small> 阿多野用水等) | ● | ● | ● | ◎ | | | ○ | ○ |



| No | 方針 | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 実施主体 | | | |
|-----------|----|------------------------|--|------|----|----|-------------------|----------|----|---------|
| | | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有者 等 | 地域 | 団体 等 |
| 5 (再掲) | ② | 天然記念物調査 | 動物・植物・地質鉱物等の再調査及び詳細調査の実施 (鳥獣、水生生物、 <small>かななわだんそう</small> 神縄断層等) | | | → | ◎ 生涯学習課 農林課 | | | |
| 6 (再掲) | ③ | 文化財データベースの構築と運用 | 石造物、美術工芸品(絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍、古文書、考古資料、歴史資料)等のデータベースの構築 | | | → | ◎ 生涯学習課 | | | |
| 7 (再掲) | ③ | 文化財データベースの更新 | 新たに実施した把握調査や再調査、現況調査の成果に基づく、データベースの更新 | | | → | ◎ 生涯学習課 | | | |
| 8 (再掲) | ④ | 定期的な文化財パトロールの実施による現状把握 | 枯死の可能性のある指定樹木等の最新状況の確認など、保存・管理状況の定期的な確認を行う | | | → | ◎ 生涯学習課 | | | |
| 9 (再掲) | ④ | 埋蔵文化財包蔵地の把握 | 試掘や確認調査の実施 | | | → | ◎ 生涯学習課 | | | |

※No. 1～9は、「第4章第3節2 調査の措置」の再掲

(2) つなぐ

| No | 方針 | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 実施主体 | | | |
|-----------|----|-----------------|---|------|----|----|---------------------|----------|----|---------|
| | | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有者 等 | 地域 | 団体 等 |
| 2 (再掲) | ① | 無形の民俗文化財等の調査 | 消滅する可能性のある無形の民俗文化財や伝承などの再調査と詳細調査の実施 | | | → | ○ 生涯学習課 | | | ◎ |
| 10 | ② | 町文化財保護審議会等の開催 | 詳細調査を踏まえた文化財指定に向けた審議の実施(町文化財保護審議会) | | | → | ◎ 生涯学習課 | | | |
| 11 | ③ | 修理・整備に向けた事前調査 | 修理・整備を予定している歴史文化資源について、劣化状況やき損箇所等の現状調査 | | | → | ◎ 生涯学習課 | | | |
| 12 | ③ | 修理・整備計画の作成 | 現状把握を踏まえ、修理や整備等を行うための優先順位の検討、計画の作成(国登録有形文化財や未指定の建造物、駐車場、トイレ等の文化財周辺施設) | | | → | ◎ 生涯学習課 | | | |
| 13 | ③ | 修理・整備の実施 | No.12で作成した修理・整備計画に基づき実施する | | | → | ◎ 生涯学習課 | ○ | ○ | ○ |
| 14 | ③ | 修理費の補助 | 国、県、町指定等文化財の修理、整備に対する経費の補助 | | | → | ◎ 生涯学習課 | | | |
| 15 | ④ | 学校教育等における文化財の学習 | 郷土愛を醸成し、将来の担い手確保につなげるため、学校教育での学習、披露できる機会の創出 | | | → | ◎ 生涯学習課 学校教育課 | | | |

(3) まもる

| No | 方針 | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 実施主体 | | | |
|----|----|--------------------|--|------|----|----|-----------|----------|----|---------|
| | | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有者 等 | 地域 | 団体 等 |
| 16 | ① | 文化財防火デー 等における訓練 | 消防署や地域消防団との連携、定期的な寺社・文化財建造物における防災訓練の実施 | ● | ● | ● | ○ | ◎ | ○ | |
| 17 | ② | 防災・防犯設備 の拡充 | 放水銃、耐火収蔵庫、防犯カメラ等の防災・防犯施設を整備する | | | ● | ○ | ◎ | ○ | |



2 活用に関する措置

(1) ふれる

| No | 方針 | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 実施主体 | | | | |
|----|----|-----------------------|--|------|----|----|---------------------|----------|----|---------|--|
| | | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有者 等 | 地域 | 団体 等 | |
| 18 | ① | わかりやすい冊子・パンフレットの作成 | 地域ごとの歴史文化資源紹介冊子や動画等の作成、内容の随時改訂 | → | | → | ◎ 生涯学習課 | | | | |
| 19 | ② | 文化財講座の開催 | 町民に対し、年代別に歴史文化資源を座学、現地、周辺散策等により学習する機会の創出 | → | | → | ◎ 生涯学習課 | ◎ | ○ | ◎ | |
| 20 | ② | 学校教育での文化財の活用（地域学習の促進） | 現地学習、出前授業等、体験講座（古民具、出土遺物の貸し出し等）の実施本計画書を活用した学校教育における調べ学習の推進 | → | | → | ○ 生涯学習課 学校教育課 | ◎ | ○ | | |
| 21 | ② | 文化財イベントの実施 | 町内外の来訪者に対するパンフレット作成、講座の開催、公開イベントの開催、修理・整備中の歴史文化資源の公開 | → | | → | ○ 生涯学習課 観光交流課 | ◎ | ○ | | |
| 22 | ③ | 文化財データベースの公開 | 文化財データベースを町HPへ反映、メディアを活用した公開 | → | | → | ◎ 生涯学習課 | | | | |
| 23 | ③ | サイン及び解説板整備事業 | 看板、案内標示、解説板の設置、修繕 | → | | → | ◎ 生涯学習課 | | | | |
| 24 | ④ | 未公開文化財の一般公開 | 松村家住宅や秘仏等、未公開の歴史文化資源の所有者との連携による見学イベント等の開催 | | → | | ○ 生涯学習課 | ◎ | ○ | | |

(2) いかす

| No | 方針 | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 実施主体 | | | | |
|------------|----|-----------------------|---|------|----|----|---------------------|----------|----|---------|--|
| | | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有者 等 | 地域 | 団体 等 | |
| 20 (再掲) | ① | 学校教育での文化財の活用（地域学習の促進） | 現地学習、出前授業等、体験講座（古民具、出土遺物の貸し出し等）の実施本計画書を活用した学校教育における調べ学習の推進 | → | | → | ○ 生涯学習課 学校教育課 | ◎ | ○ | | |
| 25 | ② | 文化芸術振興イベントの実施 | 芸術作品の展示やコンサート、茶会等アートイベントの開催 | → | | → | ○ 生涯学習課 | ◎ | ○ | | |
| 26 | ③ | 文化財ツアーの開催 | 町観光協会、観光業者、文化財ボランティアガイド等との連携による歴史文化資源巡りツアーやクアオルトウォーキング、トレイルウォーキング等の開催 | → | | → | ○ 生涯学習課 観光交流課 | ◎ | ○ | ◎ | |

3 体制・支援に関する措置

(1) 整える

| No | 方針 | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 実施主体 | | | |
|------------|----|---------------------------|---|------|----|----|------------|----------|----|---------|
| | | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有者 等 | 地域 | 団体 等 |
| 27 | ① | 文化財ボランティアの育成 | ガイドボランティア等の養成講座の開催 | | → | | ◎ 生涯学習課 | | | ○ |
| 28 | ① | 郷土史研究の人材育成 | 町民、教職員、研究者を対象に、資料提供、講座等を開催 | | → | | ◎ 生涯学習課 | ○ | ○ | ○ |
| 29 | ① | 地域で活動する団体・個人との連携 | 文化財保護、伝承、維持管理を行う団体、個人の抽出と連携、活用 | → | | | ○ 生涯学習課 | ◎ | ○ | |
| 30 | ② | 文化財専門職員の育成 | 計画的な文化財専門職員の採用と育成、専門職員の国・県等との人事交流、研修会への積極的参加 | | → | | ◎ 生涯学習課 | | | |
| 19 (再掲) | ③ | 文化財講座の開催 | 町民に対し、年代別に歴史文化資源を座学、現地、周辺散策等により学習する機会の創出 | | → | | ○ 生涯学習課 | ◎ | ○ | ◎ |
| 20 (再掲) | ③ | 学校教育での文化財の活用 (地域学習の促進) | 現地学習、出前授業等、体験講座(古民具、出土遺物の貸し出し等)の実施 本計画を活用した学校教育における調べ学習の推進 | | → | | ○ 生涯学習課 | ◎ | ○ | |
| 31 | ④ | 文化財パトロール体制の構築 | 地域ごと又は種別ごとに文化財パトロールを実施する体制の構築 | | | → | ◎ 生涯学習課 | | | |
| 32 | ④ | 文化財レスキュー、防災関係団体との連携構築 | 緊急時の連絡体制及び発災後の連携体制の構築 | → | | | ○ 生涯学習課 | ○ | ○ | |

(2) 支える

| No | 方針 | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 実施主体 | | | |
|----|----|-------------|---------------------------------|------|----|----|------------|----------|----|---------|
| | | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有者 等 | 地域 | 団体 等 |
| 33 | ① | 町文化財登録制度の検討 | 町登録制度設立に向けての検討、必要な場合は登録制度の整備 | | | → | ○ 生涯学習課 | | | |
| 34 | ② | 支援団体指定の検討 | 文化財保存活用支援団体の指定の検討 | | → | | ○ 生涯学習課 | | | |
| 35 | ③ | 保存・活用の施設整備 | 収蔵庫、公開施設、研究施設、学習施設の設置に向けての検討、整備 | → | | | ○ 生涯学習課 | | | |



4 重点的かつ優先的に実施する取組（リーディングプロジェクト）

本計画の基本理念である「わたしたちは、恵まれた自然環境に育まれた^{おやま}小山の歴史文化に誇りをもち、^{きんたろう}金太郎のように、健康で、明るい、ゆたかな町づくりをすすめます。」を実現し、そして本計画の上位計画となる^{おやまちょう}小山町第5次総合計画の基本施策である「文化の薫るまち」の実現に向け、計画全体を牽引する役割を持つ「リーディングプロジェクト」を設定します。「リーディングプロジェクト」としては、本節の1～3で示した各措置のうち、関連性の高い複数の措置を統括し、5つの事業区分に整理して取り組むこととします。

前節までに掲げた文化資源の保存・活用に関する措置のうち、新たな歴史文化資源の発見、情報の整理、周知の一連の流れ、そして保存・活用の基盤を担う人材の育成と拠点の整備について、多様な主体の連携により進めることを念頭に、次の措置をリーディングプロジェクトに設定します。なお、本プロジェクトでは本町の歴史文化の魅力と価値の向上を図るため、とくに未指定文化財を対象に積極的に取り組むだけでなく、横断的に関連づけながら、相乗的な効果が発揮できるよう進めます。

| | |
|----|--|
| 地区 | ^{おやまちょう} 小山町全域 |
| 期間 | 令和6～12年度（2024～2030） |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> ①未調査分野の調査 <ul style="list-style-type: none"> 事業 No. 2 無形の民俗文化財等の調査 事業 No. 3 特産品等の調査 事業 No. 4 建造物調査 ②資料整理事業 <ul style="list-style-type: none"> 事業 No. 6 文化財データベースの構築と運用 ③周知事業 <ul style="list-style-type: none"> 事業 No. 18 わかりやすい冊子・パンフレットの作成 事業 No. 20 学校教育での文化財の活用 事業 No. 23 サイン及び解説板整備事業 ④人材育成事業 <ul style="list-style-type: none"> 事業 No. 27 文化財ボランティアの育成 事業 No. 30 文化財専門職員の育成 ⑤施設整備事業 <ul style="list-style-type: none"> 事業 No. 17 防災・防犯設備の拡充 事業 No. 35 保存・活用の施設整備 |

第6章 歴史文化資源の一体的・総合的な保存と活用

第1節 関連文化財群と保存活用区域の設定

本計画では、本町の多様な歴史文化資源の関連性に基づき、一体的・総合的な保存と活用を図ることで、歴史文化への理解を高めるとともに、その魅力の向上を図ることを目指します。具体的には、第3章にて整理した歴史文化の特徴をもとに、共通の歴史性を持つものを「関連文化財群」として設定するとともに、空間的な一体性の高いものを「文化財保存活用区域」として設定します。

それぞれの設定の目的と考え方は次のとおりです。

1 関連文化財群の設定

(1) 関連文化財群設定の目的

個々の歴史文化資源は、単体ではその価値を理解することや活用を図ることが難しいことから、歴史文化の特徴をもとに、相互に密接に関連する歴史文化資源を関連文化財群として設定します。

関連文化財群の設定を通じて、町の歴史文化の特徴を町民等にわかりやすく伝えるとともに、第5章にて示した基本理念、方針と措置をより効率的に実施することを目指します。

(2) 関連文化財群設定の考え方

- ① ^{おやまちょう}小山町の歴史文化の特徴を象徴する、特定のテーマに基づくストーリーの構築が可能な歴史文化資源を分類し、設定します。
- ② 関連文化財群を構成する歴史文化資源は、類型や指定・未指定に関わらず、^{おやまちょう}小山町の歴史文化の特徴をよく表したものを対象とします。

(3) 関連文化財群の見直し

今後の調査により新たな歴史文化資源が発見、あるいは価値が明確になることで、関連文化財群への要素の追加や、新たなストーリーが見出される可能性があります。そのような場合には、関連文化財群への要素の追加や、新たな関連文化財群の設定等を検討し、必要に応じて計画の見直しを実施します。



2 文化財保存活用区域の設定

(1) 文化財保存活用区域設定の目的

文化財保存活用区域とは、文化財が特定の地区に集中している場合に、その周辺環境を含め当該文化財群を核として文化的な空間を創出するための計画区域です。

多様な文化財が集中する区域を設定して保存・活用を図ることで、魅力的な空間の創出につなげることを目的とします。

(2) 文化財保存活用区域設定の考え方

- ①指定等文化財を含む本町の歴史文化資源が集積し、それらとその周辺地域を歴史文化保存活用区域として設定します。
- ②歴史文化資源を、まちづくりや観光振興に積極的に生かすことが期待される区域を設定します。
- ③歴史文化資源の保存・活用に、様々な人々の参加が期待される区域を設定します。

(3) 文化財保存活用区域の見直し

今後の調査により、保存活用区域の区域内あるいはその周辺に新たな歴史文化資源が見出される可能性があります。このような場合、構成要素の追加や保存活用区域の範囲の変更などを検討し、必要に応じて計画の見直しを行います。

3 歴史文化の特徴との対応

本計画では、第3章に掲げる歴史文化の特徴を踏まえ、次のとおり関連文化財群と文化財保存活用区域を設定します。

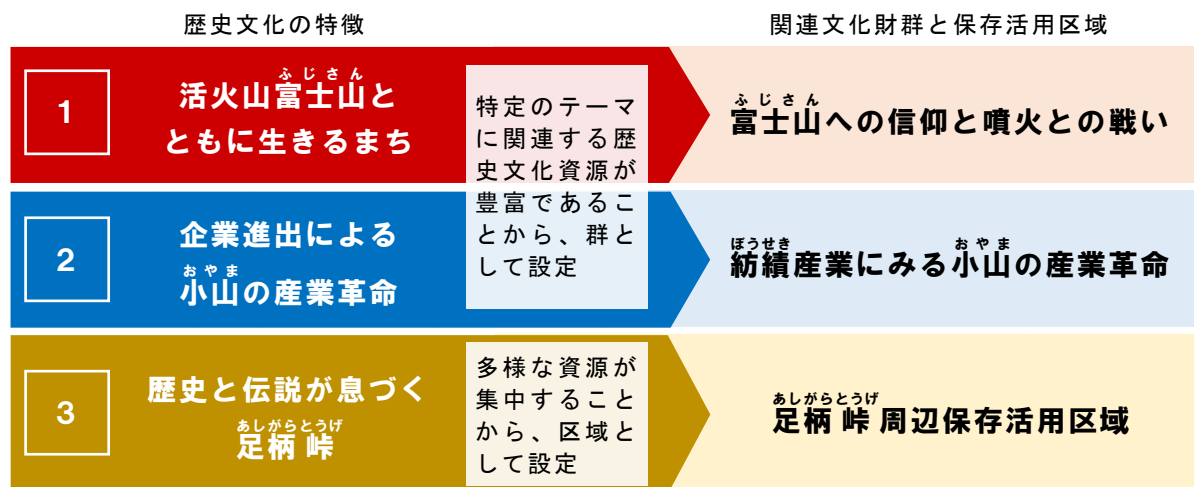


図6-1 歴史文化の特徴と関連文化財群・保存活用区域の対応

第2節 関連文化財群

1 関連文化財群のストーリーと構成要素

(1) 富士山への信仰と噴火との戦い

富士山は日本人にとって古来より信仰の対象として畏敬されるとともに、数多くの芸術作品にも取り上げられ、浮世絵など海外の芸術家にも大きな影響を与えてきました。

富士山の山頂までを町域とする小山町は、活火山とされる富士山の影響を受け続け、時には畏怖の対象として、さらには信仰の対象として、そして地域の産業に欠かせない資源として、ともに歴史を歩んできました。

① 関連文化財群のストーリー

ここでは、「核となる構成要素」として「富士山」や「須走口登山道」、そしてその起点である「富士浅間神社」や神社内の歴史文化資源などを設定しました。

「富士山」には、国指定の「特別名勝」と「史跡」があり、特別名勝は標高1,500m以上の山体が、史跡は富士浅間神社と五合目の古御嶽神社から上方の登山道が指定されています。またこの「富士浅間神社」と「須走口登山道」は世界文化遺産の構成資産、構成要素としても登録されています。富士浅間神社には、享保年間（18世紀初め）の部材を使用した社殿や富士講の講元から寄進された石造物の他、県指定の「富士浅間神社のハルニレ」、町指定の「富士浅間神社の根上がりモミ」「富士浅間神社のエゾヤマザクラ」といった天然記念物があります。その他、登山道沿いの雲霧神社や御室浅間神社等の神社や富士登山に由来する石造物をはじめ、町内には富士山への信仰にまつわる歴史文化資源が多く存在します。神社から東に400mほど離れた箇所には「伊奈神社」があり、宝永噴火で埋没した須走村をはじめとする近隣の村々の再興に尽力した「伊奈半左衛門忠順」が祀られています。

そして「その他の歴史文化資源」として、お札、版木、祭壇などの富士講に関する文化財や須走地区内に存在する石造物、鎌倉往還道跡などを設定しました。

このように須走地区は、富士山の信仰と噴火との戦いの歴史が詰まっています。富士登山の歴史については、富士山の噴火が沈静化した12世紀頃から始まったとされ、世界文化遺産登録の年である平成25年（2013）をピークに、毎年約2万人の登山者が須走口を訪れています。近年では新型コロナウイルス感染症対策等により登山者数は減少していましたが、回復傾向にあります。



表6-1 過去10年分の須走ルートの登山者数の推移

| 年 | 平成25年 (2013) | 平成26年 (2014) | 平成27年 (2015) | 平成28年 (2016) | 平成29年 (2017) | 平成30年 (2018) | 平成31年 令和元年 (2019) | 令和2年 (2020) | 令和3年 (2021) | 令和4年 (2022) |
|------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-------------------------|----------------|----------------|----------------|
| 登山者数 | 36,508 | 31,626 | 23,122 | 20,277 | 23,475 | 26,696 | 20,215 | — | 6,411 | 12,621 |

※1：出典：環境省統計データ

※2：平成25年(2013)7月1日～8月31日、平成26年(2014)～令和3年(2021)7月10日～9月10日

※3：令和2年(2020)は、新型コロナウイルスまん延防止のための閉山によりデータなし

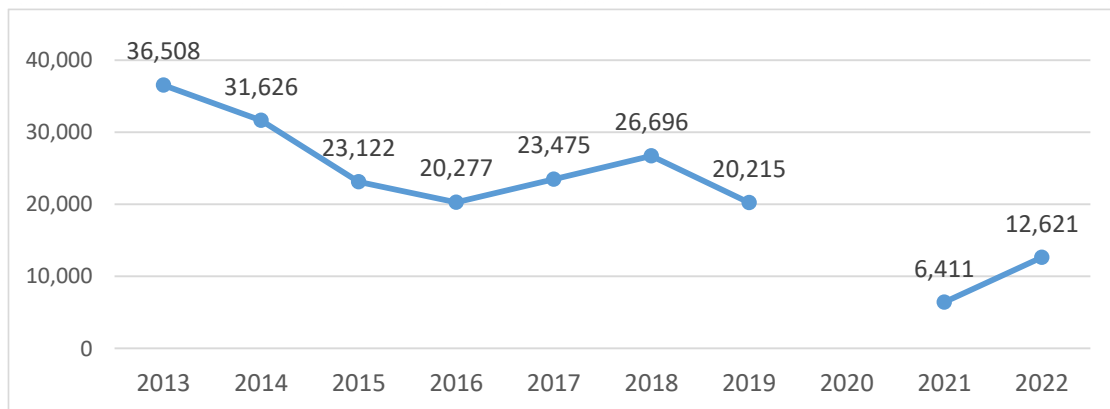


図6-2 須走ルートの登山者数の推移

最初に須走が登山口としての存在が確認できる資料として、『懸仏』があります。これは、至徳元年（1384）に富士浅間大菩薩に奉納された『懸仏』が旧六合目から出土したことから、須走口から登山した導者がいたことがわかりました。また、この導者が須走口を訪れることで、須走村は収入を得ることができ、さらに、富士山頂に投げられた費銭を集める権利について、富士山本宮浅間大社が集めた後の「二番拾い」の権利を須走村が有していました。

須走口から山頂を目指す登山者は、まず富士浅間神社に参拝してから登り始めます。遠方から来た人々は、須走村に一泊し、その間、身支度を整えたり、水垢離を行うなど身を清めたりして登山準備を行いました。また、下山者も疲れを癒すために再度、御師住宅や旅籠に立ち寄ったことが宿帳などからわかっています。

このように須走村は須走口登山道の起点であり、駿河と甲斐の国境でもあるため、東海道から甲斐へと続く鎌倉往還が通る交通の要衝として物資の運搬等でも稼ぐことができた村でした。一方、須走村は標高が800mを超えることから農業には不向きであり、田は1枚もなく、その状況は現在まで続いています。

交通の要衝として、そして登山者の受け入れにより栄えてきた須走村ですが、宝永4年（1707）の宝永噴火により壊滅しました。江戸時代の絵図によると、本通りの両側に御師住宅や旅籠など、77軒の家々が立ち並んでいましたが、火山灰の重さで潰れたり、火のついた火山灰が茅葺屋根に乗って焼失してしまいました。

この惨状により、須走村は幕府直轄領として復興が図られました。この復興の指揮を執った人物が伊奈半左衛門忠順です。彼に関する資料は極めて少なく、その人物を詳しく知ることは難しいですが、復興を成し遂げた人物として顕彰運動が行われ、「伊奈神社」が建設されました。現代にもその業績が伝えられています。



図6-4 伊奈神社に建つ伊奈半左衛門忠順像

復興を遂げた須走村には、再び富士講をはじめとする登山者が戻ってきました。老中の柳沢吉保が記した日記、『楽只堂年録』には、噴火直後の砂に埋もれた須走村の様子が描かれています。

砂に埋もれた状況については、令和元年度（2019）と令和4年度（2022）に実施した須走地区の発掘調査で、潰れた家屋だけでなく、播鉢や急須などの生活雑器が発見されたことにより明らかになってきています。今後も新たな発見が予想され、ますます噴火や人々の暮らしの様子が判明することが期待されます。

その他にも、町内には鎌倉往還や馬車鉄道などの交通関係の史跡や、富士山をこよなく愛したスタール博士の碑などがあり、富士山にまつわる様々な歴史を感じることができます。



図6-5 スタール博士の碑



図6-6 明治期の馬車鉄道

②関連文化財群の構成要素

| 名称等 | 分類 | 所有者等 | 指定等 | 備考 | 場所 |
|-----------------------------------|-----------|-----------------------------|-----|--|--------------------------------|
| とくべつめいしやうふじさん 特別名勝富士山 | 名勝地 | 国・富士山本宮 せんげんたいしや 浅間大社 | 国指定 | うまがえ 馬返しより上方の山体 | 富士山 |
| しせきふじさん 史跡富士山 | 遺跡 | 国・ ふじせんげんじんじや 富士浅間神社 | 国指定 | 富士山八合目以上の山 頂部、ふじせんげんじんじや 富士浅間神社、 すばしりぐち 須走口五合目の古御嶽 じんじや 神社より上方の登山道 | |
| ひなたいせき 日向遺跡 | 遺跡 | 町 | 未指定 | ほうえいふんか 宝永噴火で埋没した家 屋及び生活雑器が発見 | |
| ふじこう 富士講に関する文化財 (お札、版木、祭壇) | 美術工芸 品 | | 未指定 | | |
| おし 御師関連文化財 (富士講御師家跡) | 遺跡 | | 未指定 | | |
| ほかせ スताल博士の碑 | 建造物 | 個人 | 未指定 | | |
| ふじせんげんじんじやでん 富士浅間神社殿 | 建造物 | ふじせんげんじんじや 富士浅間神社 | 町指定 | きやうほう 享保3年(1718)に再建 された社殿が現存 | ふじせんげんじんじや 富士浅間神社 境内 |
| ふじせんげんじんじや 富士浅間神社のハルニ レ | 植物 | ふじせんげんじんじや 富士浅間神社 | 県指定 | 幹廻り4m、樹高24.5m | |
| ふじせんげんじんじや 富士浅間神社のエゾヤマ マザクラ | 植物 | ふじせんげんじんじや 富士浅間神社 | 町指定 | 本州南限のエゾヤマザ クラ | |
| ふじせんげんじんじや 富士浅間神社の根上がり モミ | 植物 | ふじせんげんじんじや 富士浅間神社 | 町指定 | ほうえいふんか 宝永噴火の火山灰の流 亡により根上がりとな った。 | |
| すばしりぐちとざんどう 須走口登山道 | 遺跡 | 国・ふじせんげんじんじや 富士浅間神社 | 国指定 | ふじせんげんじんじや 富士浅間神社が起点と なり、山頂に至る | すばしりぐちとざんどう 須走口登山道 |
| ちゆうどう お中道 | 遺跡 | | 未指定 | 本七合目周辺に一部残 存 | |
| じゆんれいろ 巡礼路 | 遺跡 | | 未指定 | あしがらとうげ 足柄峠からきやり地蔵 を通過し、須走へ | |
| みちしるべ | 遺跡 | | 未指定 | ふじみちの道標 | |
| くもきりじんじや 雲霧神社 | 遺跡 | くもきりじんじや 雲霧神社 | 未指定 | すばしりぐち 須走口五合目より下方 の登山道沿い | すばしりぐちとざんどう 須走口登山道 沿いの神社 |
| おむろせんげんじんじや 御室浅間神社 | 遺跡 | おむろせんげんじんじや 御室浅間神社 | 未指定 | すばしりぐち 須走口五合目より下方 の登山道沿い 社殿倒壊 | |
| こみたけじんじや 古御嶽神社社殿 | 建造物 | こみたけじんじや 古御嶽神社 | 未指定 | すばしりぐち 須走口五合目 | |
| たいないじんじや 胎内神社社殿 | 建造物 | たいないじんじや 胎内神社 | 未指定 | すばしりぐち 須走口本六合目 | |
| むかえくすしのじんじや 迎久須志之神社社殿 | 建造物 | むかえくすしのじんじや 迎久須志之神社 | 未指定 | すばしりぐち 須走口九合目 | |
| くすしじんじや 久須志神社社殿 | 建造物 | くすしじんじや 久須志神社 | 未指定 | すばしりぐち 須走口山頂 | |
| いなじんじや 伊奈神社社殿 | 建造物 | いなじんじや 伊奈神社 | 未指定 | いなはんさ 伊奈半左衛門忠順を祀 る | すばしり 須走 |
| かまくらおうかん 鎌倉往還 | 遺跡 | | 未指定 | | |
| ばしやでつどう 馬車鉄道 | 遺跡 | | 未指定 | | |



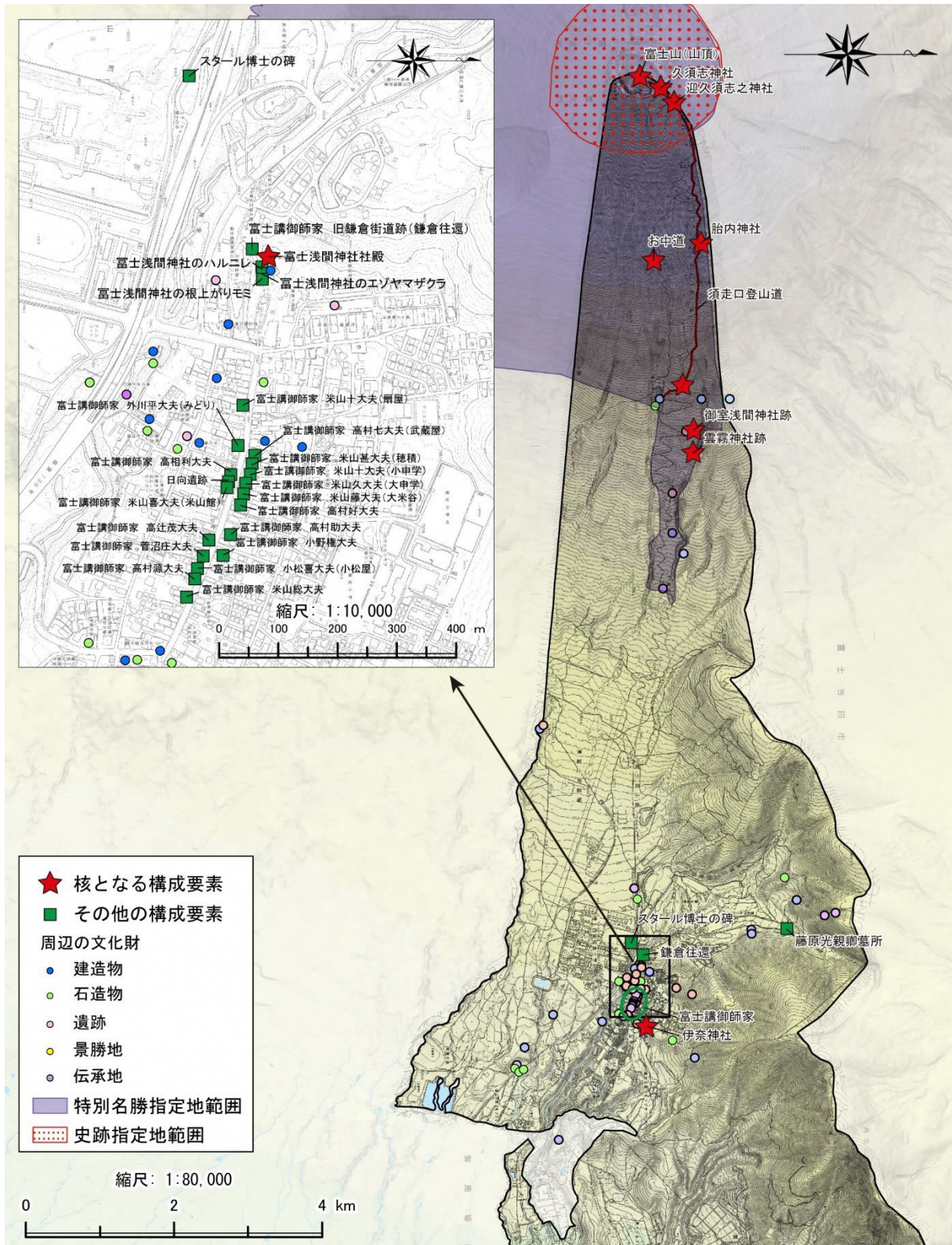


図6-7 構成要素の分布

(2) 紡績産業にみる小山の産業革命

明治の終わり頃、東海道線（現JR御殿場線）の開通を契機に富士紡が創業したことで、小山町は転換期を迎えました。戦争や震災などの苦難を乗り越えながらも町と共に大きく成長していくことで、小山に革命をもたらしたといえます。

現在も豊門公園周辺には、登録有形文化財（建造物）をはじめとした関連する文化財が多く残され、その歴史にふれることができます。

① 関連文化財群のストーリー

東海道線（現JR御殿場線）の開通を契機に、本町の前身となる駿東郡菅沼村の地に、箱根・富士山系から湧き出る豊富な水を利用した紡績工場の建設が「水力組」により計画され、明治29年（1896）3月に富士紡績株式会社が設立されました。

富士紡の操業後、工場付近の須川に水力発電所が建設されました。しかし営業開始後も業績不振に見舞われ、事業は深刻な状態にありました。このような中、富士紡設立の発起人の一人である森村市左衛門の尽力により、和田豊治が招聘されました。和田の様々な経営体制の改革によって業績回復を果たすことができました。

明治31年（1898）に落成した第一工場（綿糸）、第二工場（絹糸）を皮切りに、明治40年（1907）には第三工場（綿紡績）、明治42年（1909）には第4工場（綿紡績）が完成し大正期には小山第五工場（綿織布）など、各地で工場を建設・拡張し、合併や社名変更などを経て発展を遂げました。

その後、大正12年（1923）に発生した関東大震災による被災、昭和20年（1945）の空襲被害などからの復興を経て、現在に至っています。

一方、工場北方の藤曲の丘の上には豊門会館が位置しています。これは富士紡の従業員並びに地域住民の教育・保健・慰安等の場を提供する目的で大正14年（1925）に建築されたものです。現在、敷地内の豊門会館和館、豊門会館洋館、豊門公園西洋館、豊門公園正門、豊門公園噴水泉、豊門公園和田君遺徳碑が国登録有形文化財に登録され、多くの来訪者にその歴史を伝えています。

また、当時工場の門前にあった橋を架けかえるにあたり、森村市左衛門の功績に感謝の意を示すとともに後世に伝えることを目的に、完成した橋は「森村橋」と命名されました。日本人が設計・製作したトラス橋としては初期の遺構で、現在は国登録有形文化財に登録され、橋上はコンサートなど様々なイベントに活用されています。

関連文化財群の「核となる構成要素」としては、国登録有形文化財の「豊門会館」や「豊門公園西洋館」などの豊門公園内の歴史文化遺産や、同じく国登録有形文化財の「森村橋」があります。

また、その他の関連する歴史文化資源として、現在も残る「富士紡旧事務所」や発電所、富士紡従業員が使用した「鮎沢橋」などがあります。



②関連文化財群の構成要素

| 名称等 | 分類 | 所有者等 | 指定等 | 備考 |
|------------------|-----|---------------|-----|---|
| 豊門会館（旧和田豊治家住宅）和館 | 建造物 | おやまちょう 小山町 | 国登録 | 明治42年（1909）に建設された和田豊治の住宅を大正14年（1925）に現在地へ移設 |
| 豊門会館（旧和田豊治家住宅）洋館 | 建造物 | おやまちょう 小山町 | 国登録 | 和館部分と内部で繋がる。玄関、洋間、サンルームが残存。 |
| 豊門公園西洋館（旧豊門青年学校） | 建造物 | おやまちょう 小山町 | 国登録 | 昭和5年（1930）建設。旧豊門青年学校。 |
| 豊門公園正門 | 建造物 | おやまちょう 小山町 | 国登録 | 大正14年（1925）建設。鉄筋コンクリート、モルタル洗い出し。 |
| 豊門公園噴水泉 | 建造物 | おやまちょう 小山町 | 国登録 | 昭和初期に建設。 |
| 豊門公園和田君遺徳碑 | 建造物 | おやまちょう 小山町 | 国登録 | 大正14年（1925）建設。意匠は朝倉文夫。篆額は渋沢栄一。 |
| 六谷山荘 | 建造物 | おやまちょう 小山町 | 未指定 | 旧富士紡績工場長住宅 |
| 富士紡旧事務所 | 建造物 | 富士紡ホールディングス | 未指定 | |
| 水力発電事業に関わるもの | 遺跡 | | 未指定 | 旧富士電力発電所（菅沼・須川・生土）、天神原貯水池、阿多野貯水池、水路網 |
| 鮎沢橋 | 建造物 | 富士紡ホールディングス | 未指定 | 明治40年（1907）建設。旧富士紡績工場と社員寮を結ぶ橋として鮎沢川に架かる。 |
| 森村橋 | 建造物 | おやまちょう 小山町 | 国登録 | 明治39年（1906）建設。鋼製プラットトラス橋。令和2年（2020）土木学会田中賞受賞。 |



図6-8 工場と社員寮をつなぐ鮎沢橋

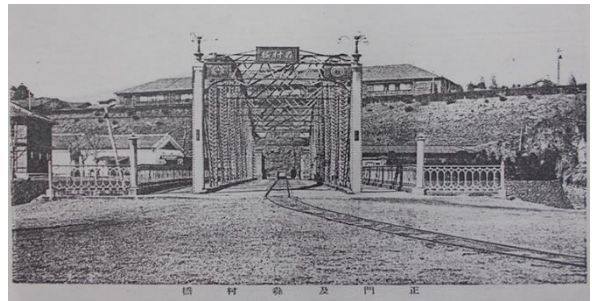


図6-9 大正7年当時の森村橋



図6-10 復原前の森村橋



図6-11 復原後の森村橋

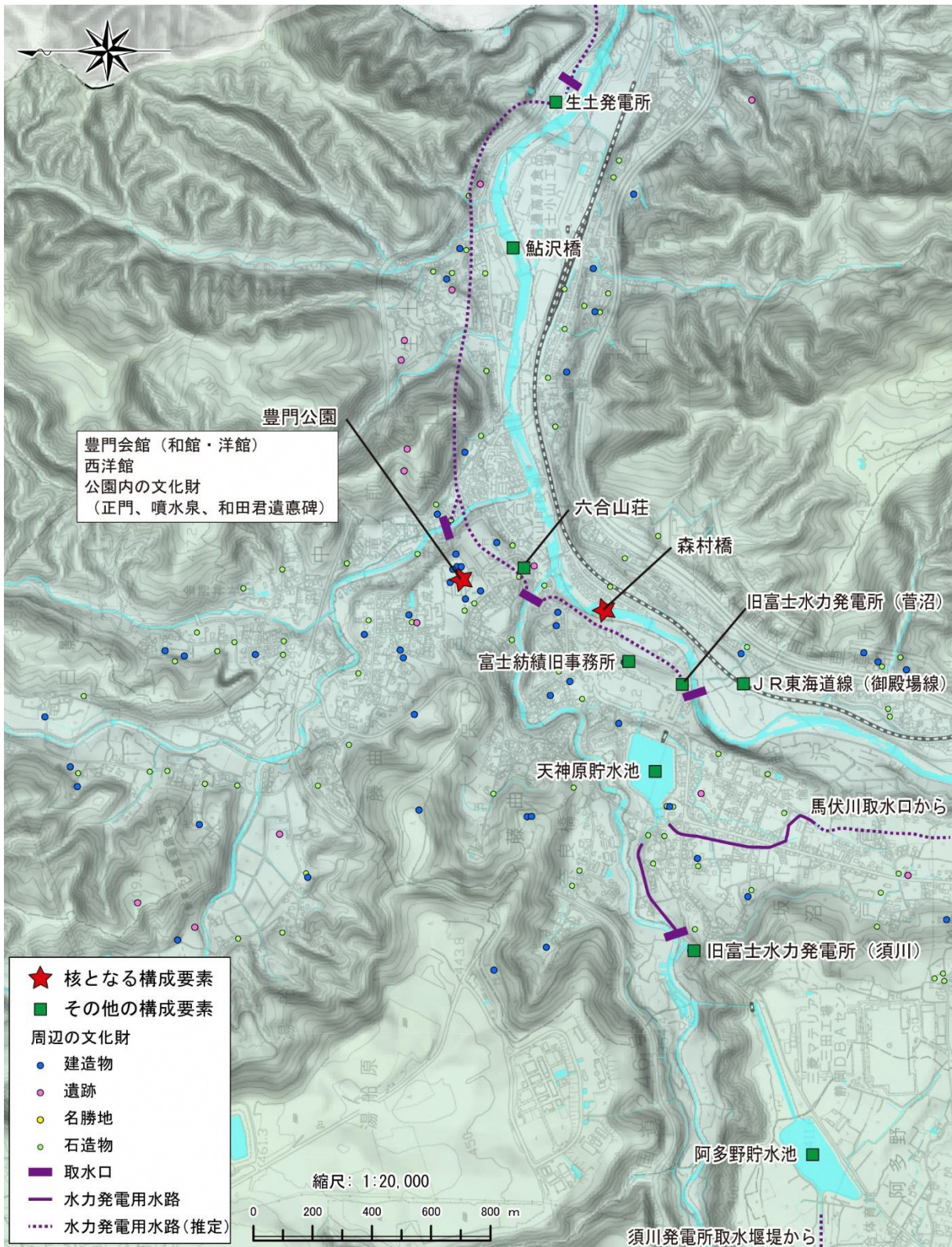


図6-12 構成要素の分布



2 関連文化財群の保存活用計画

ここでは、関連文化財群の保存・活用により、歴史文化の特徴を町民等にわかりやすく伝えるとともに、本計画の基本理念を実現するための現状と課題・方針・措置を整理します。

なお、体制・支援の取組については第5章に記載した内容と重複するため、本章では割愛します。

(1) 富士山への信仰と噴火との戦い

ア 現状と課題

【保存の現状と課題】

- ① 富士山に関する歴史文化資源のうち、神社や富士講に関する資料など調査が不十分なものがあります。
- ② 伝承や古文書など、富士山に関連する歴史文化資源の保存や防災に対する取組が不足しています。
- ③ 富士浅間神社敷地内には、県・町指定の天然記念物をはじめとする歴史文化資源がありますが、個々の特性にあわせた保存措置が不十分です。
- ④ 富士山は世界文化遺産としての来訪者のみならず登山等による観光利用が盛んであり、特別名勝及び史跡内で様々な行為が予想されますが、保存のためには適切な対応が求められます。

【活用の現状と課題】

- ① 学習教材の充実や教育活動の実施など、富士山に関する歴史文化資源の価値の情報発信・周知、活用が不十分です。また、地域学習にも生かしきれていません。
- ② 富士登山の拠点ともなる富士浅間神社において、資料館の活用が十分にできていません。

イ 方針

【保存の方針】

- ① 富士山に関連する歴史文化資源の全体像の把握と価値付けのための各種調査を実施します。
- ② 富士山に関連する歴史文化資源の保存に向けて、目録作成やデジタル化、防災対策を強化します。
- ③ 富士浅間神社内の歴史文化資源の継承促進のため、歴史文化資源の内容に応じた維持・管理などの保存の取組を推進します。

- ④特別名勝^{ふじさん}富士山保存管理計画や史跡^{ふじさん}富士山保存管理計画に基づく指定文化財の適切な取扱いを周知するとともに、法的手続きが発生する場合は確実な処理を行います。

【活用の方針】

- ①歴史文化資源を理解するための施設整備、学校教育や社会教育の機会の提供、情報発信を推進します。
- ②^{ふじせんげんじんじや}富士浅間神社資料館における資料収集の促進や資料館の周知と活用、定期的な展示の更新や企画展の開催、ガイドの配置などの機能強化を推進します。

ウ 措置

表の解説

- ・実施期間：前期…R 6～7、後期…R 8～12、次期…次期計画の対象期間
- ・実施主体の詳細は第7章を参照
- ・期間を設けるもの…実線、恒常的に行うもの…点線
- ・実施主体：◎…特に主体的に実施、○…主体的に実施

【保存に関する措置】

| No | 方針 | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 実施主体 | | | |
|----|----|-------------------------------------|---|------|----|----|------------|----------|----|---------|
| | | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有者 等 | 地域 | 団体 等 |
| A1 | ① | ^{ふじせんげんじんじや} 富士浅間神社建造物調査 | ^{ふじせんげんじんじや} 富士浅間神社の所有する古文書及び建造物の詳細調査 | | → | | ○ 生涯学習課 | ◎ | | |
| A2 | ① | ^{ふじせんげんじんじや} 富士浅間神社埋蔵文化財調査 | ^{ふじせんげんじんじや} 富士浅間神社の整備や活用に向けた埋蔵文化財調査 | | | → | ○ 生涯学習課 | ◎ | | |
| A3 | ① | 古文書・埋蔵文化財調査 | ^{ほうえいふんか} 宝永噴火前の町並みを解明するための ^{すばしり} 須走地区における古文書及び埋蔵文化財調査 | → | | | ○ 生涯学習課 | ◎ | ○ | |
| A4 | ① | ^{おし} 御師に関する総合調査 | ^{おし} 御師住宅に関する把握調査及び詳細調査（古文書・家屋・ ^{じゆうき} 什器・祭具類） | | → | | ○ 生涯学習課 | ◎ | ○ | |
| A5 | ① | ^{ふじさん} 富士山登山道調査 | 平成27年度から実施してきた登山道詳細調査の継続。主に五合目以上の未調査部分を中心に実施（ ^{かごさかとうげ} 籠坂峠含む） | | | → | ◎ 生涯学習課 | | | |
| A6 | ① | ^{ふじさん} 富士山山体調査 | 自然分野（火山、動物、植物）と社会分野（山小屋、工作物）等の調査 | | | → | ○ 生涯学習課 | ◎ | ○ | |
| A7 | ① | ^{ふじさん} 富士山周辺域石造物調査 | 石造物の実態把握と記録保存、価値の高いものの文化財指定の検討 | | → | | ◎ 生涯学習課 | | | |
| A8 | ① | ^{かまくらおうかんだう} 鎌倉往還道調査 | 古文書及び埋蔵文化財調査、ルート設定（ ^{あしがらとうげ} 足柄峠からの古道調査） | | → | | ◎ 生涯学習課 | | | |
| A9 | ① | 民間伝承調査 | ^{ふじさん} 富士山に関わる伝承等の把握調査（ ^{おし} 御師に関係する有形民俗文化財含む） | | → | | ◎ 生涯学習課 | | | |



| No | 方針 | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 実施主体 | | | |
|-----|----|---------------|---|------|----|----|---------------------|----------|----|---------|
| | | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有 者等 | 地域 | 団体 等 |
| A10 | ① | 宗教行事の把握と保存 | 映像記録・冊子の刊行 | | → | | ○ 生涯学習課 | ◎ | | |
| A11 | ② | 古文書のデジタル化 | 町史編纂時に作成した目録をもとに新たな古文書の洗い出しとデジタル化を実施 | → | | | ◎ 生涯学習課 | | | |
| A12 | ② | 防災設備設置事業 | 放水銃の設置、耐火収蔵庫の充実 | → | | | ○ 生涯学習課 小山消防署 | ◎ | | |
| A13 | ② | 防災訓練 | 神社の他に地区、学校関係者も参加した防災訓練の実施 | → | | | ○ 生涯学習課 小山消防署 | ◎ | ○ | |
| A14 | ③ | 樹木保存事業 | 指定文化財を含む天然記念物の定期的な剪定と消毒 | → | | | ○ 生涯学習課 | ◎ | | |
| A15 | ④ | 国指定文化財の現状変更 | 富士登山者を計測するカウンターの設置、富士山保全協力金等徴収小屋の仮設、コンテナボックスの仮設、携帯電話基地局アンテナの設置等に対する文化財保護法に基づく手続きの実施 | | | → | ◎ 生涯学習課 | ○ | ○ | ○ |
| A16 | ④ | 保存管理連絡協議会等の開催 | 特別名勝富士山及び史跡富士山保存連絡協議会にて関係者と情報共有を図る。須走口登山道関係者が出席する「夏山登山打合せ会」等で、文化財保護法の遵守について周知する。 | | | → | ◎ 生涯学習課 観光交流課 | ○ | ○ | ○ |

【活用に関する措置】

| No | 方針 | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 実施主体 | | | |
|-----|----|--------------|---------------------------|------|----|----|---------------------|----------|----|---------|
| | | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有 者等 | 地域 | 団体 等 |
| A17 | ① | サイン及び解説板整備事業 | 構成資産及び須走地区のサイン標示の充実 | → | | | ○ 生涯学習課 | ◎ | | |
| A18 | ① | 学校教育における地域学習 | 児童、生徒、教員に対し、学習する機会の設定 | → | | | ○ 生涯学習課 学校教育課 | ◎ | | |
| A19 | ① | 歴史文化資源学習講座 | 町民向け講座、観光者向け講座、ガイド講座の実施 | → | | | ◎ 生涯学習課 | | | |
| A20 | ① | 解説冊子刊行事業 | パンフレット、小冊子、解説本の刊行 | → | | | ○ 生涯学習課 | ◎ | | |
| A21 | ① | フィルムコミッション活動 | 歴史文化資源を舞台とした撮影等の積極的な誘致 | → | | | ○ 生涯学習課 | | | ◎ |
| A22 | ② | 資料収集事業 | 富士浅間神社や富士山に関する資料の収集 | → | | | ○ 生涯学習課 | ◎ | | |
| A23 | ② | 企画展開催 | 資料館の定期的な展示替え、企画展の開催 | | → | | ○ 生涯学習課 | ◎ | | |
| A24 | ② | 学芸員・ガイド等の採用 | 資料館や教育委員会等への専門職員の配置、資料の活用 | → | | | ○ 総務課 | ◎ | | ○ |

エ 重点的かつ優先的に実施する取組（リーディングプロジェクト）

ここでは、関連文化財群の保存活用計画の推進のため、事業を牽引する役割を持つ「リーディングプロジェクト」を設定します。「リーディングプロジェクト」としては、前項で示した各措置のうち、関連性の高い複数の措置を統括し、5つの事業区分に整理して取組むこととします。

本関連文化財群では、拠点となる須走地区^{すばしりちく}における歴史文化資源の総合調査のほか、歴史文化資源の核となる富士山^{ふじさん}や富士浅間神社^{ふじせんげんじんじや}に関する調査を推進します。また、地域や所有者との連携のもと、富士登山^{ふじ}と紐づいたウォーキング事業などを重点的かつ優先的に実施していきます。

関連文化財群の中で未調査や保護にあたって緊急性の高いものについては、優先的に取組を実施していきます。

| | |
|----|--|
| 地区 | 須走地区 ^{すばしりちく} |
| 期間 | 令和6～12年度 |
| 内容 | <p>複数の事業を一体的に実施することで、効率的な事業推進につなげるため、5項目の事業区分を設定します。</p> <p>①須走地区総合調査^{すばしりちく}</p> <ul style="list-style-type: none"> 古文書調査（関連事業No. A1、A8、A11） 埋蔵文化財調査（関連事業No. A2、A3、A8） 御師^{おし}関連民俗調査（関連事業No. A4、A9） <p>②富士浅間神社総合調査^{ふじせんげんじんじや}</p> <ul style="list-style-type: none"> 建造物調査（関連事業No. A1） 古文書調査（関連事業No. A1） 埋蔵文化財調査（関連事業No. A2） <p>③各種調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 登山道調査（関連事業No. A5） 石造物調査（関連事業No. A7） 自然分野（火山、動物、植物等）調査（関連事業No. A6） 社会分野（山小屋、工作物等）調査（関連事業No. A6） <p>④資料整理事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料整理（関連事業No. A11） デジタル化（関連事業No. A11） <p>⑤周知事業</p> <ul style="list-style-type: none"> パンフレット、小冊子等作成（関連事業No. A20） 富士浅間神社資料館^{ふじせんげんじんじや}の有効活用（関連事業No. A22、A23、A24） サイン及び説明看板の設置、更新（関連事業No. A17） クアオルトウォーキング、トレイルウォーキングの実施（関連事業No. 26（第5章）） |



(2) 紡績産業にみるほうせき小山の産業革命おやま

ア 現状と課題

【保存の現状と課題】

- ① 富士紡や富士電力ふじでんりょくに関連する歴史文化資源や歴史について、過去の調査内容の取りまとめと、調査が不足しているものの詳細調査が必要です。
- ② 創業時から戦前までの社内文書についてはデジタル保存がされていますが、歴史資料の中には、資料の劣化が懸念されているものの、デジタル化による保存が未実施のものがあります。
- ③ 継承に向け、建造物の計画的な維持管理や体制の整備、防災設備の充実、防災訓練などの防災対策が不十分です。

【活用の現状と課題】

- ① 富士紡等ふじぼうに関連する文書、建造物などの歴史文化資源の価値の周知と活用に向け、周辺のサイン整備や解説資料の充実、学校教育や社会教育等と連携した学習機会の提供が必要です。また、フィルムコミッションの活動が歴史文化資源の活用に生かされていません。
- ② 豊門会館ほうもんかいかんの多面的な活用が不足しているだけでなく、西洋館せいようかんの展示内容の定期的な更新がなされていないため、展示内容の充実や企画展の開催、専門職員の配置やガイドの確保など維持管理に必要な人材の確保が必要です。

イ 方針

【保存の方針】

- ① 富士紡等ふじぼうに関連する歴史文化資源の取りまとめを行うとともに、価値の解明に向けた調査を実施します。
- ② 富士紡等ふじぼうに関連する歴史文化資源の保存に向けてデジタル保存を実施します。
- ③ 建造物の計画的な維持管理を実施するとともに、放水銃や耐火収蔵庫等の防災設備の充実、防災訓練などの防災への取組を実施します。

【活用の方針】

- ① 富士紡等ふじぼうに関する歴史文化資源を理解するためのサイン整備などの環境整備、学習機会の提供、多様な媒体を用いた情報発信、フィルムコミッション活動などを推進します。
- ② 豊門会館ほうもんかいかんにおけるイベント開催やガイドの配置などの多面的な活用や、富士紡や和田豊治等わだとよじに関する資料収集を充実させ、西洋館せいようかん2階の展示機能の強化を推進します。



ウ 措置

| | |
|--|--|
| <p>表の解説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施期間：前期…R 6～7、後期…R 8～12、次期…次期計画の対象期間 ・実施主体の詳細は第7章を参照 ・期間を設けるもの…実線、恒常的に行うもの…点線 ・実施主体：◎…特に主体的に実施、○…主体的に実施 | |
|--|--|

【保存に関する措置】

| No | 方針 | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 実施主体 | | | |
|----|----|---------------|--|------|----|----|---------------------|----------|----|---------|
| | | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有者 等 | 地域 | 団体 等 |
| B1 | ① | 富士紡関係歴史文化資源調査 | 富士紡や富士電力の進出から小山町の成立、衰退までの聞き取り、関連文書による調査、既往調査成果の取りまとめ | | → | | ◎ 生涯学習課 | | | ○ |
| B2 | ① | 森村橋調査 | 建設から復原工事完了までの報告書を作成 | | → | | ◎ 生涯学習課 | | | ○ |
| B3 | ① | 豊門会館・西洋館等調査 | 建設から復原工事完了までの報告書を作成（六合山荘含む） | | → | | ◎ 生涯学習課 | | | ○ |
| B4 | ① | 鮎沢橋調査 | 鮎沢橋の指定も視野に入れた詳細調査の実施 | → | | | ◎ 生涯学習課 | | | ○ |
| B5 | ② | 古文書のデジタル化 | 町史編纂時の目録等から富士紡関連文書（図面含む）の洗い出しとデジタル化 | | → | | ◎ 生涯学習課 | | | ○ |
| B6 | ③ | 建造物の修理計画策定 | 森村橋、豊門会館、西洋館の修理、更新計画を策定し、計画的な維持管理を実施 | | → | | ◎ 生涯学習課 | | | |
| B7 | ③ | 豊門公園維持管理事業 | 豊門公園の庭木の剪定と消毒、建造物の修繕 | | → | | ◎ 生涯学習課 | | | |
| B8 | ③ | 防災設備設置事業 | 放水銃の設置、耐火収蔵庫の充実 | | → | | ◎ 生涯学習課 小山消防署 | | | |
| B9 | ③ | 防災訓練 | 地区、学校関係者も参加した防災訓練を実施 | | → | | ◎ 生涯学習課 小山消防署 | | | |

【活用に関する措置】

| No | 方針 | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 主体 | | | |
|-----|----|-------------|--|------|----|----|------------|----------|----|---------|
| | | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有者 等 | 地域 | 団体 等 |
| B10 | ① | 文化財周辺環境整備事業 | 周辺道路への案内標示の設置、園内の解説板の設置と定期的な更新、周遊道等の整備 | | | → | ◎ 生涯学習課 | | | |



| No | 方針 | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 主体 | | | |
|-----|----|-------------------|--|------|----|----|---------------------|----------|----|---------|
| | | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有者 等 | 地域 | 団体 等 |
| B11 | ① | サイン及び解説板等整備事業 | 森村橋や豊門会館、西洋館等のサイン標示・ライトアップ等を充実 | | | → | ◎ 生涯学習課 | | | |
| B12 | ① | 学校教育における地域学習 | 児童、生徒、教員に対し、学習する機会の設定 | → | | | ◎ 生涯学習課 学校教育課 | | | |
| B13 | ① | 地域遺産学習講座 | 町民向け講座、観光者向け講座、ガイド講座を実施 | → | | | ○ 生涯学習課 観光交流課 | ◎ | ○ | |
| B14 | ① | 解説冊子等刊行事業 | 富士紡に関するパンフレット、小冊子、解説本の刊行。HPやメディアを活用した周知活動 | → | | | ◎ 生涯学習課 | | | |
| B15 | ① | フィルムコミッション活動 | 歴史文化資源を舞台とした撮影の積極的な誘致 | → | | | ○ 生涯学習課 地域振興課 | | | ◎ |
| B16 | ② | (仮称)富士紡サミットの開催 | 富士紡に関する偉人の子孫や団体、行政と連携した協議会やサミット、学習会等の開催 | | | → | ◎ 生涯学習課 | | | |
| B17 | ② | 芸術祭 in 豊門会館 (森村橋) | 芸術作品の展示やコンサート、茶会などのアートイベントの開催 | → | | | ◎ 生涯学習課 | | | |
| B18 | ② | 学芸員・ガイド等の採用 | 豊門会館への専門職員の配置、資料の保存活用、観光協会と連携したガイドの確保と養成 | → | | | ◎ 生涯学習課 | | | |
| B19 | ② | 民間提案による豊門公園等の活用 | 豊門会館や西洋館などの有効活用と適切な保全を図るため、民間企業からの提案を受け入れ、施設の貸し付け等を行う。 | | | → | ◎ 生涯学習課 企画政策課 | | | |
| B20 | ② | 資料収集事業 | 富士紡や和田豊治等に関する資料収集、収蔵施設の充実 | → | | | ◎ 生涯学習課 | | | |
| B21 | ② | 企画展開催 | 展示室における定期的な展示替え、企画展の開催 | → | | | ◎ 生涯学習課 | | | |



図6-13 ライトアップされた森村橋 (国登録有形文化財)



図6-14 森村橋での橋上コンサート

エ 重点的かつ優先的に実施する取組（リーディングプロジェクト）

ここでは、関連文化財群の保存活用計画の推進のため、事業を牽引する役割を持つ「リーディングプロジェクト」を設定します。「リーディングプロジェクト」としては、前項で示した各措置のうち、関連性の高い複数の措置を統括し、6つの事業区分に整理して取組むこととします。

本関連文化財群の保存・活用にあたっては、国登録有形文化財等の歴史文化資源が集中し、既に公園施設として基盤が整っている豊門公園ほうもんこうえんが拠点となります。そのため、関連文化財群としての魅力を高めるための基礎調査と、整理した情報の周知、拠点の周辺環境の整備を中心とした取組を重点的かつ優先的に実施していきます。

| | |
|----|---|
| 地区 | おやまちく せいりんちく 小山地区・明倫地区 |
| 期間 | 令和6～12年度 |
| 内容 | <p>複数の事業を一体的に実施することで、効率的な事業推進につなげるため、6項目の事業区分を設定します。</p> <p>①近代紡績業総合調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ふじぼう ・富士紡調査（関連事業No. B1、B5、B20） せいようかん ・西洋館調査（関連事業No. B3） もりむらばし ・森村橋調査（国指定文化財に向けて）（関連事業No. B2） <p>②各種調査</p> <ul style="list-style-type: none"> あゆさわばし ・鮎沢橋調査（文化財指定に向けて）（関連事業No. B4） ・トロッコ道、擁壁等調査（関連事業No. 4（第5章）） ふじ ・旧富士電力の調査（関連事業No. B1） <p>③資料整理事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料整理、デジタル化（関連事業No. B5） <p>④豊門会館と西洋館の改修、修繕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改修及び修繕の計画検討（関連事業No. B6） <p>⑤周知事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット、小冊子等作成（関連事業No. B14） ほうもんかいかん せいようかん ・豊門会館及び西洋館の有効活用（関連事業No. B15、B17、B18） ・サイン及び説明看板の設置更新（関連事業No. B11） <p>⑥周辺整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周遊路の設定（基本設計、実施設計、施工）（関連事業No. B10） |



第3節 文化財保存活用区域

1 文化財保存活用区域の範囲と区域内の歴史文化資源

本計画では、有形の文化財をはじめ数々の伝承等、多様な資源に恵まれる「^{あしがらとうげ}足柄峠周辺」を文化財保存活用区域に設定します。

区域の設定により、区域内の歴史文化資源の有機的な連携強化を図り、歴史文化資源への理解を促すとともに、地域全体での一体的な魅力の向上を図ります。また、案内板の設置など、歴史文化資源の周辺環境の整備により、保存・活用の基盤の向上を図ります。

^{ふじさん}富士山と並ぶ^{おやまちょう}小山町のシンボルである^{あしがらとうげ}足柄峠は、古くから交通の要衝として重要な役割をもち、人や物資の往来が盛んな場所でした。現在も歴史的な社寺や人の往来を示す石碑、中世の戦いの争いの痕跡を示す^{あしがらじょうあと}足柄城跡などの歴史文化資源が残されるとともに、峠からは美しい景観を望むことができます。

また、^{あしがらとうげ}足柄峠周辺は童謡や童話などで有名な“^{きんたろう}金太郎”など、数々の伝説・伝承の残る地でもあり、歴史に思いを馳せながら歴史文化資源を巡ることができます。



図6-15 ^{だいゆうざん}大雄山 ^{ほうきょうじ}宝鏡寺



図6-16 ^{あしがらとうげ}足柄峠 ^{ろくぢい}六地藏



図6-17 ^{いずみざん}和泉山 ^{えんつうじ}円通寺



図6-18 ^{きんときざん}金時山

保存活用区域内の歴史文化資源と区域の範囲は次のとおりです。

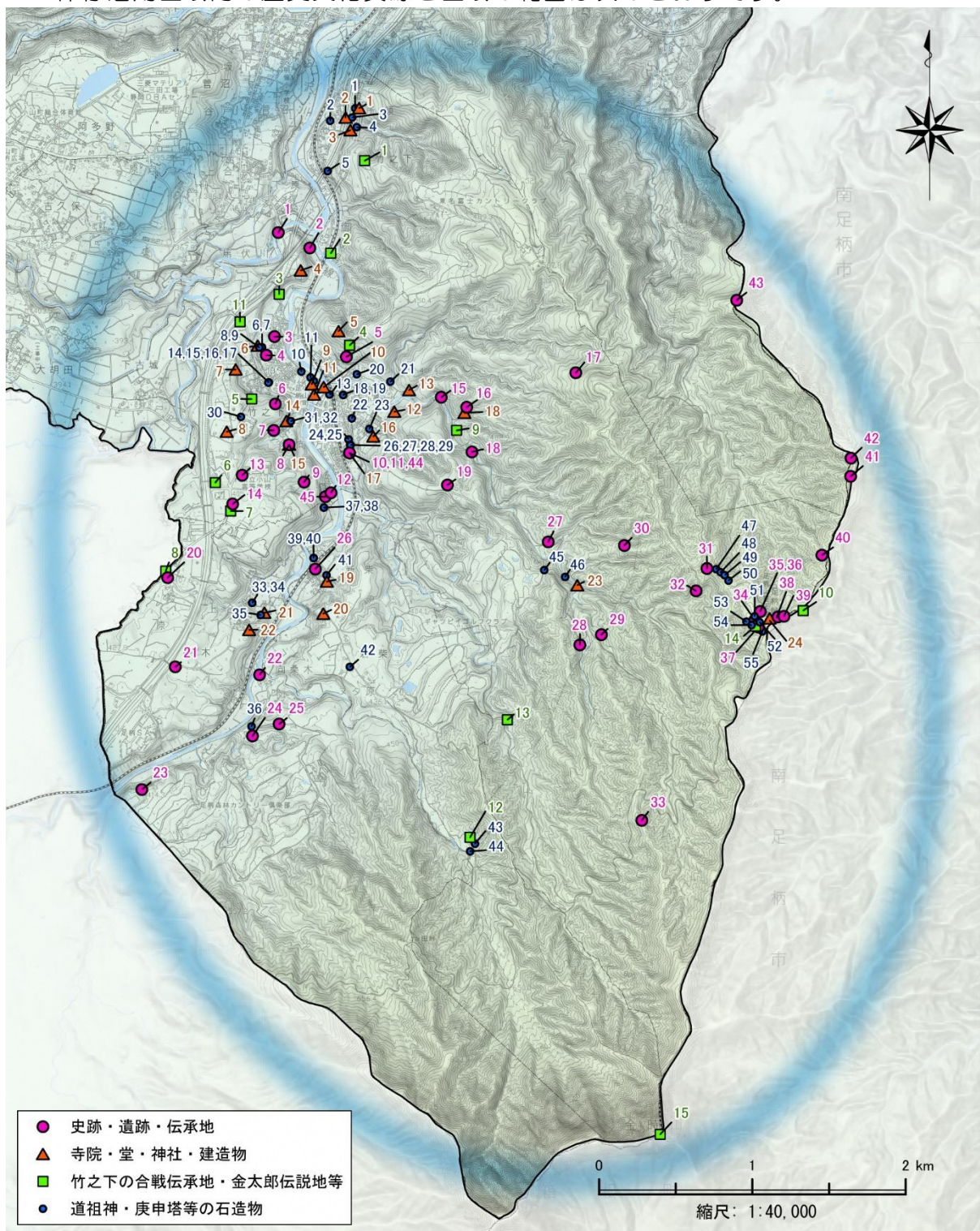


図6-19 保存活用区域の範囲

表6-2 保存活用区域内の歴史文化資源（史跡・遺跡・伝承地）

| 連番 | 名称 | 所在地 | 指定登録 | 類型 |
|----|----------------------------|-------------------------------|------|----|
| 1 | 東郷小学校校跡 とうごうしょうがっこうあと | しもぼら しみずほしおまき 下原 清水橋脇 | | 遺跡 |
| 2 | 筏場跡 いかだばあと | たけのした ばなと 竹之下 花戸 | | 遺跡 |
| 3 | 竹之下堀之内館 たけのしたほりのうちやかた | たけのした しゆく 竹之下 宿 | | 遺跡 |
| 4 | 竹之下孫八屋敷跡 たけのしたまごはちやしきあと | たけのした しゆく じょうのこし 竹之下 宿、城之腰 | | 遺跡 |



第6章 歴史文化資源の一体的・総合的な保存と活用

| 連番 | 名称 | 所在地 | 指定登録 | 類型 |
|----|-----------------------------|--|------|-----|
| 5 | 上矢台遺跡 かみやだい いせき | 竹之下 向方、矢台 たけのした わかいがた やだい | | 遺跡 |
| 6 | 高畑城跡 たかはたじょうあと | 竹之下 蔵屋敷 たけのした くらやしき | | 遺跡 |
| 7 | 大曲遺跡 おおまがり いせき | 竹之下 宿 たけのした しゆく | | 遺跡 |
| 8 | 善光寺遺跡 ぜんこうじ いせき | 竹之下 善光寺 たけのした ぜんこうじ | | 遺跡 |
| 9 | 新見堂遺跡 にいみどう いせき | 竹之下 新見堂 たけのした にいみどう | | 遺跡 |
| 10 | 木造地藏菩薩坐像 もくぞうじざらほさつざざらう | 竹之下 宝鏡寺内 たけのした ほうきやうじ | 県指定 | 彫刻 |
| 11 | 獅子石 しし いし | 竹之下 宝鏡寺境内 たけのした ほうきやうじ | | 伝承地 |
| 12 | 和泉式部誕生石 いずみしきぶたんじょうせき | 新柴 堂ノ前 あらしば どうのまえ | | 伝承地 |
| 13 | 横山遺跡 よこやま いせき | 竹之下 小山高校敷地内 たけのした およま | | 遺跡 |
| 14 | 上横山遺跡 かみよこやま いせき | 竹之下 日立ハイテクサイエンス たけのした ひたひたてくさいえんす | | 遺跡 |
| 15 | 源頼朝馬蹄石 みなもとのもりともばていせき | 竹之下 地藏堂川沿い たけのした じざうどうがわ | | 伝承地 |
| 16 | 古滝遺跡 ふるたき いせき | 竹之下 地藏堂川沿い たけのした じざうどうがわ | | 遺跡 |
| 17 | 石尊松 せきそんまつ | 竹之下 石尊松、足柄峠道沿い たけのした せきそんまつ あしがらとうげ | | 伝承地 |
| 18 | 銚子力淵（静岡県みずべ百選） ちやしうぢから | 竹之下 地藏堂川 たけのした じざうどうがわ | | 伝承地 |
| 19 | 竹之下 一里塚跡 たけのしたいちりづかあと | 竹之下 古滝、北市場境 たけのした ふるたき きたいちば | | 遺跡 |
| 20 | 沢田遺跡 さわだ いせき | 桑木 沢田 くわぎ さわだ | | 遺跡 |
| 21 | 南ノ原遺跡 みなみ はらい いせき | 桑木 旧RDFセンター くわぎ くりあふせんたー | | 遺跡 |
| 22 | ワデ遺跡 いせき | 桑木 金時橋際 くわぎ きんときがし | | 遺跡 |
| 23 | 向桑木遺跡 むこうくわぎ いせき | 桑木 足柄森林カントリー下 くわぎ あしがらしんりん | | 遺跡 |
| 24 | 池の沢湧水 いけ さわうずい | 桑木 池の沢 くわぎ いけ さわ | | 伝承地 |
| 25 | 池の沢遺跡 いけ さわ いせき | 桑木 池の沢 くわぎ いけ さわ | | 遺跡 |
| 26 | 新柴堀之内 あらしばほりのうち | 新柴 公民館付近一帯 あらしば しみんくわん | | 伝承地 |
| 27 | クラモンザ遺跡 くらもんざ いせき | 竹之下 クラマツ沢 たけのした くらまつざ | | 遺跡 |
| 28 | 大石 おおいし | 竹之下 沢姥見 たけのした さわうぼみ | | 伝承地 |
| 29 | 聖石 ひじりいし | 竹之下 稲子場山 たけのした いなこばやま | | 伝承地 |
| 30 | 伝虎子石（虎御前石） でんこし | 足柄峠下 虎御前 あしがらとうげ とらごぜん | | 伝承地 |
| 31 | 足柄峠遺跡（縄文） あしがらとうげ いせき | 足柄峠下 あしがらとうげ | | 遺跡 |
| 32 | 伝 足柄古道 あしがらこうどう | 足柄峠下 あしがらとうげ | | 遺跡 |
| 33 | 三ツ石 みつ いし | 足柄峠下 林道金時線沿い あしがらとうげ | | 伝承地 |
| 34 | 足柄城跡 あしがらじょうあと | 足柄峠 あしがらとうげ | | 遺跡 |
| 35 | 玉手ケ池 たまてが いけ | 足柄城跡一の曲輪 あしがらじょうあと | | 伝承地 |
| 36 | 足柄峠遺跡（奈良・平安） あしがらとうげ いせき | 足柄峠 あしがらとうげ | | 遺跡 |
| 37 | 伝新羅三郎笛吹き石 でんしんらさんぶえふきいし | 足柄城跡一の曲輪南側 あしがらじょうあと | | 伝承地 |
| 38 | 伝足柄関跡 でんあしがらせきあと | 足柄城跡一の曲輪北側 あしがらじょうあと | | 遺跡 |
| 39 | 首供養塚（宝篋印塔・地藏仏） くびくやうづか | 足柄城跡一の曲輪北側 あしがらじょうあと | | 石造物 |
| 40 | 通り尾岩跡 おとりであと | 足柄峠 あしがらとうげ | | 遺跡 |
| 41 | こなら尾岩跡 おとりであと | 足柄峠 あしがらとうげ | | 遺跡 |
| 42 | 阿弥陀尾岩跡 あみだ おとりであと | 足柄峠 あしがらとうげ | | 遺跡 |
| 43 | 丹土尾岩跡 にっち おとりであと | 足柄峠 あしがらとうげ | | 遺跡 |
| 44 | 茶釜塚 ちあづか | 竹之下 宝鏡寺境内 たけのした ほうきやうじ | | 遺跡 |
| 45 | 元白髭神社地 もとしろひげじんじや | 新柴 横山下路傍 あらしば へらやま | | 遺跡 |

表6-3 保存活用区域内の歴史文化資源（寺院・堂・神社・建造物）

| 連番 | 名称 | 所在地 | 指定登録 | 類型 |
|----|------------------------------|------------------------|------|-----|
| 1 | 薬王山鎮福寺本堂 やくおうざんりようふくじ | 所領 しよりう | | 建造物 |
| 2 | 所領稲荷神社社殿 しよりういなりじんじや | 所領 しよりう | | 建造物 |
| 3 | 白麩神社本殿（竹之下合戦伝承地） しらほろじんじや | 所領 しよりう | | 建造物 |
| 4 | 鼻戸稲荷神社社殿 はなどいなりじんじや | 竹之下 花戸 たけのした はなど | | 建造物 |
| 5 | 秋葉神社社殿 あきはじんじや | 竹之下 上矢台 たけのした かみやだい | | 建造物 |

| 連番 | 名称 | 所在地 | 指定登録 | 類型 |
|----|-------------------------------|------------|------|-----|
| 6 | 巨嶽山興雲寺本堂(竹之下合戦伝承地) | 竹之下 宿 | | 建造物 |
| 7 | 駒形神社社殿 | 竹之下 下ノ原 | | 建造物 |
| 8 | 第六天大神社殿 | 竹之下 上ノ原 | | 建造物 |
| 9 | 要名山常唱院本堂 | 竹之下 城之腰 | | 建造物 |
| 10 | 千束橋(竹之下合戦伝承地) | 竹之下 | | 建造物 |
| 11 | 諏訪神社社殿 | 竹之下 新千束橋袂 | | 建造物 |
| 12 | 八幡神社社殿 | 竹之下 市場 | | 建造物 |
| 13 | 山の神社社殿 | 竹之下 神田町住上 | | 建造物 |
| 14 | 東光山長徳寺本堂 | 竹之下 善光寺 | | 建造物 |
| 15 | 善光寺本堂 | 竹之下 善光寺 | | 建造物 |
| 16 | 嶽之下神社社殿 | 竹之下 市場 | | 建造物 |
| 17 | 大雄山宝鏡寺本堂 | 竹之下 富士向 | | 建造物 |
| 18 | 一の滝不動尊 (磨崖仏、金太郎伝説地) | 竹之下 地藏堂川沿い | | 建造物 |
| 19 | 和泉山円通寺本堂 (鬼鹿毛馬頭観音・和泉式部伝説地) | 新柴 丸塚 | | 建造物 |
| 20 | 足柄神社社殿 | 新柴 原ノ坂 | | 建造物 |
| 21 | 静江庵主屋 | 桑木 公民館内 | | 建造物 |
| 22 | 桑木神社社殿 | 桑木 切り通 | | 建造物 |
| 23 | 伊勢宇橋 | 足柄峠下 栗の木沢 | | 建造物 |
| 24 | 足柄山聖天堂 | 足柄峠 | | 建造物 |

表6-4 保存活用区域内の歴史文化資源 (竹之下の合戦伝承地・金太郎伝説地等)

| 連番 | 名称 | 所在地 | 指定登録 | 類型 |
|----|------------|--------------|------|-----|
| 1 | 遠見 | 所領 | | 伝承地 |
| 2 | 渡り上り | 所領 花戸橋付近 | | 伝承地 |
| 3 | 合士ケ久保 | 竹之下 宿 | | 伝承地 |
| 4 | 矢台 | 竹之下 向方 | | 伝承地 |
| 5 | 有闘坂 | 竹之下 有闘坂 | | 伝承地 |
| 6 | 釜沢 | 竹之下 あしがら温泉付近 | | 伝承地 |
| 7 | 陣場 | 竹之下 あしがら温泉付近 | | 伝承地 |
| 8 | 五輪窪 | 桑木 | | 伝承地 |
| 9 | 戦返り | 竹之下 戦返り林道 | | 伝承地 |
| 10 | 足柄明神 | 足柄峠 | | 伝承地 |
| 11 | 爪切り地蔵(金太郎) | 竹之下 東名竹之下橋袂 | | 伝承地 |
| 12 | 猪鼻神社地(金太郎) | 新柴 浅間塚 | | 伝承地 |
| 13 | 金太郎兜石(金太郎) | 竹之下 萩焼戸 | | 伝承地 |
| 14 | 金時飛礫石(金太郎) | 足柄峠 | | 伝承地 |
| 15 | 金時山(金太郎) | 新柴 猪鼻山 | | 伝承地 |

表6-5 保存活用区域内の歴史文化資源 (道祖神・庚申塔等の石造物)

| 連番 | 名称 | 所在地 | 指定登録 | 類型 |
|----|---------------|---------------|------|-----|
| 1 | 庚申供養碑 | 所領 領福寺境内 | | 石造物 |
| 2 | 石殿・五輪塔 | 所領 足柄峠登山口三叉路 | | 石造物 |
| 3 | 庚申塔 | 所領 足柄峠登山口ガード下 | | 石造物 |
| 4 | 宝徳印塔(伝二条為冬墓石) | 所領 白旗神社境内 | | 石造物 |
| 5 | 庚申塔・道祖神(双体2) | 所領 踏切上 | | 石造物 |
| 6 | 道祖神(文字1) | 竹之下 興雲寺参道 | | 石造物 |
| 7 | 湯山権左衛門筆子塚 | 竹之下 興雲寺参道 | | 石造物 |



第6章 歴史文化資源の一体的・総合的な保存と活用

| 連番 | 名称 | 所在地 | 指定登録 | 類型 |
|----|---------------------------------|-------------------------------------|------|-----|
| 8 | いちろうんさいいっけいふでこづか 一雲齋一茎筆子塚 | たけのした とうろんじ 竹之下 興雲寺境内 | | 石造物 |
| 9 | ほうきょういんとう 宝篋印塔 (伝竹下孫八の墓) | たけのした とうろんじ 竹之下 興雲寺境内 | | 石造物 |
| 10 | たけのした こせんじょうあとひ 竹之下古戦場跡碑 | たけのした たけのしたごう 竹之下 獄之下宮 | | 石造物 |
| 11 | どうそじん 道祖神 (双体1) | たけのした 竹之下 清水川路傍 | | 石造物 |
| 12 | だいもくひ 題目碑 | たけのした じょうしやういん 竹之下 常唱院前 | | 石造物 |
| 13 | たけのした 竹之下道歌碑 | たけのした あしがらまき 竹之下 JR足柄駅前 | | 石造物 |
| 14 | どうそじん 道祖神 (文字1・双体1) | たけのした しゆくまつじ 竹之下 宿四辻 | | 石造物 |
| 15 | ばとうかんのんひ 馬頭観音碑 | たけのした しゆくまつじ 竹之下 宿四辻 | | 石造物 |
| 16 | こうしんとう 庚申塔 | たけのした しゆくまつじ 竹之下 宿四辻 | | 石造物 |
| 17 | さいごくくようとう 西国供養塔 | たけのした しゆくまつじ 竹之下 宿四辻 | | 石造物 |
| 18 | みちしるべ | たけのした わがいがた 竹之下 向方入り口三叉路 | | 石造物 |
| 19 | どうそじん (双体1) | たけのした わがいがた 竹之下 向方入り口三叉路 | | 石造物 |
| 20 | ごりんとう 五輪塔 (六基) | たけのした たけのしたごう 竹之下 獄之下宮境内 | | 石造物 |
| 21 | みちしるべ | たけのした 竹之下 神田町住手前 | | 石造物 |
| 22 | どうそじん (双体2) | たけのした きたいちば 竹之下 北市場 | | 石造物 |
| 23 | こうしんとう 庚申塔 | たけのした たけのしたじんじや 竹之下 獄之下神社入り口 | | 石造物 |
| 24 | ばとうかんのんひ 馬頭観音碑 | たけのした ほうきょうじ 竹之下 宝鏡寺門前 | | 石造物 |
| 25 | さいごくくようとう 西国供養塔 | たけのした ほうきょうじ 竹之下 宝鏡寺門前 | | 石造物 |
| 26 | もくじきかんしよひ 木食観正碑 | たけのした ほうきょうじ 竹之下 宝鏡寺境内 | | 石造物 |
| 27 | なぐじぞう 六地藏 | たけのした ほうきょうじ 竹之下 宝鏡寺境内 | | 石造物 |
| 28 | じぞうせきぶつ 地藏石仏 | たけのした ほうきょうじ 竹之下 宝鏡寺境内 | | 石造物 |
| 29 | すずき とうろうきんもんえんこづか 鈴木九郎右衛門筆子塚 | たけのした ほうきょうじ 竹之下 宝鏡寺境内 | | 石造物 |
| 30 | さいごくくようとう 西国供養塔 | たけのした 竹之下 菜の花こども園脇 | | 石造物 |
| 31 | こうしんとう 庚申塔 | たけのした ちやうとんじあと 竹之下 長徳寺跡 | | 石造物 |
| 32 | ごりんとうぐん 五輪塔群 | たけのした ちやうとんじあと 竹之下 長徳寺跡 | | 石造物 |
| 33 | どうそじん (双体1) | くわぎ 新旧道三叉路 桑木 | | 石造物 |
| 34 | あきはじんじやひ 秋葉神社碑 | くわぎ 新旧道三叉路 桑木 | | 石造物 |
| 35 | こうしんとう 庚申塔 | くわぎ 公民館前路傍 桑木 | | 石造物 |
| 36 | どうそじん (双体1・文字1) | くわぎ きんきゆうじやう 桑木 山久荘前 | | 石造物 |
| 37 | ほうきょういんとう 宝篋印塔 | あらしば 横山下 新柴 | | 石造物 |
| 38 | ごりんとうぐん 五輪塔群 | あらしば 横山下 新柴 | | 石造物 |
| 39 | どうそじん (双体1) | あらしば JR御殿場線陸橋横 新柴 | | 石造物 |
| 40 | ばとうかんのんひ 馬頭観音碑 | あらしば JR御殿場線陸橋横 新柴 | | 石造物 |
| 41 | ぐんばがんきやうひ 軍馬岩及の碑 | あらしば えんつうじ 新柴 円通寺境内 | | 石造物 |
| 42 | どうそじん (双体1) | あらしば 怒田原 新柴 | | 石造物 |
| 43 | きんときんじやひ 公時神社碑 | あらしば せんげんづかいのはなじんじや 新柴 浅間塚猪鼻神社跡 | | 石造物 |
| 44 | ばとうかんのんひ 馬頭観音碑 | あらしば せんげんづかいのはなじんじや 新柴 浅間塚猪鼻神社跡 | | 石造物 |
| 45 | だいだいもくひ 大題目碑 | あしがらとうげ 栗の木沢 足柄峠下 | 町指定 | 石造物 |
| 46 | くり きざわ ぬいねんみょうごうひ 栗の木沢の唯念名号碑 | あしがらとうげ くり きざわ 足柄峠下 栗の木沢 | 町指定 | 石造物 |
| 47 | はしよやくひ 芭蕉句碑 | あしがら峠 足柄峠 | | 石造物 |
| 48 | くび じぞう 首なし地藏 | あしがらとうげ あしがらじやうあと 足柄峠 足柄城跡五の曲輪西側 | | 石造物 |
| 49 | なぐじぞう 六地藏 | あしがらとうげ あしがらじやうあと 足柄峠 足柄城跡五の曲輪西側 | | 石造物 |
| 50 | いつせきなぐじぞう 一石六地藏 | あしがらとうげ あしがらじやうあと 足柄峠 足柄城跡二の曲輪南側 | | 石造物 |
| 51 | いくたちやうすけかひ 生田蝶介歌碑 | あしがらじやうあと 足柄城跡一の曲輪 | | 石造物 |
| 52 | ぬいねんみょうごうひ 唯念名号碑 | あしがらじやうあと 足柄城跡一の曲輪南側 | | 石造物 |
| 53 | あさまのおかみひ 浅間大神碑 | あしがらじやうあと 足柄城跡一の曲輪南側 | | 石造物 |
| 54 | いつさいきやうとう 一切経塔 | あしがらじやうあと 足柄城跡一の曲輪南側 | | 石造物 |
| 55 | ふるみずじんくひ 古見豆人句碑 | あしがらじやうあと 足柄城跡一の曲輪南側 | | 石造物 |

2 文化財保存活用区域の保存活用計画

ア 現状と課題

【保存の現状と課題】

- ① 足柄地区^{あしがらちく}では、時代的、事象的に歴史文化資源の理解を促進する取組が不足しており、住民の力を保存に生かすことができていません。
- ② 足柄峠^{あしがらとうげ}には、古道、城跡、石造物、歌碑等様々な歴史文化資源が存在していますが、それらの調査が不十分です。また、金太郎^{きんたろう}の伝承地としての調査も不十分です。なお、調査成果をもとに価値の高いものについて、文化財指定等の保存の措置を講じる必要があります。
- ③ 足柄城跡^{あしがらじょうあと}や砦^{とりで}、古道、石碑等の足柄峠^{あしがらとうげ}周辺の歴史文化資源や金太郎^{きんたろう}及びそれにまつわる歴史資料の保存に向けた取組が不十分であるため、歴史文化資源の管理や防災対策等が必要です。特に、JR足柄駅^{あしがらえき}周辺から東名高速道路にかけては、「巨嶽山興雲寺^{こがくざんこううんじ}」や「大雄山宝鏡寺^{だいゆうざんほうきょうじ}」、「白旗神社^{しらはたじんじや}」などの寺社及び建造物が20か所以上ありますが、防災設備等の設置が不十分な状況です。



図6-20 白旗神社

【活用の現状と課題】

- ① 足柄峠^{あしがらとうげ}に関連する様々な歴史文化資源の魅力を十分に周知できていません。
- ② 歴史文化資源の価値の周知と活用が不十分で、解説パネルや案内標示がありません。町指定文化財「栗の木沢の唯念名号碑^{くりきざわゆいねんみょうごうひ}」なども存在していますが、道路標示が無いことや、解説パネルの老朽化が見られます。特に足柄城跡^{あしがらじょうあと}内の遺構の解説パネルが無く、城に付随する砦や伝承地を周知する解説パネルやパンフレット、ガイド等の取組が不十分な状況です。
- ③ “金太郎^{きんたろう}”の伝承地としての環境整備、イベント開催等の活用が不足しています。

イ 方針

【保存の方針】

- ① 定期的に歴史文化資源を学習する機会を設け、地域住民への歴史文化資源の周知と理解促進を図り、住民が保存の担い手となることを目指します。
- ② 足柄峠^{あしがらとうげ}及び金太郎^{きんたろう}の伝承に関連する歴史文化資源の実態把握と価値の解明、未指定の歴史文化資源の文化財指定を推進します。
- ③ 足柄城跡^{あしがらじょうあと}を中心に足柄峠^{あしがらとうげ}周辺の歴史資料を収集及び管理、デジタル保存すると



ともに、歴史文化資源の防災対策を強化します。

【活用の方針】

- ①歴史文化資源に関するフィルムコミッション活動、企画展の開催など、広く認知度を向上させるため機会を創出します。
- ②足柄峠の歴史文化資源を情報発信するために、サインやパンフレット、ガイドなどを充実させます。
- ③歴史文化資源周辺のサイン整備、伝承地等を巡るツアー、クアオルトウォーキング、トレイルウォーキング等を充実させ、伝承地としての保存・活用を推進します。

ウ 措置

表の解説

- ・実施期間：前期…R 6～7、後期…R 8～12、次期…次期計画の対象期間
- ・実施主体の詳細は第7章を参照
- ・期間を設けるもの…実線、恒常的に行うもの…点線
- ・実施主体：◎…特に主体的に実施、○…主体的に実施

【保存に関する措置】

| No | 方針 | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 主体 | | | |
|----|----|--------------------|---|------|----|----|---------------------|----------|----|---------|
| | | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有者 等 | 地域 | 団体 等 |
| C1 | ① | 歴史文化資源説明会 | 地域住民向けの歴史文化資源解説講座、説明会を開催 | → | | | ○ 生涯学習課 | ◎ | ○ | |
| C2 | ① | 歴史文化資源学習講座 | 町民向け講座、観光者向け講座、ガイド講座の実施 | → | | | ◎ 生涯学習課 観光交流課 | | | |
| C3 | ① | 学校教育における地域学習 | 児童、生徒、教員に対し、学習機会の設定 | → | | | ◎ 生涯学習課 学校教育課 | | | |
| C4 | ② | 足柄城総合調査 | 地域住民等への聞き取りや文献を基に、必要に応じ足柄城及び城内の遺構のほか、周辺の砦の発掘調査の実施 | → | | | ◎ 生涯学習課 | | | |
| C5 | ② | 足柄城文化財指定 | 総合調査を基に足柄城跡の文化財指定 | | → | | ○ 生涯学習課 | ◎ | | |
| C6 | ② | 古道調査 | 足柄古道の調査研究及びルートの確認 | | | → | ○ 生涯学習課 | ◎ | | |
| C7 | ② | 歴史文化資源を取り巻く周辺環境の調査 | 金時山を含めた自然分野（地質、動物、植物）と社会分野（金時山の山小屋、工作物）等の調査 | | | → | ○ 生涯学習課 | ◎ | | |
| C8 | ② | 足柄峠周辺域石造物調査 | 石造物の実態把握と記録保存、価値の高いものの文化財指定 | | | → | ○ 生涯学習課 | ◎ | | |

| No | 方針 | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 主体 | | | |
|-----|----|-------------|-----------------------------------|------|----|----|---------------------|----------|----|---------|
| | | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有者 等 | 地域 | 団体 等 |
| C9 | ② | 無形民俗文化財調査 | 竹之下太鼓や笛祭り、足柄聖天堂の無形民俗文化財の調査と記録保存 | → | | | ○ 生涯学習課 | ◎ | | |
| C10 | ② | 足柄聖天堂の調査と保存 | 社叢、社殿、本尊の調査、報告書の刊行 | → | | | ○ 生涯学習課 | ◎ | | |
| C11 | ② | 金太郎総合調査 | 金太郎にまつわる史跡の把握に向けた古文書調査、聞き取り調査の実施 | | → | | ◎ 生涯学習課 観光交流課 | | | |
| C12 | ③ | 古文書のデジタル化 | 町史編纂時に作成した目録を基に、新たな古文書の洗い出しとデジタル化 | → | | | ◎ 生涯学習課 | | | |
| C13 | ③ | 資料収集及び管理事業 | 足柄峠や足柄城、金太郎に関する資料の収集・管理 | → | | | ◎ 生涯学習課 | | | |
| C14 | ③ | 防災設備設置事業 | 放水銃等の消火設備の設置、耐火収蔵庫の設置 | → | | | ○ 生涯学習課 小山消防署 | ◎ | | |
| C15 | ③ | 防災訓練 | 足柄聖天堂等における地区、学校関係者も参加した防災訓練の実施 | → | | | ○ 生涯学習課 小山消防署 | | ◎ | |

【活用に関する措置】

| No | 方針 | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 主体 | | | |
|-----|----|--------------|--|------|----|----|---------------------|----------|----|---------|
| | | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有者 等 | 地域 | 団体 等 |
| C16 | ① | フィルムコミッション活動 | 歴史文化資源を舞台とした撮影の積極的な誘致 | → | | | ○ 生涯学習課 地域振興課 | | | ◎ |
| C17 | ① | 企画展開催 | 文化会館やコミュニティセンターにおける企画展の開催 | | → | | ○ 生涯学習課 | | ◎ | |
| C18 | ② | サイン及び解説板整備事業 | 足柄城に関する遺構及び金時山を含む足柄峠のサイン標示の充実 | → | → | | ◎ 生涯学習課 観光交流課 | | | |
| C19 | ② | 解説冊子等刊行事業 | パンフレット、小冊子、解説本の刊行。HPやメディアを活用した周知活動 | | → | | ◎ 生涯学習課 | | | |
| C20 | ② | ガイド等の充実 | 町観光協会と連携したガイドの人員確保と養成 | → | | | ○ 生涯学習課 観光交流課 | | | ◎ |
| C21 | ③ | 文化財周辺環境整備事業 | 道路への案内標示の設置、解説板の設置と定期的な修繕 | | | → | ◎ 生涯学習課 建設課 | | | |
| C22 | ③ | 金太郎ツアーの開催 | 金太郎に関連する行政と連携し、金太郎にまつわる史跡を巡る散策ツアーやクアオルトウォーキング、トレイルウォーキング等の開催 | | → | | ○ 生涯学習課 観光交流課 | | | ◎ |



エ 重点的かつ優先的に実施する取組（リーディングプロジェクト）

ここでは、文化財保存活用区域の保存活用計画の推進のため、事業を牽引する役割を持つ「リーディングプロジェクト」を設定します。「リーディングプロジェクト」としては、前項で示した各措置のうち、関連性の高い複数の措置を統括し、5つの事業区分に整理して取組むこととします。

文化財保存活用区域では、面的な広がりを持った保存・活用を見据え、ウォーキング事業などにより周遊を促進するとともに、区域内の歴史文化資源の総合的な調査と資料整理、情報発信について、重点的かつ優先的に実施していきます。

| | |
|----|--|
| 地区 | おやまちく・あしがらちく 小山地区・足柄地区 |
| 期間 | 令和6～12年度 |
| 内容 | <p>複数の事業を一体的に実施することで、効率的な事業推進につなげるため、5項目の事業区分を設定します。</p> <p>①足柄峠総合調査 あしがらとうげ ・足柄城跡調査（文献調査、測量調査、発掘調査）（関連事業No. C4） あしがらじょうあと ・足柄聖天堂調査（関連事業No. C9、C10） あしがらしょうてんどう</p> <p>②各種調査 あしがらとうげ あしがらえき ・足柄峠～足柄駅周辺の石造物調査（関連事業No. C8） あしがらこどう ・足柄古道調査（関連事業No. C6） きんときさん ・金時山（植生等）調査（関連事業No. C7） ・埋蔵文化財包蔵地の確認（関連事業No. C4）</p> <p>③資料整理事業 ・資料整理、デジタル化（関連事業No. C12）</p> <p>④周知事業 ・パンフレット、小冊子等作成（関連事業No. C19） ・サイン及び説明看板の設置、更新（関連事業No. C18、C21） ・クアオルトウォーキング、トレイルウォーキングの実施（関連事業No. C22、No. 26（第5章））</p> <p>⑤周辺整備事業 あしがらとうげ ・足柄峠内の遊歩道の設定（基本設計、実施設計、施工）（関連事業No. C21）</p> |

第7章 歴史文化資源の保存・活用の推進体制

第1節 実施主体

第5章にて整理した方針に基づき、多様な主体が助け合い、協力するための体制を整備し、本計画を推進していきます。

本計画に定める措置の実施主体と主な役割は次のとおりです。

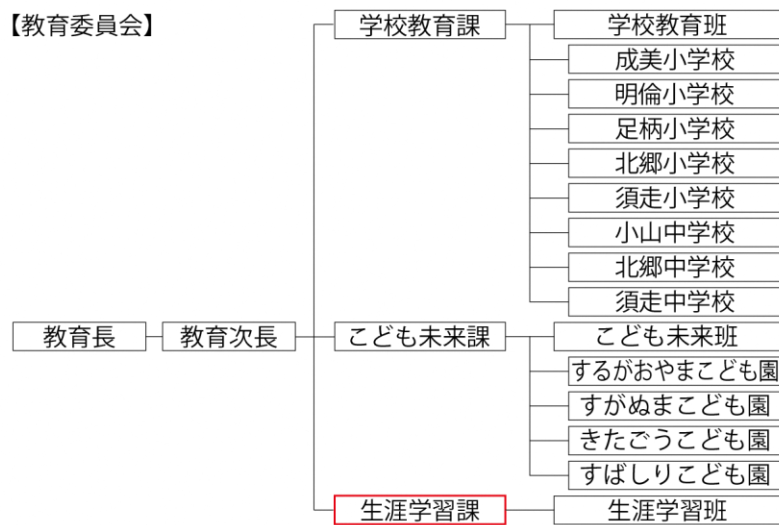
表7-1 実施主体と主な役割

| 区分 | 団体名等 | 主な役割 | |
|---------|-----------------|-------------------|--|
| 行政 | 文化財保護主管課 | 生涯学習課 | 文化財保護事務全般 |
| | 庁内関係課 | 農林課 | 農業遺産等の保存・活用 |
| | | 都市整備課 | 歴史文化資源を生かしたまちづくり |
| | | 商工振興課 | 歴史文化資源を生かした商工事業 |
| | | 観光交流課 | 歴史文化資源を生かした観光事業 |
| | | 地域振興課 | 歴史文化資源の広報、国際交流 |
| | | 危機管理局 | 歴史文化資源の防災 |
| | | 総合文化会館（図書館） | 文化振興、歴史文化資源に関わる資料の収集・公開、図書館運営 |
| | 支所（北郷、須走、足柄） | 各地域における取組 | |
| | 関係施設 | 豊門公園（豊門会館・西洋館） | 豊門公園の維持管理 |
| | | 小学校 | 文化財の収蔵（民具：明倫小学校、富士紡資料：北郷小学校、土器等出土遺物：北郷小学校） |
| | 静岡県 | スポーツ・文化観光部文化局文化財課 | 文化財保護行政の推進 |
| | | 静岡県富士山世界遺産センター | 世界遺産富士山の活用の推進 |
| | | 静岡県埋蔵文化財センター | 埋蔵文化財の調査、活用、保存処理等 |
| 静岡県立美術館 | | 美術品等の保存、展示公開 | |
| 所有者等 | 所有者 | 歴史文化資源を所有する個人・団体 | 歴史文化資源の保存 |
| | 管理者 | 歴史文化資源を管理する個人・団体 | 歴史文化資源の管理 |
| 地域 | 地域住民 | 歴史文化資源の保存・活用 | |
| | 民間企業 | 歴史文化資源の保存・活用 | |
| 団体等 | 小山町区長会 | 各地区における活動 | |
| | 小山町商工会 | 歴史文化資源を生かした商工業 | |
| | 小山町観光協会 | 歴史文化資源を生かした観光 | |
| | 竹之下太鼓保存会 | 竹之下太鼓の保存 | |
| | 用沢神楽保存会 | 用沢神楽の保存 | |
| | 静岡おやま案内人「四季の旅人」 | 観光ガイド、文化財講座 | |
| | 足柄史跡を守る会 | 観光ガイド、文化財講座 | |
| | 小山歴史を学ぶ会 | 観光ガイド、文化財講座 | |





【教育委員会】



小山町議会 議会事務局

※令和5年（2023）7月現在

図7-1 庁内の組織体制図

第2節 文化財関係の会議等

おやまちょう 小山町文化財保護審議会

文化財保護法及びおやまちょう小山町文化財保護条例に基づき、おやまちょう小山町文化財保護審議会（定数12人以内）を設置し、生涯学習課が事務局の役割を担っています。文化財保護審議会は、町教育委員会の諮問に応じて文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し、教育委員会に建議します。

令和4年度（2022）現在の委員は9人で、教育委員会が任命しています。任期は2年間です。委員は、文化財に関する専門性を有する人材を登用し、町内5地区からそれぞれ選出しています。

おやまちょう 小山町文化財保護条例（昭和43年おやまちょう小山町条例第12号）

（文化財保護審議会）

第4条 第1条の目的を達成するため、委員会におやまちょう小山町文化財保護審議会（以下「審議会」という。）を置く。

2 審議会は、委員会の諮問に応じて、文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し、及びこれらに関する専門的及び技術的事項に関し、必要と認める事項を委員会に建議する。

3 審議会の組織及び所掌事務については、教育委員会規則で定める。



第3節 体制整備の方針・方策

1 行政機関における取組内容

(1) 文化財保護主管課の体制強化

本町の文化財保護事務は、「^{おやまちょう}小山町教育委員会事務局組織規則」により、教育委員会生涯学習課が主管しています。生涯学習課では、文化財保護事務のほかに青少年健全育成をはじめとする社会教育、スポーツ推進委員や各種スポーツ大会を主管する社会体育、文化芸術に関する各種催事のほか、生涯学習施設の指定管理などを管理、監督しています。

文化財保護事務の主な業務としては、町文化財保護審議会からの助言や指導を得ながら、世界文化遺産^{ふじさん}富士山をはじめとする史跡、名勝の適切な保存管理や埋蔵文化財や古文書等の文化財調査及び保存のほか、各種教室や講座を開催した周知、学習活動を行っています。それらを専門的に執り行うために生涯学習課に文化財担当者（学芸員）1名を配置し、適切に文化財保護行政を遂行しています。

今後は、計画的な文化財専門職員の採用と育成により、文化財保護行政の体制強化を図っていきます。

(2) 庁内関係課の連携強化

これまで町内の歴史文化資源の保存・活用の取組は、その保存管理を担当する関係課や、個別の事業ごとに単独で実施されることも多い状況であったため、今後は関係課の連携を密にし、地域の大切な歴史文化資源の保存・活用を一体的かつ総合的に進めていくものとします。

また、庁内関係課においては本計画を通じて歴史文化資源の保存・活用の基本理念や方針を共有した上で、関係課の相互連携により付加価値の高い施策展開を行っています。また、円滑な情報共有・連携のため、必要に応じて関係課をつなげるプロジェクトチームを立ち上げるなどの協力体制を構築していきます。さらに、過去の合併の経緯や各地区の成り立ち等から、地区ごとの特色をおいた取組を効率的に推進するため、各支所との連携強化も図ります。

(3) 関係施設の連携

文化財の保存・活用において重要な役割を担う^{ほうもんこうえん}豊門公園（^{ほうもんかいかん}豊門会館・^{せいようかん}西洋館）や各地区の小学校等との連携の強化や、各施設の人材育成により地域拠点の強化を図ります。

(4) 静岡県との連携

静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化財課等との連携強化により、文化財の保存・活用施策の円滑な展開を図るとともに、文化財の被災等、有事における対応強化を推進します。

さらに、静岡県と県内市町の文化財行政所管課長を構成員として設置予定の「静岡県文化財行政連絡会」等を通じて、県と市町間における情報共有、意思疎通を図っていくとともに、「県・市町文化財行政担当者会議」の開催により、県と市町間の諸課題等の協議や情報交換を推進します。

(5) 事務処理特例の適用を希望する事務の内容

国指定の文化財について、その現状を変更しようとするとき、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは（以下、「現状変更等」）、文化庁長官の許可を受けなければなりません。小山町では、特別名勝富士山と史跡富士山がこの対象となり、文化財保護法第125条第1項に基づく手続きが必要となります。

ただし、上記2件の国指定文化財の「現状変更等」の制限にかかる文化庁長官の権限については、重大なものを除いて、その一部が静岡県に委譲されています（文化財保護法第184条の2及び文化財保護法施行令第5条第4項第1号）。小山町における特別名勝富士山、史跡富士山においては、これまで期間を限った小規模建築物の設置、新たな掘削等を伴わない観測機器や通信機器の設置等を行う場合は、事前に静岡県知事（平成31年3月以前は静岡県教育委員会教育長）から現状変更の許可を受けています。

本計画が文化庁長官の認定を受けることにより、小山町としては、次に掲げる事務について、文化財保護法第184条の2第1項に基づく権限委譲を希望します。

【権限委譲を希望する事務の内容と希望する期間】

| 権限委譲を希望する事務の内容 | 権限委譲を希望する期間 |
|--|------------------------|
| 特別名勝富士山及び史跡富士山に関する文化財保護法施行令第5条第4項第1号イ〜ルに規定する事務 | 令和6年4月1日から令和13年3月31日まで |

なお、過去の実績を踏まえ、今後も「現状変更等」の許可申請が見込まれる主な事業は表7-2のとおりです。これらについては、上記の権限委譲が行われた場合には、小山町が「現状変更等」の許可に関する手続きを行うこととなります。これらの「現状変更等」の手続きにあたっては、文化庁及び静岡県の助言のもと、『特別名勝富士山保存管理計画』及び『史跡富士山保存管理計画』に照らし、許可等の可否を判断していきます。



【現状変更等に関する措置】

表の解説

- ・実施期間：前期…R 6～7、後期…R 8～12、次期…次期計画の対象期間
- ・実施主体の詳細は第7章を参照
- ・期間を設けるもの…実線、恒常的に行うもの…点線
- ・実施主体：◎…特に主体的に実施、○…主体的に実施

| No | 方針 | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 実施主体 | | | |
|-----|----|-------------|---|------|----|----|-----------|----------|----|---------|
| | | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有 者等 | 地域 | 団体 等 |
| A15 | ④ | 国指定文化財の現状変更 | 富士登山者を計測するカウンターの設置、富士山保全協力金等徴収小屋の仮設、コンテナボックスの仮設、携帯電話基地局アンテナの設置等に対する文化財保護法に基づく手続きの実施 | | ● | ● | ◎ | ○ | ○ | ○ |

表7-2 現状変更の許可申請が見込まれる主な事業

| No | 内容 | 実施主体 | 場所 | 指定区分 |
|----|---------------------|---------------------------------|--------------------------------|------------------|
| ① | 富士山登山者を計測するカウンターの設置 | おやまちょう 小山町 | すばしりぐちとざんどう 須走口登山道 五～六合目 | 特別名勝富士山 史跡富士山 |
| ② | 富士山保全協力金等徴収小屋の仮設 | しずおかけん 静岡県 | すばしりぐちとざんどう 須走口登山道 五合目 | 特別名勝富士山 |
| ③ | 資材保管用コンテナボックスの仮設 | 民間企業等 | 五合目駐車場 | 特別名勝富士山 |
| ④ | 調査用計測機器の仮設 | 大学等 研究機関 | 五合目付近 ～八合目 | 特別名勝富士山 史跡富士山 |
| ⑤ | 登山者誘導標識等の仮設 | しずおかけん 静岡県・ おやまちょう 小山町 | 五合目付近 ～八合目 | 特別名勝富士山 史跡富士山 |



図7-2 登山者を計測するカウンター

2 所有者等

日常的に歴史文化資源の保存管理に係わる所有者や管理者との連携を強化し、大切な歴史文化資源の継承と、その有効活用を図っていきます。

また、近年頻発する自然災害をはじめとした防災・防犯対策を強化するため、有事の際の連絡体制や窓口の周知など、迅速な対応を可能とする体制の構築に努めます。

3 地域

本町には多様かつ数多くの歴史文化資源があり、行政機関や所有者等の力のみでその保存・活用を担うことは困難です。

一方、本町の歴史文化資源はその保存管理の主体だけでなく、それに係わる全ての人々に恩恵をもたらすものであることから、多様な主体の参加により、多くの人々がその保存・活用に係わる体制を構築することが望ましいといえます。

そのため、行政組織と町民が互いに連携し、互いの長所を生かしながら協力する「協働」の体制を地域において構築し、歴史文化資源の価値を高めていくことを目指します。

4 団体等

自治体等が主体となって行われる各地域の行事等を継承するため、^{おやまちょう}小山町区長会等との連携強化を図ります。また、産業分野を中心に歴史文化を活用した地域活性化を図るため、^{おやまちょう}小山町商工会や^{おやまちょう}小山町観光協会との連携を強化していきます。

さらに、保存団体である^{たけのしただいこ}竹之下太鼓保存会や^{ようさわかくら}用沢神楽保存会等との連携や支援の強化により、地域に継承される無形の民俗文化財の継承を図ります。

加えて、^{しずおか}静岡^{しき}おやま案内人「^{しき}四季の^{たびと}旅人」や^{あしがら}足柄史跡を守る会、^{おやまちょう}小山町歴史を学ぶ会等との連携により、教育や観光を目的とした情報発信やツアーガイド等を推進します。



図7-3 文化財を解説する「^{しき}四季の^{たびと}旅人」



第4節 広域連携の取組

1 周辺自治体との連携

本計画の推進にあたっては、本町の近隣自治体等との協力体制を構築し、広域連携による歴史文化資源の保存・活用の取組を推進していきます。

具体的には、分野ごとに次のような体制により取組を進めていきます。

表7-3 近隣自治体との協力体制

| 分野 | 協力する自治体等 |
|--------------------|---|
| 富士紡績（旧富士電力含む）関連の取組 | 神奈川県山北町、大分県中津市 等 |
| 足柄峠関連の取組 | 神奈川県南足柄市、神奈川県小田原市 等 |
| 金太郎関連の取組 | 神奈川県南足柄市 岡山県勝央町（姉妹都市） 京都府福知山市（観光友好都市） 等 |

2 富士山世界文化遺産協議会

富士山世界文化遺産協議会は、世界文化遺産に登録された富士山の保存管理及び整備活用、ならびにその周辺環境の保全を推進するため、関係機関が協議を行う場として平成24年（2012）1月に設置された組織です。

協議会には富士山を行政区域に含む県ならびに市町村の県知事、各市町村長・市町村教育長等が含まれ、広域連携の取組を進めています。本計画において関連文化財群としても設定した富士山関連の保存・活用にあたっては、これらの関係団体との連携も含めた取組を推進していきます。

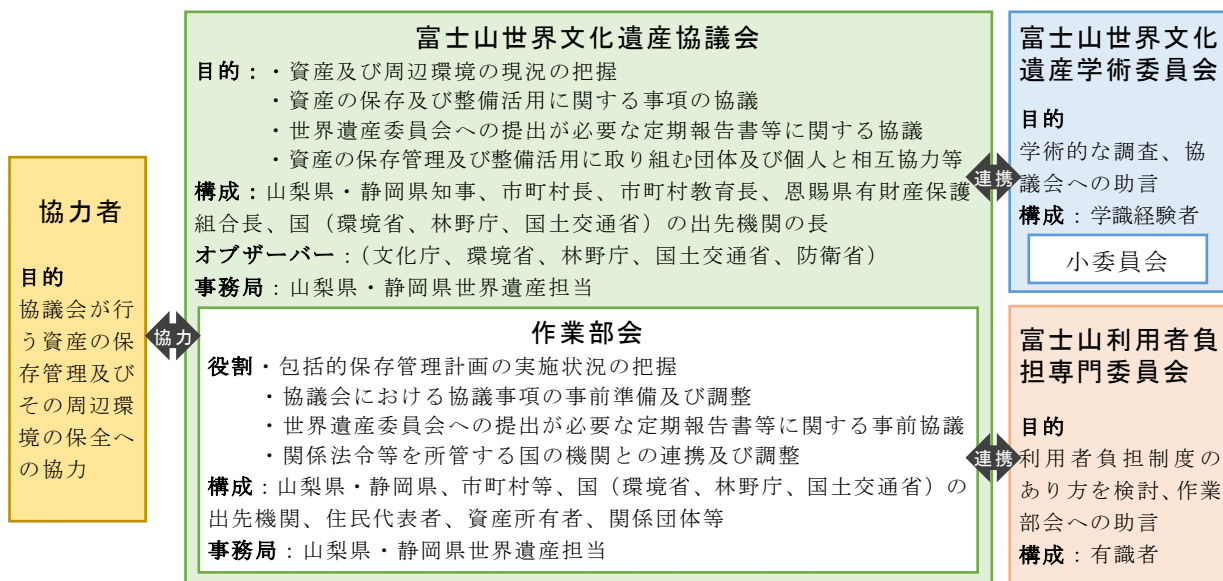


図7-4 富士山世界文化遺産協議会の組織体制

第5節 推進体制

本計画の推進にあたっては、庁内の連携体制の強化を図るとともに、国や県、外郭団体といった関係機関との連携を進めます。さらに、個人や民間団体との協力体制を構築し、多様な主体の参加により文化財の保存と活用を進めていきます。

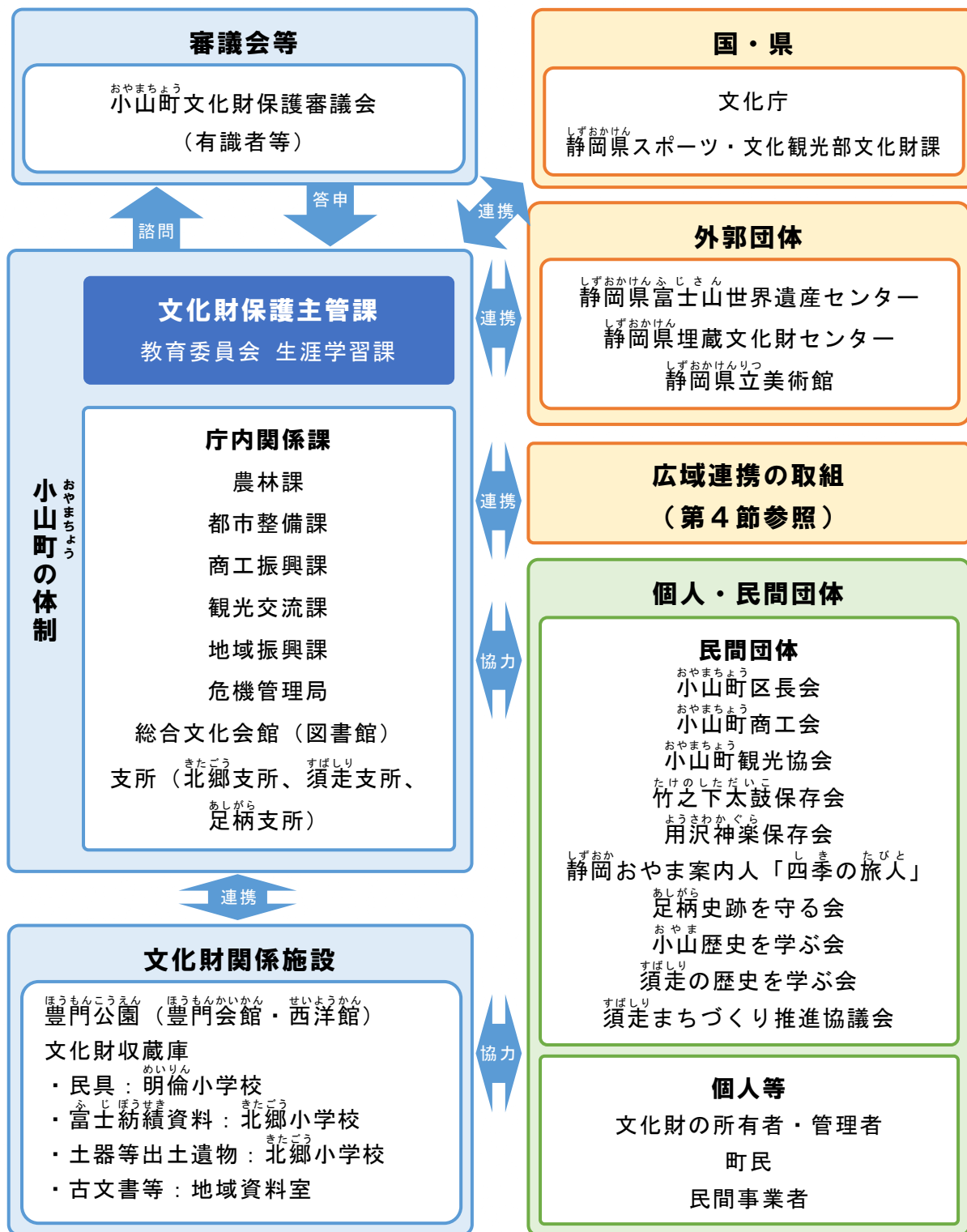


図7-5 おやまちょう 小山町文化財保存活用地域計画の推進体制



第8章 歴史文化資源の防災・防火・防犯

第1節 防災・防火・防犯に関する現状と課題

防災・防火・防犯対策にあたっては、本町における取組の指針となる「^{おやまちょう}小山町地域防災計画（令和5年（2023）3月修正）」及び県の指針となる「^{しずおかけん}静岡県地域防災計画（令和4年（2022）8月修正）」に基づき総合的な対策に取り組んでおり、今後も継続して対策を実施していきませんが、防災・防火・防犯対策を問わず、歴史文化資源に対して、有事の際に迅速な対応を可能とするための連絡・連携体制を構築する必要があります。

台風や豪雨災害といった自然災害については、これまで頻繁に発生しており、昭和22年（1947）のキャスリーン台風、翌23年（1948）のアイオン台風では、^{あゆさわがわ}鮎沢川、^{すかわ}須川、^{のさわがわ}野沢川の堤防、橋梁に大被害を受けました。昭和33年（1958）、34年（1959）、39年（1964）、41年（1966）と相次いで被害を受け、特に昭和47年（1972）7月の集中豪雨とその直後の台風6号では、町内各所で河川決壊や崖崩れなどを引き起こし、流出家屋46棟、全壊13棟など戦後の本町を襲った最大級の災害となりました。続いて昭和54年（1979）、57年（1982）、平成22年（2010）、令和元年（2019）にも甚大な台風・豪雨による被害を受けています。

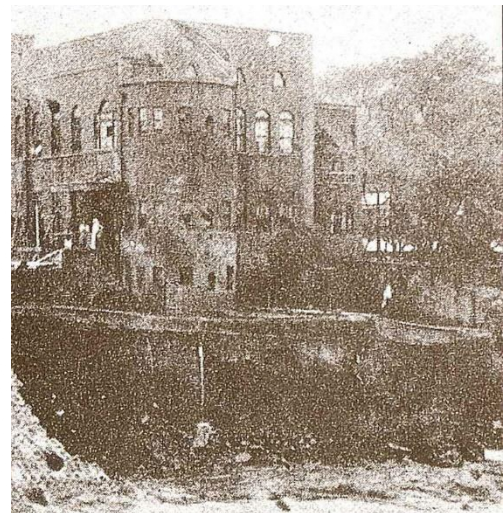


図8-1 アイオン台風で崩れそうな町役場

地震については、南海トラフ地震の発生が予想される中、本町域は、津波の浸水は想定されていませんが、地震に伴う^{ふじさん}富士山の火山噴火が懸念されています。^{ふじさん}富士山の噴火に伴う災害については、^{ほうえい}宝永4年（1707）の^{ほうえいふんか}宝永噴火以降はありませんが、平成23年（2011）の東日本大震災の余震により、^{ふじさん}富士山に水蒸気が噴出しました。

本町では、こうした自然災害に対する総合的な防災対策を定めた「^{おやまちょう}小山町地域防災計画」に基づき、防災対策に取り組んでいますが、個別文化財に対する防災対策の検討が十分ではありません。

防火については、近年、フランスのノートルダム寺院や沖縄県の国史跡^{しゅりじょうあと}首里城跡などを代表とする文化財の火災などが発生し、火災による文化財の消失を防ぐ実効的な対応が求められています。そのような中、本町では「^{おやまちょう}小山町地域防災計画」に基づき、文化財の防火対策に取り組んでいます。今後も、防火に対する意識を日常の

のとするために、これらの活動を継続していくことが必要です。

防犯については、近年、国内の社寺等における美術工芸品の盗難や、文化財建造物の汚損等が発生していることから、文化財を確実に後世へ継承していくため、平時から、歴史文化資源の巡視及び維持管理状況を把握する必要があります。

おやまちょう
「**小山町地域防災計画（令和3年（2021）3月策定）**」

共通対策編

第2章 災害予防計画 第4節 防災知識の普及計画

- ・文化財を地震災害から守り、後世に確実に継承するため、文化財愛護団体等の諸活動を通じ、文化財に対する防災知識の普及を図り、保護の担い手づくりに努める。（各種学級、講座、集会、大会、学習会、研修会等において実施する。）

第3章 災害応急対策計画 第21節 応急教育計画

- ・文化財の管理者又は所有者は、各文化財の状態に応じ災害に対処する措置を講ずるものとし、町は、管理若しくは復旧のためにでき得る範囲の援助をし、文化財の保全に努めるものとする。

地震対策編

第2章 平常時対策 第4節 地震災害予防対策の推進

- ・文化財建築物、文化財所蔵施設の所有者等及び静岡県重要文化財等所有者連絡協議会は、その耐震性の向上並びに地震による人的被害を防止するための安全性の確保に努めるために必要な対策を講ずるものとする。

- ア 文化財等の耐震措置の実施
- イ 安全な公開方法、避難方法の設定
- ウ 東海地震注意情報発表時、警戒宣言発令時及び地震発生時における連絡体制の事前整備
- エ 地震発生後の文化財等の被害状況調査及び関係機関への通報体制の整備
- オ 文化財等の救出、復旧のための総合支援体制の整備
- カ 地震発生後の火災発生防止のための防災設備整備

第2節 防災・防火・防犯に関する方針

第5章の方針にて示したとおり、歴史文化資源の防災・防犯対策にあたっては、文化財防災訓練の実施や、防災意識の啓発活動、歴史文化資源を災害から守るための防災設備の充実に努めるものとします。

台風や豪雨災害、地震や火山噴火等の自然災害に対する防災対策に関しては、「小山町地域防災計画」に準じつつ、平時から、個別歴史文化資源の巡視及び維持管理状況を把握することで、有事の際の迅速な対応を可能にします。

歴史文化資源の防火対策に関しては、毎年1月26日の「文化財防火デー」における文化財防火運動や、文化庁・消防庁・国土交通省により作成された「国宝・重要文化財（建造物）等の防火対策ガイドライン」（令和2年（2020）12月改訂）及び「国宝・重要文化財（建造物）等に対応した防災訓練マニュアル」（令和2年（2020）3月）（消防庁）、「国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等の防火対策ガイドライン」（令和元年（2019）9月）、令和元年に文化庁により策定された「世界遺産・国宝等における防火対策5ヵ年計画」（令和元年（2019）12月）に基づき、ハード・ソフトの両面から防災（防火）対策を推進します。

文化財の防犯対策に関しては、文化庁より示されている文化財の防犯対策について（通知）（平成27年4月30日 27財伝文第8号）に基づく対策の強化や、^{ごてんば}御殿場警察署等との連携の強化を図ります。

災害が発生した場合には、（独）国立文化財機構文化財防災センター（静岡県担当：奈良国立博物館）や静岡県文化財救済ネットワーク（事務局：^{しずおかけん}静岡県文化財課）構成団体の文化財等救済支援員・^{しずおかけん}静岡県文化財建造物監理士等と情報共有を行い、初動及び事後対応の指導・支援を仰ぎます。



図8-2 耐火収蔵庫
(^{ほうきょうじ}宝鏡寺)

第3節 防災・防火・防犯に関する措置

表の解説

- ・実施期間：前期…R 6～7、後期…R 8～12、次期…次期計画の対象期間
- ・実施主体の詳細は第7章を参照
- ・期間を設けるもの…実線、恒常的に行うもの…点線
- ・実施主体：◎…特に主体的に実施、○…主体的に実施

| 関連 | 措置の名称 | 措置の内容 | 実施期間 | | | 実施主体 | | | |
|----------------|-----------------------|--|------|----|----|---------------------|----------|----|---------|
| | | | 前期 | 後期 | 次期 | 行政 担当課 | 所有者 等 | 地域 | 団体 等 |
| 防災 防火 防犯 | 文化財パトロール体制の構築 | 地域ごと又は種別ごとに文化財パトロールを実施する体制の構築 | | | → | ◎ 生涯学習課 | | | |
| 防災 防火 防犯 | 文化財レスキュー、防災関係団体との連携構築 | 緊急時の連絡体制の確立、発災後の連携確立 | → | | | ○ 生涯学習課 | ○ | ○ | |
| 防火 | 文化財防火デー等における訓練 | 消防署や地域消防団との連携、定期的な寺社・文化財建造物における防災訓練の実施 | | | → | ○ 生涯学習課 小山消防署 | ◎ | ○ | |
| 防火 | 防災設備設置事業 | 放水銃、耐火収蔵庫等の設置に対する助言・指導 | | | → | ○ 生涯学習課 小山消防署 | ◎ | ○ | |



図8-3 文化財防火デーの訓練の様子



第4節 防災・防火・防犯の推進体制

本町に存在する文化財等について、自然災害や人為的な事故・事件等が発生した場合には、以下の図に示す体制にて迅速な対応にあたることとします。

また、文化財の保存にあたっては、その損失を未然に防ぐことが非常に重要であることから、関係機関連携のもと、防災・防犯対策を実施していきます。

さらに、文化財の所有者、地域住民、^{おやまちょう}小山町（教育委員会、消防署）等の連携により、体制の強化を図っていきます。

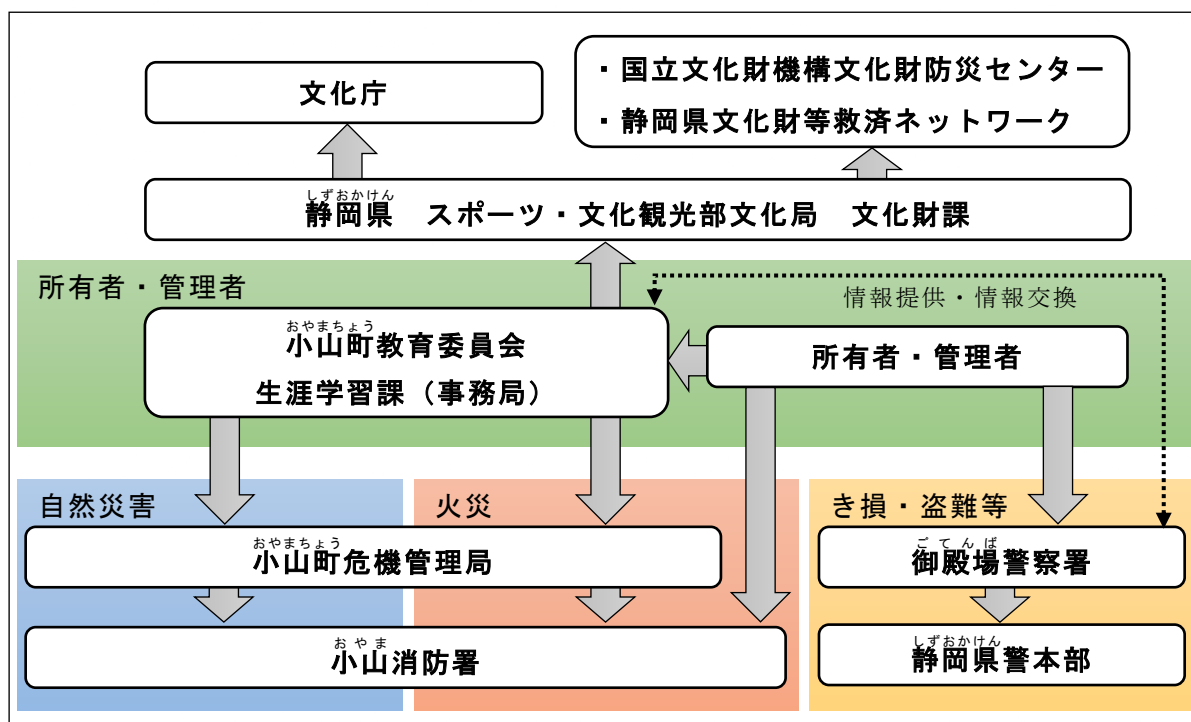


図8-4 防災・防犯の推進体制



資料編

指定等文化財以外の歴史文化資源のリスト

ここでは、第2章にて整理した指定等文化財以外の歴史文化資源について、その根拠となるリストを掲載します。

なお、古文書についてはその数が膨大であることから、調査成果を整理した報告書に掲載されている件数を、報告書ごとに整理しています。

1 有形文化財

(1) 建造物

| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|----|--|--------------------------|--|
| 1 | 沼子弁財天祠 <small>ぬまこべんざいてん</small> | 成美 <small>せいび</small> | 柳島 <small>やなぎしま</small> |
| 2 | 大森橋 <small>おおもりばし</small> | 成美 <small>せいび</small> | 柳島 <small>やなぎしま</small> |
| 3 | 龍王山能眼寺祠堂 <small>りゆうおうさんのうがんじ</small> | 成美 <small>せいび</small> | 柳島 公民館内 <small>やなぎしま</small> |
| 4 | 御霊八幡神社社殿 <small>ごりょうはちまんじんじや</small> | 成美 <small>せいび</small> | 柳島 <small>やなぎしま</small> |
| 5 | 無量寿庵（道場）祠堂 <small>むりょうじゆあん</small> | 成美 <small>せいび</small> | 柳島 <small>やなぎしま</small> |
| 6 | 峰坂天神社下宮社殿 <small>みねさかてんじんじやしもみや</small> | 成美 <small>せいび</small> | 柳島 <small>やなぎしま</small> |
| 7 | 向田堰 <small>むかいだせき</small> | 成美 <small>せいび</small> | 柳島 日影橋付近 <small>やなぎしま ひかげばし</small> |
| 8 | 柳島本堰 <small>やなぎしまほんせき</small> | 成美 <small>せいび</small> | 柳島 <small>やなぎしま</small> |
| 9 | 梅向山正福寺本堂 <small>ばいこうざんしょうふくじ</small> | 成美 <small>せいび</small> | 小山 <small>おやま</small> |
| 10 | 薬師堂（弘法大師祠含む） <small>やくしどう こうぼうだいし</small> | 成美 <small>せいび</small> | 小山 滝沢 <small>おやま たきざわ</small> |
| 11 | 小山神社社殿 <small>おやまじんじや</small> | 成美 <small>せいび</small> | 小山 滝沢 <small>おやま たきざわ</small> |
| 12 | 花戸堰 <small>はなどせき</small> | 成美 <small>せいび</small> | 所領～小山 <small>しよりう おやま</small> |
| 13 | 雲居山乗光寺本堂 <small>うんござんじようこうじ</small> | 成美 <small>せいび</small> | 生土 <small>いきど</small> |
| 14 | 生土神社社殿 <small>いきどじんじや</small> | 成美 <small>せいび</small> | 生土 <small>いきど</small> |
| 15 | 生土用水堰 <small>いきどようすいせき</small> | 成美 <small>せいび</small> | 音淵～生土 <small>おとぶち いきど</small> |
| 16 | 雲霧神社社殿 <small>くもぎりじんじや</small> | 成美 <small>せいび</small> | 音淵 <small>おとぶち</small> |
| 17 | 鷹巣山勝福寺本堂 <small>たかすざんしょうふくじ</small> | 成美 <small>せいび</small> | 中島 <small>なかじま</small> |
| 18 | 東光山正泉寺祠堂 <small>とうこうざんしょうせんじ</small> | 成美 <small>せいび</small> | 中島 勝福寺境内 <small>なかじま しょうふくじ</small> |
| 19 | 中嶋神社社殿 <small>なかじまじんじや</small> | 成美 <small>せいび</small> | 中島 <small>なかじま</small> |
| 20 | 伝深沢城城門 <small>でんふかさわじようじようもん</small> | 成美 <small>せいび</small> | 中島 勝福寺境内 <small>なかじま しょうふくじ</small> |
| 21 | 中島堰 <small>なかじませき</small> | 成美 <small>せいび</small> | 八重桐の池～中島 <small>なかじま</small> |
| 22 | 飯盛山本蓮寺本堂 <small>いもりさんほんれんじ</small> | 成美 <small>せいび</small> | 湯船 <small>ゆぶね</small> |
| 23 | 湯船八幡神社社殿 <small>ゆぶねはちまんじんじや</small> | 成美 <small>せいび</small> | 湯船 <small>ゆぶね</small> |
| 24 | 湯船大堰 <small>ゆぶねおおせき</small> | 成美 <small>せいび</small> | 湯船 <small>ゆぶね</small> |
| 25 | 藤曲山慶林寺本堂 <small>ふじまがりさんけいりんじ</small> | 成美 <small>せいび</small> | 藤曲 <small>ふじまがり</small> |
| 26 | 瑠璃山龍山寺本堂 <small>るりさんりょうざんじ</small> | 成美 <small>せいび</small> | 藤曲 宇宮原 <small>ふじまがり みやはら</small> |
| 27 | 浅間神社社殿 <small>せんげんじんじや</small> | 成美 <small>せいび</small> | 藤曲 <small>ふじまがり</small> |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|----|--------------------|----|--------------|
| 28 | 八幡神社社殿 | 成美 | 藤曲 |
| 29 | 金桜神社石祠 | 成美 | 藤曲 金桜山山頂 |
| 30 | 藤曲用水(須川堰) | 成美 | 南藤曲～藤曲 |
| 31 | 熊野神社社殿 | 成美 | 落合 |
| 32 | 忠霊塔 | 成美 | 落合 小山中学校上 |
| 33 | 薬師堂祠堂 | 明倫 | 茅沼 個人宅横 |
| 34 | 稻荷神社社殿 | 明倫 | 茅沼 切通 |
| 35 | 八幡神社社殿 | 明倫 | 茅沼 |
| 36 | 旧富士電力発電所(菅沼) | 明倫 | 茅沼 |
| 37 | 天神神社社殿 | 明倫 | 菅沼 天神原 |
| 38 | 天神原貯水池 | 明倫 | 菅沼 天神原 |
| 39 | 西山用水取入口 | 明倫 | 菅沼 須川上流 |
| 40 | 日吉神社社殿 | 明倫 | 菅沼 |
| 41 | 十王堂 | 明倫 | 菅沼 |
| 42 | 法雨山甘露寺本堂 | 明倫 | 菅沼 |
| 43 | 旧富士電力発電所(須川) | 明倫 | 菅沼 |
| 44 | 羽黒神社社殿 | 明倫 | 大脇 |
| 45 | 医王山大脇寺本堂 | 明倫 | 大脇 |
| 46 | 向嶽山十輪寺本堂 | 明倫 | 大脇 |
| 47 | 伝深沢城山門 | 明倫 | 大脇 十輪寺 |
| 48 | 湯山文右衛門寺子屋資料館 | 明倫 | 大脇 |
| 49 | 山神社社殿 | 明倫 | 下原 |
| 50 | 徳見神社社殿 | 明倫 | 原向 |
| 51 | 神明神社社殿 | 明倫 | 大久保 |
| 52 | 徳見神社社殿(高尾山) | 明倫 | 大久保 |
| 53 | 湊沢山福昌寺本堂 | 明倫 | 奈良橋 |
| 54 | 七社神社社殿 | 明倫 | 奈良橋 |
| 55 | 薬王山領福寺本堂 | 明倫 | 所領 |
| 56 | 白旗神社社殿(竹之下合戦伝承地) | 明倫 | 所領 |
| 57 | 稻荷神社社殿 | 明倫 | 所領 白旗神社境内 |
| 58 | 稻荷神社社祠 | 明倫 | 所領 花戸 |
| 59 | 秋葉神社社祠 | 足柄 | 竹之下 上矢台 |
| 60 | 巨嶽山興雲寺本堂(竹之下合戦伝承地) | 足柄 | 竹之下 宿 |
| 61 | 要名山常唱院本堂 | 足柄 | 竹之下 宿、城ノ腰 |
| 62 | 駒形神社社祠 | 足柄 | 竹之下 下ノ原 |
| 63 | 第六天大神社祠 | 足柄 | 竹之下 上ノ原 |
| 64 | 千束橋 | 足柄 | 竹之下 |
| 65 | 諏訪神社社殿 | 足柄 | 竹之下 新千束橋袂 |
| 66 | 八幡神社社殿 | 足柄 | 竹之下 市場 |
| 67 | 嶽之下神社社殿 | 足柄 | 竹之下 市場 |
| 68 | 山の神社社殿 | 足柄 | 竹之下 おおまがり 大曲 |
| 69 | 善光寺本堂 | 足柄 | 竹之下 善光寺 |
| 70 | 大雄山宝鏡寺本堂 | 足柄 | 竹之下 富士向 |

| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|----------------------|----|-------------|
| 71 | 一の滝不動尊（磨崖仏、金太郎伝説地）本堂 | 足柄 | 竹之下 地藏堂川沿い |
| 72 | 嶽之下宮社殿 | 足柄 | 竹之下 神田 |
| 73 | 和泉山円通寺本堂 | 足柄 | 新柴 丸塚 |
| 74 | 足柄神社社殿 | 足柄 | 新柴 原ノ坂 |
| 75 | 静江庵 | 足柄 | 桑木 前耕地 公民館内 |
| 76 | 桑木神社社殿 | 足柄 | 桑木 切り通 |
| 77 | 伊勢宇橋 | 足柄 | 足柄峠下 栗の木沢 |
| 78 | 足柄山聖天堂 | 足柄 | 足柄峠 |
| 79 | 泉谷山用沢寺本堂 | 北郷 | 用沢 大塚 |
| 80 | 延命地藏尊（用沢小僧の伝説）本堂 | 北郷 | 用沢 大塚 |
| 81 | 用沢八幡宮社殿 | 北郷 | 用沢 久保 |
| 82 | 車地藏尊（車地藏の伝説）本堂 | 北郷 | 用沢 久保 |
| 83 | 向西寺本堂 | 北郷 | 一色 下一色 |
| 84 | 地藏堂本堂 | 北郷 | 一色 下一色 |
| 85 | 金山薬師寺本堂 | 北郷 | 一色 下一色 |
| 86 | 一色神社下の宮社殿（八金神社） | 北郷 | 一色 下一色 |
| 87 | 一色神社上の宮社殿（正倉神社） | 北郷 | 一色 正倉北 |
| 88 | 天王社社殿 | 北郷 | 一色 只水 |
| 89 | 椿明神社社祠 | 北郷 | 一色 只水 |
| 90 | 黒石神社社祠 | 北郷 | 一色 只水 |
| 91 | 摩利支天社社殿 | 北郷 | 一色 墓地上 |
| 92 | 東陽山西光寺本堂 | 北郷 | 大胡田 前田 |
| 93 | 真浄庵祠堂 | 北郷 | 大胡田 新井 |
| 94 | 庚申堂祠堂 | 北郷 | 大胡田 辻 |
| 95 | 天神社社殿（夜泣石の伝説地） | 北郷 | 大胡田 竹ノ上 |
| 96 | 地藏堂祠堂 | 北郷 | 下古城 永塚 |
| 97 | 子神社社殿 | 北郷 | 下古城 永塚 |
| 98 | 山神社社殿 | 北郷 | 下古城 中村 |
| 99 | 法魂山天徳寺本堂 | 北郷 | 吉久保 下村 |
| 100 | 日吉神社社殿 | 北郷 | 吉久保 下村 |
| 101 | 水神社社殿 | 北郷 | 吉久保 西峯面 |
| 102 | 伊奈神社社祠 | 北郷 | 吉久保 水神社境内 |
| 103 | 随正寺祠堂 | 北郷 | 棚頭 曾利畑 |
| 104 | 産神社社殿 | 北郷 | 棚頭 北ノ原 |
| 105 | 若宮八幡宮社殿 | 北郷 | 下小林 |
| 106 | 如意山福壽院本堂 | 北郷 | 上野 西 |
| 107 | 薬王山真福寺本堂 | 北郷 | 上野 中 |
| 108 | 滝沢山唯念寺本堂 | 北郷 | 上野 北山口 |
| 109 | 奥の沢唯念寺本堂（開山堂） | 北郷 | 上野 北山 |
| 110 | 神明宮社殿 | 北郷 | 上野 北、池端 |
| 111 | 浅間神社社殿 | 北郷 | 上野 池端 |
| 112 | 日向山大蔵禅寺本堂 | 北郷 | 中日向 個人宅 |
| 113 | 浅間神社社殿（雲霧神社） | 北郷 | 中日向 宮ノ脇 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|-----------------|----|-------------|
| 114 | 大綱山万昌寺本堂 | 北郷 | 大御神 本村 |
| 115 | 八幡宮角取神社社殿 | 北郷 | 大御神 本村 |
| 116 | 大師堂祠堂 | 北郷 | 大御神 下村 |
| 117 | 神明社社殿 | 北郷 | 大御神 下村 |
| 118 | だんやの倉庫 | 北郷 | 大御神 下村 個人宅 |
| 119 | 角取神社奥の宮石祠 (大御神) | 北郷 | 大御神 角取山 |
| 120 | 角取神社奥の宮石祠 (一色) | 北郷 | 大御神 角取山 |
| 121 | 題目堂 | 北郷 | 阿多野 |
| 122 | 天神社社殿 | 北郷 | 阿多野 清水沢 |
| 123 | 菖蒲沢堰 | 北郷 | 吉久保 水神社西 |
| 124 | 和泉屋堰 | 北郷 | 吉久保 通鼻 |
| 125 | むかえくすしの神社社殿 | 須走 | 富士山須走口九合目 |
| 126 | 古御嶽神社社殿 | 須走 | 富士山須走口五合目 |
| 127 | 胎内神社社殿 | 須走 | 富士山須走口本六合目 |
| 128 | 富士紡内須川神社社祠 | 須走 | 須走 富士浅間神社境内 |
| 129 | 祖霊社社殿 | 須走 | 須走 富士浅間神社境内 |
| 130 | 護国神社社殿 | 須走 | 須走 富士浅間神社隣 |
| 131 | 野中神社社祠 (大日堂) | 須走 | 須走 東富士演習場内 |
| 132 | 小鳥の音楽堂 | 須走 | 須走 中学校裏山 |
| 133 | 高勝山万妙寺本堂 | 須走 | 須走 字陣取塚 |
| 134 | 伊奈神社社殿 | 須走 | 須走 下原 |
| 135 | 観音堂 | 須走 | 須走 下本町 |

(2) 石造物

ア. 中世

| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|----|------|----|----------|
| 1 | 五輪塔 | 成美 | 小山 個人宅墓地 |
| 2 | 宝篋印塔 | 成美 | 小山 個人宅墓地 |
| 3 | 混合 | 成美 | 小山 正福寺墓地 |
| 4 | 宝篋印塔 | 成美 | 小山 正福寺墓地 |
| 5 | 混合 | 成美 | 小山 個人宅墓地 |
| 6 | 五輪塔 | 成美 | 小山 個人宅墓地 |
| 7 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 8 | 混合 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 9 | 五輪塔 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 10 | 混合 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 11 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 12 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 13 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 14 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 15 | 混合 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 16 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 17 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|----|------|----|------------|
| 18 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 19 | 五輪塔 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 20 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 21 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 22 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 23 | 混合 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 24 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 25 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 26 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 27 | 五輪塔 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 28 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 29 | 五輪塔 | 成美 | 生土 乗光寺墓地 |
| 30 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺庭 |
| 31 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺庭 |
| 32 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺庭 |
| 33 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺庭 |
| 34 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺庭 |
| 35 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 乗光寺庭 |
| 36 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 雨乞地蔵堂境内 |
| 37 | 混合 | 成美 | 生土 個人宅庭 |
| 38 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 個人宅庭 |
| 39 | 五輪塔 | 成美 | 生土 個人宅庭 |
| 40 | 混合 | 成美 | 生土 個人宅庭 |
| 41 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 個人宅庭 |
| 42 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 個人宅庭 |
| 43 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 個人宅庭 |
| 44 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 個人宅庭 |
| 45 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 個人宅庭 |
| 46 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 個人宅庭 |
| 47 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 個人宅庭 |
| 48 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 個人宅庭 |
| 49 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 個人宅庭 |
| 50 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 個人宅墓地 |
| 51 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 個人宅墓地 |
| 52 | 宝篋印塔 | 成美 | 生土 個人宅墓地 |
| 53 | 五輪塔 | 成美 | 生土 個人宅墓地 |
| 54 | 五輪塔 | 成美 | 藤曲 個人宅墓地 |
| 55 | 五輪塔 | 成美 | 藤曲 個人宅墓地 |
| 56 | 宝篋印塔 | 成美 | 藤曲 個人宅墓地 |
| 57 | 五輪塔 | 成美 | 藤曲 個人宅墓地 |
| 58 | 宝篋印塔 | 成美 | 藤曲 個人宅墓地 |
| 59 | 五輪塔 | 成美 | 藤曲 個人宅墓地 |
| 60 | 宝篋印塔 | 成美 | 藤曲 個人宅墓地 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|------|----|------------|
| 61 | 五輪塔 | 成美 | 藤曲 個人宅墓地 |
| 62 | 宝篋印塔 | 成美 | 藤曲 個人宅墓地 |
| 63 | 五輪塔 | 成美 | 藤曲 個人宅墓地 |
| 64 | 宝篋印塔 | 成美 | 藤曲 個人宅墓地 |
| 65 | 五輪塔 | 成美 | 藤曲 個人宅墓地 |
| 66 | 宝篋印塔 | 成美 | 藤曲 個人宅墓地 |
| 67 | 五輪塔 | 成美 | 藤曲 個人宅墓地 |
| 68 | 五輪塔 | 成美 | 藤曲 個人宅墓地 |
| 69 | 五輪塔 | 成美 | 藤曲 個人宅墓地 |
| 70 | 五輪塔 | 成美 | 藤曲 竜宝寺境内 |
| 71 | 宝篋印塔 | 成美 | 藤曲 個人宅墓地 |
| 72 | 五輪塔 | 成美 | 藤曲 個人宅墓地 |
| 73 | 宝篋印塔 | 成美 | 藤曲 個人宅庭 |
| 74 | 宝篋印塔 | 成美 | 藤曲 個人宅庭 |
| 75 | 五輪塔 | 成美 | 藤曲 個人宅庭 |
| 76 | 五輪塔 | 成美 | 藤曲 個人宅庭 |
| 77 | 五輪塔 | 成美 | 藤曲 個人宅庭 |
| 78 | 五輪塔 | 成美 | 藤曲 奈良橋路傍 |
| 79 | 五輪塔 | 成美 | 藤曲 奈良橋路傍 |
| 80 | 宝篋印塔 | 成美 | 藤曲 奈良橋路傍 |
| 81 | 五輪塔 | 成美 | 藤曲 福昌寺境内 |
| 82 | 五輪塔 | 成美 | 藤曲 福昌寺上路傍 |
| 83 | 宝篋印塔 | 成美 | 藤曲 個人宅墓地 |
| 84 | 宝篋印塔 | 成美 | 藤曲 個人宅墓地 |
| 85 | 宝篋印塔 | 成美 | 中島 個人宅庭 |
| 86 | 混合 | 成美 | 中島 勝福寺歴住墓地 |
| 87 | 混合 | 成美 | 中島 勝福寺歴住墓地 |
| 88 | 宝篋印塔 | 成美 | 中島 勝福寺歴住墓地 |
| 89 | 宝篋印塔 | 成美 | 中島 勝福寺歴住墓地 |
| 90 | 宝篋印塔 | 成美 | 中島 勝福寺歴住墓地 |
| 91 | 宝篋印塔 | 成美 | 中島 勝福寺歴住墓地 |
| 92 | 宝篋印塔 | 成美 | 中島 勝福寺歴住墓地 |
| 93 | 五輪塔 | 成美 | 中島 中島神社前路傍 |
| 94 | 混合 | 成美 | 中島 中島神社前路傍 |
| 95 | 混合 | 成美 | 中島 中島神社前路傍 |
| 96 | 五輪塔 | 成美 | 中島 中島神社前路傍 |
| 97 | 混合 | 成美 | 中島 中島神社前路傍 |
| 98 | 五輪塔 | 成美 | 中島 個人宅裏 |
| 99 | 五輪塔 | 成美 | 中島 個人宅裏 |
| 100 | 五輪塔 | 成美 | 中島 個人宅裏 |
| 101 | 宝篋印塔 | 成美 | 中島 個人宅裏 |
| 102 | 宝篋印塔 | 成美 | 中島 個人宅裏 |
| 103 | 五輪塔 | 成美 | 中島 個人宅裏 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|------|----|--------------|
| 104 | 宝篋印塔 | 成美 | 中島 個人宅裏 |
| 105 | 宝篋印塔 | 成美 | 中島 個人宅裏 |
| 106 | 宝篋印塔 | 成美 | 中島 個人宅田地脇 |
| 107 | 宝篋印塔 | 成美 | 柳島 個人宅墓地 |
| 108 | 五輪塔 | 成美 | 柳島 個人宅墓地 |
| 109 | 混合 | 成美 | 柳島 個人宅墓地 |
| 110 | 宝篋印塔 | 成美 | 柳島 個人宅墓地 |
| 111 | 五輪塔 | 成美 | 柳島 個人宅墓地 |
| 112 | 五輪塔 | 成美 | 柳島 個人宅墓地 |
| 113 | 五輪塔 | 成美 | 湯船 本連寺歴住墓地 |
| 114 | 五輪塔 | 成美 | 湯船 本連寺歴住墓地 |
| 115 | 五輪塔 | 成美 | 湯船 本連寺歴住墓地 |
| 116 | 宝篋印塔 | 成美 | 湯船 本連寺歴住墓地 |
| 117 | 五輪塔 | 成美 | 湯船 個人宅裏 |
| 118 | 五輪塔 | 成美 | 湯船 旧あさかえ園前墓地 |
| 119 | 五輪塔 | 成美 | 湯船 湯船旧墓地 |
| 120 | 五輪塔 | 成美 | 湯船 湯船旧墓地 |
| 121 | 五輪塔 | 成美 | 湯船 湯船旧墓地 |
| 122 | 宝篋印塔 | 明倫 | 菅沼 甘露寺開山墓地 |
| 123 | 混合 | 明倫 | 菅沼 甘露寺歴住墓地 |
| 124 | 宝篋印塔 | 明倫 | 菅沼 甘露寺歴住墓地 |
| 125 | 宝篋印塔 | 明倫 | 菅沼 甘露寺歴住墓地 |
| 126 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 甘露寺歴住墓地下 |
| 127 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 甘露寺歴住墓地下 |
| 128 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 甘露寺歴住墓地下 |
| 129 | 宝篋印塔 | 明倫 | 菅沼 甘露寺墓地 |
| 130 | 混合 | 明倫 | 菅沼 甘露寺墓地 |
| 131 | 宝篋印塔 | 明倫 | 菅沼 甘露寺墓地 |
| 132 | 宝篋印塔 | 明倫 | 菅沼 甘露寺墓地 |
| 133 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 甘露寺墓地 |
| 134 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 甘露寺墓地 |
| 135 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 甘露寺墓地 |
| 136 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 甘露寺墓地 |
| 137 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 甘露寺墓地 |
| 138 | 混合 | 明倫 | 菅沼 甘露寺墓地 |
| 139 | 混合 | 明倫 | 菅沼 甘露寺墓地 |
| 140 | 混合 | 明倫 | 菅沼 甘露寺墓地 |
| 141 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 甘露寺墓地 |
| 142 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 十輪寺境内 |
| 143 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 十輪寺境内 |
| 144 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 十輪寺境内 |
| 145 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 十輪寺境内 |
| 146 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 十輪寺境内 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|------|----|--------------|
| 147 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 十輪寺境内 |
| 148 | 宝篋印塔 | 明倫 | 菅沼 十輪寺境内 |
| 149 | 宝篋印塔 | 明倫 | 菅沼 十輪寺境内 |
| 150 | 宝篋印塔 | 明倫 | 菅沼 十輪寺境内 |
| 151 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 十輪寺境内 |
| 152 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅庭 |
| 153 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅庭 |
| 154 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅庭 |
| 155 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅畑地 |
| 156 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅畑地 |
| 157 | 混合 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 158 | 混合 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 159 | 混合 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 160 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 161 | 混合 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 162 | 宝篋印塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 163 | 宝篋印塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 164 | 宝篋印塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 165 | 宝篋印塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 166 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 167 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 168 | 混合 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 169 | 宝篋印塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 170 | 混合 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 171 | 混合 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 172 | 混合 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 173 | 混合 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 174 | 混合 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 175 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 176 | 混合 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 177 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 178 | 混合 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地(馬場) |
| 179 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 茅沼薬師堂内 |
| 180 | 混合 | 明倫 | 菅沼 茅沼薬師堂内 |
| 181 | 混合 | 明倫 | 菅沼 茅沼薬師堂内 |
| 182 | 宝篋印塔 | 明倫 | 菅沼 茅沼薬師堂内 |
| 183 | 混合 | 明倫 | 菅沼 茅沼薬師堂内 |
| 184 | 宝篋印塔 | 明倫 | 菅沼 茅沼薬師堂内 |
| 185 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 茅沼薬師堂内 |
| 186 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地 |
| 187 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地 |
| 188 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地 |
| 189 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|------|----|------------|
| 190 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 不動明王 祠脇 |
| 191 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 羽黒神社脇 |
| 192 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 羽黒神社脇 |
| 193 | 宝篋印塔 | 明倫 | 菅沼 羽黒神社脇 |
| 194 | 宝篋印塔 | 明倫 | 菅沼 字塔ノ元梅林 |
| 195 | 五輪塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅墓地 |
| 196 | 混合 | 明倫 | 所領 所領旧墓地 |
| 197 | 混合 | 明倫 | 所領 所領旧墓地 |
| 198 | 混合 | 明倫 | 所領 所領旧墓地 |
| 199 | 宝篋印塔 | 明倫 | 所領 所領旧墓地 |
| 200 | 混合 | 明倫 | 所領 所領旧墓地 |
| 201 | 五輪塔 | 明倫 | 所領 所領旧墓地 |
| 202 | 五輪塔 | 明倫 | 所領 所領旧墓地 |
| 203 | 五輪塔 | 明倫 | 所領 所領旧墓地 |
| 204 | 五輪塔 | 明倫 | 所領 所領旧墓地 |
| 205 | 宝篋印塔 | 明倫 | 所領 所領旧墓地 |
| 206 | 宝篋印塔 | 明倫 | 所領 所領旧墓地 |
| 207 | 混合 | 明倫 | 所領 個人宅庭 |
| 208 | 五輪塔 | 明倫 | 所領 個人宅庭 |
| 209 | 五輪塔 | 明倫 | 所領 個人宅庭 |
| 210 | 五輪塔 | 明倫 | 所領 個人宅庭 |
| 211 | 混合 | 明倫 | 所領 白旗神社境内 |
| 212 | 混合 | 明倫 | 所領 白旗神社境内 |
| 213 | 宝篋印塔 | 足柄 | 竹之下 旧長徳寺跡 |
| 214 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 嶽之下宮境内 |
| 215 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 嶽之下宮境内 |
| 216 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 嶽之下宮境内 |
| 217 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 嶽之下宮境内 |
| 218 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 嶽之下宮境内 |
| 219 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 嶽之下宮境内 |
| 220 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 嶽之下宮境内 |
| 221 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 嶽之下宮境内 |
| 222 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 嶽之下宮境内 |
| 223 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 嶽之下宮境内 |
| 224 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 嶽之下宮境内 |
| 225 | 混合 | 足柄 | 竹之下 旧善光寺墓地 |
| 226 | 混合 | 足柄 | 竹之下 旧善光寺墓地 |
| 227 | 混合 | 足柄 | 竹之下 旧善光寺墓地 |
| 228 | 混合 | 足柄 | 竹之下 旧善光寺墓地 |
| 229 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 旧善光寺墓地 |
| 230 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 旧善光寺墓地 |
| 231 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 旧善光寺墓地 |
| 232 | 混合 | 足柄 | 竹之下 旧善光寺墓地 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|------|----|-------------|
| 233 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 旧善光寺墓地 |
| 234 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 旧善光寺墓地 |
| 235 | 宝篋印塔 | 足柄 | 竹之下 旧善光寺墓地 |
| 236 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 旧善光寺墓地 |
| 237 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 旧善光寺墓地 |
| 238 | 混合 | 足柄 | 竹之下 旧善光寺墓地 |
| 239 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 旧善光寺墓地 |
| 240 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 旧善光寺墓地 |
| 241 | 宝篋印塔 | 足柄 | 竹之下 旧善光寺墓地 |
| 242 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 旧善光寺墓地 |
| 243 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 旧善光寺墓地 |
| 244 | 宝篋印塔 | 足柄 | 竹之下 旧善光寺墓地 |
| 245 | 宝篋印塔 | 足柄 | 竹之下 興雲寺伝孫八墓 |
| 246 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 興雲寺伝孫八墓 |
| 247 | 混合 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺弁天池上 |
| 248 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺六地藏脇 |
| 249 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺六地藏脇 |
| 250 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺六地藏脇 |
| 251 | 宝篋印塔 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺墓地 |
| 252 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺墓地 |
| 253 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺墓地 |
| 254 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺墓地 |
| 255 | 五輪塔 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺墓地 |
| 256 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 257 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 258 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 259 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 260 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 261 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 262 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 263 | 宝篋印塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 264 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 265 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 266 | 混合 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 267 | 混合 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 268 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 269 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 270 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 271 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 272 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 273 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 274 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 275 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|------|----|------------|
| 276 | 混合 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 277 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 278 | 宝篋印塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 279 | 宝篋印塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 280 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 281 | 宝篋印塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 282 | 宝篋印塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 283 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 284 | 宝篋印塔 | 足柄 | 新柴 字堂の前 |
| 285 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 円通寺歴住墓地 |
| 286 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 個人宅庭 |
| 287 | 五輪塔 | 足柄 | 新柴 個人宅庭 |
| 288 | 宝篋印塔 | 足柄 | 新柴 個人宅庭 |
| 289 | 宝篋印塔 | 足柄 | 新柴 個人宅庭 |
| 290 | 宝篋印塔 | 足柄 | 新柴 個人宅庭 |
| 291 | 五輪塔 | 足柄 | 桑木 個人宅墓地 |
| 292 | 宝篋印塔 | 足柄 | 桑木 個人宅墓地 |
| 293 | 五輪塔 | 足柄 | 桑木 桑木公民館 |
| 294 | 混合 | 足柄 | 桑木 個人宅庭 |
| 295 | 五輪塔 | 北郷 | 用沢 個人宅田地脇 |
| 296 | 五輪塔 | 北郷 | 用沢 個人宅墓地 |
| 297 | 五輪塔 | 北郷 | 用沢 個人宅墓地 |
| 298 | 宝篋印塔 | 北郷 | 大御神 個人宅林 |
| 299 | 宝篋印塔 | 北郷 | 上野 個人宅庭 |
| 300 | 宝篋印塔 | 北郷 | 上野 字久保田 |
| 301 | (不明) | 北郷 | 吉久保 個人宅裏 |
| 302 | 五輪塔 | 北郷 | 吉久保 個人宅裏 |
| 303 | 五輪塔 | 北郷 | 吉久保 個人宅裏 |
| 304 | 五輪塔 | 北郷 | 吉久保 個人宅裏 |
| 305 | 五輪塔 | 北郷 | 吉久保 個人宅裏 |
| 306 | 宝篋印塔 | 北郷 | 吉久保 個人宅裏 |
| 307 | 五輪塔 | 北郷 | 吉久保 個人宅裏 |
| 308 | 五輪塔 | 北郷 | 吉久保 個人宅裏 |
| 309 | (不明) | 北郷 | 吉久保 個人宅裏 |
| 310 | 一石 | 北郷 | 吉久保 個人宅墓地 |
| 311 | 五輪塔 | 北郷 | 吉久保 個人宅墓地 |
| 312 | 五輪塔 | 北郷 | 吉久保 個人宅墓地 |
| 313 | 五輪塔 | 北郷 | 吉久保 個人宅墓地 |
| 314 | 五輪塔 | 北郷 | 吉久保 個人宅裏墓地 |
| 315 | 五輪塔 | 北郷 | 吉久保 個人宅裏墓地 |
| 316 | 五輪塔 | 北郷 | 吉久保 個人宅裏墓地 |
| 317 | 五輪塔 | 北郷 | 吉久保 個人宅裏墓地 |
| 318 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 旧蓮静寺墓地 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|------|----|-------------|
| 319 | 一石 | 北郷 | 大胡田 旧蓮静寺墓地 |
| 320 | 一石 | 北郷 | 大胡田 旧蓮静寺墓地 |
| 321 | 一石 | 北郷 | 大胡田 旧蓮静寺墓地 |
| 322 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 旧蓮静寺墓地 |
| 323 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 旧蓮静寺墓地 |
| 324 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 旧蓮静寺墓地 |
| 325 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 旧蓮静寺墓地 |
| 326 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 旧蓮静寺墓地 |
| 327 | 一石 | 北郷 | 大胡田 旧蓮静寺墓地 |
| 328 | 宝篋印塔 | 北郷 | 大胡田 西光寺歴住墓地 |
| 329 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 西光寺歴住墓地 |
| 330 | 混合 | 北郷 | 大胡田 西光寺歴住墓地 |
| 331 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 西光寺歴住墓地 |
| 332 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 字寺中田地畦畔 |
| 333 | 混合 | 北郷 | 大胡田 字寺中田地畦畔 |
| 334 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 字寺中田地畦畔 |
| 335 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 字寺中田地畦畔 |
| 336 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 字寺中田地畦畔 |
| 337 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 字寺中田地畦畔 |
| 338 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 字寺中田地畦畔 |
| 339 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 字寺中田地畦畔 |
| 340 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 字寺中田地畦畔 |
| 341 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 字寺中田地畦畔 |
| 342 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 字寺中大銀杏脇 |
| 343 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 字寺中大銀杏脇 |
| 344 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 字寺中大銀杏脇 |
| 345 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 字寺中大銀杏脇 |
| 346 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 字寺中大銀杏脇 |
| 347 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 字寺中大銀杏脇 |
| 348 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 字寺中大銀杏脇 |
| 349 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 字寺中大銀杏脇 |
| 350 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 天神社路傍 |
| 351 | 混合 | 北郷 | 大胡田 天神社路傍 |
| 352 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 天神社路傍 |
| 353 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 天神社路傍 |
| 354 | 五輪塔 | 北郷 | 大胡田 天神社路傍 |
| 355 | 五輪塔 | 北郷 | 一色 向西寺境内 |
| 356 | 混合 | 北郷 | 一色 地藏堂跡墓地 |
| 357 | 宝篋印塔 | 北郷 | 一色 地藏堂跡墓地 |
| 358 | 混合 | 北郷 | 下小林 個人宅庭 |
| 359 | 五輪塔 | 北郷 | 下小林 個人宅庭 |
| 360 | 混合 | 北郷 | 下小林 個人宅庭 |

イ. 近世以降

| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|----|-------------|----|--------------------------------------|
| 1 | 道祖神 | 成美 | 小山 境の沢遊園地横 |
| 2 | 道祖神 | 成美 | 小山 富士紡病院前 |
| 3 | 道祖神 | 成美 | 小山 犬の平住宅入口 |
| 4 | 道祖神 | 成美 | 小山 桃山東名バス停入口 |
| 5 | 招魂祭寄付金連名 | 成美 | 小山 40名連名 山北石工数間品吉 |
| 6 | 招魂碑 | 成美 | 小山 首唱者高杉勇造外14名 六合村 菅沼村有志中 石工湯川作次郎 |
| 7 | 観世音 | 成美 | 小山 旧小山幼稚園下 |
| 8 | 道祖神 | 成美 | 小山 旧小山幼稚園下 |
| 9 | 双体道祖神 | 成美 | 小山 旧小山幼稚園下 |
| 10 | 馬頭観音 | 成美 | 小山 石堂薬師堂横 |
| 11 | 生誕七百年記念碑 | 成美 | 小山 小山音淵落合十二日講中7名連名 |
| 12 | 降誕七百年記念碑 | 成美 | 小山 石堂坂下 右 |
| 13 | 小山十二講中 | 成美 | 小山 石堂坂下 |
| 14 | 道祖神 | 成美 | 小山 中組氏子中 |
| 15 | 道祖神 | 成美 | 小山 石堂下 |
| 16 | 道祖神 | 成美 | 小山 神成米店横 |
| 17 | 道祖神 | 成美 | 小山 石堂社宅 |
| 18 | 双体道祖神 | 成美 | 小山 滝沢東名ガード下 右 |
| 19 | 馬頭観音 | 成美 | 小山 滝沢東名ガード下 左 |
| 20 | 神社改築之碑 | 成美 | 小山 小山神社 |
| 21 | 内容不明な石造物 | 成美 | 小山 小山神社・正面に絵がある |
| 22 | 御神燈 | 成美 | 小山 おやまじんじや 小山神社 左右 |
| 23 | 駒犬 | 成美 | 小山 おやまじんじや 小山神社 左右 |
| 24 | 旗立て | 成美 | 小山 おやまじんじや 小山神社 左右 |
| 25 | 手洗い水呑み | 成美 | 小山 おやまじんじや 小山神社 |
| 26 | 御神燈 | 成美 | 小山 おやまじんじや 小山神社 左右 |
| 27 | 旗立て | 成美 | 小山 おやまじんじや 大祖神社 |
| 28 | 神社碑 | 成美 | 小山 おやまじんじや 大祖神社 |
| 29 | 顕彰碑 (尾崎君之碑) | 成美 | 小山 尾崎家屋敷 (滝本家横) |
| 30 | 双体道祖神 | 成美 | 小山 松田商店横 |
| 31 | 道祖神 | 成美 | 小山 松田商店横 |
| 32 | 双体道祖神 | 成美 | 小山 松田商店横 |
| 33 | 双体道祖神 | 成美 | 小山 大沢川橋横 |
| 34 | 道祖神 | 成美 | 小山 大沢川橋横 |
| 35 | 馬頭観音 | 成美 | 小山 大沢川橋横 |
| 36 | 馬頭観音 | 成美 | 小山 大沢川橋横 |
| 37 | 馬頭観音 | 成美 | 小山 大沢川橋横 |
| 38 | 内容不明な石造物 | 成美 | 小山 大沢川橋横 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|----|-------------------|----|------------|
| 39 | 馬頭観音 | 成美 | 小山 大沢川橋横 |
| 40 | 内容不明な石造物 | 成美 | 小山 大沢川橋横 |
| 41 | 馬頭観音 | 成美 | 小山 大沢川橋横 |
| 42 | 馬頭観音 | 成美 | 小山 大沢川橋横 |
| 43 | 馬頭観音 | 成美 | 小山 大沢川橋横 |
| 44 | 大沢川流域治山治水之碑 | 成美 | 小山 個人宅 |
| 45 | 道祖神 | 成美 | 小山 正福寺入口横 |
| 46 | 名号碑 南無阿弥陀仏 | 成美 | 小山 正福寺入口横 |
| 47 | 寺院碑 真宗大谷派 正福寺 | 成美 | 小山 正福寺入口横 |
| 48 | 馬頭観音 | 成美 | 小山 正福寺入口横 |
| 49 | 寺院碑 門徒宗 正福寺 | 成美 | 小山 正福寺境内 |
| 50 | 斡旋者 戦友 | 成美 | 小山 正福寺境内 |
| 51 | 顕彰碑 (陸軍歩兵室伏八百吉之碑) | 成美 | 小山 正福寺境内 |
| 52 | 顕彰碑 (室伏太郎之碑) | 成美 | 小山 正福寺境内 |
| 53 | 顕彰碑 (室伏董平君碑) | 成美 | 小山 正福寺境内 |
| 54 | 手洗い水呑み | 成美 | 小山 正福寺境内 |
| 55 | 内容不明な石造物 | 成美 | 小山 正福寺境内 |
| 56 | 記念碑 瀧沢水道誌 | 成美 | 小山 滝沢奥 |
| 57 | 顕彰碑 (米倉磯吉君之碑) | 成美 | 小山 滝沢 |
| 58 | 馬頭観音 | 成美 | 小山 滝沢 |
| 59 | 旗立て 左右 | 成美 | 音淵 雲霧神社 |
| 60 | 旗立て 左右 | 成美 | 音淵 雲霧神社 階段 |
| 61 | 不明 明治百年記念 | 成美 | 音淵 雲霧神社 |
| 62 | 不明 水道記念 | 成美 | 音淵 雲霧神社 |
| 63 | 鳥居 | 成美 | 音淵 雲霧神社 |
| 64 | 内容不明な石造物 | 成美 | 音淵 生土 城山 |
| 65 | 道祖神 | 成美 | 音淵 音淵宅道上 |
| 66 | 道祖神 | 成美 | 音淵 音淵宅道上 |
| 67 | 道祖神 | 成美 | 音淵 音淵宅道上 |
| 68 | 稲荷鎮座 | 成美 | 音淵 音淵宅道上 |
| 69 | 馬頭観音 | 成美 | 音淵 内田商会前 |
| 70 | 水神宮 | 成美 | 音淵 一の木戸 |
| 71 | 馬頭観音 | 成美 | 音淵 一の木戸 |
| 72 | 道祖神 | 成美 | 音淵 一の木戸 |
| 73 | 鳥居 | 成美 | 生土 生土神社 |
| 74 | 手洗い水呑み | 成美 | 生土 生土神社 |
| 75 | 石燈籠 左右 西国三十三所順礼供養 | 成美 | 生土 生土神社 |
| 76 | 石燈籠 左右 | 成美 | 生土 生土神社 |
| 77 | 顕彰碑 (陸軍歩兵室伏平蔵君之碑) | 成美 | 生土 生土神社 |
| 78 | 明德社碑 | 成美 | 生土 生土神社 |
| 79 | 旗立て | 成美 | 生土 生土神社 |
| 80 | 旗立て 左右 | 成美 | 生土 生土神社 |
| 81 | 馬頭観音 | 成美 | 生土 生土神社階段下 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|------------------|----|--------------|
| 82 | 地藏 | 成美 | 生土 生土神社階段下 |
| 83 | 地藏 | 成美 | 生土 生土神社階段下 |
| 84 | 旗立て | 成美 | 生土 生土神社入口 |
| 85 | 馬頭観世音 | 成美 | 生土 個人宅 |
| 86 | 文芸碑 | 成美 | 生土 個人宅 |
| 87 | 銘なし | 成美 | 生土 個人宅 |
| 88 | 道祖神 | 成美 | 生土 第一県営住宅前 |
| 89 | 改築遷宮御園大神鎮座 | 成美 | 生土 御園平 |
| 90 | 国土安泰 社殿改築竣工 | 成美 | 生土 御園平 |
| 91 | 地藏 | 成美 | 生土 御園平 |
| 92 | 地藏 | 成美 | 生土 御園平 |
| 93 | 双体道祖神 | 成美 | 生土 御園平 |
| 94 | 道祖神 | 成美 | 生土 御園平 |
| 95 | 馬頭観世音 | 成美 | 生土 個人宅 |
| 96 | 文字碑 | 成美 | 生土 個人宅 |
| 97 | 文字碑 | 成美 | 生土 個人宅 |
| 98 | 水神 | 成美 | 生土 個人宅 |
| 99 | 馬頭観世音 | 成美 | 生土 個人宅 |
| 100 | 馬頭観世音 | 成美 | 生土 個人宅 |
| 101 | 双体道祖神 | 成美 | 生土 個人宅 |
| 102 | 春日神社址石碑 | 成美 | 生土 個人宅 |
| 103 | 供養塔 | 成美 | 生土 個人宅 |
| 104 | 唯念名号碑 | 成美 | 生土 乘光寺入口 |
| 105 | 石燈籠 | 成美 | 生土 乘光寺境内 |
| 106 | 石燈籠 左右 | 成美 | 生土 乘光寺境内 |
| 107 | 供養塔 第三四五工場物故者供養塔 | 成美 | 生土 乘光寺境内 |
| 108 | 殉職之碑 | 成美 | 生土 乘光寺境内 |
| 109 | 旗立て | 成美 | 生土 乘光寺境内 |
| 110 | 三界万霊塔 | 成美 | 生土 乘光寺境内 |
| 111 | 文字碑 | 成美 | 生土 乘光寺境内 |
| 112 | 庚申塔 | 成美 | 生土 乘光寺境内 |
| 113 | 石塔 臨濟宗円覚寺派乘光寺 | 成美 | 生土 乘光寺境内大門入口 |
| 114 | 供養塔 | 成美 | 中島 勝福寺境内 |
| 115 | 供養塔 | 成美 | 中島 勝福寺境内 |
| 116 | 供養塔 | 成美 | 中島 勝福寺境内 |
| 117 | 延命地藏尊 | 成美 | 中島 勝福寺境内 |
| 118 | 供養塔 | 成美 | 中島 勝福寺境内 |
| 119 | 供養塔 | 成美 | 中島 勝福寺境内 |
| 120 | 供養塔 | 成美 | 中島 勝福寺境内 |
| 121 | 頌徳碑 | 成美 | 中島 勝福寺境内 |
| 122 | 石燈籠 | 成美 | 中島 勝福寺境内 |
| 123 | 有縁無縁三界萬霊之塔 | 成美 | 中島 勝福寺境内 |
| 124 | 三十三所横道供養 | 成美 | 中島 勝福寺境内 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|-----------------|----|-------------------------|
| 125 | 内容不明な石造物 | 成美 | 中島 勝福寺境内 |
| 126 | 石燈籠 左右 | 成美 | 中島 勝福寺境内 |
| 127 | 門柱 左右 | 成美 | 中島 勝福寺入口 |
| 128 | 馬頭観世音 | 成美 | 中島 個人宅 |
| 129 | 馬頭観世音 | 成美 | 中島 個人宅 |
| 130 | 馬頭観世音 | 成美 | 中島 個人宅 |
| 131 | 馬頭観世音 | 成美 | 中島 個人宅 |
| 132 | 馬頭観世音 | 成美 | 中島 個人宅 |
| 133 | 双体道祖神 | 成美 | 中島 個人宅 |
| 134 | 頌徳碑（組合長松本延次郎外） | 成美 | 中島 中島区耕地整理組合建之石工橋本喜作 |
| 135 | 忠魂碑（三等機関兵松本煬次郎） | 成美 | 中島 発起人9名 石工大雄山 出入 向山佐太郎 |
| 136 | 旗立て | 成美 | 中島 中島神社境内 |
| 137 | 旗立て | 成美 | 中島 中島神社境内 |
| 138 | 鳥居 中島神社 | 成美 | 中島 中島神社境内 |
| 139 | 奉納 | 成美 | 中島 中島神社境内 |
| 140 | 御即位記念（階段寄附芳名） | 成美 | 中島 中島神社境内 |
| 141 | 旗立て | 成美 | 中島 中島神社境内 |
| 142 | 手洗い水呑み | 成美 | 中島 中島神社境内 |
| 143 | 馬頭観世音 | 成美 | 中島 個人宅 |
| 144 | 馬頭観世音 | 成美 | 中島 個人宅 |
| 145 | 自然石道祖神 | 成美 | 中島 個人宅 |
| 146 | 石燈籠 | 成美 | 中島 個人宅 |
| 147 | 庚申搭 | 成美 | 中島 個人宅 |
| 148 | 狛犬 左右 | 成美 | 中島 金時公園 |
| 149 | 文芸碑（俳句） | 成美 | 中島 金時公園 |
| 150 | 金時公園 | 成美 | 中島 金時公園 |
| 151 | 文芸碑 | 成美 | 中島 金時公園 |
| 152 | 石燈籠 | 成美 | 中島 金時公園 |
| 153 | 文芸碑（金時音頭） | 成美 | 中島 金時公園 |
| 154 | 百番観世音巡礼供養搭 | 成美 | 中島 個人宅 |
| 155 | 馬頭観世音 | 成美 | 中島 個人宅 |
| 156 | 馬頭観世音 | 成美 | 中島 個人宅 |
| 157 | 馬頭観世音 | 成美 | 中島 個人宅 |
| 158 | 御神燈 | 成美 | 中島 個人宅 |
| 159 | 双体道祖神 | 成美 | 中島 個人宅 |
| 160 | 御即位記念 | 成美 | 中島 中島公民館前 |
| 161 | 馬頭観世音 | 成美 | 中島 個人宅 |
| 162 | 馬頭観世音 | 成美 | 中島 個人宅 |
| 163 | 給水碑 | 成美 | 中島 滝之前水道組合 銘文あり 石工橋本喜作 |
| 164 | 道祖神 | 成美 | 中島 滝之前一同 |
| 165 | 旗立て | 成美 | 中島 個人宅 |

| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|----------------------------|--------|----------------------|
| 166 | きねん 紀念 (御料地払下げ) | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 峰坂天神社下宮 |
| 167 | うえん むえん さんがいばんれい 有縁無縁三界萬霊寺 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 無量寿庵 |
| 168 | いしどうろう 石燈籠 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 無量寿庵 |
| 169 | ばとう かんぜおん 馬頭観世音 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 無量寿庵 |
| 170 | じぞう 地藏 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 無量寿庵 |
| 171 | じぞう 地藏 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 無量寿庵 |
| 172 | じぞう 地藏 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 無量寿庵 |
| 173 | じぞう 地藏 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 無量寿庵 |
| 174 | じぞう 地藏 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 無量寿庵 |
| 175 | じぞう 地藏 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 無量寿庵 |
| 176 | ばとう かんぜおん 馬頭観世音 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 個人宅 |
| 177 | くようとう 供養塔 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 個人宅 |
| 178 | そうたいどうぞじん 双体道祖神 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 個人宅 |
| 179 | ばとう かんぜおん 馬頭観世音 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 個人宅 |
| 180 | どうひょう 道標 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 峰坂天神社下宮参道 |
| 181 | ばとう かんぜおん 馬頭観世音 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 峰坂天神社下宮参道 |
| 182 | ばとう かんぜおん 馬頭観世音 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 峰坂天神社下宮参道 |
| 183 | ばとう かんぜおん 馬頭観世音 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 峰坂天神社下宮参道 |
| 184 | ばとう かんぜおん 馬頭観世音 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 峰坂天神社下宮参道 |
| 185 | ばとう かんぜおん 馬頭観世音 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 峰坂天神社下宮参道 |
| 186 | ばとう かんぜおん 馬頭観世音 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 峰坂天神社下宮参道 |
| 187 | ばとう かんぜおん 馬頭観世音 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 峰坂天神社下宮参道 |
| 188 | 三馬頭観世音 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 峰坂天神社下宮参道 |
| 189 | ばとう かんぜおん 馬頭観世音 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 峰坂天神社下宮参道 |
| 190 | 内容不明な石造物 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 個人宅 |
| 191 | ばとう かんぜおん 馬頭観世音 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 個人宅 |
| 192 | ばとう かんぜおん 馬頭観世音 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 個人宅 |
| 193 | ぶんげいひ 文芸碑 (俳句) | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 おおもりぼし 大森橋 |
| 194 | ばとう かんぜおん 馬頭観世音 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 おおもりぼし 大森橋 |
| 195 | どうぞじん 道祖神 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 おおもりぼし 大森橋 |
| 196 | そうたいどうぞじん 双体道祖神 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 おおもりぼし 大森橋 |
| 197 | ばとう かんぜおん 馬頭観世音 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 個人宅 |
| 198 | 庚申供養之塔 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 柳島公民館 |
| 199 | ばとう かんぜおん 馬頭観世音 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 やなぎしま 柳島公民館 |
| 200 | しこくさいごくれいはいくようとう 四国西国礼拝供養塔 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 やなぎしま 柳島公民館 |
| 201 | こうしんとう 庚申塔 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 やなぎしま 柳島公民館 |
| 202 | なむみょうほうれんげきょう 南無妙法蓮華経 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 やなぎしま 柳島公民館 |
| 203 | てあら みずの 手洗い水呑み | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 やなぎしま 柳島神社 |
| 204 | いしどうろう 石燈籠 左右 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 やなぎしま 柳島神社 |
| 205 | ごしんとう 御神燈 左右 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 やなぎしま 柳島神社 |
| 206 | そうたいどうぞじん 双体道祖神 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 やなぎしま 柳島神社 |
| 207 | はた た 旗立て | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 やなぎしま 柳島神社 |
| 208 | すいじん 水神 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 やなぎしま 柳島神社 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|--------------|----|--------------|
| 209 | 供養塔（無縁法界万霊） | 成美 | 柳島 柳島神社 |
| 210 | 正観世音菩薩 | 成美 | 柳島 路傍 |
| 211 | 辻八幡六神 | 成美 | 柳島 路傍 |
| 212 | 道祖神 | 成美 | 柳島 路傍 |
| 213 | 双体道祖神 | 成美 | 柳島 路傍 |
| 214 | 明けゆく郷土 | 成美 | 柳島 路傍 |
| 215 | 馬頭観世音 | 成美 | 柳島 個人宅 |
| 216 | 馬頭観世音 | 成美 | 柳島 個人宅 |
| 217 | 地蔵 | 成美 | 柳島 個人宅 |
| 218 | 内容不明な石造物 | 成美 | 柳島 個人宅 |
| 219 | 馬頭観世音 | 成美 | 柳島 個人宅 |
| 220 | 唯念名号碑 | 成美 | 湯船 町営住宅入口 |
| 221 | 唯念名号碑 | 成美 | 湯船 町住手前県道沿 |
| 222 | 馬頭観世音 | 成美 | 湯船 個人宅 |
| 223 | 道祖神 | 成美 | 湯船 個人宅 |
| 224 | 道標 | 成美 | 湯船 個人宅 |
| 225 | 南無阿弥陀仏 | 成美 | 湯船 個人宅 |
| 226 | 南無阿弥陀仏 | 成美 | 湯船 個人宅 |
| 227 | 記念碑（日の丸道場跡） | 成美 | 湯船 日の丸道場跡 |
| 228 | 供養塔 | 成美 | 湯船 ごんげ沢 |
| 229 | 南無妙法蓮華経 | 成美 | 湯船 ごんげ沢 |
| 230 | 双体道祖神 | 成美 | 湯船 個人宅 |
| 231 | 馬頭観世音 | 成美 | 湯船 個人宅 |
| 232 | 湯船沢農道開通記念碑 | 成美 | 湯船 あさかえ園上 |
| 233 | 馬頭観世音 | 成美 | 湯船 個人宅 |
| 234 | 忠魂碑 | 成美 | 湯船 個人宅 |
| 235 | 文字碑（子産田之地） | 成美 | 湯船 個人宅 |
| 236 | 馬頭観世音 | 成美 | 湯船 個人宅 |
| 237 | 双体道祖神 | 成美 | 湯船 湯船公民館 |
| 238 | 本蓮寺 | 成美 | 湯船 本蓮寺入口 |
| 239 | 奉唱題目一千部供養 | 成美 | 湯船 本蓮寺入口 |
| 240 | 南無妙法蓮華経一千部供養 | 成美 | 湯船 本蓮寺入口 |
| 241 | 南無妙法蓮華経 | 成美 | 湯船 本蓮寺入口 |
| 242 | 馬頭観世音菩薩 | 成美 | 湯船 個人宅 |
| 243 | 馬頭観世音 | 成美 | 湯船 個人宅 |
| 244 | 道祖神 | 成美 | 湯船 個人宅 |
| 245 | 手洗い水呑み | 成美 | 湯船 湯船八幡神社 |
| 246 | 旗立て 左右 | 成美 | 湯船 湯船八幡神社 |
| 247 | 唯念名号碑 | 成美 | 藤曲 豊門会館付近 |
| 248 | 唯念名号碑 | 成美 | 藤曲 豊門会館正門前付近 |
| 249 | 水呑み | 成美 | 藤曲 龍宝寺 |
| 250 | 馬頭観世音 | 成美 | 藤曲 個人宅 |
| 251 | 霊神 | 成美 | 藤曲 個人宅 |

| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|--------------------|----|-------------|
| 252 | 南無阿弥陀仏 | 成美 | 藤曲 個人宅 |
| 253 | 地藏 | 成美 | 藤曲 個人宅 |
| 254 | 内容不明な石造物 | 成美 | 藤曲 個人宅 |
| 255 | 唯念名号碑 | 成美 | 藤曲 個人宅 |
| 256 | 双体道祖神 | 成美 | 藤曲 個人宅 |
| 257 | 先祖累代口精霊墓 | 成美 | 藤曲 個人宅 |
| 258 | 馬頭観音 | 成美 | 藤曲 慶林寺 |
| 259 | 馬頭観音 | 成美 | 藤曲 慶林寺 |
| 260 | 馬頭観音 | 成美 | 藤曲 慶林寺 |
| 261 | 馬頭観世音菩薩 | 成美 | 藤曲 慶林寺 |
| 262 | 馬頭観世音 | 成美 | 藤曲 慶林寺 |
| 263 | 馬頭観世音 | 成美 | 藤曲 慶林寺 |
| 264 | 馬頭観世音 | 成美 | 藤曲 慶林寺 |
| 265 | 馬頭観世音 | 成美 | 藤曲 慶林寺 |
| 266 | 日支事変徴発馬匹供養塔 | 成美 | 藤曲 慶林寺 |
| 267 | 戦没者芳名 | 成美 | 藤曲 小山町忠霊塔広場 |
| 268 | 頌徳之碑 (岳堂藤曲政吉翁) | 成美 | 藤曲 小山町忠霊塔広場 |
| 269 | 日露戦役記念碑 | 成美 | 藤曲 小山町忠霊塔広場 |
| 270 | 忠魂碑 | 成美 | 藤曲 小山町忠霊塔広場 |
| 271 | 石燈籠 左右 | 成美 | 藤曲 小山町忠霊塔広場 |
| 272 | 国旗掲揚塔 (小山町郷友会結成記念) | 成美 | 藤曲 小山町忠霊塔広場 |
| 273 | 湯山正平翁之像 | 成美 | 藤曲 小山町忠霊塔広場 |
| 274 | 水呑み | 成美 | 藤曲 小山町忠霊塔広場 |
| 275 | 和田君遺徳碑 | 成美 | 藤曲 豊門公園 |
| 276 | 鷗会記念碑 | 成美 | 藤曲 豊門公園 |
| 277 | 日比谷平左衛門像台座 | 成美 | 藤曲 豊門公園 |
| 278 | 日比谷平左衛門像の碑文 | 成美 | 藤曲 豊門公園 |
| 279 | 日比谷翁頌徳碑の沿革 | 成美 | 藤曲 豊門公園 |
| 280 | 日比谷翁遺徳之碑 | 成美 | 藤曲 豊門公園 |
| 281 | 道祖神 | 成美 | 藤曲 野沢川脇 |
| 282 | 旗立て 左右 | 成美 | 落合 熊野神社 |
| 283 | 道祖神 | 成美 | 落合 熊野神社 |
| 284 | 給水碑 | 成美 | 落合 熊野神社 |
| 285 | 句碑 (素鷗) | 成美 | 落合 熊野神社 |
| 286 | 町内安全 | 成美 | 落合 熊野神社 |
| 287 | 手洗い水呑み | 成美 | 落合 熊野神社 |
| 288 | 秋葉神 | 成美 | 落合 熊野神社 |
| 289 | 狛犬 左右 | 成美 | 落合 熊野神社 |
| 290 | 小山町民憲章 | 成美 | 落合 小山町役場 |
| 291 | 道祖神 | 成美 | 落合 小山中学校脇 |
| 292 | 双体道祖神 | 成美 | 落合 小山中学校脇 |
| 293 | 唯念名号碑 | 明倫 | 南藤曲 高尾山入口 |
| 294 | 唯念名号碑、庚申塔 | 明倫 | おおくぼ 湯船原登口 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|-------------------|----|--------------------------|
| 295 | 供養塔 | 明倫 | 南藤曲 福昌寺脇の路傍 |
| 296 | 石像 | 明倫 | 南藤曲 福昌寺脇の路傍 |
| 297 | 旗立て 御即位記念 | 明倫 | 南藤曲 福昌寺 |
| 298 | 三界万霊塔 南無阿弥だぶつ | 明倫 | 南藤曲 福昌寺 |
| 299 | 鳥居 | 明倫 | 南藤曲 神明社 |
| 300 | 常夜燈 左右 | 明倫 | 南藤曲 神明社 |
| 301 | 手洗い水呑み | 明倫 | 南藤曲 神明社 |
| 302 | 狛犬 左右 | 明倫 | 南藤曲 神明社 |
| 303 | 手洗い水呑み | 明倫 | 南藤曲 高尾神社 |
| 304 | 石像 | 明倫 | 南藤曲 高尾神社 |
| 305 | 旗立て | 明倫 | 南藤曲 高尾神社 |
| 306 | 産業道路開鑿記念 | 明倫 | 南藤曲 七社神社 |
| 307 | 御神燈 | 明倫 | 南藤曲 七社神社 |
| 308 | 内容不明な石造物 | 明倫 | 南藤曲 七社神社 |
| 309 | 御神燈 | 明倫 | 南藤曲 七社神社 |
| 310 | 馬頭観世音 | 明倫 | 南藤曲 奈良橋 |
| 311 | 六道地藏尊 七観音大王 三界万霊塔 | 明倫 | 南藤曲 上須川橋横 |
| 312 | 道祖神 | 明倫 | 南藤曲 奈良橋の富士セフティの上の山 |
| 313 | 双体道祖神 | 明倫 | 南藤曲 奈良橋ハ ^ハ ス下 |
| 314 | 庚申塔 | 明倫 | 南藤曲 奈良橋ハ ^ハ ス下 |
| 315 | 内容不明な石造物 | 明倫 | 南藤曲 奈良橋ハ ^ハ ス下 |
| 316 | 庚申供養塔 | 明倫 | 南藤曲 奈良橋ハ ^ハ ス下 |
| 317 | 供養塔 | 明倫 | 南藤曲 奈良橋ハ ^ハ ス下 |
| 318 | 地藏 | 明倫 | 南藤曲 奈良橋ハ ^ハ ス下 |
| 319 | 馬頭観世音 | 明倫 | 南藤曲 個人宅 |
| 320 | 馬頭観世音 | 明倫 | 南藤曲 個人宅 |
| 321 | 内容不明な石造物 | 明倫 | 南藤曲 個人宅 |
| 322 | 馬頭観世音 | 明倫 | 南藤曲 奈良橋 |
| 323 | 馬頭観世音 | 明倫 | 南藤曲 奈良橋 |
| 324 | □虚空立蔵菩薩 | 明倫 | 南藤曲 奈良橋 |
| 325 | 馬頭観音 | 明倫 | 南藤曲 おおくぼ 大久保路傍 |
| 326 | 西国供養塔 | 明倫 | 南藤曲 おおくぼ 大久保路傍 |
| 327 | 唯念名号碑 | 明倫 | 南藤曲 おおくぼ 大久保路傍 |
| 328 | 庚申供養塔 | 明倫 | 南藤曲 おおくぼ 大久保路傍 |
| 329 | 龍弁財尊天 | 明倫 | 茅沼 切通 |
| 330 | 供養塔 | 明倫 | 茅沼 町住下 |
| 331 | 庚申塔 | 明倫 | 茅沼 おやま 小山写真館横 |
| 332 | 庚申塔 | 明倫 | 茅沼 おやま 小山写真館横 |
| 333 | 手洗い水呑み | 明倫 | 茅沼 個人宅 |
| 334 | 文字碑 (弘法大師) | 明倫 | 茅沼 個人宅 |
| 335 | 御神燈 | 明倫 | 茅沼 個人宅 |
| 336 | 横道巡礼供養仏 | 明倫 | 茅沼 個人宅 |
| 337 | 内容不明な石造物 | 明倫 | 茅沼 個人宅 |

| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|----------------|----|------------|
| 338 | 庚申待供養 | 明倫 | 茅沼 個人宅 |
| 339 | 双体道祖神 | 明倫 | 茅沼 個人宅 |
| 340 | 鳥居（紀元二千六百年記念） | 明倫 | 茅沼 八幡神社 |
| 341 | 旗立て 左右 | 明倫 | 茅沼 八幡神社 |
| 342 | 月米水道記念 | 明倫 | 茅沼 八幡神社 |
| 343 | 双体道祖神 | 明倫 | 茅沼 八幡神社 |
| 344 | 道祖神 | 明倫 | 茅沼 八幡神社 |
| 345 | 文字碑（区民一同） | 明倫 | 茅沼 八幡神社 |
| 346 | 八幡神社遷座記念 | 明倫 | 茅沼 八幡神社 |
| 347 | 奉獻 手洗い水呑み | 明倫 | 茅沼 八幡神社 |
| 348 | 須川災害復旧記念碑 | 明倫 | 茅沼 八幡神社 |
| 349 | 水神 | 明倫 | 茅沼 八幡神社 |
| 350 | 唯念名号碑 | 明倫 | 菅沼 天神原水路脇 |
| 351 | 題目碑 | 明倫 | 菅沼 天神原水路脇 |
| 352 | 馬頭観世音 | 明倫 | 菅沼 岩田権良宅前 |
| 353 | 馬頭観世音 | 明倫 | 菅沼 新屋十王堂 |
| 354 | 新屋十王堂碑 | 明倫 | 菅沼 新屋十王堂入口 |
| 355 | 道祖神 | 明倫 | 菅沼 個人宅 |
| 356 | 双体道祖神 | 明倫 | 菅沼 個人宅 |
| 357 | 顕彰碑（陸軍歩兵岩田太一郎） | 明倫 | 菅沼 個人宅 |
| 358 | 唯念名号碑 | 明倫 | 菅沼 天神原貯水池横 |
| 359 | 南無妙法蓮華経法界萬霊 | 明倫 | 菅沼 個人宅 |
| 360 | 御神燈 | 明倫 | 菅沼 天神原天神社 |
| 361 | 顕彰碑（陸軍歩兵湯山吉五郎） | 明倫 | 菅沼 個人宅 |
| 362 | 内容不明な石造物 | 明倫 | 菅沼 個人宅 |
| 363 | 御神燈 | 明倫 | 菅沼 個人宅 |
| 364 | 双体道祖神 | 明倫 | 菅沼 個人宅 |
| 365 | 石祠（稻荷） | 明倫 | 菅沼 個人宅 |
| 366 | 石祠（奉大山） | 明倫 | 菅沼 個人宅 |
| 367 | 内容不明な石造物 | 明倫 | 菅沼 個人宅 |
| 368 | 内容不明な石造物 | 明倫 | 菅沼 個人宅 |
| 369 | 馬頭観世音 | 明倫 | 菅沼 旧東栄建設前 |
| 370 | 内容不明な石造物 | 明倫 | 菅沼 個人宅 |
| 371 | 内容不明な石造物 | 明倫 | 菅沼 個人宅 |
| 372 | 馬頭観世音 | 明倫 | 菅沼 穂見神社横 |
| 373 | 文字碑（本立道生） | 明倫 | 菅沼 穂見神社横 |
| 374 | 内容不明な石造物 | 明倫 | 菅沼 穂見神社横 |
| 375 | 道祖神 | 明倫 | 菅沼 穂見神社 |
| 376 | 旗立て | 明倫 | 菅沼 穂見神社 |
| 377 | 秩父供養塔 | 明倫 | 菅沼 穂見神社 |
| 378 | 旗立て | 明倫 | 菅沼 穂見神社 |
| 379 | 猿田彦 | 明倫 | 菅沼 穂見神社 |
| 380 | 内容不明な石造物 | 明倫 | 菅沼 穂見神社 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|--------------------|----|---------|
| 381 | 御大典記念 | 明倫 | 菅沼 穂見神社 |
| 382 | 旗立て | 明倫 | 菅沼 穂見神社 |
| 383 | 湯山治兵衛筆子塚 | 明倫 | 菅沼 穂見神社 |
| 384 | 馬頭観世音 | 明倫 | 菅沼 個人宅 |
| 385 | 馬頭観世音 | 明倫 | 菅沼 個人宅 |
| 386 | 馬頭観世音 | 明倫 | 菅沼 個人宅 |
| 387 | 秩父坂東巡礼供養塔 | 明倫 | 菅沼 個人宅 |
| 388 | 双体道祖神 | 明倫 | 菅沼 個人宅 |
| 389 | 頌徳碑（湯山宇平治） | 明倫 | 菅沼 個人宅 |
| 390 | 岩田九三郎筆子塚 | 明倫 | 菅沼 馬場墓地 |
| 391 | 湯山市蔵筆子塚 | 明倫 | 菅沼 個人墓地 |
| 392 | 湯山七左衛門筆子塚 | 明倫 | 菅沼 個人墓地 |
| 393 | 旗立て 左右 | 明倫 | 菅沼 日吉神社 |
| 394 | 神饌料供進指定神社村社日吉神社 | 明倫 | 菅沼 日吉神社 |
| 395 | 御神燈 左右 | 明倫 | 菅沼 日吉神社 |
| 396 | 青面金剛明王塔 | 明倫 | 菅沼 日吉神社 |
| 397 | 手洗い水呑み | 明倫 | 菅沼 日吉神社 |
| 398 | 句碑（逸素） | 明倫 | 菅沼 日吉神社 |
| 399 | 句碑（三句） | 明倫 | 菅沼 日吉神社 |
| 400 | 明治三十七八年戦後記念碑 | 明倫 | 菅沼 日吉神社 |
| 401 | 石祠（稻荷） | 明倫 | 菅沼 日吉神社 |
| 402 | 石祠 | 明倫 | 菅沼 日吉神社 |
| 403 | 石祠 | 明倫 | 菅沼 日吉神社 |
| 404 | 石祠 | 明倫 | 菅沼 日吉神社 |
| 405 | 石祠 | 明倫 | 菅沼 日吉神社 |
| 406 | 内容不明な石造物 | 明倫 | 菅沼 日吉神社 |
| 407 | 奉巡礼百番供養塔（金比羅・湯殿三山） | 明倫 | 菅沼 日吉神社 |
| 408 | 馬頭観世音 | 明倫 | 菅沼 日吉神社 |
| 409 | 馬頭観世音 | 明倫 | 菅沼 日吉神社 |
| 410 | 供養塔 | 明倫 | 菅沼 日吉神社 |
| 411 | 石造物（両親菩提） | 明倫 | 菅沼 甘露寺 |
| 412 | 文字碑（甘露寺） | 明倫 | 菅沼 甘露寺 |
| 413 | 旗立て | 明倫 | 菅沼 甘露寺 |
| 414 | 坂東秩父観世音菩薩順禮供養塔 | 明倫 | 菅沼 甘露寺 |
| 415 | 馬頭観世音 | 明倫 | 菅沼 甘露寺 |
| 416 | 石燈籠（左右） | 明倫 | 菅沼 甘露寺 |
| 417 | 献燈 左右 | 明倫 | 菅沼 甘露寺 |
| 418 | 句碑（蔵春） | 明倫 | 菅沼 甘露寺 |
| 419 | 満願報恩（順禮供養塔） | 明倫 | 菅沼 甘露寺 |
| 420 | 口障庵宗岳碑 | 明倫 | 菅沼 甘露寺 |
| 421 | 宝篋印陀羅尼塔 | 明倫 | 菅沼 甘露寺 |
| 422 | 第一、二工場物故者供養塔 | 明倫 | 菅沼 甘露寺 |
| 423 | 内容不明な石造物 | 明倫 | 菅沼 甘露寺 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|------------------|----|---------------|
| 424 | 湯山文右衛門筆子塚 | 明倫 | 原向 湯山文右衛門資料館横 |
| 425 | 旗立て 皇太子殿下御降誕記念 | 明倫 | 大脇 羽黒神社 |
| 426 | 旗立て 御指定村社羽黒神社 | 明倫 | 大脇 羽黒神社 |
| 427 | 庚申塔 | 明倫 | 大脇 羽黒神社 |
| 428 | 庚申塔 | 明倫 | 大脇 羽黒神社 |
| 429 | 馬頭観世音 | 明倫 | 大脇 羽黒神社 |
| 430 | 常夜燈 | 明倫 | 大脇 羽黒神社 |
| 431 | 双体道祖神 | 明倫 | 大脇 羽黒神社 |
| 432 | 双体道祖神 | 明倫 | 大脇 羽黒神社 |
| 433 | 庚申供養塔 | 明倫 | 大脇 羽黒神社 |
| 434 | 秩父坂東四国西国供養塔 | 明倫 | 大脇 羽黒神社 |
| 435 | 馬頭観世音 | 明倫 | 大脇 羽黒神社 |
| 436 | 御神燈 | 明倫 | 大脇 羽黒神社 |
| 437 | 旗立て 左右 | 明倫 | 大脇 羽黒神社 |
| 438 | 御神燈 左右 | 明倫 | 大脇 羽黒神社 |
| 439 | 明治二十七八年役征清記念碑 | 明倫 | 大脇 羽黒神社 |
| 440 | 馬頭観世音 | 明倫 | 大脇 羽黒神社 |
| 441 | 羽黒神社三三〇年記念 | 明倫 | 大脇 羽黒神社 |
| 442 | 忠霊の碑 銘文 | 明倫 | 大脇 羽黒神社 |
| 443 | 馬頭観世音 湯山愛治 | 明倫 | 大脇 羽黒神社前 |
| 444 | 句碑 (百景庵禾洋) | 明倫 | 大脇 十輪寺 |
| 445 | 供養塔 | 明倫 | 大脇 十輪寺 |
| 446 | 供養塔 | 明倫 | 大脇 十輪寺 |
| 447 | 供養塔 | 明倫 | 大脇 十輪寺 |
| 448 | 供養塔 | 明倫 | 大脇 十輪寺 |
| 449 | 供養塔 | 明倫 | 大脇 十輪寺 |
| 450 | 供養塔 | 明倫 | 大脇 十輪寺 |
| 451 | 石燈籠 | 明倫 | 大脇 十輪寺 |
| 452 | 萬霊塔 | 明倫 | 大脇 十輪寺 |
| 453 | 供養塔 (左右) | 明倫 | 大脇 十輪寺 |
| 454 | 渡辺喜三郎筆子塚 | 明倫 | 大脇 十輪寺 |
| 455 | 奉供養庚申塔 | 明倫 | 所領 所領バス停横 |
| 456 | 奉順禮西国横堂観世音菩薩供養塔 | 明倫 | 所領 所領バス停横 |
| 457 | 所願成就 | 明倫 | 所領 所領バス停横 |
| 458 | 双体道祖神 | 明倫 | 所領 所領バス停横 |
| 459 | 双体道祖神 | 明倫 | 所領 所領バス停横 |
| 460 | 馬頭観世音 | 明倫 | 所領 個人宅 |
| 461 | 馬頭観世音 | 明倫 | 所領 個人宅 |
| 462 | 馬頭観世音 | 明倫 | 所領 個人宅 |
| 463 | 伊東陽斎先生墓 (筆子塚) | 明倫 | 所領 所領バス停横墓地 |
| 464 | 十方法界塔 | 明倫 | 所領 領福寺 |
| 465 | 南無庚申本尊青面金剛大士這箇銘心 | 明倫 | 所領 領福寺 |
| 466 | 漢詩碑 (皇典講究所長江木千之) | 明倫 | 所領 白旗神社 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|-----------------|----|--------------|
| 467 | 漢詩碑 (徳富蘇峰) | 明倫 | 所領 白旗神社 |
| 468 | 左近衛中将二條為冬之墓 | 明倫 | 所領 白旗神社 |
| 469 | 文字碑 | 明倫 | 所領 白旗神社 |
| 470 | 石柱 | 明倫 | 所領 白旗神社 |
| 471 | 狛犬 左右 | 明倫 | 所領 白旗神社 |
| 472 | 狛犬 左右 | 明倫 | 所領 白旗神社 |
| 473 | 石燈籠 西国三十三所供養 | 明倫 | 所領 個人宅 |
| 474 | 石燈籠 | 明倫 | 所領 個人宅 |
| 475 | 手洗い水呑み | 明倫 | 所領 個人宅 |
| 476 | 馬頭観音 | 明倫 | 所領 個人宅 |
| 477 | 坂東西国秩父順礼供養 | 明倫 | 所領 個人宅 |
| 478 | 内容不明な石造物 | 明倫 | 所領 個人宅 |
| 479 | 庚申塔 | 明倫 | 所領 個人宅 |
| 480 | 内容不明な石造物 | 明倫 | 所領 個人宅 |
| 481 | 供養塔 | 明倫 | 所領 個人宅 |
| 482 | 道祖神 | 明倫 | 所領 個人宅 |
| 483 | 内容不明な石造物 | 明倫 | 所領 個人宅 |
| 484 | みちしるべ | 足柄 | 竹之下 向方入り口三叉路 |
| 485 | みちしるべ | 足柄 | 竹之下 神田町住手前 |
| 486 | 六地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 487 | 馬頭観世音 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺門前 |
| 488 | 馬頭観世音菩薩 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺門前 |
| 489 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺門前 |
| 490 | 秩父坂東供養塔 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺門前 |
| 491 | 回国供養塔 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺門前 |
| 492 | 奉順禮百番供養塔 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺門前 |
| 493 | 西国供養塔 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺門前 |
| 494 | 西国秩父坂東百番供養 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺門前 |
| 495 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺門前 |
| 496 | 馬頭観世音菩薩 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺門前 |
| 497 | 記念碑寄附者 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺門前 |
| 498 | 日露戦役記念碑 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 499 | 曹洞宗大雄山宝鏡寺竹之下地藏尊 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 500 | 門柱礎石 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 501 | 門柱礎石 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 502 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 503 | 忠魂碑 (二種) | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 504 | 御神燈 左右 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 505 | 奉納 (金百円) | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 506 | 奉納 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 507 | 菩薩像 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 508 | 木食観正碑 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 509 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|-------------------|----|-----------|
| 510 | 奉納 (手洗い水呑み) | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 511 | 山門敷石 (稻家先祖代々菩提) | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 512 | 石燈籠 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 513 | 本尊地藏菩薩御恵歌 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 514 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 515 | 銭洗弁財天の碑 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 516 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 517 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 518 | 石造物 (金剛木の銘) | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 519 | 石造物 (奉順禮坂東西国三十三所) | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 520 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 521 | 馬頭観世音 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 522 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 523 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 524 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 525 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 526 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 527 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 528 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 529 | 御神燈 左右 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 530 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 531 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 532 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 533 | 馬頭観世音 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 534 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 535 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 536 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 537 | 奉納西国供養 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 538 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 539 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 540 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 541 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 542 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 543 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 544 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 545 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 546 | 蕎麦切地藏大菩薩 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 547 | 万霊等 百番供養 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 548 | 鉄道工事死亡者追弔碑 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 549 | 石燈籠 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 550 | 手洗い水呑み | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 551 | 寄附鐘堂屋根替 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 552 | 手洗い水呑み | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|----------------------|----|---------------|
| 553 | 石燈籠 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 554 | 石燈籠 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 555 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 556 | 献燈 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 557 | 石燈籠 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 558 | 石燈籠 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 559 | 鈴木九郎右衛門筆子塚 | 足柄 | 竹之下 宝鏡寺境内 |
| 560 | 馬頭観世音太子 | 足柄 | 竹之下 馬喰坂登り口 |
| 561 | 馬頭観世音 | 足柄 | 竹之下 馬喰坂登り口 |
| 562 | 馬頭観音 | 足柄 | 竹之下 馬喰坂登り口 |
| 563 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 竹之下 馬喰坂登り口 |
| 564 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 馬喰坂登り口 |
| 565 | 馬頭観音 | 足柄 | 竹之下 馬喰坂登り口 |
| 566 | 奉供養百八十八番 | 足柄 | 竹之下 馬喰坂登り口 |
| 567 | 竹之下宿庚申塔 | 足柄 | 竹之下 馬喰坂登り口 |
| 568 | 奉供養西国秩父坂東観世音菩薩 | 足柄 | 竹之下 馬喰坂登り口 |
| 569 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 竹之下 馬喰坂登り口 |
| 570 | 馬頭観世音菩薩 | 足柄 | 竹之下 馬喰坂登り口 |
| 571 | 双体道祖神 | 足柄 | 竹之下 馬喰坂登り口 |
| 572 | 双体道祖神 | 足柄 | 竹之下 馬喰坂登り口 |
| 573 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 竹之下 嶽之下神社 |
| 574 | 馬頭観世音 | 足柄 | 竹之下 嶽之下神社 |
| 575 | 鳥居 嶽之下神社 | 足柄 | 竹之下 嶽之下神社 |
| 576 | 御神燈 左右 御寶前奉供養日天子所願成就 | 足柄 | 竹之下 嶽之下神社 |
| 577 | 旗立て (左右) | 足柄 | 竹之下 嶽之下神社 |
| 578 | 報徳訓 (二宮尊徳の像) | 足柄 | 竹之下 旧足柄幼稚園 |
| 579 | 旗立て | 足柄 | 竹之下 旧足柄幼稚園 |
| 580 | 校歌碑 | 足柄 | 竹之下 旧足柄幼稚園 |
| 581 | 道標 | 足柄 | 竹之下 個人宅 |
| 582 | 御神燈 左右 | 足柄 | 竹之下 嶽之下宮奥宮 |
| 583 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 竹之下 嶽之下宮奥宮 |
| 584 | 石燈籠 | 足柄 | 竹之下 嶽之下宮奥宮 |
| 585 | 南妙法蓮華経不動之滝入口 | 足柄 | 竹之下 不動の滝前 |
| 586 | 道標 | 足柄 | 竹之下 東静建設資材置場脇 |
| 587 | 道標 | 足柄 | 竹之下 個人宅 |
| 588 | 双体道祖神 | 足柄 | 竹之下 個人宅 |
| 589 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 竹之下 山ノ神 |
| 590 | 馬頭観世音 | 足柄 | 竹之下 個人宅 |
| 591 | 歌碑 | 足柄 | 竹之下 個人宅 |
| 592 | 南無弘法大師遍照金剛 | 足柄 | 竹之下 個人宅 |
| 593 | 鳥居 | 足柄 | 竹之下 個人宅 |
| 594 | 狛犬 左右 | 足柄 | 竹之下 個人宅 |
| 595 | 旗立て | 足柄 | 竹之下 個人宅 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|-------------------|----|-----------------|
| 596 | 三島 馬頭観世音 | 足柄 | 竹之下 個人宅 |
| 597 | 竹之下道歌碑 | 足柄 | 竹之下 JR足柄駅 |
| 598 | 海拔石碑 | 足柄 | 竹之下 JR足柄駅 |
| 599 | 開駅三十周年記念 | 足柄 | 竹之下 JR足柄駅 |
| 600 | 双体道祖神 | 足柄 | 竹之下 常唱院 |
| 601 | 馬頭観世音菩薩 | 足柄 | 竹之下 常唱院 |
| 602 | 馬頭観世音菩薩 | 足柄 | 竹之下 常唱院 |
| 603 | 馬頭観世音菩薩 | 足柄 | 竹之下 常唱院 |
| 604 | 南無妙法蓮華経日蓮大士御 | 足柄 | 竹之下 常唱院 |
| 605 | 歌碑 | 足柄 | 竹之下 常唱院 |
| 606 | 南無妙法蓮華経 唱名一千部 | 足柄 | 竹之下 常唱院 |
| 607 | 旗立て | 足柄 | 竹之下 常唱院 |
| 608 | 称法華地蔵 | 足柄 | 竹之下 常唱院 |
| 609 | 南無妙法蓮華経万霊塔 | 足柄 | 竹之下 常唱院 |
| 610 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 竹之下 常唱院 |
| 611 | 旗立て | 足柄 | 竹之下 常唱院 |
| 612 | 馬頭観世音菩薩 | 足柄 | 竹之下 東名竹之下橋地先 |
| 613 | 地蔵 | 足柄 | 竹之下 東名竹之下橋地先 |
| 614 | 記念碑 (農道水路完成) | 足柄 | 竹之下 東名竹之下橋地先 |
| 615 | 御玉霊神 | 足柄 | 竹之下 思橋地先 |
| 616 | 馬頭観音 | 足柄 | 竹之下 思橋地先 |
| 617 | 道祖神 | 足柄 | 竹之下 県道脇(旧宿区公民館) |
| 618 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 竹之下 県道脇(旧宿区公民館) |
| 619 | 馬頭観世音 | 足柄 | 竹之下 県道脇(旧宿区公民館) |
| 620 | 西国四国順拝供養塔(秩父坂東札所) | 足柄 | 竹之下 県道脇(旧宿区公民館) |
| 621 | 双体道祖神 | 足柄 | 竹之下 県道脇(旧宿区公民館) |
| 622 | 馬頭観世音菩薩 | 足柄 | 竹之下 県道脇(旧宿区公民館) |
| 623 | 馬頭観世音菩薩 | 足柄 | 竹之下 県道脇(旧宿区公民館) |
| 624 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 竹之下 県道脇(旧宿区公民館) |
| 625 | 馬頭観世音菩薩 | 足柄 | 竹之下 県道脇(旧宿区公民館) |
| 626 | 馬頭観音大士 | 足柄 | 竹之下 県道脇(旧宿区公民館) |
| 627 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 竹之下 県道脇(旧宿区公民館) |
| 628 | 旗立て 左右 | 足柄 | 竹之下 県道脇(旧宿区公民館) |
| 629 | 旗立て 左右 | 足柄 | 竹之下 県道脇(旧宿区公民館) |
| 630 | 常夜燈 | 足柄 | 竹之下 県道脇(旧宿区公民館) |
| 631 | 馬頭観世音 | 足柄 | 竹之下 県道脇(旧宿区公民館) |
| 632 | 供養塔(湯山権左衛門) | 足柄 | 竹之下 県道脇(旧宿区公民館) |
| 633 | 葛城先祖先々霊位 | 足柄 | 竹之下 防災倉庫 |
| 634 | 薬師石 | 足柄 | 竹之下 長徳寺跡 |
| 635 | 千手観世音菩薩 | 足柄 | 竹之下 長徳寺跡 |
| 636 | 庚申供養塔 | 足柄 | 竹之下 長徳寺跡 |
| 637 | 馬頭観音 | 足柄 | 竹之下 長徳寺跡 |
| 638 | 馬頭観世音菩薩 | 足柄 | 竹之下 長徳寺跡 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|------------------------------|------------|---------------------------|
| 639 | 馬頭観音 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 長徳寺跡 |
| 640 | 家畜供養塔 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 鈴木牧場 |
| 641 | 馬頭観世音 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 個人宅 |
| 642 | 馬頭観音 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 個人宅 |
| 643 | 常夜燈 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 竹の下バス停付近 |
| 644 | 水道記念碑 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 足柄コミュニティセンター |
| 645 | 建碑篤志寄付者御芳名 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 嶽之下宮 |
| 646 | 竹之下古戦場跡碑 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 嶽之下宮 |
| 647 | 玉垣寄付者御芳名 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 嶽之下宮 |
| 648 | 馬頭観世音 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 個人宅 |
| 649 | 題目碑 (南無妙法蓮華経) | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 栗之木沢 |
| 650 | 題目碑 (南無妙法蓮華経) | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 栗之木沢 |
| 651 | 奉納西国三十三所観世音菩薩順禮供養塔 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 有闘坂脇 |
| 652 | 奉供養南無観世音菩薩 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 有闘坂脇 |
| 653 | 馬頭観音 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 有闘坂脇 |
| 654 | 道祖神 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺門前 |
| 655 | 曹洞宗巨嶽山興雲寺 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺門前 |
| 656 | 内容不明な石造物 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺門前 |
| 657 | (湯山権左衛門筆子塚) 梵海潮音居士 俗名権左衛門字忠俊 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺門前 |
| 658 | 南無阿弥陀仏 南無観世音菩薩 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺門前 |
| 659 | 西国供養塔 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺門前 |
| 660 | 當寺本尊子安観世音菩薩 西国秩父坂東観世音菩薩 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺門前 |
| 661 | 馬頭観世音菩薩 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺門前 |
| 662 | 内容不明な石造物 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺門前 |
| 663 | 地藏 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺門前 |
| 664 | 山門 (不許葷酒入山門) | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺門前 |
| 665 | 萬霊等 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺門前 |
| 666 | 馬頭観世音 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺門前 |
| 667 | 南無妙経一字一石塔 成田山不動明王 佐倉宗吾尊霊 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺門前 |
| 668 | 内容不明な石造物 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺門前 |
| 669 | 観世音菩薩 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺門前 |
| 670 | 筆子塚 (當山22世大岳見州和尚碑) | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺門前 |
| 671 | 手洗い水呑み | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺境内 |
| 672 | 石燈籠 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺境内 |
| 673 | 石燈籠 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺境内 |
| 674 | 石燈籠 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺境内 |
| 675 | 石燈籠 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺境内 |
| 676 | 地藏 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺境内 |
| 677 | 石燈籠 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺境内 |
| 678 | 石燈籠 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺境内 |
| 679 | 内容不明な石造物 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 興雲寺境内 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|-------------------------------|----|----------------|
| 680 | 興雲寺碑 (寺歴) | 足柄 | 竹之下 興雲寺境内 |
| 681 | 地藏 | 足柄 | 竹之下 興雲寺境内 |
| 682 | 一雲斎一茎筆子塚 | 足柄 | 竹之下 興雲寺境内 |
| 683 | 當山二十五世大嶽大俊頌徳之碑 (筆子中) | 足柄 | 竹之下 興雲寺脇 |
| 684 | 石段寄進の銘 | 足柄 | 竹之下 興雲寺脇 |
| 685 | 竹之下合戦戦死病没者 殉難横死者諸精霊位 | 足柄 | 竹之下 興雲寺脇 |
| 686 | 為竹之下合戦戦死病没殉難横死者六百五十回忌遠忌追善供養菩提 | 足柄 | 竹之下 興雲寺脇 |
| 687 | 新田次郎文学碑 | 足柄 | 竹之下 誓いの丘 |
| 688 | 足柄村造林記念 | 足柄 | 足柄城跡 五の曲輪脇 |
| 689 | 一切経寶塔 | 足柄 | 足柄城跡 足柄城跡一の曲輪脇 |
| 690 | 浅間大神 登山三十三度 | 足柄 | 足柄城跡 一の曲輪脇 |
| 691 | 唯念名号碑 | 足柄 | 足柄城跡 足柄城跡一の曲輪 |
| 692 | 古見豆人句碑 | 足柄 | 足柄城跡 足柄城跡一の曲輪脇 |
| 693 | 浅間大神 四十八度 | 足柄 | 足柄城跡 一の曲輪脇 |
| 694 | 芭蕉句碑 | 足柄 | 足柄城跡 テラニワ付近 |
| 695 | 六地藏 | 足柄 | 足柄城跡 テラニワ付近 |
| 696 | 地藏 | 足柄 | 足柄城跡 五の曲輪下 |
| 697 | 地藏 (三界萬霊) | 足柄 | 足柄城跡 五の曲輪下 |
| 698 | 地藏 | 足柄 | 足柄城跡 五の曲輪下 |
| 699 | 地藏 (三界萬霊) | 足柄 | 足柄城跡 五の曲輪下 |
| 700 | 地藏 (三界萬霊) | 足柄 | 足柄城跡 五の曲輪下 |
| 701 | 地藏 (松屋道寒 為二親菩提) | 足柄 | 足柄城跡 五の曲輪下 |
| 702 | 地藏 (三界萬霊) | 足柄 | 足柄城跡 五の曲輪下 |
| 703 | 地藏 | 足柄 | 足柄城跡 五の曲輪下 |
| 704 | 馬頭観世音菩薩 | 足柄 | 足柄城跡 一の曲輪脇 |
| 705 | 新羅三郎義光吹笙之石 (笛吹石) | 足柄 | 足柄城跡 一の曲輪脇 |
| 706 | 新羅三郎義光吹笙之石標柱 | 足柄 | 足柄城跡 一の曲輪脇 |
| 707 | 植林功労者顕彰碑 | 足柄 | 足柄城跡 一の曲輪脇 |
| 708 | 生田蝶介歌碑 | 足柄 | 足柄城跡 足柄城跡一の曲輪 |
| 709 | 足柄公園石製標示 | 足柄 | 足柄城跡 二の曲輪 |
| 710 | 地藏 | 足柄 | 足柄峠 六地藏 |
| 711 | 地藏 | 足柄 | 足柄峠 六地藏 |
| 712 | 地藏 | 足柄 | 足柄峠 六地藏 |
| 713 | 地藏 | 足柄 | 足柄峠 六地藏 |
| 714 | 地藏 | 足柄 | 足柄峠 六地藏 |
| 715 | 地藏 | 足柄 | 足柄峠 六地藏 |
| 716 | 多数の地藏片を合わせたもの | 足柄 | 足柄峠 六地藏 |
| 717 | 聖天堂参詣大願成就五十四回記念 (碑) | 足柄 | 足柄峠 聖天堂 |
| 718 | 旗立て (富士紡績) | 足柄 | 足柄峠 聖天堂 |
| 719 | 道祖神 | 足柄 | 足柄峠 聖天堂 |
| 720 | 奉納 | 足柄 | 足柄峠 聖天堂 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|---|------------|----------------------------|
| 721 | 金太郎像 きんたろうぞう | 足柄 あしがら | 足柄峠 聖天堂 あしがらとうげ しょうてんどう |
| 722 | 石の垣 | 足柄 あしがら | 足柄峠 聖天堂 あしがらとうげ しょうてんどう |
| 723 | 本社震災復興寄付碑 しんさいふっこうきふひ | 足柄 あしがら | 足柄峠 聖天堂 あしがらとうげ しょうてんどう |
| 724 | 足柄山聖天堂碑 あしがら しょうてんどう ひ | 足柄 あしがら | 足柄峠 聖天堂 あしがらとうげ しょうてんどう |
| 725 | 御神燈 ごしんとう | 足柄 あしがら | 足柄峠 聖天堂 あしがらとうげ しょうてんどう |
| 726 | 手洗い水呑み てあら みずの | 足柄 あしがら | 足柄峠 聖天堂 あしがらとうげ しょうてんどう |
| 727 | 鳥居 とりい | 足柄 あしがら | 足柄峠 聖天堂 あしがらとうげ しょうてんどう |
| 728 | 献燈 けんとう | 足柄 あしがら | 足柄峠 聖天堂 あしがらとうげ しょうてんどう |
| 729 | 旗立て 納工場倉庫有志 はた た | 足柄 あしがら | 足柄峠 聖天堂 あしがらとうげ しょうてんどう |
| 730 | 足柄山聖天堂電気電話開通記念碑 あしがらやましやうてんどう | 足柄 あしがら | 足柄峠 聖天堂 あしがらとうげ しょうてんどう |
| 731 | 奉献 (鳥居の寄付者名書上) ほうけん | 足柄 あしがら | 足柄峠 聖天堂 あしがらとうげ しょうてんどう |
| 732 | 足柄山聖天堂復興記念碑 あしがらやましやうてんどうふっこうきねん ひ | 足柄 あしがら | 足柄峠 聖天堂 あしがらとうげ しょうてんどう |
| 733 | 奉納鳥居一基 ほうのう とりい いくき | 足柄 あしがら | 足柄峠 聖天堂 あしがらとうげ しょうてんどう |
| 734 | 旗立て はた た | 足柄 あしがら | 足柄峠 聖天堂 あしがらとうげ しょうてんどう |
| 735 | 聖天堂改修寄付者御芳名碑 しょうてんどうかいしゅうきふしやごほうめい ひ | 足柄 あしがら | 足柄峠 聖天堂 あしがらとうげ しょうてんどう |
| 736 | 馬頭観世音 ばとうかんぜおん | 足柄 あしがら | 上ノ原 やま かの うへのはら |
| 737 | 内容不明な石造物 | 足柄 あしがら | 上ノ原 やま かの うへのはら |
| 738 | 奉順礼坂東供養塔 じゆんれいばんどうくようとう | 足柄 あしがら | 上ノ原 やま かの うへのはら |
| 739 | 内容不明な石造物 | 足柄 あしがら | 上ノ原 やま かの うへのはら |
| 740 | 南無口足山迦葉尊者塔 なんむくちあそん | 足柄 あしがら | 上ノ原 やま かの うへのはら |
| 741 | 有縁無縁 三界萬霊等 うゑんむゑん さんがいばんれいとう | 足柄 あしがら | 上ノ原 やま かの うへのはら |
| 742 | 口為菩提智空上坐 | 足柄 あしがら | 上ノ原 やま かの うへのはら |
| 743 | 馬頭観世音 ばとうかんぜおん | 足柄 あしがら | 栗の木沢 赤坂 くり きさわ |
| 744 | 文字碑 (伊勢宇橋) もじひ | 足柄 あしがら | 栗の木沢 県道脇 くり きさわ |
| 745 | 大名号由来碑文 だいみょうごうゆらいひぶん | 足柄 あしがら | 栗の木沢 県道脇 くり きさわ |
| 746 | 唯念名号碑 ゆいねんみょうごうひ | 足柄 あしがら | 栗の木沢 県道脇 くり きさわ |
| 747 | 献華 左右 けんげ ざう | 足柄 あしがら | 栗の木沢 県道脇 くり きさわ |
| 748 | 復興記念 (銘文) ふっこうきねん | 足柄 あしがら | 栗の木沢 県道脇 くり きさわ |
| 749 | 白髭神社跡 しらひげじんじやあと | 足柄 あしがら | 新柴 個人宅 あらしば |
| 750 | 手洗い水呑み てあら みずの | 足柄 あしがら | 新柴 個人宅 あらしば |
| 751 | 和泉式部誕生地 いずみしきぶたんじょうち | 足柄 あしがら | 新柴 個人宅 あらしば |
| 752 | 双体道祖神 そうたいどうそじん | 足柄 あしがら | 新柴 線路高架橋下 あらしば |
| 753 | 馬頭観音 ばとうかんのん | 足柄 あしがら | 新柴 線路高架橋下 あらしば |
| 754 | 馬頭観音 ばとうかんのん | 足柄 あしがら | 新柴 線路高架橋下 あらしば |
| 755 | 地藏 じぞう | 足柄 あしがら | 新柴 線路高架橋下 あらしば |
| 756 | 神武天皇今上皇帝 じんむてんのうきんじょうこうてい | 足柄 あしがら | 新柴 線路高架橋下 あらしば |
| 757 | 南無妙法蓮華經一千部供養塔 なんむみょうほうれんげきょういつせんぶくようとう | 足柄 あしがら | 新柴 線路高架橋下 あらしば |
| 758 | 旗台 奉納九十歳記念 はたたい ほうな かくじゅうさいきねん | 足柄 あしがら | 新柴 足柄神社 あらしば あしがらじんじや |
| 759 | 旗台 奉納足柄神社 はたたい ほうな あしがらじんじや | 足柄 あしがら | 新柴 足柄神社 あらしば あしがらじんじや |
| 760 | 石段寄附芳名書上 いしだんきふくほうめいしやう | 足柄 あしがら | 新柴 足柄神社 あらしば あしがらじんじや |
| 761 | 鳥居 とりい | 足柄 あしがら | 新柴 足柄神社 あらしば あしがらじんじや |

| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|-------------------------|----|----------|
| 762 | 奉納御寶前 (御神燈) | 足柄 | 新柴 足柄神社 |
| 763 | 神燈 | 足柄 | 新柴 足柄神社 |
| 764 | 手洗い水呑み | 足柄 | 新柴 足柄神社 |
| 765 | 馬頭観世音 | 足柄 | 新柴 個人宅 |
| 766 | 秋葉山大権現 御嶽大権現 大山 | 足柄 | 新柴 個人宅 |
| 767 | 双体道祖神 | 足柄 | 新柴 個人宅 |
| 768 | 馬頭観世音 | 足柄 | 新柴 個人宅 |
| 769 | 馬頭観世音 | 足柄 | 新柴 個人宅 |
| 770 | 最上妙典一字一石廟塔 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 771 | 門柱 左右 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 772 | 歌碑 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 773 | 震災石段鎖復興記念 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 774 | 鬼鹿毛馬頭観世音 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 775 | 門柱 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 776 | 常夜燈 左右 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 777 | 水盤 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 778 | 西国供養塔 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 779 | 水盤 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 780 | 御神燈 左右 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 781 | 水盤 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 782 | 水盤 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 783 | 軍馬岩及之墓 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 784 | 奉供養秩父坂東観世音菩薩 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 785 | 佛閣 (神社) 供養塔 (馬頭観音) | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 786 | 観音 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 787 | 馬頭観音 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 788 | 地蔵 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 789 | 地蔵 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 790 | 鬼鹿毛馬頭観世音 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 791 | 馬頭観音 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 792 | 南無山王大権現 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 793 | 馬頭観世音 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 794 | 永代祠堂金 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 795 | 愛犬コロ之墓 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 796 | 馬頭観世音 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 797 | 愛犬エルザの墓 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 798 | 馬頭観世音菩薩 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 799 | 旗台 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 800 | 西国秩父坂東百観音順拝 (納経・供養) 満願塔 | 足柄 | 新柴 円通寺境内 |
| 801 | 墓碑 (洞宗悟山大和尚禅師) | 足柄 | 桑木 桑木公民館 |
| 802 | 地蔵 | 足柄 | 桑木 桑木公民館 |
| 803 | 地蔵 | 足柄 | 桑木 桑木公民館 |
| 804 | 馬頭観音 | 足柄 | 桑木 桑木公民館 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|----------------|----|-------------|
| 805 | 地蔵 | 足柄 | 桑木 桑木公民館 |
| 806 | 聖観音 | 足柄 | 桑木 桑木公民館 |
| 807 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 桑木 桑木公民館 |
| 808 | 奉順禮西国四国秩父坂東供養塔 | 足柄 | 桑木 桑木公民館 |
| 809 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 桑木 桑木公民館 |
| 810 | 庚申塔 | 足柄 | 桑木 桑木公民館 |
| 811 | 奉造建日記待供養塔 | 足柄 | 桑木 桑木公民館 |
| 812 | 御神燈 | 足柄 | 桑木 桑木神社石段 |
| 813 | 旗台 左右 | 足柄 | 桑木 桑木神社 |
| 814 | 御神燈 左右 | 足柄 | 桑木 桑木神社 |
| 815 | 水盤 | 足柄 | 桑木 桑木神社 |
| 816 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 桑木 桑木神社 |
| 817 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 桑木 桑木神社 |
| 818 | 馬頭観音 | 足柄 | 桑木 個人宅 |
| 819 | 奉修庚申供養塔 目耳口 | 足柄 | 桑木 個人宅 |
| 820 | 馬頭観世音菩薩 | 足柄 | 桑木 個人宅 |
| 821 | 双体道祖神 | 足柄 | 桑木 山久荘前 |
| 822 | 道祖神 | 足柄 | 桑木 山久荘前 |
| 823 | 毘沙門天王 | 足柄 | 桑木 山久荘前 |
| 824 | 鬼鹿毛馬頭尊 | 足柄 | 桑木 個人宅 |
| 825 | 石祠 | 足柄 | 桑木 桑木公民館の坂上 |
| 826 | 双体道祖神 | 足柄 | 桑木 田の中 |
| 827 | 秋葉山 村中 | 足柄 | 桑木 田の中 |
| 828 | 鬼鹿毛馬頭観世音 | 足柄 | 桑木 個人宅 |
| 829 | 如意輪観音 | 足柄 | 桑木 個人宅 |
| 830 | 石祠 | 足柄 | 桑木 小見山酒店横 |
| 831 | 馬頭観世音 | 足柄 | 桑木 個人宅 |
| 832 | 内容不明な石造物 | 足柄 | 桑木 個人宅 |
| 833 | 馬頭観世音 | 足柄 | 桑木 個人宅 |
| 834 | 鬼鹿毛馬頭尊 | 足柄 | 桑木 個人宅 |
| 835 | 唯念名号碑 | 北郷 | 用沢 坂本 |
| 836 | 唯念手引き観音 | 北郷 | 用沢 坂本 |
| 837 | 馬頭観音 | 北郷 | 用沢 坂本 |
| 838 | 道祖神 | 北郷 | 用沢 坂本 |
| 839 | 庚申塔 | 北郷 | 用沢 坂本 |
| 840 | 歌碑 (老松) | 北郷 | 用沢 北郷郵便局前 |
| 841 | 小野彦十郎筆子塚 | 北郷 | 用沢 中用沢 |
| 842 | 唯念手引き観音群 | 北郷 | 上野 唯念寺 |
| 843 | 唯念手引き観音 | 北郷 | 上野 上野東 |
| 844 | 唯念手引き観音 | 北郷 | 上野 下大槻 |
| 845 | 唯念手引き観音 | 北郷 | 上野 三叉路 |
| 846 | 唯念関係名号碑・石仏群 | 北郷 | 上野 奥の沢唯念開山堂 |
| 847 | 西国供養塔 | 北郷 | 上野 薬師堂 |

| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|--|------------|------------------------------|
| 848 | 奉巡禮西国供養塔 じゆんれいさいごくくようとう | 北郷 きたごう | 上野 薬師堂 うえの やくしどう |
| 849 | 滝沢本性老師碑 | 北郷 きたごう | 上野 公民館横 うえの 公民館横 |
| 850 | 勝又久三郎筆子塚 ふでこづか | 北郷 きたごう | 上野 個人宅 うえの 個人宅 |
| 851 | 双体道祖神 そうたいどうそじん | 北郷 きたごう | 一色 下一色地藏堂 いしき しもいしきじぞうどう |
| 852 | 庚申塔 (青面金剛) こうしんとう (しょうめんこんごう) | 北郷 きたごう | 一色 下一色地藏堂 いしき しもいしきじぞうどう |
| 853 | 庚申塔 こうしんとう | 北郷 きたごう | 一色 下一色地藏堂 いしき しもいしきじぞうどう |
| 854 | 奉造立庚申供養 ぞうりゅうこうしんくよう | 北郷 きたごう | 一色 下一色地藏堂 いしき しもいしきじぞうどう |
| 855 | 宝寿の部分 | 北郷 きたごう | 一色 下一色地藏堂 いしき しもいしきじぞうどう |
| 856 | 馬頭観世音 ばとうかんぜおん | 北郷 きたごう | 一色 下一色地藏堂 いしき しもいしきじぞうどう |
| 857 | 奉納大乘妙典六十六部廻国供養塔 ほうのうだいじょうみょうでんろくじゅうろくぶかいごくくようとう | 北郷 きたごう | 一色 下一色地藏堂 いしき しもいしきじぞうどう |
| 858 | 秩父坂東供養 ちちぶばんどうくよう | 北郷 きたごう | 一色 下一色地藏堂 いしき しもいしきじぞうどう |
| 859 | 即應真道者位 | 北郷 きたごう | 一色 下一色地藏堂 いしき しもいしきじぞうどう |
| 860 | 中興心譽善休大徳 | 北郷 きたごう | 一色 下一色地藏堂 いしき しもいしきじぞうどう |
| 861 | 見蓮社面誉上人閑秀大和尚位 | 北郷 きたごう | 一色 下一色地藏堂 いしき しもいしきじぞうどう |
| 862 | 庚申供養塔 こうしんくようとう | 北郷 きたごう | 一色 下一色地藏堂 いしき しもいしきじぞうどう |
| 863 | 南無妙法蓮華経 なむみょうほうれんげきょう | 北郷 きたごう | 一色 下一色地藏堂 いしき しもいしきじぞうどう |
| 864 | 弘法大師座像 こうぼうだいしざぞう | 北郷 きたごう | 一色 下一色地藏堂 いしき しもいしきじぞうどう |
| 865 | 地藏 じぞう | 北郷 きたごう | 一色 下一色地藏堂 いしき しもいしきじぞうどう |
| 866 | 願譽口圓信士 | 北郷 きたごう | 一色 下一色地藏堂裏 いしき しもいしきじぞうどう |
| 867 | 馬頭観音 ばとうかんのん | 北郷 きたごう | 一色 湯山クリンク店裏 いしき ゆやま |
| 868 | 梵字碑 ぼんじひ | 北郷 きたごう | 一色 向西寺 いしき こうさいじ |
| 869 | 手水石 ちょうずいし | 北郷 きたごう | 一色 向西寺 いしき こうさいじ |
| 870 | 唯念名号碑 ゆいねんみょうごうひ | 北郷 きたごう | 一色 向西寺 いしき こうさいじ |
| 871 | 一石六地藏 いっせきろくじぞう | 北郷 きたごう | 一色 向西寺 いしき こうさいじ |
| 872 | 地藏 じぞう | 北郷 きたごう | 一色 向西寺 いしき こうさいじ |
| 873 | 開山忌碑 かいざんきひ | 北郷 きたごう | 一色 向西寺 いしき こうさいじ |
| 874 | 墓碑 ぼひ | 北郷 きたごう | 一色 向西寺 いしき こうさいじ |
| 875 | 横道順禮供養塔 よこみちじゆんれいくようとう | 北郷 きたごう | 一色 向西寺 いしき こうさいじ |
| 876 | 墓碑 (十譽西念大徳位) ぼひ (じゅうげさいねんだいとく) | 北郷 きたごう | 一色 向西寺 いしき こうさいじ |
| 877 | 四十八夜廻向佛 しじゅうはちやえこうぶつ | 北郷 きたごう | 一色 向西寺 いしき こうさいじ |
| 878 | 西国百番秩父坂東供養塔 さいごくひゃくばんちちぶばんどうくようとう | 北郷 きたごう | 一色 向西寺 いしき こうさいじ |
| 879 | 當寺開山中口蓮社心譽道春和尚 | 北郷 きたごう | 一色 向西寺 いしき こうさいじ |
| 880 | 馬頭観世音 ばとうかんぜおん | 北郷 きたごう | 一色 個人宅 いしき 個人宅 |
| 881 | 馬頭観世音 ばとうかんぜおん | 北郷 きたごう | 一色 個人宅 いしき 個人宅 |
| 882 | 馬頭観世音菩薩 ばとうかんぜおんぼさつ | 北郷 きたごう | 一色 個人宅 いしき 個人宅 |
| 883 | 筆子塚 (唯心院得澄日悟口) ふでこづか | 北郷 きたごう | 一色 個人宅 いしき 個人宅 |
| 884 | 幟立石 左右 のぼり | 北郷 きたごう | 一色 一色神社 いしき いしきじんじや |
| 885 | 手水石 ちょうずいし | 北郷 きたごう | 一色 一色神社 いしき いしきじんじや |
| 886 | 幟立石 左右 のぼり | 北郷 きたごう | 一色 一色神社 いしき いしきじんじや |
| 887 | 記念碑 (金婚式記念) きねんひ | 北郷 きたごう | 一色 一色神社 いしき いしきじんじや |
| 888 | 寄付人名碑 きふじんめいひ | 北郷 きたごう | 一色 一色神社 いしき いしきじんじや |
| 889 | 狛犬 左右 こまいぬ | 北郷 きたごう | 一色 一色神社 いしき いしきじんじや |
| 890 | 歌碑 (一世八東庵米年) かひ やつかあんべいねん | 北郷 きたごう | 一色 一色神社 いしき いしきじんじや |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|-------------------------|----|--------------|
| 891 | 御神燈 左右 | 北郷 | 一色 一色神社 |
| 892 | 内容不明な石造物 | 北郷 | 一色 一色神社 |
| 893 | 敬神碑 (敬神崇祖) | 北郷 | 一色 一色神社 |
| 894 | 顕彰碑 (昭忠 陸軍歩兵込山弘碑) | 北郷 | 一色 一色神社 |
| 895 | 双体道祖神 | 北郷 | 一色 JA北郷スタンド裏 |
| 896 | 道祖神 | 北郷 | 一色 個人宅横1 |
| 897 | 奉造立庚申供養 | 北郷 | 一色 個人宅横2 |
| 898 | 念佛講中 | 北郷 | 一色 個人宅横3 |
| 899 | 奉納御神燈 | 北郷 | 一色 個人宅横4 |
| 900 | 常夜燈 | 北郷 | 一色 一色公民館脇 |
| 901 | 猿田彦 | 北郷 | 一色 一色公民館脇 |
| 902 | 大悲観世音菩薩 | 北郷 | 一色 一色公民館脇 |
| 903 | 双体道祖神 | 北郷 | 一色 一色公民館脇 |
| 904 | 三界萬霊十方至・等・聖 | 北郷 | 一色 一色公民館脇 |
| 905 | 観音 (首なし) | 北郷 | 一色 一色公民館脇 |
| 906 | 馬頭観世音 | 北郷 | 一色 一色公民館脇 |
| 907 | 如意輪観音 (廻国納経関東十八箇国) | 北郷 | 一色 一色公民館脇 |
| 908 | 馬頭観音 | 北郷 | 一色 一色公民館脇 |
| 909 | 聖観音 (首なし) | 北郷 | 一色 一色公民館脇 |
| 910 | 内容不明な石造物 | 北郷 | 一色 一色公民館脇 |
| 911 | 顕彰碑 (戦没者芳名) | 北郷 | 一色 一色公民館前 |
| 912 | 顕彰碑 (忠魂碑) | 北郷 | 一色 一色公民館前 |
| 913 | 顕彰碑 (勝俣籐右衛門と区有米の由来) | 北郷 | 一色 一色公民館前 |
| 914 | 御神燈 左右 | 北郷 | 一色 一色公民館前 |
| 915 | 三界萬霊塔 | 北郷 | 一色 個人宅 |
| 916 | 三界萬霊等 | 北郷 | 一色 個人宅 |
| 917 | 三界萬霊塔 | 北郷 | 一色 個人宅 |
| 918 | 馬頭観世音 | 北郷 | 一色 個人宅 |
| 919 | 馬頭観音 | 北郷 | 一色 個人宅 |
| 920 | 顕彰碑 (忠烈 陸軍歩兵原長吉) | 北郷 | 一色 個人宅 |
| 921 | 馬頭観音 | 北郷 | 一色 個人宅 |
| 922 | 廻国塔 (奉納大乘妙典日本回国) | 北郷 | 一色 個人宅 |
| 923 | 筆子塚 (為林弥太郎義行) | 北郷 | 一色 個人宅 |
| 924 | 馬頭観世音 | 北郷 | 一色 個人宅 |
| 925 | 馬頭観音 | 北郷 | 一色 個人宅 |
| 926 | 廻国塔 (立像 西国回国秩父坂東 奉納供養塔) | 北郷 | 一色 個人宅 |
| 927 | 双体道祖神 | 北郷 | 一色 只水路傍 |
| 928 | 御神燈 | 北郷 | 一色 只水路傍 |
| 929 | 庚申塔 | 北郷 | 一色 只水路傍 |
| 930 | 唯念手引き観音 | 北郷 | 一色 只水路傍 |
| 931 | 大悲塔 | 北郷 | 一色 只水路傍 |
| 932 | 題目塔 (南無妙法蓮華経供養) | 北郷 | 一色 只水路傍 |
| 933 | 馬頭観音 | 北郷 | 一色 個人宅 |

| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|-----|---|------------|------------------------------------|
| 934 | 観音像 かんのんぞう | 北郷 きたごう | 一色 個人宅 いしき 個人宅 |
| 935 | 廻国塔 (奉納大乘妙典廻国供養) かいこくとう ほうのうだいじょうみょうてんかいこくきよう | 北郷 きたごう | 一色 個人宅 いしき 個人宅 |
| 936 | 墓碑 (慈清) ぼひ | 北郷 きたごう | 一色 個人宅 いしき 個人宅 |
| 937 | 墓碑 (還行善覚信士) ぼひ | 北郷 きたごう | 一色 個人宅 いしき 個人宅 |
| 938 | 馬頭観世音 ばとうかんせおん | 北郷 きたごう | 一色 個人宅 いしき 個人宅 |
| 939 | 横道順禮供養塔 よこみちじゆんれいくようとう | 北郷 きたごう | 一色 個人宅 いしき 個人宅 |
| 940 | 横道順禮供養塔 よこみちじゆんれいくようとう | 北郷 きたごう | 一色 個人宅 いしき 個人宅 |
| 941 | 庚申塔 こうしんとう | 北郷 きたごう | 一色 正倉バス停脇 いしき 正倉バス停脇 |
| 942 | 奉造立横道供養塔 ぞうりゅうよこみちきようとう | 北郷 きたごう | 一色 正倉バス停脇 いしき 正倉バス停脇 |
| 943 | 猿田彦 さるたひこ | 北郷 きたごう | 一色 個人宅 いしき 個人宅 |
| 944 | 庚申塔 (奉造建庚申供養碑) こうしんとう ぞうりゅうけんこうしんきようひ | 北郷 きたごう | 一色 個人宅 いしき 個人宅 |
| 945 | 馬頭観音 ばとうかんのん | 北郷 きたごう | 一色 個人宅 いしき 個人宅 |
| 946 | 猿田彦 さるたひこ | 北郷 きたごう | 一色 個人宅 いしき 個人宅 |
| 947 | 馬頭観世音 ばとうかんせおん | 北郷 きたごう | 一色 個人宅 いしき 個人宅 |
| 948 | 記念碑 (奉納一色神社) きねんひ ほうのういしきじんじや | 北郷 きたごう | 一色 一色神社 (西の宮) いしき いしきじんじや (西の宮) |
| 949 | 手水石 ちょうずいし | 北郷 きたごう | 一色 一色神社 (西の宮) いしき いしきじんじや (西の宮) |
| 950 | 御神燈 一对 ごしんとう | 北郷 きたごう | 一色 一色神社 (西の宮) いしき いしきじんじや (西の宮) |
| 951 | 狛犬 一对 こまいぬ | 北郷 きたごう | 一色 一色神社 (西の宮) いしき いしきじんじや (西の宮) |
| 952 | 記念碑 (神饌幣帛料供進神社 村社 一色神社) きねんひ しんせんへいはくりようきようしんじんじや 村社 いしきじんじや | 北郷 きたごう | 一色 一色神社 (西の宮) いしき いしきじんじや (西の宮) |
| 953 | 原喜作筆子塚 ふでこづか | 北郷 きたごう | 一色 個人宅 いしき 個人宅 |
| 954 | 奉造立横道供養 ぞうりゅうよこみちきよう | 北郷 きたごう | 一色 個人宅 いしき 個人宅 |
| 955 | 秩父坂東順禮供養 ちちぶばんどうじゆんれいくよう | 北郷 きたごう | 阿多野 題目堂 あだの だいもくどう |
| 956 | 秩父坂東巡拝供養塔 ちちぶばんどうじゆんばいくようとう | 北郷 きたごう | 棚頭 個人宅 たながしら 個人宅 |
| 957 | 奉順禮横道供養塔 じゆんれいよこみちきようとう | 北郷 きたごう | 下古城 子神社 しもふるしろの ねのじんじや |
| 958 | 奉供養横堂三拾二所 くよう さんじゅうさんじよ | 北郷 きたごう | 中日向 大蔵寺 なかひなた だいぞうじ |
| 959 | 奉順禮秩父坂東観音供養塔 じゆんれいちちぶばんどうかんのんきようとう | 北郷 きたごう | 中日向 大蔵寺 なかひなた だいぞうじ |
| 960 | 石燈籠 (西国三十三ヶ所霊場巡拝及び年金給付記念) いしどうろう さいごくさんじゅうさんかしまれいじょうじゆんばい | 北郷 きたごう | 中日向 大蔵寺 なかひなた だいぞうじ |
| 961 | 西国霊場 四国霊場 大日本神社仏閣巡拝 さいごくれいじょう しこくれいじょう じんじやぶつかくじゆんばい | 北郷 きたごう | 中日向 個人宅 なかひなた 個人宅 |
| 962 | 西国秩父坂東供養塔 しこくさいごくちちぶばんどうきようとう | 北郷 きたごう | 大御神 万昌寺門前 おおみか ばんしょうじ |
| 963 | 西国供養塔 さいごくきようとう | 北郷 きたごう | 大御神 万昌寺門前 おおみか ばんしょうじ |
| 964 | 木食観正碑 もくじきかんしょうひ | 北郷 きたごう | 大御神 大師堂 おおみか だいしどう |
| 965 | 一地蔵七観音 いちじぞうしちかんのん | 北郷 きたごう | 大御神 個人宅 おおみか 個人宅 |
| 966 | 木食観正碑 もくじきかんしょうひ | 北郷 きたごう | 吉久保 天徳寺 よしくぼ てんとくじ |
| 967 | 西国三十三ヶ所順禮供養塔 さいごくさんじゅうさんかしまれいじょうじゆんばい | 北郷 きたごう | 吉久保 個人宅 よしくぼ 個人宅 |
| 968 | 道祖神 どうそじん | 北郷 きたごう | 吉久保 日吉神社 よしくぼ ひよしじんじや |
| 969 | 横堂供養塔 くようとう | 北郷 きたごう | 吉久保 吉久保庚申堂 よしくぼ 吉久保庚申どう |
| 970 | 西国順禮供養塔 さいごくじゆんれいくようとう | 北郷 きたごう | 吉久保 吉久保庚申堂 よしくぼ 吉久保庚申どう |
| 971 | 西国三十三所 さいごくさんじゅうさんじよ | 北郷 きたごう | 吉久保 吉久保庚申堂 よしくぼ 吉久保庚申どう |
| 972 | 奉順禮百番供養塔 じゆんれいひゃくばんきようとう | 北郷 きたごう | 吉久保 吉久保庚申堂 よしくぼ 吉久保庚申どう |
| 973 | 溪文堂筆子塚 ふでこづか | 北郷 きたごう | 吉久保 個人宅 よしくぼ 個人宅 |
| 974 | 横道順禮供養 よこみちじゆんれいくよう | 北郷 きたごう | 大胡田 字高あぜ おおごた 字高あぜ |
| 975 | 横道秩父供養塔 よこみちちちぶきようとう | 北郷 きたごう | 大胡田 字高あぜ おおごた 字高あぜ |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|------|-------------------------------------|------------|-----------------------------------|
| 976 | ちちぶほんとうじゅんれいくようとう 秩父坂東順禮供養塔 | きたごう 北郷 | おおごだ 大胡田 字高あぜ |
| 977 | さいごくようとう 西国供養塔 | きたごう 北郷 | おおごだ あしがら 大胡田 足柄停車場富士公園線 路傍 |
| 978 | かいごくようとう 回国供養塔 | きたごう 北郷 | おおごだ あしがら 大胡田 足柄停車場富士公園線 路傍 |
| 979 | さいごくようとう 西国供養塔 | きたごう 北郷 | おおごだ 大胡田 西光寺 |
| 980 | かんのりゅうぞう 観音立像 | きたごう 北郷 | おおごだ 大胡田 西光寺 |
| 981 | いっせきろくじぞう 一石六地藏 | きたごう 北郷 | おおごだ 大胡田 西光寺 |
| 982 | みょうごうひ 名号碑 | きたごう 北郷 | おおごだ 大胡田 西光寺 |
| 983 | かんのりゅうぞう 観音立像 | きたごう 北郷 | おおごだ 大胡田 西光寺 |
| 984 | かんのりゅうぞう 観音像（高遠石工） | きたごう 北郷 | おおごだ 大胡田 西光寺 |
| 985 | じぞう 地藏（高遠石工） | きたごう 北郷 | おおごだ 大胡田 西光寺 |
| 986 | ごりんとう 五輪塔 | きたごう 北郷 | おおごだ 大胡田 西光寺 |
| 987 | すずはくおうじゆとう 雪博応壽塔（筆子塚） | きたごう 北郷 | おおごだ 大胡田 西光寺 |
| 988 | ほうきよういんとう 宝篋印塔 | きたごう 北郷 | おおごだ 大胡田 西光寺裏 |
| 989 | ゆいねんみょうごうひ じぞう 唯念名号碑・地藏石仏 | きたごう 北郷 | おおごだ 大胡田 個人宅石垣上 |
| 990 | ふでこづか 筆子塚 | きたごう 北郷 | おおごだ 大胡田 個人宅 |
| 991 | さいごくさんじゅうさんじょじゅんれいくよう 西国三十三所順禮供養 | きたごう 北郷 | おおごだ 大胡田 個人宅 |
| 992 | スタール博士の碑 | すばしり 須走 | すばしり ひがしふじご 須走 東富士五湖道路脇 |
| 993 | ちょうめいし 丁目石（94、95、96、97、101丁目） | すばしり 須走 | すばしり 須走 旧登山道沿い |
| 994 | ふじこうかんれんせきぞうぶつ 富士講開連石造物 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社境内 |
| 995 | ひがしぐちかいさんじょうじゆ 東口開山成就 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 996 | じょうやとう 常夜燈 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 997 | じょうやとう 常夜燈 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 998 | じょうやとう 常夜燈 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 999 | こうしんとう 庚申塔 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 1000 | じょうやとう 常夜燈 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 1001 | じょうやとう 常夜燈 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 1002 | じょうやとう 常夜燈 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 1003 | じょうやとう けんとう 常夜燈（献燈） | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 1004 | じょうやとう 常夜燈 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 1005 | とうきょううや けなだ 東京羽田 木花元講 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 1006 | じょうやとう 常夜燈 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 1007 | こうしんとう 庚申塔 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 1008 | こうしんとう 庚申塔 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 1009 | 山三元講社 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 1010 | じょうやとう 常夜燈 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 1011 | じょうやとう 常夜燈 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 1012 | じょうやとう 常夜燈 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 1013 | じょうやとう 常夜燈 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 1014 | じきぎょう み ぞくせんしひ 食行身禄尊師碑 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 1015 | たいがんじょうじゆ 登山三十三度大願成就 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 1016 | じょうやとう 常夜燈 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |
| 1017 | じょうやとう 常夜燈 | すばしり 須走 | すばしり ふじせんげんじんじや 須走 富士浅間神社 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|------|---|----|----------------|
| 1018 | 常夜燈 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1019 | 常夜燈 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1020 | 山・浅間大神 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1021 | 常夜燈 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1022 | 先達 林屋卯八郎 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1023 | 常夜燈 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1024 | 御萩講 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1025 | 水盤 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1026 | 登山 三十三度大願成就 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1027 | 登山 三十三度大願成就 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1028 | 三十三度大願成就 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1029 | 登山嶽五十度 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1030 | 参十三度大願成就 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1031 | 栽竹記 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1032 | 御口□□奉祝 記念碑 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1033 | 御大典記念 登山五十五度 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1034 | 登山八百九十九度大願成就 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1035 | 富士山研究家曾我部一紅君碑 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1036 | 登山八十八度修業成就 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1037 | 登山記念横浜講元 刈部兵蔵 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1038 | 登山五十五度大願成就 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1039 | 奉納 先達鈴木久蔵碑 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1040 | 扶桑教 浅間教会一世贈大教正 河口源次郎之碑 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1041 | 三十五回登山記念 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1042 | 川崎新進講 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1043 | 新進講記念碑 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1044 | 四谷講社 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1045 | 廿六夜（東京） | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1046 | 廿六夜（大森） | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1047 | 廿六夜（東京） | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1048 | 山三元講社 東京麻布 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1049 | 中島武治之碑 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1050 | 登山拾五度 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1051 | 東運元講 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1052 | 皇太子殿下 御登岳記念碑 | 須走 | 須走 富士浅間神社宮上駐車場 |
| 1053 | 常夜燈 | 須走 | 須走 富士浅間神社宮上駐車場 |
| 1054 | 常夜燈 | 須走 | 須走 富士浅間神社宮上駐車場 |
| 1055 | 東口御並木路程石 | 須走 | 須走 富士浅間神社宮上駐車場 |
| 1056 | 権大教正十五代目先達 杉本作太郎 登山五十回 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1057 | 中講義 岸沢万吉 中講義 徳川辰之助 中講義 早川勘次郎 中講義 山崎重寿 二代目 榎本利三郎 権大講義 中嶋明吉 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1058 | 大講義十三代目先達 原田定吉 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1059 | 二代目講社長大講義 古沢万吉 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|------|------------------------|----|------------------|
| 1060 | 世話人 長谷川喜代外 8 名 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1061 | 賛成芳名碑 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1062 | 正一位 三田稻荷神社碑 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1063 | 第三十九回 庚申御縁年記念 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1064 | 世話人 田中政治外 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1065 | 十三代目先達大講義 原田定吉 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1066 | 山三元講世話人 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1067 | 二代目講元 堀井松之助 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1068 | 大講義二代目講社長 古沢万吉 登山五拾度 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1069 | 歴史碑 (麻布山三元講社) | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1070 | 発起人 原田定吉外 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1071 | 発起人 古沢万吉外 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1072 | 講元 堀井松之助 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1073 | 大講義 高梨鋏太郎外 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1074 | 世話人 山三元碑付近補修完成記念 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1075 | 二区六番組 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1076 | 大講義 高梨鋏太郎外 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1077 | 大願成就御山登山三十三度 権中教正 田中正治 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1078 | 山三元講社 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1079 | 山三元講社 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1080 | 山三元講社 | 須走 | 須走 富士浅間神社 |
| 1081 | 三界万霊塔 | 須走 | 須走 西寿院跡 |
| 1082 | 三界万霊塔 | 須走 | 須走 永昌寺跡 |
| 1083 | 芭蕉の句碑 | 須走 | 須走 富士あざみライン沿い |
| 1084 | 夕月の碑 | 須走 | 須走 国道 138 号籠坂峠付近 |
| 1085 | たき道の碑 | 須走 | 須走 須走支所脇 |
| 1086 | 滝不動像 | 須走 | 須走 滝の台 |
| 1087 | 浅間大神碑 | 須走 | 須走 上本町 個人宅 |
| 1088 | 道祖神 | 須走 | 須走 下本町バス停 |
| 1089 | 馬頭観音碑 | 須走 | 須走 下本町 個人宅 |
| 1090 | 馬頭観音碑 | 須走 | 須走 下本町 個人宅 |
| 1091 | 仁藤春耕みちるべ | 須走 | 須走 リサーチパーク入口交差点 |
| 1092 | きやり地藏参道みちるべ | 須走 | 須走 リサーチパーク入口交差点 |
| 1093 | 駿東教育林碑 | 須走 | 須走 リサーチパーク入口交差点 |
| 1094 | 石仏 | 須走 | 須走 大日堂 |
| 1095 | 常夜灯 | 須走 | 須走 大日堂 |
| 1096 | 藤原光親卿墓碑 | 須走 | 須走 藤原光親卿墓所 |
| 1097 | 石灯籠 | 須走 | 須走 藤原光親卿墓所入口 |

(3) 古文書

| 番号 | 区分 | 書籍名 | 刊行 年 | 地区 | | | | | 合計 |
|----|-----|---------------------------|---------|-----------|------------|------------|------------|------------|--------|
| | | | | せいび 成美 | めいりん 明倫 | あしがら 足柄 | きたごう 北郷 | すげしり 須走 | |
| 1 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第1集 | 1987 | | | 955 | | | 955 |
| 2 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第2集 | 1987 | | | | 568 | | 568 |
| 3 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第3集 | 1987 | | | | | 1,472 | 1,472 |
| 4 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第4集 | 1988 | | | | 4,533 | | 4,533 |
| 5 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第5集 | 1988 | | | | 4,666 | | 4,666 |
| 6 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第6集 | 1988 | 2,660 | | 998 | 1,088 | | 4,746 |
| 7 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第7集 | 1989 | 662 | | | | 1,278 | 1,940 |
| 8 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第8集 | 1989 | | | 1,674 | 339 | | 2,013 |
| 9 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第9集 | 1989 | 2,952 | | | | | 2,952 |
| 10 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第10集 | 1989 | 811 | 1,661 | 411 | | | 2,883 |
| 11 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第11集 | 1990 | | | | 2,914 | | 2,914 |
| 12 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第12集 | 1990 | | | | 1,881 | | 1,881 |
| 13 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第13集 | 1991 | | | 2,480 | | | 2,480 |
| 14 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第14集 | 1992 | | | | | 3,139 | 3,139 |
| 15 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第15集 | 1992 | | | | 3,307 | | 3,307 |
| 16 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第16集 | 1993 | | | | 3,850 | | 3,850 |
| 17 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第17集 | 1993 | | 766 | | 3,265 | | 4,031 |
| 18 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第18集 | 1994 | | | | 3,963 | | 3,963 |
| 19 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第19集 | 1995 | 2,684 | 1,329 | | | | 4,013 |
| 20 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第20集 | 1995 | | 1,670 | 594 | 1,949 | | 4,213 |
| 21 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第21集 | 1996 | 243 | 66 | | 2,123 | 12 | 2,444 |
| 22 | 古文書 | おやまちょう 小山町史資料所在目録 第22集 | 1997 | | | 3,214 | 2,018 | | 5,232 |
| 合計 | | | | 10,012 | 5,492 | 10,326 | 36,464 | 5,901 | 68,195 |

※美術工芸品（古文書）は件数が多くリスト化が困難であることから、文献ごとに整理されている件数を記載した。なお、文献ごとに調査時期や目的が異なるため、重複が発生している可能性がある。



2 記念物

(1) 遺跡

| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|----|--|------------|-----------------------------|
| 1 | やえやまやしきあと 八重山屋敷跡 | せいび 成美 | おやま しもや 小山 下谷 個人宅周辺 |
| 2 | やえやまじょうあと 八重山城跡 | せいび 成美 | おやま しもや 小山 下谷 大祖山尾根 |
| 3 | おやまきょうかい 小山教会 (鬼子母神) | せいび 成美 | おやま 小山 |
| 4 | いきどじょうあと 生土城跡 | せいび 成美 | いきど 生土 城山 |
| 5 | じょうこうじぼせきぐん 乗光寺墓石群 | せいび 成美 | いきど じょうこうじ 生土 乗光寺墓地内 |
| 6 | みそのいせき 御園遺跡 | せいび 成美 | いきど 生土 御園平 |
| 7 | おだてじょうあと 尾立城跡 | せいび 成美 | いきど 生土 字尾立一帯 |
| 8 | あわしまじんじやあと 淡島神社跡 | せいび 成美 | いきど 生土 城山山頂 |
| 9 | いきどじょうあと 生土城跡 | せいび 成美 | いきど 生土 城山山頂一帯 |
| 10 | みそのいせき 御園遺跡 | せいび 成美 | いきど 生土 御園平一帯 |
| 11 | はるのじんじやあと 春野神社跡 | せいび 成美 | いきど 生土 子迎 県道沿 |
| 12 | ぬまこいせき 沼子遺跡 | せいび 成美 | やなぎしま ぬまこ 柳島 沼子の池付近 |
| 13 | やなぎしまいせき 柳島遺跡 | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 公民館付近一帯 |
| 14 | ゆぶねじょうあと 湯船城跡 | せいび 成美 | ゆぶね 湯船 山頂一帯 |
| 15 | ゆぶねほりのうちやかたあと 湯船堀之内館跡 | せいび 成美 | ゆぶね 湯船 公民館手前一帯 |
| 16 | ゆぶねいせき 湯船遺跡 | せいび 成美 | ゆぶね 湯船 八幡神社右側宅地 |
| 17 | ひ まるどうじょうあと 日の丸道場跡 | せいび 成美 | ゆぶね 湯船原 |
| 18 | ふじまがりようすい 藤曲用水 | せいび 成美 | ふじまがり けいりんじ 藤曲 慶林寺境内 |
| 19 | ふじまがりやかたあと くぼやしきあと 藤曲館跡 (久保屋敷跡) | せいび 成美 | ふじまがり 藤曲 字宮原一帯 |
| 20 | ろくごうむらやくぼあと 六合村役場跡 | せいび 成美 | ふじまがり せいび 藤曲 成美小学校敷地内 |
| 21 | わたざか 和田坂 | せいび 成美 | おちあい 落合 役場前の坂 |
| 22 | いわたやかたあと 岩田館跡 | めいりん 明倫 | すがぬま 菅沼 |
| 23 | しょうげんづか 将監塚 | めいりん 明倫 | やと 谷戸 |
| 24 | とうごうしょうがっこうあと 東郷小学校跡 | めいりん 明倫 | しもぼら きよみずばしわき 下原 清水橋脇 |
| 25 | いかだば 筏場 | めいりん 明倫 | しよりょう ほなど 所領 花戸 |
| 26 | つきよねさんぜんきゅう じゅう じ 月米山善玖 (十) 寺跡 | めいりん 明倫 | かやぬま 茅沼 旧道 |
| 27 | たけのしたほりのうちやかた 竹之下堀之内館 | あしがら 足柄 | たけのした しゆく 竹之下 宿 |
| 28 | たけのしたまごほちやしきあと 竹之下孫八屋敷跡 | あしがら 足柄 | たけのした しゆく 竹之下 宿、城の腰 |
| 29 | かみやだいいせき 上矢台遺跡 | あしがら 足柄 | たけのした やだい 竹之下 向方、矢台 |
| 30 | たかはたじょう 高畑城 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 蔵屋敷 |
| 31 | おおまがりいせき 大曲遺跡 | あしがら 足柄 | たけのした しゆく 竹之下 宿 |
| 32 | ぜんこうじいせき 善光寺遺跡 | あしがら 足柄 | たけのした ぜんこうじ 竹之下 善光寺 |
| 33 | にいみどういせき 新見堂遺跡 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 新見堂 |
| 34 | よこやまいせき 横山遺跡 | あしがら 足柄 | たけのした おやま 竹之下 小山高校敷地内 |
| 35 | かみよこやまいせき 上横山遺跡 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 日立ハイテクサイエンス敷地内 |
| 36 | ふるたきいせき 古瀧遺跡 | あしがら 足柄 | たけのした じぞうどう 竹之下 地藏堂川沿い |
| 37 | たけのしたいちりづかあと 竹之下一里塚跡 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 古瀧、北市場境 |
| 38 | ごずでんのうしやあと きんたろうでんせつち 牛頭天王社跡 (金太郎伝説地) | あしがら 足柄 | たけのした しゆくよつじ 竹之下 宿四辻上 |
| 39 | とうこうざんちやうとくじあと 東光山長徳寺跡 | あしがら 足柄 | たけのした ぜんこうじ 竹之下 善光寺 |

| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|----|-------------------------------|------------|------------------------------|
| 40 | 茶釜塚 ちんせんづか | 足柄 あしがら | 竹之下 宝鏡寺境内 たけのした ほうきょうじ |
| 41 | クラモンザ遺跡 いせき | 足柄 あしがら | 竹之下 クラマツ沢 たけのした |
| 42 | 沢田遺跡 さわだいせき | 足柄 あしがら | 桑木 沢田 くわぎ |
| 43 | 南ノ原遺跡 みなみの ほんらいせき | 足柄 あしがら | 桑木 旧RDFセンター くわぎ |
| 44 | ワデ遺跡 いせき | 足柄 あしがら | 桑木 一ノ沢、金時橋際 くわぎ |
| 45 | 向桑木遺跡 むこうくわぎいせき | 足柄 あしがら | 桑木 足柄森林カントリー下 くわぎ あしがら |
| 46 | 池の沢遺跡 いけ さわいせき | 足柄 あしがら | 桑木 池の沢 くわぎ |
| 47 | 足柄峠遺跡 (縄文) あしがらとうげいせき | 足柄 あしがら | 足柄峠下 あしがらとうげ |
| 48 | 足柄古道 あしがらこどう | 足柄 あしがら | 足柄峠下 あしがらとうげ |
| 49 | 足柄城跡 あしがらじょうあと | 足柄 あしがら | 足柄峠 あしがらとうげ |
| 50 | 足柄峠遺跡 (奈良・平安) あしがらとうげいせき | 足柄 あしがら | 足柄峠 あしがらとうげ |
| 51 | 伝足柄関跡 でんあしがらせきあと | 足柄 あしがら | 足柄峠 あしがらとうげ |
| 52 | 通り尾砦跡 とお おとりであと | 足柄 あしがら | 足柄峠周辺 あしがらとうげ |
| 53 | 小檜尾砦跡 こなち おりであと | 足柄 あしがら | 足柄峠周辺 あしがらとうげ |
| 54 | 阿弥陀尾砦跡 あみだ おりであと | 足柄 あしがら | 足柄峠周辺 あしがらとうげ |
| 55 | 丹土尾砦跡 にっち おりであと | 足柄 あしがら | 足柄峠周辺 あしがらとうげ |
| 56 | 元白髭神社地 もとしろひげじんじち | 足柄 あしがら | 新柴 横山下路傍 あらしば よこさき |
| 57 | 阿多野用水取入 あだの ようすいとりいれ | 北郷 きたごう | 大御神 おおみか |
| 58 | 阿多野用水水源池 あだの ようすいすいげんち | 北郷 きたごう | 大御神 須川沿い おおみか すかわ |
| 59 | 光親天神跡 (大御神殿の伝説) みつちかてんじんあと | 北郷 きたごう | 大御神 下村 おおみか |
| 60 | 日明五輪塔 にちめいごりんとう | 北郷 きたごう | 大胡田 おおごだ |
| 61 | 天神城跡 てんじんじょうあと | 北郷 きたごう | 大胡田 天神社東 おおごだ てんじんじか |
| 62 | 用沢堀の内館跡 ようさわほりうちやかたあと | 北郷 きたごう | 用沢 坂本 ようさわ |
| 63 | 一色城跡 いしきじょうあと | 北郷 きたごう | 一色 農協支所北側 いしき |
| 64 | 一色遺跡 いしきいせき | 北郷 きたごう | 一色 バス停前東側 いしき |
| 65 | 西裏遺跡 にしうらいせき | 北郷 きたごう | 一色 西裏 いしき |
| 66 | 下古城城跡 しもふるしろじょうあと | 北郷 きたごう | 下古城 馬伏川沿い しもふるしろ |
| 67 | 中の丸遺跡 なか まるいせき | 北郷 きたごう | 上古城 一色境 かみごう |
| 68 | 吉久保遺跡 よしくぼいせき | 北郷 きたごう | 吉久保 清水 よしくぼ |
| 69 | 打越館跡 おつこしやかたあと | 北郷 きたごう | 吉久保 打越 個人宅 よしくぼ |
| 70 | 明神峠古道 みょうじんとうげこどう | 北郷 きたごう | 上野 うえの |
| 71 | 阿多野貯水池 あだの ちよすいち | 北郷 きたごう | 阿多野 あだの |
| 72 | 滝不動堂跡 たきふどうどうあと | 須走 すばしり | 須走 滝の台 たき だい |
| 73 | 寒天工場跡 かんでんこうじょうあと | 須走 すばしり | 須走 緑が丘団地一帯 すばしり |
| 74 | 権現址 ごんげんし | 須走 すばしり | 須走 富士の杜ゴルフクラブ上 すばしり ふじ |
| 75 | 発電所跡 はつでんじょうあと | 須走 すばしり | 須走 下本町電話交換所下 すばしり しもほんちやう |
| 76 | 梨の木平遺跡 なし き だいらいせき | 須走 すばしり | 須走 籠坂峠下 すばしり かごさかとうげ |
| 77 | 御登口遺跡 おとぐちいせき | 須走 すばしり | 須走 御登口 すばしり おとぐち |
| 78 | 一の沢遺跡 いち さわいせき | 須走 すばしり | 須走 一の沢 すばしり いち さわ |
| 79 | 西沢遺跡 にしざわいせき | 須走 すばしり | 須走 西沢 すばしり |
| 80 | 滝の沢遺跡 たき さわいせき | 須走 すばしり | 須走 滝の沢 すばしり |
| 81 | 大尾根遺跡 おおおいせき | 須走 すばしり | 須走 大尾根 すばしり |
| 82 | 天然氷採取跡 てんねんこおりさいしゅあと | 須走 すばしり | 須走 大日堂南側 すばしり |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|----|------------------------------|---------|--------------------|
| 83 | きゅうまがえ 旧馬返し跡 | すばしり 須走 | すばしり 須走 |
| 84 | こふじとざんどうきゆうどう 小富士登山道旧道 | すばしり 須走 | すばしり 須走 |
| 85 | きゅうとざんどう 旧登山道 | すばしり 須走 | すばしり 須走 |
| 86 | くもきりじんじやあと 雲霧神社跡 | すばしり 須走 | すばしり 須走 旧登山道沿い |
| 87 | おむろせんげんじんじやあと 御室浅間神社跡 | すばしり 須走 | すばしり 須走 旧登山道沿い |
| 88 | ふろうざんさいじゆいんあと 富老山西寿院跡 | すばしり 須走 | すばしり 須走 滝沢 |
| 89 | ふくじゆざんさいじゆいんあと 福寿山永昌寺跡 | すばしり 須走 | すばしり 須走 滝沢 |
| 90 | すばしりしょうがっこうしきちあと 須走小学校敷地跡 | すばしり 須走 | すばしり 須走 上本町 |
| 91 | さいじゆいんだいもんあと 西寿院大門跡 | すばしり 須走 | すばしり 須走 上本町 |
| 92 | えいしじゆいんだいもんあと 永昌寺大門跡 | すばしり 須走 | すばしり 須走 上本町 |
| 93 | こうじやくじだいまんあと 香積寺大門跡 | すばしり 須走 | すばしり 須走 上本町 |
| 94 | すばしりじゆうぶん いちやくしよあと 須走十分の一役所跡 | すばしり 須走 | すばしり 須走 下本町バス停付近 |
| 95 | こうふざんこうじやくじあと 向富山香積寺跡 | すばしり 須走 | すばしり 須走 北原 |
| 96 | てんじんじやあと 天神社跡 | すばしり 須走 | すばしり 須走 北原 |
| 97 | かりやすこやあと 狩休小屋跡 | すばしり 須走 | すばしり 須走 富士あざみライン沿い |

(2) 名勝地

| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|----|--------------------------|---------|------------------|
| 1 | ふじざんすばしりぐちごごうめ 富士山須走口五合目 | すばしり 須走 | すばしり 須走 |
| 2 | こふじじゆうほどう 小富士遊歩道 | すばしり 須走 | すばしり 須走口五合目 |
| 3 | こふじ 小富士 | すばしり 須走 | すばしり 須走 |
| 4 | ふじざんちゆうどう 富士山お中道 | すばしり 須走 | すばしり 須走口六合目 |
| 5 | きんときざん 金時山 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 |
| 6 | ちかおか 誓いの丘 | あしがら 足柄 | あしがらじょうあと 足柄城跡の裾 |

(3) 動物・植物・地質鉱物

| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|----|---------------|---------|------------------|
| 1 | かなわだんそう 神縄断層 | せいび 成美 | いきど 生土 |
| 2 | ブナ林 | きたごう 北郷 | うえの 上野 三国山及び明神峠 |
| 3 | ちそうるていち 地層露呈地 | すばしり 須走 | すばしり 須走 県道150号沿い |

3 埋蔵文化財（周知の埋蔵文化財包蔵地）

| 番号 | 遺跡名 | 地区 | 時代 | 種別 | 所在地 | 地目 | 遺構 | 遺物 | 文献 |
|----|---------------------|---------|------|-----|------------|-----|-------|------|----|
| 1 | うえのおく さわいせき 上野奥の沢遺跡 | きたごう 北郷 | 縄文中期 | 散布地 | うえの 上野北山 | 林・沢 | | 縄文土器 | |
| 2 | うえのほりのうち 上野堀之内 | きたごう 北郷 | 中世 | 城館 | うえの 上野字堀之内 | 境内 | 空堀・土塁 | | |
| 3 | ゆぶねいせき 湯船遺跡 | せいび 成美 | 縄文 | 散布地 | ゆぶね 湯船 | 工場 | | 縄文土器 | |
| 4 | ゆぶねじょう 湯船城 | せいび 成美 | 中世 | 城館 | ゆぶね 湯船字附野 | 山林 | | | |

| 番号 | 遺跡名 | 地区 | 時代 | 種別 | 所在地 | 地目 | 遺構 | 遺物 | 文献 |
|----|------------------------|------------|---------|--------|--------------------|-------|-----------|-------------|-------------------------|
| 5 | やなぎしまいせき 柳島遺跡 | せいび 成美 | 縄文中期 | 散布地 | やなぎしま 柳島堀 | 公民館 | | 縄文土器 | |
| 6 | ゆぶねほりのうち 湯船堀之内 | せいび 成美 | 中世 | 城館 | ゆぶね 湯船字下耕地 | 水田 | | | |
| 7 | ふじまがりやしき 藤曲屋敷 | せいび 成美 | 中世 | 城館 | ふじまがり 藤曲字宮原 | 宅地 | | | |
| 8 | いきどじょう 生土城 | せいび 成美 | 中世 | 城館 | いきど 生土字城山 | 山林 | 曲輪・空堀・井戸跡 | | しずおかけん 静岡県の 中世城館跡 |
| 9 | みそのだいらいせき 御園平遺跡 | せいび 成美 | 縄文前～後期 | 散布地 | いきど 生土御園平 | 畑 | 列石 | 縄文土器 | |
| 10 | みそのいせき 御園遺跡 | せいび 成美 | 縄文中期 | 散布地 | いきど 生土御園 | 宅地 | | 縄文土器・石斧・石棒 | しずおかけん 静岡県史 第1巻 |
| 11 | ようさわほりのうち 用沢堀之内 | きたごう 北郷 | 中世 | 城館 | ようさわ 用沢字坂本 | 水田 | | | |
| 12 | いしきじょう 一色城 | きたごう 北郷 | 中世 | 城館 | いしき 一色島土 | 水田・宅地 | | | |
| 13 | ぬまこいせき 沼子遺跡 | せいび 成美 | 縄文 | 散布地 | やなぎしま 柳島字沼子 | 水田・畑 | | | 確認調査報告書 |
| 14 | なかまるいせき 中の丸遺跡 | きたごう 北郷 | 古墳・古代 | 散布地 | 上古城中の丸 | 境内 | | 土師器・須恵器 | しずおかけん 静岡県郷土研究1 |
| 15 | いしきいせき 一色遺跡 | きたごう 北郷 | 縄文 | 散布地 | いしき 一色上大畑 | 水田 | | 縄文土器 | |
| 16 | いわたやかた 岩田館 | めいりん 明倫 | 中世 | 城館 | すがぬま すがぬま 菅沼字菅沼 | 宅地 | | | |
| 17 | おつしやかた 打越館 | きたごう 北郷 | 中世 | 城館 | よしくぼ 吉久保字打越 | 宅地 | | | |
| 18 | よしくぼいせき 吉久保遺跡 | きたごう 北郷 | 縄文中期 | 散布地 | よしくぼ 吉久保 | 水田 | | 縄文土器 | |
| 19 | しもふるしろ 下古城(古城) | きたごう 北郷 | 中世 | 城館 | しもふるしろ 下古城字永塚 | 水田 | 土塁 | | |
| 20 | かみやだいせき 上矢台遺跡 | あしがら 足柄 | 縄文後期 | 散布地 | たけのした 竹之下上矢台 | 林・原野 | | 縄文土器 | しずおかけん 静岡県史 |
| 21 | たけのしたほりのうち 竹之下堀之内 | あしがら 足柄 | 中世 | 城館 | たけのした 竹之下字堀之内 | 宅地 | | | |
| 22 | たけのしたやしき 竹之下屋敷(城ヶ腰) | あしがら 足柄 | 中世 | 城館 | たけのした 竹之下字城ヶ腰 | 宅地 | 井戸跡 | | |
| 23 | たかほたけじょう 高畑城(高畑山) | あしがら 足柄 | 中世 | 城館 | たけのした 竹之下 | 山林 | | | |
| 24 | おおまがいせき 大曲遺跡 | あしがら 足柄 | 古墳～平安 | 散布地 | たけのした 竹之下大野原 | 宅地 | | | |
| 25 | ぜんこーじせき ゼンコージ遺跡 | あしがら 足柄 | 古代 | 散布地 | たけのした 竹之下善光寺 | 山林 | | 土器 | |
| 26 | にいみどういせき 新見堂遺跡 | あしがら 足柄 | 縄文晩期 | 散布地 | たけのした 竹之下新見堂 | 山林 | | 縄文土器・磨製石斧 | |
| 27 | よこやまいせき 横山遺跡 | あしがら 足柄 | 古墳後期～中世 | 集落 | たけのした 竹之下上横山 | 高校 | 住居跡・柵列 | 土師器・須恵器 | よこやま 横山遺跡概報 |
| 28 | かみよこやまいせき 上横山遺跡 | あしがら 足柄 | 奈良・平安 | 散布地・集落 | たけのした 竹之下上横山 | 工場 | | 土師器・須恵器・鉄製品 | かみよこやま 上横山遺跡報告書 |
| 29 | くわぎさわだいせき 桑木沢田遺跡 | あしがら 足柄 | 平安 | 集落 | くわぎ 桑木 | 宅地 | 住居跡 | 陶磁器・構築礫 | 沢田遺跡 確認調査報告書 |
| 30 | ふるたきいせき 古瀧遺跡 | あしがら 足柄 | 縄文中期 | 散布地 | たけのした 竹之下古瀧 | 山林 | | 縄文土器 | |



| 番号 | 遺跡名 | 地区 | 時代 | 種別 | 所在地 | 地目 | 遺構 | 遺物 | 文献 |
|----|---------------------|--------|---------|-----|----------------|------|--------------|-------------|---------|
| 31 | クラモンザ遺跡 | あしがら足柄 | 縄文中期 | 散布地 | たけのした古瀧 | 山林 | | 縄文土器 | |
| 32 | あらしぼほりのうち新柴堀之内 | あしがら足柄 | 中世 | 城館 | あらしぼ新柴字堀之内 | 宅地 | 井戸跡 | | |
| 33 | ワデ遺跡 | あしがら足柄 | 縄文後期 | 散布地 | くわぎ桑木ワデ | 田・宅地 | | 縄文土器 | |
| 34 | むこうくわぎいせき向桑木遺跡 | あしがら足柄 | 縄文中期 | 散布地 | くわぎ桑木一ノ沢 | 山林 | | 縄文土器 | |
| 35 | いけさわいせき池の沢遺跡 | あしがら足柄 | 弥生 | 散布地 | くわぎ桑木池の沢 | | | いきど弥生土器 | |
| 36 | やえやまやしき八重山屋敷 | せいび成美 | 中世 | 城館 | おやま小山字八重山 | 宅地 | | | |
| 37 | あしがらじょう足柄城 | あしがら足柄 | 中世 | 城館 | たけのした竹之下峠 | 山林 | 曲輪・空堀・井戸跡・土塁 | | 調査報告書 |
| 38 | あしがらとうげいせき足柄峠 I 遺跡 | あしがら足柄 | 縄文中期・後期 | 散布地 | たけのした竹之下峠 | 山林 | | 縄文土器 | |
| 39 | あしがらとうげいせき足柄峠 II 遺跡 | あしがら足柄 | 古墳・古代 | 散布地 | たけのした竹之下峠 | 山林 | | 土師器・須恵器 | |
| 40 | おだてじょう尾立城 | せいび成美 | 中世 | 城館 | いきど生土 | 山林 | 堅土塁 | | 調査報告書 |
| 41 | みなみのほらいせき南ノ原遺跡 | あしがら足柄 | 奈良 | 集落 | くわぎうえのはら桑木字上ノ原 | 工場 | 住居跡・土坑 | 土師器・須恵器・鉄製品 | 調査報告書 |
| 42 | ひなたいせき日向遺跡 | すばしり須走 | 近世 | 集落 | すばしり須走 | 宅地 | 住居跡 | 鉄器、陶器 | 試掘調査報告書 |

4 その他

(1) 伝承地

| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 | 概要 |
|----|---------------|-------|------------------------|--|
| 1 | ふんぱり石 | せいび成美 | おやま小山 | きんたろう金太郎が踏み抜いたという足形のついた石。きんとき金時の足跡石。 |
| 2 | さるまあひ猿待ちあい | せいび成美 | おやま小山 | きんたろうきんとき金太郎が金時山に登る途中猿が待っていたところだという。 |
| 3 | ゆうじよたき遊女の滝 | せいび成美 | おやま小山 | きんたろうきんとき金太郎の母親が水垢離を ^{みずごり} して生まれてくる金太郎の健康を祈願したという。 |
| 4 | うばこしかけいし姥の腰掛石 | せいび成美 | いきど生土 | きんたろう金太郎の帰途を出迎えるために母親が腰をかけて待ったとされる。 |
| 5 | さかたやしきあと坂田屋敷跡 | せいび成美 | なかじま中島 きんときこうえん金時公園 | 資料では『駿河記』(文政三)に初出。きんたろうきんとき金太郎の生家という。きんときこうえんきんとき金時公園のきんじや神社社殿周辺。 |
| 6 | てつきいし手つき石 | せいび成美 | なかじま中島 きんときこうえん金時公園 | きんたろう金太郎が熊と相撲をとり、ただ一度誤って負けた時に、手をついた跡だという説とその怪力を試すために、力を込めて差し込んだ手指の跡の残った石だともいわれ、きんたろう金太郎の右の手の指の跡が残された石。 |

| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 | 概要 |
|----|--|------------|--------------------------------|---|
| 7 | 産湯の七瀧 <small>うぶゆ ななたき</small> | せいび 成美 | なかじま 中島 きんときこうえん 金時公園 | 母親が金太郎の産湯を汲んだ滝という。金時神社拝殿横。 |
| 8 | 第六天社 <small>だいろくてんしゃ</small> | せいび 成美 | なかじま 中島 きんときこうえん 金時公園 | 金太郎親子の信仰が厚く、金太郎が生魚を奉納したと伝わる。 |
| 9 | 金時杉 <small>きんときすぎ</small> | せいび 成美 | なかじま 中島 きんときこうえん 金時公園 | 金太郎が登って遊んだという。明治10年(1877)頃伐採され、現在は2代目の杉が社殿付近に立つ。 |
| 10 | 沼子の池 <small>ぬまこ いけ</small> | せいび 成美 | やなぎしま 柳島 | 金太郎が泳いだという池。大鯉に抱きついたことから鯉のぼりに描かれるようになったと伝わる。 |
| 11 | 子産田 <small>こうみだ</small> | せいび 成美 | ゆぶね 湯船 | 金太郎を生んだ場所と伝わる。現在、田はなく住宅の一角。 |
| 12 | あさかえ湯 (鉱泉) <small>あさかえゆ</small> | せいび 成美 | ゆぶね 湯船 | 金太郎の母親が懐妊の身を養うため通った湯であるという。夜明けに帰ったためこの名があると伝えられている。 |
| 13 | 子産明神 <small>こうみみとうじん</small> | せいび 成美 | ゆぶね 湯船 | 金太郎の母が安産と子の健康を祈ったという。 |
| 14 | 遠見 <small>とのおみ</small> | めいりん 明倫 | しよりょう 所領 | 尊良親王が落ちていく姿を為冬卿が望見していた場所とされる。 |
| 15 | 渡り上り <small>わた のぼり</small> | めいりん 明倫 | しよりょう 所領 | 為冬卿の官方勢が所領方面に退却する時に渡った鮎沢川と佐野川の合流点。 |
| 16 | 合士ヶ久保 (合士ヶ窪) <small>ごうしがくぼ</small> | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 | 為冬卿が尊良親王を落ち忍ばせた後、御旗を立てて官方の残群を集合させた場所とされる。 |
| 17 | 矢台 <small>やだい</small> | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 | 興雲寺付近の戦いで、足利勢が官方の陣地に矢を射込んだ場所。官方の指揮所であった興雲寺は全焼した。 |
| 18 | 有闘坂 <small>うとうさか</small> | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 | 官方勢が足利勢にはさみうたれて戦った七曲という急坂。 |
| 19 | 釜沢 <small>かまざわ</small> | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 | 尊良親王ら官方勢7,000人の炊事をしたと伝わる場所。 |
| 20 | 陣場 <small>じんば</small> | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 | 足柄峠に向かった官方勢が、戦いに備えたと伝わる場所。 |
| 21 | 戦返り (戦ヶ入り) <small>せんがえ せんが い</small> | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 | 竹之下合戦の際、新田義貞と足利尊氏の軍が戦いはじめた場所とされる。 |
| 22 | 爪切り地藏 (金時の爪切地藏) <small>つめき じぞう きんとき つめきりじぞう</small> | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 | 金太郎が爪で彫ったと伝わる地藏。 |
| 23 | 金太郎兜石 (金太郎) <small>きんたろうかぶといし きんたろう</small> | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 | 金太郎がよじ登って遊んだとされる。 |
| 24 | 獅子石 <small>ししいし</small> | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 | 宝鏡寺境内 |
| 25 | 源頼朝馬蹄石 <small>みなもとのもりともほていせき</small> | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 | 地藏堂川沿い。 |
| 26 | 石尊松 <small>せきぞんまつ</small> | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 | 県道足柄峠線沿いの富士山展望地。 |



| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 | 概要 |
|----|---|------------|-------------------|---|
| 27 | ちょうしがらち しずおかけん ひやくせん 銚子ヶ淵 (静岡県みずべ百選) | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 | 花嫁が祝言の最中に「おなら」をしてしまったことから、恥じて銚子を抱いて飛び込んだ淵と伝わる。地元では丁重に弔ったとされ、現在は縁結びの地として知られる。 |
| 28 | おおいし 大石 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 | 林道竹之下金時線沿い |
| 29 | ひじりいし 聖石 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 | 林道竹之下金時線沿い |
| 30 | たいしやく もり 帝釈の森 | あしがら 足柄 | たけのした 竹之下 | 地域の住民に「たいしゃく様」と呼ばれ、この森に入ると必ず祟りがあると伝わる。 |
| 31 | ごりんくぼ 五輪窪 | あしがら 足柄 | くわぎ 桑木 | 官方勢が本営を置いた所および合戦における戦死者を葬ったと伝わる場所。 |
| 32 | いけ さわゆすい 池の沢湧水 | あしがら 足柄 | くわぎ 桑木 | 民宿「山久荘」脇 |
| 33 | あしがらとうげ 足柄峠 | あしがら 足柄 | あしがらとうげ 足柄峠 | かつては東海道の要衝であり、多くの伝承地や史跡が残る。 |
| 34 | あしがらみょうじん 足柄明神 | あしがら 足柄 | あしがらとうげ 足柄峠 | 竹之下合戦の際、足利尊氏が布陣した地とされる |
| 35 | きんときつがいでいし きんたろう 金時礫石 (金太郎) | あしがら 足柄 | あしがらとうげ 足柄峠 | 足柄城跡 一の曲輪脇 |
| 36 | でんごらこいし とらごぜんいし 伝虎子石 (虎御前石) | あしがら 足柄 | あしがらとうげ 足柄峠下 | 建久4年(1193)、曾我十郎祐成を慕う虎御前が相模の国より足柄峠を越え、富士の見えるこの石に座し、兄弟の悲願達成と安否を気づかったという。 |
| 37 | みついし 三ツ石 | あしがら 足柄 | あしがらとうげ 足柄峠下 | 林道竹之下金時線沿い |
| 38 | たまてがいけ 玉手ヶ池 | あしがら 足柄 | あしがらじょうあと 足柄城跡 | 一の曲輪にある池。足柄城の井戸としても想定される。 干ばつ続きの際は、池の水をかき回すことで雨が降ったとされる。 |
| 39 | しんらさぶろうよしみつすいしょうのいし 新羅三郎義光吹笙之石 (笛吹石) | あしがら 足柄 | あしがらじょうあと 足柄城跡 | 一の曲輪の脇にあり、伊能忠敬『日本全図』には「礫石」として記載されている。石の伝説として、義光が後三年の役に参戦する途中、この地において笙の師である豊原時元の子、時秋に笙の秘曲を授けたとされる。 |
| 40 | せんげんづかきんときじんじやあと 浅間塚公時神社跡 | あしがら 足柄 | あらしば 新柴 | 金時山頂の祠。金太郎が山の主の大猪の鼻を切つたとむらったという。 |
| 41 | いのなじんじやち きんたろう 猪鼻神社地 (金太郎) | あしがら 足柄 | あらしば 新柴 | 林道金時線沿い。 |
| 42 | きんときさん 金時山 | あしがら 足柄 | あらしば 新柴 | 別称、猪鼻山。『駿河記』に「公時山」と出る。昔は猪鼻山と呼ばれていたが、金時山と呼ばれるようになった。 |
| 43 | いずみしきぶたんじょうせき 和泉式部誕生石 | あしがら 足柄 | あらしば 新柴 | 小字堂ノ前の田の畔に建つ。 |
| 44 | いずみさんえんつうじ 和泉山円通寺 | あしがら 足柄 | あらしば 新柴 | 小栗判官の愛馬鬼鹿毛が新柴村横山で亡くなり、それを祀った。 |
| 45 | かんろじかいそうち 甘露寺開創の地 | きたごう 北郷 | ようさわ 用沢 | 旧青少年会館跡地付近 |

| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 | 概要 |
|----|-----------------------------------|------------|--------------|---|
| 46 | ズナ峠 (武田信玄峠越え古道) | きたごう 北郷 | なかひなた 中日向 | 山梨県山中湖村との境。武田信玄が深沢城攻撃の際、この峠を通過した。 |
| 47 | 駒止めの松 | すばしり 須走 | すばしり 須走 | 国道138号線脇。 籠坂峠越えの馬を繋いだとされる。 |
| 48 | ふじわらみつちかきよはか 藤原光親卿墓 | すばしり 須走 | すばしり 須走 | 承久の変のとき、後鳥羽上皇の北条氏討伐の謀議に参加した光親卿は捕われの身となり、鎌倉護送の途中の籠坂峠において斬首された。 |
| 49 | ふどう たきあと 不動の滝跡 | すばしり 須走 | すばしり 須走 | 富士総合グラウンド北側。富士講の信者が身を清めたと伝わる滝跡。 |
| 50 | しまみせんばやし 三味線林 | すばしり 須走 | すばしり 須走 | 風が吹くと松林が三味線のように震えることが由来と伝わる。 |
| 51 | おうじがいけ いなじんじやあとち 王子ヶ池 (伊奈神社跡地) | すばしり 須走 | すばしり 須走 | 宝永噴火後に困窮した人々を救った伊奈半左衛門忠順を祀った伊奈神社祠は、元々王子ヶ池にあった。 王子ヶ池は現在、東富士演習場内に位置している。 |

(2) 信仰 (富士講御師家)

| 番号 | 名称 | 地区 | 所在地 |
|----|-------------------------------|------------|-------------------|
| 1 | ふじこうおしけ 富士講御師家 高村七大夫 (武蔵屋) | すばしり 須走 | すばしり ひなた 須走 日向 |
| 2 | ふじこうおしけ 富士講御師家 米山甚大夫 (穂積) | すばしり 須走 | すばしり ひなた 須走 日向 |
| 3 | ふじこうおしけ 富士講御師家 米山十大夫 (小中学) | すばしり 須走 | すばしり ひなた 須走 日向 |
| 4 | ふじこうおしけ 富士講御師家 米山久大夫 (大中学) | すばしり 須走 | すばしり ひなた 須走 日向 |
| 5 | ふじこうおしけ 富士講御師家 米山藤大夫 (大米谷) | すばしり 須走 | すばしり ひなた 須走 日向 |
| 6 | ふじこうおしけ 富士講御師家 高村好大夫 | すばしり 須走 | すばしり ひなた 須走 日向 |
| 7 | ふじこうおしけ 富士講御師家 高村助大夫 | すばしり 須走 | すばしり ひなた 須走 日向 |
| 8 | ふじこうおしけ 富士講御師家 小野権大夫 | すばしり 須走 | すばしり ひなた 須走 日向 |
| 9 | ふじこうおしけ 富士講御師家 米山十大夫 (扇屋) | すばしり 須走 | すばしり ひなた 須走 日向 |
| 10 | ふじこうおしけ 富士講御師家 外川平大夫 (みどり) | すばしり 須走 | すばしり ひなた 須走 日向 |
| 11 | ふじこうおしけ 富士講御師家 高相利大夫 | すばしり 須走 | すばしり ひなた 須走 日向 |
| 12 | ふじこうおしけ 富士講御師家 米山喜大夫 (米山館) | すばしり 須走 | すばしり ひなた 須走 日向 |
| 13 | ふじこうおしけ 富士講御師家 高辻茂大夫 | すばしり 須走 | すばしり ひなた 須走 日向 |
| 14 | ふじこうおしけ 富士講御師家 菅沼庄大夫 | すばしり 須走 | すばしり ひなた 須走 日向 |
| 15 | ふじこうおしけ 富士講御師家 小松喜大夫 (小松屋) | すばしり 須走 | すばしり ひなた 須走 日向 |
| 16 | ふじこうおしけ 富士講御師家 高村源大夫 | すばしり 須走 | すばしり ひなた 須走 日向 |
| 17 | ふじこうおしけ 富士講御師家 米山総大夫 | すばしり 須走 | すばしり ひなた 須走 日向 |



文化財の把握調査に関する刊行物

ここでは、第4章にて整理した歴史文化資源の把握調査について、その根拠となる刊行物のリストを掲載します。

文化財の把握調査に関する刊行物の一覧

おやまちょうりつ
(小山町立図書館所蔵資料 令和5年8月時点)

| 書籍名 | 著者名 | 刊行年 |
|------------------------------|-------------------------|------|
| おやまちょう 小山町報 | おやまちょう 小山町役場 | 不明 |
| おやまちょう 小山町報 | おやまちょう 小山町 | 1930 |
| おやまちょう 小山町報 | おやまちょう 小山町 | 1932 |
| おやまちょう 小山町報 | おやまちょう 小山町 | 1933 |
| おやまちょう 小山町報 | おやまちょう 小山町 | 1935 |
| おやまちょう 小山町報 上 | おやまちょう 小山町役場 | 1983 |
| おやまちょう 小山町報 下 | おやまちょう 小山町 | 1983 |
| おやまちょう 小山町勢要覧 昭和5年 | おやまちょう 小山町役場 | 1930 |
| おやまちょう 小山町勢要覧 1962 | おやまちょう 小山町役場 | 1962 |
| おやまちょう 小山町勢要覧 1965年版 | おやまちょう 小山町 | 1965 |
| おやまちょう 小山町勢要覧 1968年版 | おやまちょう 小山町 | 1968 |
| 富士のあるまち '72 | おやまちょう 小山町 | 1972 |
| 富士のあるまち '78 | おやまちょう 小山町 | 1978 |
| 富士のあるまち '81 | おやまちょう 小山町 | 1981 |
| 富士のあるまち '85 | おやまちょう 小山町 | 1985 |
| 富士のあるまち '88 | おやまちょう 小山町 | 1988 |
| 富士のある町 '89 | 企画調整課 | 1989 |
| 富士のある町 '90 | 地域振興課 | 1990 |
| 富士のあるまち '91 | おやまちょう 小山町 | 1991 |
| 富士のあるまち '92 | おやまちょう 小山町 | 1992 |
| 富士のある町 '92 | 地域振興課 | 1992 |
| 富士のある町 '93 | 地域振興課 | 1993 |
| 富士のある町 '94 | 地域振興課 | 1994 |
| 富士のある町 ,96 | 地域振興課 | 1996 |
| 富士のある町 2000 | 地域振興課 | 2000 |
| 富士のある町 2001 | 企画調整課 | 2001 |
| 富士のあるまち 2002 | 企画調整課 | 2002 |
| 富士のある町 2003 | 企画調整課 | 2003 |
| 富士のあるまち 2005 | 企画調整課 | 2005 |
| 富士のあるまち 2006 | 企画調整課 | 2006 |
| 富士のあるまち 2007 | 企画調整課 | 2007 |
| 富士のあるまち おやま 町勢施行100周年記念 2012 | おやまちょう 小山町企画総務部政策秘書課 | 2012 |
| 富士のあるまち 2013 | おやまちょう 小山町政策秘書課 | 2013 |
| おやまちょう 小山町の歴史 第1号 | おやまちょう 小山町史編さん専門委員会 | 1987 |
| おやまちょう 小山町の歴史 第2号 | おやまちょう 小山町史編さん専門委員会 | 1988 |
| おやまちょう 小山町の歴史 第3号 | おやまちょう 小山町史編さん専門委員会 | 1989 |



| 書籍名 | 著者名 | 刊行年 |
|--------------------------------|------------------------|------|
| おやまちょう 小山町の歴史 第4号 | おやまちょう 小山町史編さん専門委員会 | 1990 |
| おやまちょう 小山町の歴史 第5号 | おやまちょう 小山町史編さん専門委員会 | 1991 |
| おやまちょう 小山町の歴史 第6号 | おやまちょう 小山町史編さん専門委員会 | 1992 |
| おやまちょう 小山町の歴史 第7号 | おやまちょう 小山町史編さん専門委員会 | 1993 |
| おやまちょう 小山町の歴史 第8号 | おやまちょう 小山町史編さん専門委員会 | 1994 |
| おやまちょう 小山町の歴史 第9号 | おやまちょう 小山町史編さん専門委員会 | 1996 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第1集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1987 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第2集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1987 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第3集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1987 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第4集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1988 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第5集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1988 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第6集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1988 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第7集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1989 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第8集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1989 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第9集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1989 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第10集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1989 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第11集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1990 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第12集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1990 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第13集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1991 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第14集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1992 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第15集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1992 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第16集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1993 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第17集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1993 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第18集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1994 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第19集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1995 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第20集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1995 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第21集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1996 |
| おやまちょう 小山町史資料所在目録 第22集 | おやまちょう 小山町史編さん室 | 1997 |
| おやまちょう 小山町史 第1巻 | おやまちょう 小山町史編さん専門委員会 | 1990 |
| おやまちょう 小山町史 第1巻 デジタル版 (DVD) | おやまちょう 小山町教育委員会 | 2014 |
| おやまちょう 小山町史 第2巻 | おやまちょう 小山町史編さん専門委員会 | 1991 |
| おやまちょう 小山町史 第3巻 | おやまちょう 小山町史編さん専門委員会 | 1994 |
| おやまちょう 小山町史 第4巻 | おやまちょう 小山町史編さん専門委員会 | 1992 |
| おやまちょう 小山町史 第5巻 | おやまちょう 小山町史編さん専門委員会 | 1995 |
| おやまちょう 小山町史 第6巻 | おやまちょう 小山町史編さん専門委員会 | 1996 |
| おやまちょう 小山町史 第7巻 | おやまちょう 小山町史編さん専門委員会 | 1998 |
| おやまちょう 小山町史 第8巻 | おやまちょう 小山町史編さん専門委員会 | 1998 |
| おやまちょう 小山町史 第9巻 | おやまちょう 小山町史編さん専門委員会 | 1993 |
| たけのした 竹之下区有古文書目録 | おやまちょう 小山町教育委員会 | 不明 |
| やなぎしま 柳島山組合文書目録 | おやまちょう 小山町教育委員会 | 1975 |
| よしくぼ 吉久保区有文書目録 | おやまちょう 小山町教育委員会 | 1976 |
| ゆふね 湯船区有古文書目録 | おやまちょう 小山町教育委員会 | 1976 |
| やなぎしま 柳島区有古文書目録 昭和50年度調査 | おやまちょう 小山町教育委員会 | 1976 |



| 書籍名 | 著者名 | 刊行年 |
|--|-----------------------------------|------|
| <small>しよりょう</small> 所領岩田幸恵家古文書目録 | <small>おやまちょう</small> 小山町教育委員会 | 1977 |
| <small>おやま</small> 小山五十戸共有古文書目録 | <small>おやまちょう</small> 小山町教育委員会 | 1977 |
| <small>すがぬま</small> 菅沼区有文書目録 | <small>おやまちょう</small> 小山町教育委員会 | 1977 |
| <small>ゆやま</small> 湯山勝美家古文書目録 | <small>おやまちょう</small> 小山町教育委員会 | 1977 |
| <small>ようさわ</small> 用沢区有文書目録 | <small>おやまちょう</small> 小山町教育委員会 | 1977 |
| 岩田貞行家古文書目録 | <small>おやまちょう</small> 小山町教育委員会 | 1978 |
| <small>おおごだ</small> 大胡田区有文書目録 | <small>おやまちょう</small> 小山町教育委員会 | 1978 |
| <small>おおごだ</small> 大胡田田代齊家所有古文書目録 | <small>おやまちょう</small> 小山町教育委員会 | 1978 |
| 遠藤規矩夫家古文書目録 | <small>おやまちょう</small> 小山町教育委員会 | 1979 |
| <small>たながしら</small> 棚頭区有文書目録 | <small>おやまちょう</small> 小山町教育委員会 | 1979 |
| 池谷貫家古文書目録 | <small>おやまちょう</small> 小山町教育委員会 | 1979 |
| <small>たけのした</small> 竹之下区有古文書目録（神社関係） | <small>おやまちょう</small> 小山町教育委員会 | 不明 |
| <small>たけのした</small> 竹之下区有古文書目録（軸物関係） | <small>おやまちょう</small> 小山町教育委員会 | 1984 |
| <small>ようさわ</small> 用沢区有文書目録（神社関係） | <small>おやまちょう</small> 小山町教育委員会 | 1977 |
| 文化財案内 | <small>おやまちょう</small> 小山町教育委員会 | 1975 |
| <small>ふじさん</small> 富士山資料目録 平成6年度版 | <small>おやまちょう</small> 小山町教育委員会 | 1994 |

※令和5年8月現在、おやまちょうりつ小山町立図書館に所蔵されているもの



町の木
「ふじ桜」



町の花
「菜の花」



町の鳥
「うぐいす」



令和5年度文化芸術振興費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)

小山町文化財保存活用地域計画

令和6年(2024)3月1日 発行
(令和5年(2023)12月 認定)

小山町

